

四国縦貫自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

24

大柿遺跡Ⅱ

《第1分冊 本文編》

2 0 0 4

徳 島 県 教 育 委 員 会
(財)徳島県埋蔵文化財センター
日 本 道 路 公 団

四国縦貫自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

24

大柿遺跡Ⅱ

《本文編》

2 0 0 4

徳 島 県 教 育 委 員 会
(財)徳島県埋蔵文化財センター
日 本 道 路 公 団

序 文

本書は平成7、8、9年度に四国縦貫自動車道（美馬～池田）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の内、三好郡三好町大字昼間字カワラケメン他に所在する大柿遺跡の調査報告書です。大柿遺跡からは縄文時代後期から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認されました。調査規模は東西約1km、深度約5m、延べ面積約263,000m²にわたる大規模な発掘調査となりました。

今回は古墳時代前期から古墳時代後期にかけての遺構・遺物を収録いたしました。吉野川に面した微高地上からは古墳時代中期・後期の竪穴住居跡約180軒、掘立柱建物跡約100棟、土壙墓約100基などの集落遺構と、水田が検出されました。これだけ大規模な集落遺構と生産関連遺構が同時に確認される例は少なく、古墳時代の社会構造を考える上で多くの示唆を与えるものです。

本書が埋蔵文化財の調査研究の資料として活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査、調査報告書の作製にあたり、日本道路公団及び関係機関並びに地元の皆様に多大のご援助、ご協力をいただきました。更に関係各位には貴重なご教授を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。

平成16年2月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 松村 通治

例 言

- 1 本書は平成7、8、9年度に試掘・発掘調査が実施された徳島県三好郡三好町昼間字カワラケメン他に所在する大柿遺跡に関する埋蔵文化財発掘報告書である。
- 2 本書は大柿遺跡の古墳時代中期、古墳時代後期に属する遺構・遺物に関する報告書である。
- 3 発掘調査及び報告書の作成についての実施期間は次のとおりである。
 - ・試掘調査 平成7年10月30日～平成7年12月25日
平成8年1月22日～平成8年2月22日
 - ・発掘調査 平成8年4月3日～平成9年3月25日
平成9年4月3日～平成10年3月25日
 - ・整理業務、報告書作成 平成10年4月1日～平成11年3月31日
平成13年4月1日～平成15年3月31日
 - ・報告書執筆・編集 平成15年4月1日～平成16年2月28日
- 4 発掘調査は徳島県が日本道路公団四国支社の委託契約を受け、徳島県からの委託契約により財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。
- 5 挿図方位は国土座標第Ⅳ座標系を、高さは東京湾標準潮位（T.P）を基準とする。
- 6 今回報告した遺構の図面・写真等の調査記録と、遺物本体および遺物実測図は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山86-2に所在する徳島県立徳島県埋蔵文化財総合センターにて保管し、(財)徳島県埋蔵文化財センターが管理している。
- 7 発掘調査・本書作製にあたっては下記の機関、方々のご協力を得た。記して感謝申し上げる（順不同、敬称略）。

日本道路公団四国支社、徳島県教育委員会、三好町、三好町教育委員会、徳島大学考古学研究室、徳島大学埋蔵文化財調査室、徳島市教育委員会、徳島県立博物館、徳島文理大学、愛媛大学考古学研究室、佐賀県教育委員会、福岡県教育委員会、甘木市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、六甲山麓遺跡調査会、鳴門市教育委員会、神戸市教育委員会、神戸市埋蔵文化財センター、子持村教育委員会、岡山理科大学、京都大学原子炉研究所、帯広畜産大学、(株)古環境研究所、(株)ズコーシャ

天羽利夫、東 潮、浅岡俊夫、青木信昭、石井克己、池澤俊幸、魚島純一、梅木謙一、大久保徹也、岸美由紀、蔵本晋司、定森秀夫、坂本憲昭、柴田昌児、白木原宜、白石 純、曾我貴行、筒井三菜、中村 豊、橋本達也、廣田佳久、北條芳隆、宮代栄一、村上恭通、森 清治、山之内志郎、山内英樹、

山本純代、藁科哲夫

8 本書作成にあたっての作業・執筆分担は下記の通りである。全体の編集を栗林誠治が行った。

〔本文編〕

第Ⅰ章－第1節：菅原康夫

第Ⅰ章－第2～4節、Ⅱ章：栗林誠治

第Ⅲ章－第1、2節：栗林誠治

第Ⅳ章－栗林誠治、折野佳子、新居照代、四宮玲子

遺物実測・トレース：H13、H14年度整理作業員

遺物実測指示：氏家敏之（石器）、栗林誠治（土器・鉄製品・石製品・ガラス製品）

図版レイアウト：植地岳彦、栗林誠治

編集：栗林誠治

〔分析編〕

第Ⅰ章－第1節：帯広畜産大学生物資源科学科 中野益男、(株)ズコーシャ総合科学研究所 中野寛
子、門 理恵、長田正宏

第Ⅰ章－第2節：藁科哲夫（京都大学原子炉実験所）

第Ⅰ章－第3、4節：(株)古環境研究所

第Ⅰ章－第5節：村川義行（和鋼博物館）

第Ⅰ章－第6節：白石 純（岡山理科大学蒜山分室）

第Ⅰ章－第7、8節：植地岳彦

第Ⅱ章－第1節：栗林誠治

第Ⅱ章－第2節：藤川智之

第Ⅱ章－第3節：田川 憲

第Ⅱ章－第4節：氏家敏之

第Ⅱ章－第4～15節：栗林誠治

編集：栗林誠治

〔遺構計測表・遺物観察表編〕

遺構計測表：横田温夫、小泉信司、新居照代、四宮玲子、折野佳子、栗林誠治

遺物観察表：栗林誠治、尾田光代、宮崎享子、扶川道代

編集：栗林誠治

〔写真図版編〕

遺構写真：発掘調査担当者

遺物写真：金森英人

鉄製品 X 線撮影：植地岳彦

編集：植地岳彦

9 遺物モノクロ写撮影にあたっては、下記の機材・ソフトを使用し、撮影・編集を行った。

・カメラ

株式会社ニコン社製

レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ「ニコンデジタルカメラ D1」

・デジタルカメラ用コントロールソフト

株式会社ニコン社製「Nikon Caputure 2」

・画像処理ソフトウェア

アドビシステムズ社製「Adobe Photoshop5.5」

10 遺構モノクロ写真にあたっては、キャビネサイズに焼き付けた後に、下記の機材・ソフトを使用し、編集を行った。

・スキャナー

EPSON 社製

カラーキャナー「GT8500」、「GT9500」

・画像処理ソフトウェア

アドビシステムズ社製「Adobe Photoshop5.5」

凡 例

I：「本文編」・「分析編」

- 1 遺構掲載スケールは下記の通りに統一した。
 - SA 掘立柱建物：1／50（但し、SA7131はS=1／60とする）
 - SB 竪穴住居：1／50
 - SD 溝状遺構（平面図）：1／100
 - SD 溝状遺構（断面図）：1／25
 - SI 水田（全体図）：1／500、1／600
 - SI 水田（拡大図）：1／100
 - SK 土坑：1／25
 - ST 土墳墓：1／25
 - EH 竪穴住居内竈：1／20
 - EK 竪穴住居内土坑：1／20
 - 各種遺物出土状況拡大図：1／20
- 2 遺物掲載スケールは下記の通りに統一している。
 - 須恵器（断面黒色塗りつぶし）、土師器（断面白抜き）：1／3（無印）
 - 鉄器：2／3（無印）
 - 鍛冶関連遺物：2／3（無印）
 - 石器：1／2（無印）
 - 石器：1／3（実測図右下側に●）
 - 石器：2／3（実測図右下側に▲）
 - 石製品、ガラス製品：1／1（実測図右下側に■）なお、第図のみはS=1／6である。
- 3 第IV系国土座標軸を基準に設定した5mグリッドを遺構図に表記することにより、絶対位置と方位を表示した。なお、図版上位または左側が北となるように編集している。
- 4 石器網掛け10%は擦痕の範囲を示す。
- 5 石器や石製竈支脚の網掛け20%は被熱による変色範囲を示す。
- 6 土器表面赤色（マゼンタ）範囲は目視可能な赤色顔料付着範囲を示す。
- 7 遺構平面図における網掛け20%は焼土範囲を、網掛け10%は炭化物層範囲を、スクリーントーン CB

412は貼床（床硬化面）を示す。

- 8 遺構平面図、遺物出土状況図、遺物出土断面図等の、
●：土器、▲：石器および石、■：鉄器、□：骨片
を示す。
- 9 遺構土層図の土層注記は本文中に記載した。

Ⅱ：「観察表編」

- 1 遺物観察表は須恵器、土師器、石器・石製品、玉類、鉄製品、鍛冶関連遺物、鞆羽口別に掲載した。
- 2 須恵器、土師器、鍛冶関連遺物、鞆羽口の色調表現は、小山正忠・竹原秀雄1996『新版標準土色帳 1996年度版』日本色彩事業株式会社（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修）を使用した。
- 3 玉類の色調は、肉眼観察による。色調表現は、細野尚志1981『標準色彩図表 A』日本色彩事業株式会社を使用した。
- 4 須恵器観察表の轆轤回転方向とはヘラ削り調整を施す際の回転方向である。蓋類は上から見て右回転か左回転かを「上・右」、「上・左」として表示した。杯身、壺、甕、瓶類は下から見て右回転か左回転かを「下・右」、「下・左」として表示した。
- 5 胎土含有物は、「石英」→「石」、「長石」→「長」、「結晶片岩」→「結」、「雲母」→「雲」、「角閃石」→「角」、「赤色斑粒」→「赤」、「頁岩」→「頁」、「黒色斑粒」→「黒」として表記した。
なお、須恵器観察表における「黒色斑粒」とは胎土中に含まれるガラス質もしくは気泡を有する含有物の総称であり、本来の鉱物は肉眼観察では不明である。
- 6 須恵器観察表における内面ユビナデとは、杯、高杯、蓋等の内面底部に施されたユビナデを指す。
- 7 鍛冶関連遺物の磁着度は、アルニコ磁石を使用時における磁着の有無を意味する。

本文編目次（第1分冊）

第I章 発掘調査および報告書作成業務の経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯と経過	3
第2節 報告書作成業務に至る経緯	6
第3節 報告書作成業務の経過	7
第4節 報告書作成業務態勢	7

第II章 大柿遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	11
(1) 概況	11
(2) 地質	12
(3) 地形	12
第2節 歴史的環境（古墳時代）	13

第III章 基本層序と微地形

第1節 微地形	17
(1) 微地形	17
第2節 基本層序	18
(1) 基本層序概略	18

第IV章 調査成果

第1節 調査成果概要	21
(1) 遺構配置	21
(2) 遺構と遺物	22
①掘立柱建物跡、柵列跡	22
②竪穴式住居	56
③土坑	274
④土壙墓	288
⑤柱穴・小穴	371
⑥性格不明遺構	378
⑦自然流路・溝状遺構	381
⑧水田遺構	388
⑨焼成遺構	389

挿図目次 (第2・3・4分冊)

第2分冊

第1図	大柿遺跡位置図	1	第55図	SA7021遺構図	39
第2図	四国縦貫自動車道路線図	2	第56図	SA7022遺構図	40
第6図	大柿遺跡周辺微地形復元図	3	第57図	SA7023遺構図	41
第7図	大柿遺跡グリッド配置図	4	第58図	SA7024遺構図	39
第8図	大柿遺跡調査区・主要遺構配置図 (S=1/5000)	5	第59図	SA7025遺構図	41
第9図	大柿遺跡基本土層図調査地点	6	第60図	SA7026遺構図	42
第11図	大船渡地区基本土層図	7	第61図	SA7027遺構図	42
第12図	鳥井地区基本土層図	8	第62図	SA7028遺構図	42
第13図	大坪地区基本土層図	9	第63図	SA7029遺構図	43
第14図	横田地区基本土蔵図	10	第64図	SA7030遺構図	43
第15図	カワラケメン地区基本土層図	10	第65図	SA7031遺構図	44
第19図	池田地区遺構配置図 (S=1/600)	11	第66図	SA7032遺構図	45
第20図	大船渡地区遺構配置図 (S=1/600)	12	第67図	SA7033遺構図	43
第21図	鳥井地区遺構配置図 (S=1/600)	13	第68図	SA7034遺構図	46
第22図	大坪地区遺構配置図 (S=1/600)	14	第70図	SA7036遺構図	46
第23図	横田・カワラケメン地区遺構配置図 (S=1/600)	15	第71図	SA7037遺構図	47
第24図	馬のシャクリ地区遺構配置図 (S=1/600)	16	第72図	SA7038遺構図	47
第25図	松吉地区遺構配置図 (S=1/600)	17	第73図	SA7039遺構図	47
第26図	新貝地区遺構配置図 (S=1/700)	18	第75図	SA7041遺構・遺物図	48
第27図	鳥井地区 SA 配置図 (S=1/600)	19	第76図	SA7042遺構・遺物図	49
第28図	横田・カワラケメン地区 SA 配置図 (S=1/600)	20	第77図	SA7043遺構・遺物図	50
第29図	馬のシャクリ地区 SA 配置図 (S=1/600)	21	第78図	SA7044遺構・遺物図	51
第30図	松吉地区 SA 配置図 (S=1/600)	22	第79図	SA7045遺構図	52
第31図	新貝地区 SA 配置図 (S=1/700)	23	第80図	SA7046遺構・遺物図	53
第32図	SA7001遺構図	24	第81図	SA7047遺構図 (1)	54
第33図	SA7002遺構図	24	第82図	SA7047遺構・遺物図 (2)	55
第34図	SA7003遺構図	25	第83図	SA7048遺構・遺物図	51
第35図	SA7004遺構図	24	第84図	SA7049遺構図	51
第36図	SA7005遺構図	26	第85図	SA7050遺構図	51
第37図	SA7006遺構図 (1)	27	第86図	SA7051遺構図	56
第38図	SA7006遺構図 (2)	28	第87図	SA7052遺構・遺物図	53
第39図	SA7007遺構図	29	第88図	SA7055遺構図	57
第40図	SA7008遺構図	30	第89図	SA7056遺構図	57
第41図	SA7009遺構図	31	第90図	SA7057遺構図	58
第42図	SA7010遺構図 (1)	32	第91図	SA7058遺構図	58
第43図	SA7010遺構図 (2)	33	第92図	SA7059遺構図	58
第44図	SA7011遺構図	33	第93図	SA7060遺構図	59
第45図	SA7012遺構・遺物図	26	第94図	SA7061遺構図	60
第46図	SA7013遺構図	34	第95図	SA7062遺構図	61
第47図	SA7014遺構図 (1)	35	第96図	SA7063遺構図	61
第48図	SA7014遺構・遺物図 (2)	36	第97図	SA7064遺構図	62
第49図	SA7015遺構図	34	第98図	SA7065遺構図	63
第50図	SA7016遺構図	34	第99図	SA7066遺構・遺物図	64
第51図	SA7017遺構図	37	第100図	SA7067遺構・遺物図	65
第52図	SA7018遺構図	37	第101図	SA7068遺構図	66
第53図	SA7019遺構図	38	第102図	SA7069遺構・遺物図	67
第54図	SA7020遺構図	38	第103図	SA7070遺構図	68
			第104図	SA7071遺構図	65
			第105図	SA7072遺構図	69
			第106図	SA7073遺構図	69
			第107図	SA7074遺構図	70
			第108図	SA7075遺構図	71

第109図	SA7075遺物図	72	第166図	SA7132遺構図	113
第110図	SA7076遺構図	72	第167図	SA7133遺構図	113
第111図	SA7077遺構図	73	第168図	SA7134遺構図	114
第112図	SA7078遺構図	74	第169図	SA7135遺構図	115
第113図	SA7079遺構図	75	第170図	鳥井地区 SB 配置図 (S=1/600)	116
第114図	SA7080遺構図	76	第171図	大坪地区 SB 配置図 (S=1/600)	117
第115図	SA7081遺構図	73	第172図	横田・カワラケメン地区 SB 配置図 (S=1/600)	118
第116図	SA7082遺構図	77	第173図	馬のシャクリ地区 SB 配置図 (S=1/600)	119
第117図	SA7083遺構図	78	第174図	松吉地区 SB 配置図 (S=1/600)	120
第118図	SA7084遺構図	79	第175図	新貝地区 SB 配置図 (S=1/700)	121
第119図	SA7085遺構図	78	第176図	SB7001遺構図	122
第121図	SA7087遺構図	80	第177図	SB7001遺物出土状況図	122
第122図	SA7088遺構・遺物図	81	第178図	SB7001EH 1 下部構造遺構図	123
第123図	SA7089遺構図	80	第179図	SB7001EP 土層図	123
第124図	SA7090遺構図	82	第180図	SB7002遺構図	124
第125図	SA7091遺構・遺物図	83	第181図	SB7002-EP 土層図	124
第126図	SA7092遺構図	84	第182図	SB7002-EK 1 遺構図	125
第127図	SA7093遺構・遺物図	84	第183図	SB7002-ED 1 土層図	125
第128図	SA7094遺構図	85	第184図	SB7002-EH 1 遺構図	125
第129図	SA7095遺構図	85	第185図	SB7002-EH 1 下部構造遺構図	126
第130図	SA7096遺構・遺物図	86	第186図	SB7002出土遺物図 (1)	126
第131図	SA7098遺構図	87	第187図	SB7002遺物出土状況図	127
第132図	SA7099遺構図	88	第188図	SB7002-EK 1 遺物出土状況図	127
第133図	SA7100遺構図	88	第189図	SB7002-EH 1 遺物出土状況図 (1)	128
第134図	SA7101遺構図	89	第190図	SB7002-EH 1 遺物出土状況図 (2)	129
第135図	SA7102遺構図	89	第191図	SB7002出土遺物図 (2)	129
第136図	SA7103遺構図	90	第192図	SB7002出土遺物図 (3)	130
第137図	SA7104遺構図	91	第193図	SB7002出土遺物図 (4)	131
第138図	SA7105遺構図	90	第194図	SB7003遺構図	132
第139図	SA7106遺構図	92	第195図	SB7003-EH 1 下部構造遺構図	132
第140図	SA7107遺構図	93	第196図	SB7003EP, ED 土層図	133
第141図	SA7108遺構図	94	第197図	SB7003-EH 1 遺物出土状況図	133
第142図	SA7109遺構図	94	第198図	SB7003出土遺物図	133
第143図	SA7110遺構図 (1)	95	第199図	SB7004遺構図	134
第144図	SA7110遺構図 (2)	92	第200図	SB7004-EH 1 遺構図	135
第145図	SA7111遺構図	96	第201図	SB7004-EH 1 下部構造遺構図	135
第146図	SA7112遺構図	97	第202図	SB7004EP, EK, ED 土層図	136
第147図	SA7113遺構・遺物図	98	第203図	SB7004遺物出土状況図	136
第148図	SA7114遺構図	99	第204図	SB7004-EH 1 遺物出土状況図	137
第149図	SA7115遺構図	100	第205図	SB7004-EK 2 遺物出土状況図	137
第150図	SA7116遺構図	101	第206図	SB7004出土遺物図	138
第151図	SA7117遺構図	102	第207図	SB7005遺構図	139
第152図	SA7118遺構図	101	第208図	SB7005-EP 土層図	139
第153図	SA7119遺構図	103	第209図	SB7005-EH 1 遺構図	140
第154図	SA7120遺構図	104	第210図	SB7005-EH 1 下部構造遺構図	140
第155図	SA7121遺構図	105	第211図	SB7005遺物出土状況図	141
第156図	SA7122遺構図	102	第212図	SB7005出土遺物図 (1)	141
第157図	SA7123遺構・遺物図	106	第213図	SB7005-EH 1 遺物出土状況図	142
第158図	SA7124遺構・遺物図	107	第214図	SB7005出土遺物図 (2)	142
第159図	SA7125遺構・遺物図	108	第215図	SB7005出土遺物図 (3)	143
第160図	SA7126遺構図	108	第216図	SB7006遺構図	144
第161図	SA7127遺構・遺物図	109	第217図	SB7006-EH 1 遺構図	144
第162図	SA7128遺構図	110	第218図	SB7006-EH 1 下部構造遺構図	145
第163図	SA7129遺構図	109	第219図	SB7006-EP, ED 土層図	145
第164図	SA7130遺構図	111	第220図	SB7006出土遺物図 (1)	145
第165図	SA7131遺構図 (S=1/60)	112			

第221图	SB7006遺物出土狀況图	146	第277图	SB7014出土遺物图	177
第222图	SB7006-EH 1 遺物出土狀況图	146	第278图	SB7015遺構图	178
第223图	SB7006出土遺物图 (2)	147	第279图	SB7015-EP 土層图	178
第224图	SB7007遺構图	148	第280图	SB7015-EH 1 遺構图	179
第225图	SB7007-EH 1 遺構图	148	第281图	SB7015-EH 1 下部構造遺構图	179
第226图	SB7007-EH 1 下部構造遺構图	149	第282图	SB7015-EH 1 遺物出土狀況图	180
第227图	SB7007-EP 土層图	149	第283图	SB7015出土遺物图	180
第228图	SB7007遺物出土狀況图	149	第284图	SB7016遺構图	181
第229图	SB7007EH 1 遺物出土狀況图	150	第285图	SB7016-EP 土層图	181
第230图	SB7007出土遺物图	151	第286图	SB7016-ED 土層图	181
第231图	SB7008遺構图	152	第287图	SB7016-EH 1 遺構图	182
第232图	SB7008-EP 土層图	152	第288图	SB7016-EH 1 下部構造遺構图	182
第233图	SB7008-EH 1 遺構图	153	第289图	SB7016遺物出土狀況图 (1)	183
第234图	SB7008-EH 1 下部構造遺構图	153	第290图	SB7016出土遺物图 (1)	183
第235图	SB7008遺物出土狀況图 (1)	154	第291图	SB7016遺物出土狀況图 (2)	184
第236图	SB7008遺物出土狀況图 (2)	154	第292图	SB7016出土遺物图 (2)	184
第237图	SB7008-EH 1 遺物出土狀況图	155	第293图	SB7016-EH 1 遺物出土狀況图	185
第238图	SB7008-EK 1 遺物出土狀況图	155	第294图	SB7016出土遺物图 (3)	185
第239图	SB7008出土遺物图 (1)	156	第295图	SB7017遺構图	186
第240图	SB7008出土遺物图 (2)	157	第296图	SB7017-EP 土層图	186
第241图	SB7008出土遺物图 (3)	158	第297图	SB7017-EH 1 遺構图	187
第242图	SB7008出土遺物图 (4)	159	第298图	SB7017-EH 1 下部構造遺構图	187
第243图	SB7008出土遺物图 (5)	160	第299图	SB7017遺物出土狀況图	188
第244图	SB7008出土遺物图 (6)	161	第300图	SB7017出土遺物图 (1)	188
第245图	SB7008出土遺物图 (7)	162	第301图	SB7017-EH 1 遺物出土狀況图	189
第246图	SB7008出土遺物图 (8)	163	第302图	SB7017出土遺物图 (2)	189
第247图	SB7009遺構图	164	第303图	SB7018遺構图	190
第248图	SB7009遺物出土狀況图	164	第304图	SB7018-EP 土層图	190
第249图	SB7009-ED 土層图	164	第305图	SB7018-EH 1 遺構图	191
第250图	SB7009-EP 土層图	164	第306图	SB7018-EH 1 下部構造遺構图	191
第251图	SB7009出土遺物图	164	第307图	SB7018遺物出土狀況图 (1)	192
第252图	SB7011遺構图	165	第308图	SB7018遺物出土狀況图 (2)	192
第253图	SB7011-EP 土層图	165	第309图	SB7018-EH 1 遺物出土狀況图	193
第254图	SB7011-ED 土層图	165	第310图	SB7018出土遺物图 (1)	193
第255图	SB7011-EH 1 遺構图	166	第311图	SB7018出土遺物图 (2)	194
第256图	SB7011-EH 1 遺物出土狀況图	166	第312图	SB7018出土遺物图 (3)	195
第257图	SB7011遺物出土狀況图	167	第313图	SB7019遺構图	196
第258图	SB7011出土遺物图 (1)	167	第314图	SB7019遺物出土狀況图	196
第259图	SB7011出土遺物图 (2)	168	第315图	SB7019-EH 1 下部構造遺構图	196
第260图	SB7012遺構图	169	第316图	SB7019-EP 土層图	196
第261图	SB7012-EP 土層图	170	第317图	SB7019出土遺物图	197
第262图	SB7012-EH 1 遺構图	170	第318图	SB7020遺構图	198
第263图	SB7012-EH 1 遺物出土狀況图	171	第319图	SB7020-EP 土層图	198
第264图	SB7012出土遺物图	171	第320图	SB7020遺物出土狀況图	198
第265图	SB7013遺構图	172	第321图	SB7020出土遺物图	199
第266图	SB7013-EH 1 遺構图	172	第322图	SB7021遺構图	200
第267图	SB7013-EH 1 下部構造遺構图	173	第323图	SB7021-EH 1 遺構图	200
第268图	SB7013-EP 土層图	173	第324图	SB7021-EH 1 下部構造遺構图	201
第269图	SB7013遺物出土狀況图	173	第325图	SB7021-EK 1 遺構图	201
第270图	SB7013-EH 1 遺物出土狀況图	174	第326图	SB7021遺物出土狀況图	201
第271图	SB7013出土遺物图	174	第327图	SB7021-EH 1 遺物出土狀況图	202
第272图	SB7014遺構图	175	第328图	SB7021-EK 1 遺物出土狀況图	202
第273图	SB7014-EP 土層图	175	第329图	SB7021出土遺物图	203
第274图	SB7014-EH 1 遺構图	176	第330图	SB7022遺構图	204
第275图	SB7014-EH 1 下部構造遺構图	176	第331图	SB7022遺物出土狀況图	204
第276图	SB7014遺物出土狀況图	177	第332图	SB7022出土遺物图	204

第333图	SB7023遺構図	205	第389图	DB7031-EH 1 遺構図	236
第334图	SB7023-EP 土層図	205	第390图	SB7031-EH 1 下部構造遺構図	237
第335图	SB7023出土遺物図	205	第391图	SB7031-EH 2 遺構図	237
第336图	SB7023-EH 1 遺構図	206	第392图	SB7031遺物出土状況図	238
第337图	SB7023-EH 1 下部構造遺構図	206	第393图	SB7031-EH 1 遺物出土状況図	239
第338图	SB7023遺物出土状況図	207	第394图	SB7031-EK 1 遺物出土状況図	240
第339图	SB7023-EH 1 遺物出土状況図	207	第395图	SB7031出土遺物図	240
第340图	SB7024遺構図	208	第396图	SB7032遺構図	241
第341图	SB7024-EH 1 遺構図	208	第397图	SB7032-EP 土層図	242
第342图	SB7024-EH 1 下部構造遺構図	209	第398图	SB7032-ED 土層図	242
第343图	SB7024-EP 土層図	209	第399图	SB7032-EK 1 遺構図	242
第344图	SB7024遺物出土状況図	209	第400图	SB7032-EH 1 遺構図	243
第345图	SB7024-EH 1 遺物出土状況図	210	第401图	SB7032-EH 1 下部構造遺構図	244
第346图	SB7024出土遺物図	210	第402图	SB7032出土遺物図 (1)	244
第347图	SB7025遺構図	211	第403图	SB7032遺物出土状況図	245
第348图	SB7025-EP 土層図	211	第404图	SB7032-EH 1 遺物出土状況図	246
第349图	SB7025遺物出土状況図	211	第405图	SB7032出土遺物図 (2)	247
第350图	SB7025-EH 1 遺構図	212	第406图	SB7032出土遺物図 (3)	248
第351图	SB7025-EH 1 下部構造遺構図	212	第407图	SB7033遺構図	249
第352图	SB7025-EH 1 遺物出土状況図	213	第408图	SB7033-EP 土層図	249
第353图	SB7025出土遺物図 (1)	213	第409图	SB7033-EH 1 遺構図	250
第354图	SB7025出土遺物図 (2)	214	第410图	SB7033-EH 1 下部構造遺構図	250
第355图	SB7026遺構図	215	第411图	SB7033遺物出土状況図	251
第356图	SB7026-EP 土層図	216	第412图	SB7033-EH 1 遺物出土状況図	251
第357图	SB7026-ED 土層図	216	第413图	SB7033出土遺物図	252
第358图	SB7026-EH 1 遺構図	217	第414图	SB7034遺構図	253
第359图	SB7026遺物出土状況図	218	第415图	SB7034-EH 1 遺構図	254
第360图	SB7026-EH 1 遺物出土状況図	219	第416图	SB7034-EH 1 下部構造遺構図	255
第361图	SB7026-EH 1 下部構造遺構図	220	第417图	SB7034-EP 土層図	255
第362图	SB7026出土遺物図	220	第418图	SB7034-EK 1 遺構図	255
第363图	SB7027遺構図	221	第419图	SB7034遺物出土状況図	256
第364图	SB7027-EP 土層図	221	第420图	SB7034-EH 1 遺物出土状況図	257
第365图	SB7027-EH 1 遺構図	222	第421图	SB7034-EK 1 遺物出土状況図	257
第366图	SB7027-EH 1 下部構造遺構図	222	第422图	SB7034出土遺物図 (1)	258
第367图	SB7027遺物出土状況図	223	第423图	SB7034出土遺物図 (2)	259
第368图	SB7027出土遺物図 (1)	223	第424图	SB7035遺構図	260
第369图	SB7027-EH 1 遺物出土状況図 (1)	224	第425图	SB7035-EP 土層図	260
第370图	SB7027出土遺物図 (2)	224	第426图	SB7035-ED 土層図	260
第371图	SB7027-EH 1 遺物出土状況図 (2)	225	第427图	SB7035-EH 1 下部構造遺構図	261
第372图	SB7027出土遺物図 (3)	225	第428图	SB7035-EH 1 遺物出土状況図	261
第373图	SB7027-EH 1 遺物出土状況図 (3)	226	第429图	SB7035遺物出土状況図	262
第374图	SB7027出土遺物図 (4)	226	第430图	SB7035出土遺物図	262
第375图	SB7027出土遺物図 (5)	227	第431图	SB7036遺構図	263
第376图	SB7027出土遺物図 (6)	228	第432图	SB7036-EP 土層図	263
第377图	SB7028遺構図	229	第433图	SB7036-EH 1 遺構図	264
第378图	SB7028出土遺物図	229	第434图	SB7036-EH 1 下部構造遺構図	264
第379图	SB7029遺構図	230	第435图	SB7036-EH 1 遺物出土状況図	265
第380图	SB7029-EH 1 遺構図	230	第436图	SB7036出土遺物図	265
第381图	SB7029-EH 1 下部構造遺構図	231	第437图	SB7037遺構図	266
第382图	SB7029遺物出土状況図	231	第438图	SB7037-EP 土層図	266
第383图	SB7029-EH 1 遺物出土状況図	232	第439图	SB7037-EH 1 遺構図	267
第384图	SB7029出土遺物図	233	第440图	SB7037-EH 1 下部構造遺構図	267
第385图	SB7031遺構図	234	第441图	SB7037遺物出土状況図	268
第386图	SB7031-EK 1 遺構図	235	第442图	SB7037出土遺物図 (1)	268
第387图	SB7031-EP 土層図	235	第443图	SB7037-EH 1 遺物出土状況図	269
第388图	SB7031-ED 土層図	235	第444图	SB7037出土遺物図 (2)	269

第445図	SB7038遺構図	270	第501図	SB7046遺物出土状況図	299
第446図	SB7038-EP土層図	270	第502図	SB7046-EH1遺物出土状況図	300
第447図	SB7038-EH1遺構図	271	第503図	SB7046出土遺物図(1)	300
第448図	SB7038-EH1下部構造遺構図	271	第504図	SB7046出土遺物図(2)	301
第449図	SB7038-EH1遺物出土状況図	272	第505図	SB7046出土遺物図(3)	302
第450図	SB7038出土遺物図	272	第506図	SB7047遺構図	303
第451図	SB7039遺構図	273	第507図	SB7047-EP土層図	303
第452図	SB7039-EP土層図	273	第508図	SB7047-EH1遺構図	304
第453図	SB7039-EH1遺構図	274	第509図	SB7047下部構造遺構図	304
第454図	SB7039-EH1下部構造遺構図	274	第510図	SB7047遺物出土状況図	305
第455図	SB7039遺物出土状況図	275	第511図	SB7047-EH1遺物出土状況図(1)	305
第456図	SB7039出土遺物図(1)	275	第512図	SB7047-EH1遺物出土状況図(2)	306
第457図	SB7039-EH1遺物出土状況図	276	第513図	SB7047出土遺物図(1)	306
第458図	SB7039出土遺物図(2)	276	第514図	SB7047出土遺物図(2)	307
第459図	SB7040遺構図	277	第515図	SB7048遺構図	308
第460図	SB7040-EK1遺構図	277	第516図	SB7048-EK1遺物出土状況図	308
第461図	SB7040-EP土層図	277	第517図	SB7048出土遺物図	308
第462図	SB7040-EH1遺構図	278	第518図	SB7049遺構図	309
第463図	SB7040-EH1下部構造遺構図	278	第519図	SB7049-EP土層図	309
第464図	SB7040遺物出土状況図(1)	279	第520図	SB7049出土遺物図	309
第465図	SB7040出土遺物図(1)	279	第521図	SB7050遺構図	310
第466図	SB7040遺物出土状況図(2)	280	第522図	SB7050-EP土層図	310
第467図	SB7040出土遺物図(2)	280	第523図	SB7050-EH1遺構図	311
第468図	SB7040-EH1遺物出土状況図	281	第524図	SB7050-EH1下部構造遺構図	311
第469図	SB7040-EK1遺物出土状況図	281	第525図	SB7050遺物出土状況図	312
第470図	SB7040出土遺物図(3)	282	第526図	SB7050-EH1遺物出土状況図	313
第471図	SB7040出土遺物図(4)	283	第527図	SB7050-EK1遺構図	314
第472図	SB7041遺構図	284	第528図	SB7050-EK1遺物出土状況図	314
第473図	SB7041-EP土層図	284	第529図	SB7050出土遺物図(1)	315
第474図	SB7041-EH1遺構図	285	第530図	SB7050出土遺物図(2)	316
第475図	SB7041-EH1下部構造遺構図	286	第531図	SB7051遺構図	317
第476図	SB7041出土遺物図(1)	286	第532図	SB7051-EP土層図	317
第477図	SB7041遺物出土状況図	287	第533図	SB7051-EH1遺構図	318
第478図	SB7041出土遺物図(2)	287	第534図	SB7051-EH1下部構造遺構図	318
第479図	SB7041-EH1遺物出土状況図	288	第535図	SB7051遺物出土状況図	319
第480図	SB7041出土遺物図(3)	289	第536図	SB7051-EH1遺物出土状況図	320
第481図	SB7041出土遺物図(4)	290	第537図	SB7051-EK1遺構図	320
第482図	SB7042遺構図	291	第538図	SB7051-EK1遺物出土状況図	320
第483図	SB7042-EP土層図	291	第539図	SB7051出土遺物図(1)	321
第484図	SB7042-EH1遺構図	292	第540図	SB7051出土遺物図(2)	322
第485図	SB7042-EH1下部構造遺構図	292	第541図	SB7052遺構図	323
第486図	SB7042遺物出土状況図(1)	293	第542図	SB7052-EP土層図	323
第487図	SB7042遺物出土状況図(2)	293	第543図	SB7052-EH1遺構図	324
第488図	SB7042-EH1遺物出土状況図	294	第544図	SB7052-EH1下部構造遺構図	324
第489図	SB7042出土遺物図(1)	294	第545図	SB7052遺物出土状況図	325
第490図	SB7042出土遺物図(2)	295	第546図	SB7052出土遺物図	325
第491図	SB7043遺構図	296	第547図	SB7053遺構図	326
第492図	SB7043-EH1遺構図	296	第548図	SB7053-EP土層図	326
第493図	SB7043出土遺物図	296	第549図	SB7053-EH1遺構図	327
第494図	SB7044遺構図	297	第550図	SB7053-EH1下部構造遺構図	327
第495図	SB7044-EP土層図	297	第551図	SB7053遺物出土状況図(1)	328
第496図	SB7044遺物出土状況図	297	第552図	SB7053遺物出土状況図(2)	329
第497図	SB7046遺構図	298	第553図	SB7053-EH1遺物出土状況図(1)	330
第498図	SB7046-EP土層図	298	第554図	SB7053-EH1遺物出土状況図(2)	331
第499図	SB7046-EH1遺構図	298	第555図	SB7053-EH1遺物出土状況図(3)	331
第500図	SB7046-EH1下部構造遺構図	299	第556図	SB7053-EH1遺物出土状況図(4)	332

第557図	SB7053-EH 1 遺物出土状況図 (5).....	332	第614図	SB7058出土遺物図 (3).....	365
第558図	SB7053-EH 1 遺物出土状況図 (6).....	333	第615図	SB7058出土遺物図 (4).....	366
第559図	SB7053出土遺物図 (1).....	334	第616図	SB7059遺構図.....	367
第560図	SB7053出土遺物図 (2).....	335	第617図	SB7059-EH 1 遺構図.....	368
第561図	SB7053出土遺物図 (3).....	336	第618図	SB7059-EH 1 下部構造遺構図.....	369
第562図	SB7053出土遺物図 (4).....	337	第619図	SB7059-EP 土層図.....	369
第563図	SB7054遺構図.....	338	第620図	SB7059遺物出土状況図.....	370
第564図	SB7054-EP 土層図.....	338	第621図	SB7059-EH 1 遺物出土状況図.....	371
第565図	SB7054-EH 1 遺構図.....	339	第622図	SB7059出土遺物図 (1).....	372
第566図	SB7054-EH 1 下部構造遺構図.....	339	第623図	SB7059出土遺物図 (2).....	373
第567図	SB7054遺物出土状況図 (1).....	340	第624図	SB7059出土遺物図 (3).....	374
第568図	SB7054遺物出土状況図 (2).....	340	第625図	SB7059出土遺物図 (4).....	375
第569図	SB7054-EH 1 遺物出土状況図.....	341	第626図	SB7059出土遺物図 (5).....	376
第570図	SB7054-EK 1 遺構図.....	341	第627図	SB7059出土遺物図 (6).....	377
第571図	SB7054出土遺物図 (1).....	342	第628図	SB7059出土遺物図 (7).....	378
第572図	SB7054出土遺物図 (2).....	343	第629図	SB7059出土遺物図 (8).....	379
第573図	SB7055遺構図.....	344	第630図	SB7059出土遺物図 (9).....	380
第574図	SB7055-EP 土層図.....	344	第631図	SB7059出土遺物図 (10).....	381
第575図	SB7055-EK 1 土層図.....	344	第632図	SB7059出土遺物図 (11).....	382
第576図	SB7055-EH 1 遺構図.....	345	第633図	SB7060遺構図.....	383
第577図	SB7055-EH 1 下部構造遺構図.....	346	第634図	SB7060-EP 土層図.....	383
第578図	SB7055出土遺物図 (1).....	346	第635図	SB7060-EH 1 遺構図.....	384
第579図	SB7055遺物出土状況図.....	347	第636図	SB7060-EH 1 下部構造遺構図.....	384
第581図	SB7055-EH 1 遺物出土状況図.....	348	第637図	SB7060遺物出土状況図.....	385
第582図	SB7055出土遺物図 (2).....	348	第638図	SB7060出土遺物図 (1).....	385
第583図	SB7056遺構図.....	349	第639図	SB7060-EH 1 遺物出土状況図.....	386
第584図	SB7056-EP 土層図.....	349	第640図	SB7060出土遺物図 (2).....	386
第585図	SB7056-EH 1 遺構図.....	350	第641図	SB7061遺構図 (1).....	387
第586図	SB7056-EH 1 下部構造遺構図.....	350	第642図	SB7061遺構図 (2).....	388
第587図	SB7056遺物出土状況図.....	351	第643図	SB7061-EP 土層図.....	388
第588図	SB7056出土遺物図 (1).....	351	第644図	SB7061-EH 1 遺構図.....	389
第589図	SB7056-EH 1 遺物出土状況図 (1).....	352	第645図	SB7061-EH 1 下部構造遺構図.....	390
第590図	SB7056出土遺物図 (2).....	352	第646図	SB7061出土遺物図 (1).....	390
第591図	SB7056-EH 1 遺物出土状況図 (2).....	353	第647図	SB7061遺物出土状況図 (1).....	391
第592図	SB7056出土遺物図 (3).....	353	第648図	SB7061遺物出土状況図 (2).....	392
第593図	SB7056出土遺物図 (4).....	354	第649図	SB7061-EH 1 遺物出土状況図.....	393
第594図	SB7057遺構図.....	355	第650図	SB7061出土遺物図 (2).....	394
第595図	SB7057-EP 土層図.....	355	第651図	SB7062遺構図.....	395
第596図	SB7057-EH 1 遺構図.....	356	第652図	SB7062-EP 土層図.....	395
第597図	SB7057-EH 1 下部構造遺構図.....	356	第653図	SB7062-EH 1 遺構図.....	396
第598図	SB7057遺物出土状況図.....	357	第654図	SB7062-EH 1 下部構造遺構図.....	396
第599図	SB7057出土遺物図 (1).....	357	第655図	SB7062遺物出土状況図.....	397
第600図	SB7057-EH 1 遺物出土状況図.....	358	第656図	SB7062出土遺物図 (1).....	397
第601図	SB7057出土遺物図 (2).....	358	第657図	SB7062-EH 1 遺物出土状況図.....	398
第602図	SB7057-EH 1 下部構造遺物出土状況図.....	359	第658図	SB7062出土遺物図 (2).....	398
第603図	SB7057出土遺物図 (3).....	359	第659図	SB7062出土遺物図 (3).....	399
第604図	SB7057出土遺物図 (4).....	360	第660図	SB7063遺構図.....	400
第605図	SB7058遺構図.....	361	第661図	SB7063-EH 1 遺構図.....	401
第606図	SB7058-EP 土層図.....	361	第662図	SB7063-EH 1 下部構造遺構図.....	401
第607図	SB7058-EH 1 遺構図.....	362	第663図	SB7063-EP 土層図.....	402
第608図	SB7058-EH 1 下部構造遺構図.....	362	第664図	SB7063遺物出土状況図.....	402
第609図	SB7058遺物出土状況図.....	363	第665図	SB7063-EH 1 遺物出土状況図.....	403
第610図	SB7058出土遺物図 (1).....	363	第666図	SB7063出土遺物図 (1).....	403
第611図	SB7058-EH 1 遺物出土状況図 (1).....	364	第667図	SB7063出土遺物図 (2).....	404
第612図	SB7058出土遺物図 (2).....	364			
第613図	SB7058-EH 1 遺物出土状況図 (2).....	365			

第3分冊

第668図	SB7063出土遺物図 (3)……………	405	第722図	SB7069-EH 1 遺構図……………	437
第669図	SB7063出土遺物図 (4)……………	406	第723図	SB7069-EH 1 下部構造遺構図……………	438
第670図	SB7064遺構図……………	407	第724図	SB7069遺物出土状況図……………	438
第671図	SB7064-EP 土層図……………	407	第725図	SB7069-EH 1 遺物出土状況図……………	439
第672図	SB7064-EH 1 遺構図……………	407	第726図	SB7069出土遺物図 (1)……………	439
第673図	SB7064-EH 1 下部構造遺構図……………	408	第727図	SB7069出土遺物図 (2)……………	440
第674図	SB7064遺物出土状況図……………	408	第728図	SB7070遺構図……………	441
第675図	SB7064-EH 1 遺物出土状況図……………	409	第729図	SB7070-EP 土層図……………	441
第676図	SB7064出土遺物図……………	409	第730図	SB7070-EH 1 遺構図……………	442
第677図	SB7065遺構図……………	410	第731図	SB7070-EH 1 下部構造遺構図……………	442
第678図	SB7065-EH 1 遺構図……………	410	第732図	SB7070-EH 1 遺物出土状況図……………	443
第679図	SB7065-EH 1 下部構造遺構図……………	411	第733図	SB7070出土遺物図……………	443
第680図	SB7065遺物出土状況図……………	411	第734図	SB7071遺構図……………	444
第681図	SB7065-EH 1 遺物出土状況図 (1)……………	412	第735図	SB7071-EP 土層図……………	444
第682図	SB7065-EH 1 遺物出土状況図 (2)……………	413	第736図	SB7071-EH 1 遺構図……………	445
第683図	SB7065出土遺物図 (1)……………	413	第737図	SB7071-EH 1 下部構造遺構図……………	445
第684図	SB7065出土遺物図 (2)……………	414	第738図	SB7071遺物出土状況図……………	446
第685図	SB7066遺構図……………	415	第739図	SB7071出土遺物図……………	447
第686図	SB7066-EP 土層図……………	415	第740図	SB7072遺構図……………	448
第687図	SB7066-EH 1 遺構図……………	416	第741図	SB7072-EP 土層図……………	449
第688図	SB7066-EH 1 下部構造遺構図……………	416	第742図	SB7072下部構造遺構図……………	449
第689図	SB7066-EH 2 鍛冶炉遺構図 (1)……………	417	第743図	SB7072-ED 1 土層図……………	450
第690図	SB7066-EH 2 鍛冶炉遺構図 (2)……………	417	第744図	SB7072-ED 2 土層図……………	450
第691図	SB7066-EH 2 鍛冶炉遺構図 (3)……………	417	第745図	SB7072-EH 1 遺構図……………	451
第692図	SB7066遺物出土状況図……………	418	第746図	SB7072-EH 1 下部構造遺構図……………	452
第693図	SB7066出土遺物図 (1)……………	418	第747図	SB7072出土遺物図 (1)……………	452
第694図	SB7066-EH 1 遺物出土状況図……………	419	第748図	SB7072遺物出土状況図 (1)……………	453
第695図	SB7066出土遺物図 (2)……………	419	第749図	SB7072遺物出土状況図 (2)……………	454
第696図	SB7066出土遺物図 (3)……………	420	第750図	SB7072出土遺物図 (2)……………	454
第697図	SB7066出土遺物図 (4)……………	421	第751図	SB7072-EH 1 遺物出土状況図 (1)……………	455
第698図	SB7066出土遺物図 (5)……………	422	第752図	SB7072-EH 1 遺物出土状況図 (2)……………	456
第699図	SB7066出土遺物図 (6)……………	423	第753図	SB7072出土遺物図 (3)……………	457
第700図	SB7066出土遺物図 (7)……………	424	第754図	SB7072出土遺物図 (4)……………	458
第701図	SB7066周辺包含層出土遺物図……………	425	第755図	SB7072出土遺物図 (5)……………	459
第702図	SB7067遺構図……………	426	第756図	SB7073遺構図……………	460
第703図	SB7067-EP 土層図……………	426	第757図	SB7073-EP 土層図……………	460
第704図	SB7067-ED 土層図……………	426	第758図	SB7073-EH 1 遺構図……………	460
第705図	SB7067-EH 1 遺構図……………	427	第759図	SB7073-EH 1 下部構造遺構図……………	461
第706図	SB7067遺物出土状況図 (1)……………	428	第760図	SB7073出土遺物図……………	461
第707図	SB7067出土遺物図 (1)……………	428	第761図	SB7074遺構図……………	462
第708図	SB7067遺物出土状況図 (2)……………	429	第762図	SB7074遺物出土状況図……………	462
第709図	SB7067出土遺物図 (2)……………	429	第763図	SB7074-EP 土層図……………	462
第710図	SB7067-EH 1 遺物出土状況図……………	430	第764図	SB7074出土遺物図……………	462
第711図	SB7067出土遺物図 (3)……………	431	第765図	SB7075遺構図……………	463
第712図	SB7067出土遺物図 (4)……………	432	第766図	SB7075-EP 土層図……………	463
第713図	SB7067出土遺物図 (5)……………	433	第767図	SB7075-ED 土層図……………	463
第714図	SB7068遺構図……………	434	第768図	SB7075-EH 1 遺構図……………	464
第715図	SB7068-EP 土層図……………	434	第769図	SB7075-EH 1 下部構造遺構図……………	465
第716図	SB7068出土遺物図 (1)……………	434	第770図	SB7075遺物出土状況図……………	465
第717図	SB7068-EH 1 遺構図……………	435	第771図	SB7075-EH 1 遺物出土状況図……………	466
第718図	SB7068-EH 1 下部構造遺構図……………	435	第772図	SB7075出土遺物図……………	466
第719図	SB7068-EH 1 遺物出土状況図……………	436	第773図	SB7076遺構図……………	467
第720図	SB7068出土遺物図 (2)……………	436	第774図	SB7076-EH 1 遺構図……………	468
第721図	SB7069遺構図……………	437	第775図	SB7076-EH 1 下部構造遺構図……………	469
			第776図	SB7076-EP 土層図……………	469
			第777図	SB7076-ED 土層図……………	469

第778図	SB7076遺物出土状況図	470	第834図	SB7084遺構図	501
第779図	SB7076-EH 1 遺物出土状況図	471	第835図	SB7084-EP 土層図	501
第780図	SB7076出土遺物図	472	第836図	SB7084-ED 土層図	501
第781図	SB7077遺構図	473	第837図	SB7084-EH 1 遺構図	502
第782図	SB7077-EP 土層図	473	第838図	SB7084-EH 1 下部構造遺構図	502
第783図	SB7077-EH 1 遺構図	474	第839図	SB7084遺物出土状況図	503
第784図	SB7077-EH 1 下部構造遺構図	475	第840図	SB7084出土遺物図 (1)	503
第785図	SB7077-EK 1 遺構図	475	第841図	SB7084-EH 1 遺物出土状況図 (1)	504
第786図	SB7077-ED 土層図	475	第842図	SB7084出土遺物図 (2)	504
第787図	SB7077遺物出土状況図 (1)	476	第843図	SB7084-EH 1 遺物出土状況図 (2)	505
第788図	SB7077遺物出土状況図 (2)	477	第844図	SB7085遺構図	506
第789図	SB7077-EH 1 遺物出土状況図	478	第845図	SB7085-EH 1 遺構図	507
第790図	SB7077出土遺物図	479	第846図	SB7085-EH 1 下部構造遺構図	508
第791図	SB7078遺構図	480	第847図	SB7085-ED 土層図	508
第792図	SB7078出土遺物図	480	第848図	SB7085-EP 土層図	508
第793図	SB7079遺構図	480	第849図	SB7085-EK 1 遺構図	508
第794図	SB7080遺構図	481	第850図	SB7085遺物出土状況図	509
第795図	SB7080-EP 土層図	481	第851図	SB7085-EH 1 遺物出土状況図	510
第796図	SB7080-EH 1 遺構図	482	第852図	SB7085-EH 1 下部構造遺物出土状況図	511
第797図	SB7080-EH 1 下部構造遺構図	482	第853図	SB7085噴砂検出状況	512
第798図	SB7080遺物出土状況図	483	第854図	SB7085-EK 1 遺物出土状況図	512
第799図	SB7080出土遺物図 (1)	483	第855図	SB7085出土遺物図 (1)	513
第800図	SB7080-EH 1 遺物出土状況図	484	第856図	SB7085出土遺物図 (2)	514
第801図	SB7080出土遺物図 (2)	484	第857図	SB7086遺構図	515
第802図	SB7081遺構図	485	第858図	SB7086-EP 土層図	515
第803図	SB7081-EP 土層図	485	第859図	SB7086-EK 1 遺構図	516
第804図	SB7081-EH 1 遺構図	486	第860図	SB7086-EK 2 遺構図	516
第805図	SB7081-EH 1 下部構造遺構図	486	第861図	SB7086-EH 1 遺構図	517
第806図	SB7081遺物出土状況図	487	第862図	SB7086-EH 1 下部構造遺構図	517
第807図	SB7081出土遺物図 (1)	487	第863図	SB7086遺物出土状況図	518
第808図	SB7081-EH 1 遺物出土状況図	488	第864図	SB7086-EH 1 西側遺物出土状況図	518
第809図	SB7081出土遺物図 (2)	488	第865図	SB7086-EK 1 遺物出土状況図	519
第810図	SB7081出土遺物図 (3)	489	第866図	SB7086-EK 2 遺物出土状況図	519
第811図	SB7082遺構図	490	第867図	SB7086-EH 1 遺物出土状況図	520
第812図	SB7082-EH 1 遺構図	490	第868図	SB7086出土遺物図 (1)	520
第813図	SB7082-EH 1 下部構造遺構図	491	第869図	SB7086出土遺物図 (2)	521
第814図	SB7082-EP 土層図	491	第870図	SB7086出土遺物図 (3)	522
第815図	SB7082-ED 土層図	491	第871図	SB7087遺構図	523
第816図	SB7082遺物出土状況図	491	第872図	SB7087-EP 土層図	523
第817図	SB7082-EH 1 遺物出土状況図 (1)	492	第873図	SB7087-ED 土層図	523
第818図	SB7082-EH 1 遺物出土状況図 (2)	492	第874図	SB7087-EH 1 遺構図	524
第819図	SB7082出土遺物図	493	第875図	SB7087-EH 1 下部構造遺構図	524
第820図	SB7083遺構図	494	第876図	SB7087遺物出土状況図	525
第821図	SB7083-EP 土層図	494	第877図	SB7087出土遺物図 (1)	525
第822図	SB7083-ED 1 土層図 (1)	494	第878図	SB7087-EH 1 遺物出土状況図	526
第823図	SB7083下部構造遺構図	495	第879図	SB7087出土遺物図 (2)	526
第824図	SB7083-ED 2 土層図 (2)	495	第880図	SB7088遺構図	527
第825図	SB7083-EH 1 遺構図	496	第881図	SB7088-EP 土層図	527
第826図	SB7083-EH 1 下部構造遺構図	496	第882図	SB7088-ED 土層図	527
第827図	SB7083遺物出土状況図 (1)	497	第883図	SB7088-EH 1 遺構図	528
第828図	SB7083出土遺物図 (1)	497	第884図	SB7088-EH 1 下部構造遺構図	528
第829図	SB7083遺物出土状況図 (2)	498	第885図	SB7088遺物出土状況図	529
第830図	SB7083-EK 1 遺物出土状況図	498	第886図	SB7088出土遺物図 (1)	529
第831図	SB7083-EH 1 遺物出土状況図	499	第887図	SB7088-EH 1 遺物出土状況図	530
第832図	SB7083-ED 遺物出土状況図	499	第888図	SB7088出土遺物図 (2)	530
第833図	SB7083出土遺物図 (2)	500	第889図	SB7089遺構図	531

第890図	SB7089-EP 土層図	531	第946図	SB7096-EH 1 下部構造遺構図	563
第891図	SB7089-ED 土層図	531	第947図	SB7096遺物出土状況図	564
第892図	SB7089-EH 1 遺構図	532	第948図	SB7096出土遺物図 (1)	564
第893図	SB7089-EH 1 下部構造遺構図	532	第949図	SB7096-EH 1 遺物出土状況図	565
第894図	SB7089遺物出土状況図	533	第950図	SB7096下部構造遺物出土状況図	565
第895図	SB7089-EH 1 前庭部遺物出土状況図	533	第951図	SB7096出土遺物図 (2)	566
第896図	SB7089-EH 1 遺物出土状況図	534	第952図	SB7097遺構図	567
第897図	SB7089出土遺物図	535	第953図	SB7097-EK 1 遺構図	567
第898図	SB7090遺構図	536	第954図	SB7097-EP 土層図	568
第899図	SB7090-EP 断面図	536	第955図	SB7097-EH 1 遺構図	568
第900図	SB7090-EH 1 遺構図	537	第956図	SB7097-EH 1 下部構造遺構図	568
第901図	SB7090-EH 1 下部構造遺構図	537	第957図	SB7097遺物出土状況図	569
第902図	SB7090遺物出土状況図	538	第958図	SB7097-EP 1 遺物出土状況図	569
第903図	SB7090出土遺物図 (1)	538	第959図	SB7097出土遺物図 (1)	569
第904図	SB7090-EH 1 遺物出土状況図	539	第960図	SB7097-EH 1 遺物出土状況図	570
第905図	SB7090出土遺物図 (2)	539	第961図	SB7097出土遺物図 (2)	570
第906図	SB7091遺構図	540	第962図	SB7097出土遺物図 (3)	571
第907図	SB7091-EP 土層図	540	第963図	SB7098遺構図	572
第908図	SB7091-EH 1 遺構図	541	第964図	SB7098-EP 土層図	572
第909図	SB7091-EH 1 下部構造遺構図	542	第965図	SB7098-EH 1 遺構図	573
第910図	SB7091-EK 1 遺物出土状況図	542	第966図	SB7098-EH 1 下部構造遺構図	573
第911図	SB7091遺物出土状況図	543	第967図	SB7098遺物出土状況図	574
第912図	SB7091-EH 1 遺物出土状況図 (1)	544	第968図	SB7098出土遺物図 (1)	574
第913図	SB7091-EH 1 遺物出土状況図 (2)	545	第969図	SB7098-EH 1 遺物出土状況図	575
第914図	SB7091出土遺物図 (1)	545	第970図	SB7098出土遺物図 (2)	575
第915図	SB7091-EH 1 遺物出土状況図 (3)	546	第971図	SB7099遺構図	576
第916図	SB7091出土遺物図 (2)	546	第972図	SB7099-EP 土層図	576
第917図	SB7091出土遺物図 (3)	547	第973図	SB7099-EH 1 遺構図	577
第918図	SB7091出土遺物図 (4)	548	第974図	SB7099-EH 1 下部構造遺構図	577
第919図	SB7092遺構図	549	第975図	SB7099遺物出土状況図	578
第920図	SB7092-EP 土層図	549	第976図	SB7099出土遺物図 (1)	578
第921図	SB7092-EH 1 遺構図	550	第977図	SB7099-EH 1 遺物出土状況図	579
第922図	SB7092-EH 1 下部構造遺構図	551	第978図	SB7099出土遺物図 (2)	579
第923図	SB7092遺物出土状況図	551	第979図	SB7099出土遺物図 (3)	580
第924図	SB7092-EH 1 遺物出土状況図	552	第980図	SB7099出土遺物図 (4)	581
第925図	SB7092出土遺物図	552	第981図	SB7100遺構図	582
第926図	SB7093遺構図	553	第982図	SB7100-EP 土層図	582
第927図	SB7093-EP 土層図	553	第983図	SB7100-EH 1 遺構図	583
第928図	SB7093-EH 1 遺構図	554	第984図	SB7100-EH 1 下部構造遺構図	583
第929図	SB7093-EH 1 下部構造遺構図	554	第985図	SB7100遺物出土状況図	584
第930図	SB7093遺物出土状況図	555	第986図	SB7100出土遺物図 (1)	584
第931図	SB7093出土遺物図 (1)	555	第987図	SB7100-EH 1 遺物出土状況図	585
第932図	SB7093-EH 1 遺物出土状況図	556	第988図	SB7100出土遺物図 (2)	585
第933図	SB7093出土遺物図 (2)	556	第989図	SB7101遺構図	586
第934図	SB7093出土遺物図 (3)	557	第990図	SB7101-EP 土層図	586
第935図	SB7094遺構図	558	第991図	SB7101-EH 1 遺構図	587
第936図	SB7094-EP 土層図	558	第992図	SB7101-EH 1 下部構造遺構図	587
第937図	SB7094出土遺物図	558	第993図	SB7101遺物出土状況図	588
第938図	SB7095遺構図	559	第994図	SB7101出土遺物図 (1)	588
第939図	SB7095-EP 土層図	559	第995図	SB7101-EH 1 遺物出土状況図	589
第940図	SB7095-EH 1 遺構図	560	第996図	SB7101出土遺物図 (2)	589
第941図	SB7095-EH 1 下部構造遺構図	560	第997図	SB7101出土遺物図 (3)	590
第942図	SB7095-EH 1 遺物出土状況図	561	第998図	SB7103遺構図	591
第943図	SB7096遺構図	562	第999図	SB7103-EP 土層図	591
第944図	SB7096-EP 土層図	562	第1000図	SB7103遺物出土状況図	592
第945図	SB7096-EH 1 遺構図	563	第1001図	SB7103出土遺物図	592

第1002图	SB7104遺構図	593	第1058图	SB7112-EH 1 遺物出土状況図	624
第1003图	SB7104-EP 土層図	594	第1059图	SB7112出土遺物図 (2)	624
第1004图	SB7104-EH 1 遺構図	594	第1060图	SB7113遺構図	625
第1005图	SB7104-EH 1 下部構造遺構図	594	第1061图	SB7113-EP 土層図	625
第1006图	SB7104遺物出土状況図	595	第1062图	SB7113-EH 1 遺構図	626
第1007图	SB7104-EH 1 遺物出土状況図	596	第1063图	SB7113-EH 1 下部構造遺構図	626
第1008图	SB7104-EH 1 下部構造遺物出土状況図	596	第1064图	SB7113遺物出土状況図	627
第1009图	SB7104出土遺物図 (1)	597	第1065图	SB7113出土遺物図 (1)	627
第1010图	SB7104出土遺物図 (2)	598	第1066图	SB7113-EH 1 遺物出土状況図 (1)	628
第1011图	SB7105遺構図	599	第1067图	SB7113-EH 1 遺物出土状況図 (2)	628
第1012图	SB7105-EP 土層図	599	第1068图	SB7113出土遺物図 (2)	629
第1013图	SB7105-EH 1 遺構図	600	第1069图	SB7114遺構図	630
第1014图	SB7105-EH 1 下部構造遺構図	600	第1070图	SB7114-EP 土層図	630
第1015图	SB7105-EH 1 遺物出土状況図	601	第1071图	SB7114-EH 1 遺構図	631
第1016图	SB7105出土遺物図 (1)	601	第1072图	SB7114-EH 1 下部構造遺構図	631
第1017图	SB7105出土遺物図 (2)	602	第1073图	SB7114遺物出土状況図	632
第1018图	SB7106遺構図	603	第1074图	SB7114出土遺物図 (1)	632
第1019图	SB7106-EP 土層図	603	第1075图	SB7114-EH 1 遺物出土状況図	633
第1020图	SB7106-EH 1 遺構図	604	第1076图	SB7114出土遺物図 (2)	633
第1021图	SB7106-EH 1 下部構造遺構図	604	第1077图	SB7115-EH 1 遺構図	634
第1022图	SB7106遺物出土状況図	605	第1078图	SB7115出土遺物図	634
第1023图	SB7106出土遺物図 (1)	605	第1079图	SB7116遺構図	635
第1024图	SB7106-EH 1 遺物出土状況図	606	第1080图	SB7116遺物出土状況図	635
第1025图	SB7106出土遺物図 (2)	606	第1081图	SB7116-EP 土層図	636
第1026图	SB7106出土遺物図 (3)	607	第1082图	SB7116出土遺物図	636
第1027图	SB7106出土遺物図 (4)	608	第1083图	SB7117遺構図	637
第1028图	SB7107遺構図	609	第1084图	SB7117-EP 土層図	637
第1029图	SB7107-EP 土層図	609	第1085图	SB7119遺構図	638
第1030图	SB7107-EK 1 遺構図	610	第1086图	SB7119-EP 土層図	638
第1031图	SB7107遺物出土状況図	610	第1087图	SB7119-EH 1 遺構図	639
第1032图	SB7107-EH 1 遺構図	611	第1088图	SB7119-EH 1 遺物出土状況図	639
第1033图	SB7107-EH 1 下部構造遺構図	611	第1089图	SB7119出土遺物図	639
第1034图	SB7107-EH 1 遺物出土状況図	612	第1090图	SB7120遺構図	640
第1035图	SB7107出土遺物図 (1)	612	第1091图	SB7120-EP 土層図	640
第1036图	SB7107出土遺物図 (2)	613	第1092图	SB7120-EK 1 土層図	640
第1037图	SB7108遺構図	614	第1093图	SB7120-EH 1 遺構図	641
第1038图	SB7108-EP 土層図	614	第1094图	SB7120遺物出土状況図	641
第1039图	SB7109遺構図	615	第1095图	SB7120-EK 1 遺物出土状況図	642
第1040图	SB7109-EP 土層図	616	第1096图	SB7120出土遺物図	642
第1041图	SB7109出土遺物図	616	第1097图	SB7121遺構図	643
第1042图	SB7110遺構図	617	第1098图	SB7121-EH 1 遺構図	643
第1043图	SB7110-EH 1 遺構図	617	第1099图	SB7121遺物出土状況図	644
第1044图	SB7110-EP 土層図	618	第1100图	SB7121-EH 1 遺物出土状況図	644
第1045图	SB7110遺物出土状況図	618	第1101图	SB7121-EP 土層図	645
第1046图	SB7110-EH 1 遺物出土状況図	619	第1102图	SB7121出土遺物図	645
第1047图	SB7110出土遺物図	619	第1103图	SB7122遺構図 (1)	646
第1048图	SB7111遺構図	620	第1104图	SB7122遺構図 (2)	647
第1049图	SB7111-EP 土層図	620	第1105图	SB7122-EP 土層図	647
第1050图	SB7111出土遺物図	620	第1106图	SB7122出土遺物図	647
第1051图	SB7112遺構図	621	第1107图	SB7123遺構図	648
第1052图	SB7112-EP 土層図	621	第1108图	SB7123-EP 土層図	648
第1053图	SB7112-ED 土層図	621	第1109图	SB7123-EH 1 遺構図	649
第1054图	SB7112-EH 1 遺構図	622	第1110图	SB7123遺物出土状況図	649
第1055图	SB7112-EH 1 下部構造遺構図	622	第1111图	SB7123-EH 1 遺物出土状況図	650
第1056图	SB7112遺物出土状況図	623	第1112图	SB7123出土遺物図 (1)	650
第1057图	SB7112出土遺物図 (1)	623	第1113图	SB7123出土遺物図 (2)	651

第1114図	SB7123出土遺物図 (3)	652	第1170図	SB7131出土遺物図 (7)	691
第1115図	SB7124遺構図	653	第1171図	SB7133遺構図	692
第1116図	SB7124-EP 土層図	653	第1172図	SB7133-EP 土層図	692
第1117図	SB7124-EH 1 遺構図	654	第1173図	SB7133-ED 土層図	692
第1118図	SB7124-EH 1 遺物出土状況図	654	第1174図	SB7133遺物出土状況図	693
第1119図	SB7124遺物出土状況図	655	第1175図	SB7133出土遺物図 (1)	693
第1120図	SB7124出土遺物図 (1)	655	第1176図	SB7133出土遺物図 (2)	694
第1121図	SB7124出土遺物図 (2)	656	第1177図	SB7134遺構図	695
第1122図	SB7126遺構図	657	第1178図	SB7134-EP 土層図	695
第1123図	SB7126-EP 土層図	657	第1179図	SB7134-EH 1 遺構図	696
第1124図	SB7126-EH 1 遺構図	658	第1180図	SB7134-EH 1 下部構造遺構図	696
第1125図	SB7126出土遺物図 (1)	658	第1181図	SB7134遺物出土状況図	697
第1126図	SB7126-EH 1 遺物出土状況図	659	第1182図	SB7134出土遺物図 (1)	697
第1127図	SB7126出土遺物図 (2)	659	第1183図	SB7134-EH 1 遺物出土状況図	698
第1128図	SB7127遺構図	660	第1184図	SB7134-EH 1 下部構造遺物出土状況図	698
第1129図	SB7127-EP 土層図	660	第1185図	SB7134出土遺物図 (2)	699
第1130図	SB7127-EH 1 遺構図	661	第1186図	SB7135遺構図	700
第1131図	SB7127-EK 1 遺構図	661	第1187図	SB7135-EP 土層図	700
第1132図	SB7127遺物出土状況図	662	第1188図	SB7135出土遺物図 (1)	700
第1133図	SB7127-EH 1 遺物出土状況図	663	第1189図	SB7135-EH 1 遺構図	701
第1134図	SB7127出土遺物図 (1)	663	第1190図	SB7135-EH 1 下部構造遺構図	701
第1135図	SB7127出土遺物図 (2)	664	第1191図	SB7135遺物出土状況図 (1)	702
第1136図	SB7127出土遺物図 (3)	665	第1192図	SB7135遺物出土状況図 (2)	702
第1137図	SB7128遺構図	666	第1193図	SB7135-EH 1 遺物出土状況図	703
第1138図	SB7128-EP 土層図	666	第1194図	SB7135出土遺物図 (2)	703
第1139図	SB7128-EH 1 遺構図	667	第1195図	SB7137遺構図	704
第1140図	SB7128出土遺物図 (1)	667	第1196図	SB7137-EP 土層図	704
第1141図	SB7128遺物出土状況図	668	第1197図	SB7137-ED 土層図	704
第1142図	SB7128-EH 1 遺物出土状況図	669	第1198図	SB7137-EH 1 遺構図	705
第1143図	SB7128出土遺物図 (2)	669	第1199図	SB7137遺物出土状況図	706
第1144図	SB7129遺構図	670	第1200図	SB7137出土遺物図 (1)	706
第1145図	SB7129-EP 土層図	670	第1201図	SB7137-EH 1 遺物出土状況図	707
第1146図	SB7129遺物出土状況図	671	第1202図	SB7137出土遺物図 (2)	707
第1147図	SB7129出土遺物図 (1)	672	第1203図	SB7137出土遺物図 (3)	708
第1148図	SB7129出土遺物図 (2)	673	第1204図	SB7139遺構図	709
第1149図	SB7129出土遺物図 (3)	674	第1205図	SB7139-EP 土層図	709
第1150図	SB7129出土遺物図 (4)	675	第1206図	SB7139遺物出土状況図	709
第1151図	SB7130遺構図	676	第1207図	SB7139-EK 1 遺物出土状況図	710
第1152図	SB7130-EH 1 遺構図	676	第1208図	SB7139出土遺物図 (1)	710
第1153図	SB7130-EH 1 下部構造遺構図	677	第1209図	SB7139出土遺物図 (2)	711
第1154図	SB7130-EH 1 遺物出土状況図	677	第1210図	SB7140遺構図	712
第1155図	SB7130出土遺物図	678	第1211図	SB7140-EP 土層図	712
第1156図	SB7131遺構図	679	第1212図	SB7140-EH 1 遺構図および遺物出土状況図	713
第1157図	SB7131-EH 1 遺構図	680	第1213図	SB7140-EH 1 下部構造遺物出土状況図	714
第1158図	SB7131-EH 1 下部構造遺構図	681	第1214図	SB7140出土遺物図	714
第1159図	SB7131-EP 土層図	681	第1215図	SB7141遺構図	715
第1160図	SB7131-ED 土層図	681	第1216図	SB7141-EP 土層図	715
第1161図	SB7131遺物出土状況図 (1)	682	第1217図	SB7141-EH 1 遺構図	716
第1162図	SB7131遺物出土状況図 (2)	683	第1218図	SB7141遺物出土状況図	717
第1163図	SB7131-EH 1 遺物出土状況図	684	第1219図	SB7141-EH 1 遺物出土状況図	718
第1164図	SB7131出土遺物図 (1)	685	第1220図	SB7141出土遺物図 (1)	718
第1165図	SB7131出土遺物図 (2)	686	第1221図	SB7141出土遺物図 (2)	719
第1166図	SB7131出土遺物図 (3)	687	第1222図	SB7141出土遺物図 (3)	720
第1167図	SB7131出土遺物図 (4)	688	第1223図	SB7141出土遺物図 (4)	721
第1168図	SB7131出土遺物図 (5)	689	第1224図	SB7142遺構図	722
第1169図	SB7131出土遺物図 (6)	690			

第1225図	SB7142-EP 土層図	722	第1283図	SB7149出土遺物図 (4)	756
第1226図	SB7142-EH 1 遺構図	722	第1284図	SB7150遺構図	757
第1227図	SB7142-EH 2 遺構図	723	第1285図	SB7150-EP 土層図	757
第1228図	SB7142遺物出土状況図	724	第1286図	SB7150-EH 1 遺構図	757
第1229図	SB7142-EH 1 遺物出土状況図	724	第1287図	SB7150遺物出土状況図	758
第1230図	SB7142出土遺物図 (1)	725	第1288図	SB7150-EH 1 遺物出土状況図	758
第1231図	SB7142出土遺物図 (2)	726	第1289図	SB7150出土遺物図 (1)	759
第1232図	SB7142出土遺物図 (3)	727	第1290図	SB7150出土遺物図 (2)	760
第1233図	SB7142出土遺物図 (4)	728	第1291図	SB7151遺構図	761
第1235図	SB7143遺構図	729	第1292図	SB7151-EP 土層図	761
第1236図	SB7143-EP 土層図	729	第1293図	SB7151-EH 1 遺構図	761
第1237図	SB7143-EH 1 遺構図	730	第1294図	SB7151遺物出土状況図	762
第1238図	SB7143出土遺物図 (1)	730	第1295図	SB7151出土遺物図 (1)	762
第1239図	SB7143出土遺物図 (2)	731	第1296図	SB7151出土遺物図 (2)	763
第1240図	SB7143遺物出土状況図	732	第1297図	SB7152遺構図	764
第1241図	SB7143出土遺物図 (3)	732	第1298図	SB7152-EP 土層図	764
第1242図	SB7143-EH 1 遺物出土状況図	733	第1299図	SB7152出土遺物図 (1)	764
第1243図	SB7143出土遺物図 (4)	733	第1300図	SB7152遺物出土状況図	765
第1244図	SB7143出土遺物図 (5)	734	第1301図	SB7152出土遺物図 (2)	765
第1246図	SB7144遺構図	735	第1302図	SB7153遺構図	766
第1247図	SB7144-EP 土層図	735	第1303図	SB7153-EP 土層図	766
第1248図	SB7144-EH 1 遺構図	735	第1304図	SB7153-EH 1 遺構図	766
第1249図	SB7144-EH 1 遺物出土状況図	736	第1305図	SB7153遺物出土状況図	767
第1250図	SB7144出土遺物図	736	第1306図	SB7153-EH 1 遺物出土状況図	767
第1251図	SB7145遺構図	737	第1307図	SB7153出土遺物図 (1)	768
第1252図	SB7145-EP 土層図	737	第1308図	SB7153出土遺物図 (2)	769
第1253図	SB7145-EH 1 遺構図	738	第1309図	SB7153出土遺物図 (3)	770
第1254図	SB7145-EH 1 遺物出土状況図	738	第1310図	SB7155遺構図 (1)	771
第1255図	SB7145遺物出土状況図	739	第1311図	SB7155遺構図 (2)	772
第1256図	SB7145出土遺物図 (1)	739	第1312図	SB7155-EP 土層図	772
第1257図	SB7145出土遺物図 (2)	740	第1313図	SB7155-EH 1 遺構図	773
第1258図	SB7145出土遺物図 (3)	741	第1314図	SB7155-EK 1 遺構図	773
第1259図	SB7147遺構図	742	第1315図	SB7155遺物出土状況図 (1)	774
第1260図	SB7147-EP 土層図	742	第1316図	SB7155遺物出土状況図 (2)	775
第1261図	SB7147-EK 1 遺構図	743	第1317図	SB7155-EH 1 遺物出土状況図	775
第1262図	SB7147-EH 1 遺構図	743	第1318図	SB7155出土遺物図 (1)	775
第1263図	SB7147遺物出土状況図	744	第1319図	SB7155出土遺物図 (2)	776
第1264図	SB7147出土遺物図 (1)	744	第1320図	SB7155出土遺物図 (3)	777
第1265図	SB7147-EH 1 遺物出土状況図	745	第1321図	SB7155出土遺物図 (4)	778
第1266図	SB7147出土遺物図 (2)	745	第1322図	SB7155出土遺物図 (5)	779
第1267図	SB7147出土遺物図 (3)	746	第1323図	SB7155出土遺物図 (6)	780
第1268図	SB7148遺構図	747	第1324図	SB7155出土遺物図 (7)	781
第1269図	SB7148-EH 1 遺構図	747	第1325図	SB7155出土遺物図 (8)	782
第1270図	SB7148-EP 土層図	748	第1326図	SB7155出土遺物図 (9)	783
第1271図	SB7148-ED 土層図	748	第1327図	SB7156遺構図	784
第1272図	SB7148遺物出土状況図	748	第1328図	SB7156-EP 土層図	785
第1273図	SB7148-EH 1 遺物出土状況図	749	第1329図	SB7156-EH 1 遺構図	785
第1274図	SB7148出土遺物図	749	第1330図	SB7156-EH 1 遺物出土状況図	786
第1275図	SB7149遺構図	750	第1331図	SB7156出土遺物図 (1)	786
第1276図	SB7149-EP 土層図	751	第1332図	SB7156出土遺物図 (2)	787
第1277図	SB7149-EH 1 遺構図	751	第1333図	SB7157遺構図	788
第1278図	SB7149遺物出土状況図	752	第1334図	SB7157-EP 土層図	788
第1279図	SB7149-EH 1 遺物出土状況図	753	第1335図	SB7157-EH 1 遺構図	789
第1280図	SB7149出土遺物図 (1)	753	第1336図	SB7157-EH 1 下部構造遺構図	790
第1281図	SB7149出土遺物図 (2)	754	第1337図	SB7157出土遺物図 (1)	790
第1282図	SB7149出土遺物図 (3)	755	第1338図	SB7157遺物出土状況図	791

第1339図	SB7157出土遺物図 (2)	791
第1340図	SB7157-EH 1 遺物出土状況図	792
第1341図	SB7157出土遺物図 (3)	793
第1342図	SB7158遺構図	794
第1343図	SB7158-EP 土層図	794
第1344図	SB7158遺物出土状況図	794
第1345図	SB7158-EH 1 遺構図	795
第1346図	SB7158-EH 1 遺物出土状況図	796
第1347図	SB7159遺構図	797
第1348図	SB7159-EP 土層図	797
第1349図	SB7159-EH 1 遺構図	798
第1350図	SB7159-EH 1 下部構造遺構図	798
第1351図	SB7159遺物出土状況図	799
第1352図	SB7159出土遺物図 (1)	799
第1353図	SB7159-EH 1 遺物出土状況図	800
第1354図	SB7159出土遺物図 (2)	800
第1355図	SB7159出土遺物図 (3)	801
第1356図	SB7160遺構図	802
第1357図	SB7160-EP 土層図	802
第1358図	SB7160-EH 1 遺構図	803
第1359図	SB7160-EH 1 下部構造遺構図	803
第1360図	SB7160遺物出土状況図	804
第1361図	SB7160-EH 1 遺物出土状況図	805
第1362図	SB7160出土遺物図 (1)	805
第1363図	SB7160出土遺物図 (2)	806
第1364図	SB7161遺構図	807
第1365図	SB7161-EP 土層図	807
第1366図	SB7161-EH 1 下部構造遺構図	807
第1367図	SB7161出土遺物図 (1)	807
第1368図	SB7161遺物出土状況図	808
第1369図	SB7161出土遺物図 (2)	808
第1370図	SB7162遺構図	809
第1371図	SB7163遺構図	810
第1372図	SB7163-EP 土層図	810
第1373図	SB7163-EK 1 遺構図	810
第1374図	SB7163-EH 1 遺構図	811
第1375図	SB7163-EH 1 遺物出土状況図	811
第1376図	SB7163出土遺物図	811
第1377図	SB7164遺構図	812
第1378図	SB7164-EP 土層図	812
第1379図	SB7164出土遺物図	812
第1380図	SB7167遺構図	813
第1381図	SB7167-EP 土層図	813
第1382図	SB7167-ED 土層図	813
第1383図	SB7167-EH 1 遺構図	814
第1384図	SB7167-EH 1 下部構造遺構図	814
第1385図	SB7167遺物出土状況図	815
第1386図	SB7167出土遺物図 (1)	815
第1387図	SB7167-EH 1 遺物出土状況図	816
第1388図	SB7167出土遺物図 (2)	816
第1389図	SB7167出土遺物図 (3)	817
第1390図	SB7168遺構図	818
第1391図	SB7168-EP 土層図	818
第1392図	SB7168-EH 1 遺構図	819
第1393図	SB7168遺物出土状況図	820
第1394図	SB7168出土遺物図 (1)	820

第1395図	SB7168-EH 1 遺物出土状況図	821
第1396図	SB7168出土遺物図 (2)	821
第1397図	SB7168出土遺物図 (3)	822
第1398図	SB7169遺構図	823
第1399図	SB7169-EP 土層図	823
第1400図	SB7169-EH 1 遺構図	824
第1401図	SB7169遺物出土状況図	824
第1402図	SB7169-EH 1 遺物出土状況図	825
第1403図	SB7169出土遺物図	825
第1404図	SB7170遺構図	826
第1405図	SB7170-EP 土層図	827
第1406図	SB7170-ED 土層図	827
第1407図	SB7170-EK 1 土層図	827
第1408図	SB7170出土遺物図 (1)	827
第1409図	SB7170-EH 1 遺構図	828
第1410図	SB7170遺物出土状況図	829
第1411図	SB7170-EH 1 遺物出土状況図	830
第1412図	SB7170出土遺物図 (2)	831
第1413図	SB7171遺構図	832
第1414図	SB7171-EP 土層図	832

第4分冊

第1415図	SB7171-EH 1 遺構図	833
第1416図	SB7171-EH 1 下部構造遺構図	834
第1417図	SB7171-ED 土層図	834
第1418図	SB7171遺物出土状況図	835
第1419図	SB7171-EH 1 遺物出土状況図	836
第1420図	SB7171出土遺物図 (1)	837
第1421図	SB7171出土遺物図 (2)	838
第1422図	SB7172遺構図	839
第1423図	SB7172-EP 土層図	839
第1424図	SB7172-EH 1 遺構図	840
第1425図	SB7172-EH 1 下部構造遺構図	841
第1426図	SB7172出土遺物図 (1)	841
第1427図	SB7172遺物出土状況図	842
第1428図	SB7172出土遺物図 (2)	842
第1429図	SB7172-EH 1 遺物出土状況図	843
第1430図	SB7173遺構図	844
第1431図	SB7173-EP 土層図	844
第1432図	SB7173出土遺物図 (1)	844
第1433図	SB7173-EH 1 遺構図	845
第1434図	SB7173出土遺物図 (2)	845
第1435図	SB7173遺物出土状況図	846
第1436図	SB7173出土遺物図 (3)	846
第1437図	SB7173-EH 1 遺物出土状況図	847
第1438図	SB7173出土遺物図 (4)	847
第1439図	SB7174遺構図	848
第1440図	SB7174-EP 土層図	848
第1441図	SB7174-ED 土層図	848
第1442図	SB7174-EH 1 遺構図	849
第1443図	SB7174-EH 1 下部構造遺構図	850
第1444図	SB7174-EK 1 遺構図	851
第1445図	SB7174-EK 2 遺構図	851
第1446図	SB7174遺物出土状況図	852
第1447図	SB7174出土遺物図 (1)	852
第1448図	SB7174-EH 1 遺物出土状況図	853

第1449図	SB7174出土遺物図 (2)	854
第1450図	SB7174出土遺物図 (3)	855
第1451図	SB7175遺構図	856
第1452図	SB7175-EP 土層図	856
第1453図	SB7175出土遺物図 (1)	856
第1454図	SB7175-EH 1 遺構図	857
第1455図	SB7175-EH 1 下部構造遺構図	857
第1456図	SB7175遺物出土状況図	858
第1457図	SB7175-EH 1 遺物出土状況図	858
第1458図	SB7175出土遺物図 (2)	859
第1459図	SB7176遺構図	860
第1460図	SB7176-EP 土層図	860
第1461図	SB7176-EH 1 遺構図	861
第1462図	SB7176-EH 1 下部構造遺構図	861
第1463図	SB7176-EH 1 遺物出土状況図	862
第1464図	SB7176出土遺物図	862
第1465図	SB7177遺構図	863
第1466図	SB7177-ED 土層図	863
第1467図	SB7177-EP 土層図	863
第1468図	SB7177-EH 1 遺構図	864
第1469図	SB7177-EH 1 下部構造遺構図	865
第1470図	SB7177出土遺物図	865
第1471図	SB7177遺物出土状況図	865
第1472図	SB7178遺構図	866
第1473図	SB7178遺物出土状況図	866
第1474図	SB7178-EH 1 遺構図	867
第1475図	SB7178-EH 1 下部構造遺構図	867
第1476図	SB7178-EH 1 遺物出土状況図	868
第1477図	SB7178出土遺物図	868
第1478図	SB7179遺構図	869
第1479図	SB7179-EH 1 遺構図	869
第1480図	SB7179-EH 1 遺物出土状況図	870
第1481図	SB7179出土遺物図	870
第1482図	SB7180遺構図	871
第1483図	SB7180-EH 1 遺構図	871
第1484図	SB7180-EH 1 下部構造遺構図	872
第1485図	SB7180-EP 土層図	872
第1486図	SB7180-EH 1 遺物出土状況図 (1)	872
第1487図	SB7180-EH 1 遺物出土状況図 (2)	873
第1488図	SB7180-EH 1 遺物出土状況図 (3)	873
第1489図	SB7180出土遺物図	874
第1490図	SB7181遺構図	875
第1491図	SB7181-EK 1 土層図	875
第1492図	SB7181出土遺物図 (1)	875
第1493図	SB7181-EH 1 遺構図	876
第1494図	SB7181-EH 1 下部構造遺構図	877
第1495図	SB7181遺物出土状況図	877
第1496図	SB7181-EH 1 遺物出土状況図	878
第1497図	SB7181-EK 1 遺物出土状況図	879
第1498図	SB7181出土遺物図 (2)	879
第1499図	SB7183遺構図	880
第1500図	SB7183遺物出土状況図	880
第1501図	SB7183出土遺物図	880
第1502図	SB7184遺構図	881
第1503図	SB7184-EP 土層図	881
第1504図	SB7184-EH 1 遺構図	882
第1505図	SB7184-EK 1 遺構図	882
第1506図	SB7184-EK 2 遺構図	883
第1507図	SB7184遺物出土状況図	883
第1508図	SB7184-EH 1 遺物出土状況図 (1)	884
第1509図	SB7184-EH 1 遺物出土状況図 (2)	884
第1510図	SB7184出土遺物図 (1)	885
第1511図	SB7184出土遺物図 (2)	886
第1512図	SB7185遺構図	887
第1513図	SB7185-EH 1 遺構図	888
第1514図	SB7185-EH 1 下部構造遺構図	889
第1515図	SB7185-EP 土層図	889
第1516図	SB7185遺物出土状況図	890
第1517図	SB7185-EH 1 遺物出土状況図	891
第1518図	SB7185出土遺物図 (1)	892
第1519図	SB7185出土遺物図 (2)	893
第1520図	SB7185出土遺物図 (3)	894
第1521図	SB7185出土遺物図 (4)	895
第1522図	SB7186遺構図	896
第1523図	SB7186-EP 土層図	896
第1524図	SB7186-ED 土層図	896
第1525図	SB7186-EK 1 遺構図	896
第1526図	SB7186遺物出土状況図	897
第1527図	SB7186-EK 1 遺物出土状況図	897
第1528図	SB7186出土遺物図 (1)	897
第1529図	SB7186出土遺物図 (2)	898
第1530図	SB7186出土遺物図 (3)	899
第1531図	池田地区 SK 配置図 (S=1/600)	900
第1532図	鳥井地区 SK 配置図 (S=1/600)	901
第1533図	大坪地区 SK 配置図 (S=1/600)	902
第1534図	横田・カワラケメン地区 SK 配置図 (S=1/600)	903
第1535図	馬のシャクリ地区 SK 配置図 (S=1/600)	904
第1536図	松吉地区 SK 配置図 (S=1/600)	905
第1537図	新貝地区 SK 配置図 (S=1/700)	906
第1538図	SK7019遺構・遺物図	907
第1539図	SK7059遺構・遺物図	907
第1540図	SK7060遺構・遺物図	907
第1541図	SK7069遺構・遺物図	908
第1542図	SK7071遺構・遺物図	909
第1543図	SK7076遺構・遺物図	909
第1544図	SK7086遺構図	909
第1545図	SK7108遺構・遺物図	909
第1546図	SK7121遺構・遺物図	910
第1547図	SK7124遺構・遺物図	910
第1548図	SK7129遺構・遺物図	910
第1549図	SK7128遺構・遺物図	911
第1550図	SK7130遺構・遺物図	912
第1551図	SK7169遺構・遺物図	912
第1552図	SK7174遺構・遺物図	912
第1553図	SK7131遺構図	913
第1554図	SK7133遺構・遺物図	914
第1555図	SK7167遺構・遺物図	915
第1556図	SK7189遺構図	916
第1557図	SK7206遺構・遺物図	917
第1558図	SK7216遺構・遺物図	917

第1559図	SK7230遺構・遺物図	918	第1614図	ST7005遺構図	947
第1560図	SK7222遺構・遺物図	919	第1615図	ST7004遺構図	948
第1561図	SK7242遺構・遺物図	919	第1616図	ST7006遺構・遺物図	948
第1562図	SK7237遺構・遺物図	920	第1617図	ST7007遺構・遺物図	949
第1563図	SK7246遺構・遺物図	921	第1618図	ST7008遺構図	949
第1564図	SK7247遺構・遺物図	922	第1619図	ST7009遺構図	950
第1565図	SK7248遺構・遺物図	923	第1620図	ST7010遺構図	950
第1566図	SK7270遺構・遺物図	923	第1621図	ST7011遺構図	950
第1568図	SK7313遺構・遺物図	924	第1622図	ST7012遺構図	951
第1569図	SK7735遺構・遺物図	924	第1623図	ST7013遺構図	951
第1570図	SK7578遺構・遺物図	924	第1624図	ST7014遺構図	952
第1571図	SK7341遺構・遺物図	925	第1625図	ST7015遺構図	952
第1572図	SK7342遺構・遺物図	925	第1626図	ST7016遺構図	953
第1573図	SK7353遺構図	926	第1627図	ST7017遺構図	953
第1574図	SK7353遺物図	927	第1628図	ST7018遺構図	954
第1575図	SK7353遺物図	928	第1629図	ST7019遺構・遺物図	954
第1576図	SK7385遺構・遺物図	929	第1630図	ST7020遺構図	955
第1577図	SK7386遺構・遺物図	929	第1631図	ST7022遺構図	955
第1578図	SK7447遺構・遺物図	929	第1632図	ST7021遺構図	955
第1579図	SK7463遺構・遺物図	930	第1633図	ST7023遺構図	956
第1580図	SK7479遺構・遺物図	931	第1634図	ST7024遺構・遺物図	956
第1581図	SK7482遺構・遺物図	931	第1635図	ST7025遺構図	956
第1582図	SK7483遺構・遺物図	932	第1636図	ST7026遺構図	956
第1583図	SK7505遺構・遺物図	932	第1637図	ST7027遺構図	957
第1584図	SK7507遺構・遺物図	932	第1638図	ST7029遺構図	957
第1585図	SK7510遺構・遺物図	933	第1639図	ST7030遺構図	957
第1586図	SK7511遺構・遺物図	933	第1640図	ST7031遺構図	957
第1587図	SK7512遺構・遺物図	933	第1641図	ST7032遺構図	958
第1588図	SK7513遺構・遺物図	933	第1642図	ST7033遺構図	958
第1589図	SK7521遺構・遺物図	934	第1643図	ST7034遺構図	958
第1590図	SK7533遺構・遺物図	934	第1644図	ST7035遺構図	958
第1591図	SK7538遺構・遺物図	934	第1645図	ST7037遺構・遺物図	959
第1592図	SK7549遺構・遺物図	934	第1646図	ST7036遺構図	960
第1593図	SK7556遺構・遺物図	935	第1647図	ST7039遺構・遺物図	960
第1594図	SK7558遺構・遺物図	935	第1648図	ST7038遺構・遺物図	960
第1595図	SK7562遺構・遺物図	935	第1649図	ST7040遺構図	961
第1596図	SK7600遺構・遺物図	936	第1650図	ST7041遺構図	961
第1597図	SK7610遺構・遺物図	936	第1651図	ST7042遺構図	961
第1598図	SK7614遺構・遺物図	937	第1652図	ST7043遺構図	962
第1599図	SK7737遺構・遺物図	937	第1653図	ST7044遺構・遺物図	962
第1600図	SK7728遺構・遺物図	938	第1654図	ST7045遺構図	962
第1601図	SK7732遺構・遺物図	939	第1655図	ST7046遺構図	963
第1602図	SK7729遺構・遺物図	940	第1656図	ST7047遺構・遺物図	963
第1603図	SK7733遺構・遺物図	940	第1657図	ST7048遺構図	964
第1604図	SK7734遺構・遺物図	940	第1658図	ST7049遺構図	964
第1605図	鳥井地区 ST 配置図 (S=1/600)	941	第1659図	ST7050遺構・遺物図	964
第1606図	大坪地区 ST 配置図 (S=1/600)	942	第1660図	ST7051遺構図	965
第1607図	横田・カワラケメン地区 ST 配置図 (S=1/600)	943	第1661図	ST7052遺構図	965
第1608図	馬のシャクリ地区 ST 配置図 (S=1/600)	944	第1662図	ST7053遺構図	965
第1609図	松吉地区 ST 配置図 (S=1/600)	945	第1663図	ST7054遺構図	965
第1610図	新貝地区 ST 配置図 (S=1/700)	946	第1664図	ST7055遺構図	966
第1611図	ST7001遺構図	947	第1665図	ST7056遺構図	966
第1612図	ST7002遺構図	947	第1666図	ST7057遺構図	966
第1613図	ST7003遺構図	947	第1667図	ST7058遺構・遺物図	967
			第1668図	ST7059遺構図	967
			第1669図	ST7060遺構図	967

第1670図	ST7061遺構図	967	第1725図	ST7120遺構図	988
第1671図	ST7062遺構図	968	第1726図	ST7121遺構図	989
第1672図	ST7063遺構・遺物図	968	第1727図	ST7122遺構・遺物図	989
第1673図	ST7064遺構・遺物図	969	第1728図	ST7123遺構・遺物図	989
第1674図	ST7065遺構図	969	第1729図	ST7124遺構・遺物図	990
第1675図	ST7066遺構図	970	第1730図	ST7125遺構・遺物図	990
第1676図	ST7067遺構図	970	第1731図	ST7126遺構・遺物図	991
第1677図	ST7069遺構図	970	第1732図	ST7127遺構図	991
第1678図	ST7068遺構図	971	第1733図	ST7128遺構図	992
第1679図	ST7070遺構図	971	第1734図	ST7129遺構図	992
第1680図	ST7071遺構・遺物図	972	第1735図	ST7132遺構図	993
第1681図	ST7107遺構図	973	第1736図	ST7133遺構図	993
第1682図	ST7109遺構図	973	第1737図	ST7130遺構図	994
第1683図	ST7072遺構・遺物図	973	第1738図	ST7135遺構図	994
第1684図	ST7073遺構・遺物図	974	第1739図	ST7134遺構・遺物図	995
第1685図	ST7074遺構図	974	第1740図	ST7137遺構図	995
第1686図	ST7075遺構図	974	第1741図	ST7131遺構図	996
第1687図	ST7076遺構・遺物図	975	第1742図	ST7136遺構図	996
第1688図	ST7077遺構・遺物図	975	第1743図	ST7138遺構図	997
第1689図	ST7078遺構図	976	第1744図	ST7139遺構図	997
第1690図	ST7079遺構図	976	第1745図	ST7141遺構図	997
第1691図	ST7080遺構図	976	第1746図	ST7140遺構・遺物図	998
第1692図	ST7081遺構図	977	第1747図	ST7142遺構図	999
第1693図	ST7082遺構図	977	第1748図	ST7143遺構図	999
第1694図	ST7084遺構図	977	第1749図	ST7145遺構図	999
第1695図	ST7085遺構図	978	第1750図	ST7144遺構図	1000
第1696図	ST7086遺構図	978	第1751図	ST7146遺構図	1000
第1697図	ST7087遺構図	978	第1752図	ST7147遺構図	1001
第1698図	ST7088遺構図	978	第1753図	ST7148遺構図	1001
第1699図	ST7091・ST7092・ST7093・ST7108遺構・遺物図	979	第1754図	ST7149遺構図	1002
第1700図	ST7089遺構・遺物図	980	第1755図	ST7150遺構図	1002
第1701図	ST7090遺構図	980	第1756図	ST7151遺構図	1002
第1702図	ST7094遺構図	980	第1757図	ST7152遺構図	1002
第1703図	ST7095遺構・遺物図	980	第1758図	ST7153遺構図	1003
第1704図	ST7096遺構図	981	第1759図	ST7154遺構図	1003
第1705図	ST7097遺構図	981	第1760図	ST7155遺構図	1003
第1706図	ST7098遺構図	981	第1761図	ST7159遺構図	1003
第1707図	ST7099遺構図	981	第1762図	ST7156遺構図	1004
第1708図	ST7100遺構図	981	第1763図	ST7157遺構図	1004
第1709図	ST7101遺構図	981	第1764図	ST7160遺構図	1004
第1710図	ST7102遺構図	982	第1765図	ST7158遺構・遺物図	1005
第1711図	ST7103遺構図	982	第1766図	ST7162遺構図	1005
第1712図	ST7105遺構・遺物図	982	第1767図	ST7163遺構図	1005
第1713図	ST7106遺構図	982	第1768図	ST7164遺構図	1005
第1714図	ST7104遺構・遺物図	983	第1769図	ST7165遺構図	1006
第1715図	ST7110遺構・遺物図	984	第1770図	ST7161遺構図	1006
第1716図	ST7111遺構・遺物図	985	第1771図	ST7166遺構図	1006
第1717図	ST7112遺構・遺物図	985	第1772図	ST7167遺構図	1006
第1718図	ST7113遺構図	986	第1773図	ST7168遺構・遺物図	1007
第1719図	ST7114遺構図	986	第1774図	ST7169遺構図	1007
第1720図	ST7115遺構図	986	第1775図	ST7171遺構図	1007
第1721図	ST7116遺構・遺物図	987	第1776図	ST7170遺構図	1008
第1722図	ST7117遺構・遺物図	988	第1777図	ST7172遺構図	1008
第1723図	ST7118遺構・遺物図	988	第1778図	ST7175遺構図	1008
第1724図	ST7119遺構図	988	第1779図	ST7178遺構図	1008
				第1780図	ST7179遺構図	1009

第1781図	ST7180遺構図	1009	第1837図	ST7242遺構図	1025
第1782図	ST7181遺構図	1009	第1838図	ST7244遺構図	1025
第1783図	ST7182遺構図	1009	第1839図	ST7245遺構図	1025
第1784図	ST7183遺構図	1009	第1840図	ST7238遺構図	1026
第1785図	ST7185遺構・遺構図	1009	第1841図	ST7239遺構・遺物図	1026
第1786図	ST7184遺構図	1010	第1842図	ST7240遺構図	1027
第1787図	ST7186遺構図	1010	第1843図	ST7241遺構図	1027
第1788図	ST7187遺構図	1010	第1844図	ST7243遺構図	1027
第1789図	ST7189遺構図	1010	第1845図	ST7246遺構図	1028
第1790図	ST7188遺構・遺構図	1011	第1846図	ST7247遺構図	1028
第1791図	ST7190遺構図	1011	第1847図	ST7248遺構図	1028
第1792図	ST7191遺構図	1011	第1848図	ST7249遺構図	1028
第1793図	ST7192遺構図	1012	第1849図	ST7250遺構図	1028
第1794図	ST7193遺構図	1012	第1850図	ST7251遺構図	1029
第1795図	ST7194遺構図	1012	第1851図	ST7252遺構図	1029
第1796図	ST7196遺構図	1012	第1852図	ST7253遺構図	1029
第1797図	ST7195遺構図	1013	第1853図	ST7254遺構図	1030
第1798図	ST7197遺構図	1013	第1854図	ST7255遺構図	1030
第1799図	ST7198遺構図	1014	第1855図	ST7256遺構図	1031
第1800図	ST7199遺構図	1014	第1856図	ST7257遺構図	1031
第1801図	ST7201遺構図	1014	第1857図	ST7260遺構図	1031
第1802図	ST7200遺構図	1015	第1858図	ST7258遺構図	1032
第1803図	ST7202遺構図	1015	第1859図	ST7259遺構図	1032
第1804図	ST7203遺構図	1015	第1860図	ST7261遺構図	1032
第1805図	ST7204遺構図	1015	第1861図	ST7262遺構図	1033
第1806図	ST7205遺構・遺物図	1016	第1862図	ST7263遺構図	1033
第1807図	ST7206遺構図	1016	第1863図	ST7264遺構図	1033
第1808図	ST7207遺構図	1016	第1864図	ST7265遺構図	1033
第1809図	ST7209遺構図	1017	第1865図	ST7266遺構図	1033
第1810図	ST7210遺構・遺物図	1017	第1866図	ST7267遺構図	1034
第1811図	ST7212遺構図	1017	第1867図	ST7268遺構図	1034
第1812図	ST7211遺構・遺物図	1018	第1868図	ST7269遺構図	1034
第1813図	ST7213遺構図	1018	第1869図	ST7270遺構図	1034
第1814図	ST7214遺構図	1019	第1870図	ST7271遺構図	1034
第1815図	ST7215遺構・遺物図	1019	第1871図	ST7272遺構図	1034
第1816図	ST7216遺構図	1019	第1872図	ST7273遺構図	1035
第1817図	ST7217遺構・遺物図	1020	第1873図	ST7274遺構図	1035
第1818図	ST7218遺構図	1020	第1874図	ST7275遺構図	1035
第1819図	ST7219遺構図	1021	第1875図	ST7277遺構図	1035
第1820図	ST7220遺構・遺物図	1021	第1876図	ST7276遺構図	1035
第1821図	ST7221遺構・遺物図	1021	第1877図	ST7278遺構図	1036
第1822図	ST7222遺構図	1021	第1878図	ST7279遺構図	1036
第1823図	ST7223遺構図	1022	第1879図	ST7280遺構図	1036
第1824図	ST7224遺構図	1022	第1880図	ST7281遺構図	1036
第1825図	ST7225遺構・遺物図	1022	第1881図	ST7282・7283遺構図	1037
第1826図	ST7226遺構図	1022	第1882図	ST7284遺構図	1037
第1827図	ST7228遺構図	1023	第1883図	ST7285遺構・遺物図	1037
第1828図	ST7230遺構図	1023	第1884図	ST7286遺構図	1038
第1829図	ST7229遺構図	1023	第1885図	ST7287遺構・遺物図	1038
第1830図	ST7231遺構図	1023	第1886図	ST7288遺構図	1039
第1831図	ST7232遺構図	1024	第1887図	ST7289遺構図	1039
第1832図	ST7233遺構図	1024	第1888図	ST7290遺構図	1039
第1833図	ST7234遺構図	1024	第1889図	ST7291遺構・遺物図	1040
第1834図	ST7235遺構図	1024	第1890図	ST7292遺構図	1040
第1835図	ST7236遺構図	1025	第1891図	ST7293遺構図	1040
第1836図	ST7237遺構・遺物図	1025	第1892図	ST7294遺構図	1041

第1893図	ST7295遺構図	1041	第1949図	SP7007土層・遺物図	1065
第1894図	ST7297遺構図	1041	第1950図	SP7008土層・遺物図	1065
第1895図	ST7296遺構図	1042	第1951図	SP7009土層・遺物図	1065
第1896図	ST7299遺構図	1042	第1952図	SP7010土層・遺物図	1066
第1897図	ST7298遺構図	1042	第1953図	SP7011土層・遺物図	1066
第1898図	ST7300遺構図	1043	第1954図	SP7012土層・遺物図	1066
第1899図	ST7301遺構図	1043	第1955図	SP7013土層・遺物図	1066
第1900図	ST7302遺構図	1044	第1956図	SP7014断面・遺物図	1066
第1901図	ST7303遺構図	1044	第1957図	SP7015土層・遺物図	1066
第1902図	ST7304遺構図	1045	第1958図	SP7016土層・遺物図	1066
第1903図	ST7305遺構図	1045	第1959図	SP7017土層・遺物図	1066
第1904図	ST7306遺構・遺物図	1046	第1960図	SP7018土層・遺物図	1067
第1905図	ST7307遺構図	1047	第1961図	SP7019土層・遺物図	1067
第1906図	ST7308遺構図	1047	第1962図	SP7020土層・遺物図	1067
第1907図	ST7309遺構・遺物図	1048	第1963図	SP7021土層・遺物図	1067
第1908図	ST7310遺構図	1048	第1964図	SP7022土層・遺物図	1067
第1909図	ST7311遺構図	1049	第1965図	SP7023土層・遺物図	1067
第1910図	ST7312遺構図	1049	第1966図	SP7024土層・遺物図	1067
第1911図	ST7313遺構図	1050	第1967図	SP7025土層・遺物図	1068
第1912図	ST7314遺構図	1050	第1968図	SP7026土層・遺物図	1068
第1913図	ST7315遺構図	1051	第1969図	SP7027土層・遺物図	1068
第1914図	ST7316遺構図	1051	第1970図	SP7028土層・遺物図	1068
第1915図	ST7317遺構図	1052	第1971図	SP7029土層・遺物図	1068
第1916図	ST7318遺構図	1052	第1972図	SP7030土層・遺物図	1068
第1917図	ST7319遺構図	1052	第1973図	SP7031土層・遺物図	1069
第1918図	ST7320遺構図	1053	第1974図	SP7032土層・遺物図	1069
第1919図	ST7321遺構図	1053	第1975図	SP7033土層・遺物図	1069
第1920図	ST7324遺構・遺物図	1054	第1976図	SP7034土層・遺物図	1069
第1921図	ST7322遺構図	1055	第1977図	SP7035土層・遺物図	1069
第1922図	ST7325遺構図	1055	第1978図	SP7036土層・遺物図	1069
第1923図	ST7326遺構図	1056	第1979図	SP7037土層・遺物図	1069
第1924図	ST7327遺構図	1056	第1980図	SP7038土層・遺物図	1069
第1925図	ST7329遺構図	1056	第1981図	SP7039土層・遺物図	1070
第1926図	ST7328遺構図	1057	第1982図	SP7040土層・遺物図	1070
第1927図	ST7330遺構図	1057	第1983図	SP7041土層・遺物図	1070
第1928図	ST7331遺構図	1058	第1984図	SP7042土層・遺物図	1070
第1929図	ST7332遺構図	1058	第1985図	SP7043土層・遺物図	1070
第1930図	ST7333遺構図	1058	第1986図	SP7044土層・遺物図	1070
第1931図	ST7334遺構図	1059	第1987図	SP7045土層・遺物図	1071
第1932図	ST7335遺構図	1059	第1988図	SP7046土層・遺物図	1071
第1933図	ST7336遺構図	1059	第1989図	SP7047土層・遺物図	1071
第1934図	ST7337遺構・遺物図	1060	第1990図	SP7048土層・遺物図	1071
第1935図	ST7338遺構図	1060	第1991図	大坪地区 SI7002噴砂 (SX7001)検出状況	
第1936図	ST7339遺構図	1061		1072
第1937図	ST7340遺構図	1061	第1992図	SX7002遺構・遺物図	1073
第1938図	ST7341遺構図	1061	第1993図	SX7003遺構・遺物図	1074
第1939図	ST7342遺構図	1061	第1994図	SX7004遺構・遺物図 (1)	1075
第1940図	ST7343遺構図	1062	第1995図	SX7004出土遺物図 (2)	1076
第1941図	ST7344遺構・遺物図	1062	第1996図	SX7005遺構・遺物図	1077
第1942図	ST7345遺構・遺物図	1063	第1997図	SX7006遺構・遺物図	1078
第1943図	SP7001土層・遺物図	1064	第1998図	SX7007遺構・遺物図 (1)	1079
第1944図	SP7002土層・遺物図	1064	第1999図	SX7007出土遺物図 (2)	1080
第1945図	SP7003土層・遺物図	1064	第2000図	池田地区 SR 配置図 (S=1/600)	1081
第1946図	SP7004土層・遺物図	1065	第2001図	鳥井地区 SR・SD 配置図 (S=1/600)	1082
第1947図	SP7005土層・遺物図	1065	第2002図	大坪地区 SR・SD 配置図 (S=1/600)	1083
第1948図	SP7006土層・遺物図	1065			

第2003図	横田・カワラケメン地区 SR・SD 配置図 (S=1/600)……………1084	第2057図	SD7007遺構図……………1124
第2004図	馬のシャクリ地区 SR・SD 配置図 (S=1/600)……………1085	第2058図	SD7007土層図 (1)……………1124
第2005図	松吉地区 SR・SD 配置図 (S=1/600)……………1086	第2059図	SD7007土層図 (2)……………1125
第2006図	新貝地区 SR・SD 配置図 (S=1/700)……………1087	第2060図	SD7007土層図 (3)……………1126
第2007図	SR7001遺構図……………1088	第2061図	SD7007出土遺物図 (1)……………1126
第2008図	SR7001土層図……………1089	第2062図	SD7007出土遺物図 (2)……………1127
第2009図	SR7001遺物出土状況拡大図……………1089	第2063図	SD7007遺物出土状況拡大図 (1)……………1128
第2010図	SR7001出土遺物図……………1090	第2064図	SD7007遺物出土状況拡大図 (2)……………1129
第2011図	SR7002, 7003遺構図……………1091	第2065図	SD7007遺物出土状況拡大図 (3)……………1130
第2012図	SR7002, 7003断面図……………1092	第2066図	SD7007遺物出土状況拡大図 (4)……………1131
第2013図	SR7002遺物出土状況拡大図……………1092	第2067図	SD7007遺物出土状況拡大図 (5)……………1132
第2014図	SR7002, 7003出土遺物図……………1093	第2068図	SD7007遺物出土状況拡大図 (6)……………1133
第2015図	SR7004遺構・遺物図……………1094	第2069図	SD7007遺物出土状況拡大図 (7)……………1134
第2016図	SR7005遺構・土層図 (1)……………1095	第2070図	SD7007遺物出土状況拡大図 (8)……………1135
第2017図	SR7005土層図 (2)……………1096	第2071図	SD7008～7011遺構図……………1136
第2018図	SR7005出土遺物図 (1)……………1096	第2072図	SD7008土層図……………1136
第2019図	SR7005遺物出土状況拡大図……………1097	第2073図	SD7009, 7010土層図……………1137
第2020図	SR7005出土遺物図 (2)……………1098	第2074図	SD7009, 7011土層図 (1)……………1137
第2021図	SR7006遺構・土層図 (1)……………1099	第2075図	SD7009, 7011土層図 (2)……………1138
第2022図	SR7006土層図 (2)……………1100	第2076図	SD7008～7011遺物出土状況拡大図 (1)……………1139
第2023図	SR7006出土遺物図……………1100	第2077図	SD7008～7011遺物出土状況拡大図 (2)……………1140
第2024図	SR7007遺構・土層図……………1101	第2078図	SD7008～7011遺物出土状況拡大図 (3)……………1141
第2025図	SR7007出土遺物図……………1102	第2079図	SD7008～7011遺物出土状況拡大図 (4)……………1142
第2026図	SR7008, 7009遺構図……………1103	第2080図	SD7008出土遺物図……………1143
第2027図	SR7008断面図……………1104	第2081図	SD7009出土遺物図 (1)……………1144
第2028図	SR7009断面図……………1104	第2082図	SD7009出土遺物図 (2)……………1145
第2029図	SR7008, 7009出土遺物図 (1)……………1104	第2083図	SD7010出土遺物図……………1145
第2030図	SR7008, 7009出土遺物図 (2)……………1105	第2084図	SD7011出土遺物図……………1145
第2031図	SR7010, 7011遺構図……………1106	第2085図	SD7012遺構・遺物図……………1146
第2032図	SR7010土層図……………1107	第2086図	SD7012遺物出土状況拡大図 (1)……………1147
第2033図	SR7011土層図……………1107	第2087図	SD7012遺物出土状況拡大図 (2)……………1148
第2034図	SR7010出土遺物図……………1108	第2088図	SD7013遺構図……………1149
第2035図	SR7012遺構・遺物図……………1109	第2089図	SD7013遺物出土状況拡大図……………1150
第2036図	SR7013, 7014遺構図……………1110	第2090図	SD7013出土遺物図……………1150
第2037図	SR7013土層図……………1110	第2091図	SD7014～7016遺構図……………1151
第2038図	SR7014土層図……………1110	第2092図	SD7014土層図……………1152
第2039図	SR7013出土遺物図……………1110	第2093図	SD7016土層図……………1152
第2040図	SR7014遺物出土状況拡大図……………1111	第2094図	SD7014, 7015遺物出土状況拡大図……………1153
第2041図	SR7014出土遺物図……………1111	第2095図	SD7014遺物出土状況拡大図 (1)……………1154
第2042図	SR7015遺構図……………1112	第2096図	SD7014遺物出土状況拡大図 (2)……………1155
第2043図	SR7015出土遺物図……………1112	第2097図	SD7016遺物出土状況拡大図 (1)……………1155
第2044図	SR7016遺構・土層図……………1113	第2098図	SD7016遺物出土状況拡大図 (2)……………1156
第2045図	SR7016遺物出土状況拡大図……………1114	第2099図	SD7016遺物出土状況拡大図 (3)……………1157
第2046図	SR7016出土遺物図……………1114	第2100図	SD7014出土遺物図 (1)……………1158
第2047図	SD7001遺構図……………1115	第2101図	SD7014出土遺物図 (2)……………1159
第2048図	SD7001遺物出土状況拡大図……………1116	第2102図	SD7014出土遺物図 (3)……………1160
第2049図	SD7001出土遺物図……………1116	第2103図	SD7014出土遺物図 (4)……………1161
第2050図	SD7002遺構図……………1117	第2104図	SD7015出土遺物図……………1162
第2051図	SD7002遺物出土状況拡大図 (1)……………1118	第2105図	SD7016出土遺物図……………1162
第2052図	SD7002遺物出土状況拡大図 (2)……………1119	第2106図	SD7017遺構図……………1163
第2053図	SD7002出土遺物図……………1120	第2107図	SD7017出土遺物図 (1)……………1164
第2054図	SD7003遺構・遺物図……………1121	第2108図	SD7017出土遺物図 (2)……………1165
第2055図	SD7004, 7005遺構図……………1122	第2109図	SD7018遺構図……………1166
第2056図	SD7006遺構・遺物図……………1123	第2110図	SD7018出土遺物図……………1167
		第2111図	SD7019遺構・遺物図……………1168
		第2112図	SD7020遺構図……………1169

第2113図	SD7020遺物出土状況拡大図	1170	第2169図	SI7002拡大図 (19)	1225
第2114図	SD7020出土遺物図	1170	第2170図	SI7002拡大図 (20)	1226
第2115図	SD7021遺構・遺物図	1171	第2171図	SI7002拡大図 (21)	1227
第2116図	SD7022遺構・遺物図	1172	第2172図	SI7002拡大図 (22)	1228
第2117図	SD7023遺構図	1173	第2173図	SI7002拡大図 (23)	1229
第2118図	SD7024遺構・遺物図	1174	第2174図	SI7002拡大図 (24)	1230
第2119図	SD7025遺構・遺物図	1175	第2175図	SI7002拡大図 (25)	1231
第2120図	SD7026遺構・遺物図	1176	第2176図	SI7002拡大図 (26)	1232
第2121図	鳥井地区 SI 配置図 (S=1/600)	1177	第2177図	SI7002拡大図 (27)	1233
第2122図	SI7001拡大図 (1)	1178	第2178図	SI7002拡大図 (28)	1234
第2123図	SI7001拡大図 (2)	1179	第2179図	SI7001出土遺物図 (1)	1235
第2124図	SI7001拡大図 (3)	1180	第2180図	SI7001出土遺物図 (2)	1236
第2125図	SI7001拡大図 (4)	1181	第2181図	SI7001出土遺物図 (3)	1237
第2126図	SI7001拡大図 (5)	1182	第2182図	SI7002出土遺物図	1237
第2127図	SI7001拡大図 (6)	1183	第2183図	SH7001遺構・遺物図	1238
第2128図	SI7001拡大図 (7)	1184	第2184図	SA7095出土鉄器図	1239
第2129図	SI7001拡大図 (8)	1185	第2185図	SB7002出土鉄器図	1239
第2130図	SI7001拡大図 (9)	1186	第2186図	SB7005出土鉄器図	1239
第2131図	SI7001拡大図 (10)	1187	第2187図	SB7008出土鉄器図	1239
第2132図	SI7001拡大図 (11)	1188	第2188図	SB7011出土鉄器図	1239
第2133図	SI7001拡大図 (12)	1189	第2189図	SB7024出土鉄器図	1239
第2134図	SI7001拡大図 (13)	1190	第2190図	SB7026出土鉄器図	1239
第2135図	SI7001拡大図 (14)	1191	第2191図	SB7027出土鉄器図	1239
第2136図	SI7001拡大図 (15)	1192	第2192図	SB7031出土鉄器図	1240
第2137図	SI7001拡大図 (16)	1193	第2193図	SB7041出土鉄器図	1240
第2138図	SI7001拡大図 (17)	1194	第2194図	SB7044出土鉄器図	1240
第2139図	SI7001拡大図 (18)	1195	第2195図	SB7050出土鉄器図	1240
第2140図	SI7001拡大図 (19)	1196	第2196図	SB7051出土鉄器図	1240
第2141図	SI7001拡大図 (20)	1197	第2197図	SB7054出土鉄器図	1240
第2142図	SI7001拡大図 (21)	1198	第2198図	SB7055出土鉄器図	1240
第2143図	SI7001拡大図 (22)	1199	第2199図	SB7056出土鉄器図	1240
第2144図	SI7001拡大図 (23)	1200	第2200図	SB7059出土鉄器図	1240
第2145図	SI7001拡大図 (24)	1201	第2201図	SB7061出土鉄器図	1241
第2146図	SI7001拡大図 (25)	1202	第2202図	SB7076出土鉄器図	1241
第2147図	SI7001遺物出土地点図	1203	第2203図	SB7081出土鉄器図	1241
第2148図	SI7001出土遺物図 (1)	1204	第2204図	SB7086出土鉄器図	1241
第2149図	SI7001出土遺物図 (2)	1205	第2205図	SB7092出土鉄器図	1241
第2150図	大坪地区 SI 配置図 (S=1/600)	1206	第2206図	SB7104出土鉄器図	1241
第2151図	SI7002拡大図 (1)	1207	第2207図	SB7115出土鉄器図	1241
第2152図	SI7002拡大図 (2)	1208	第2208図	SB7122出土鉄器図	1241
第2153図	SI7002拡大図 (3)	1209	第2209図	SB7123出土鉄器図	1241
第2154図	SI7002拡大図 (4)	1210	第2210図	SB7131出土鉄器図	1241
第2155図	SI7002拡大図 (5)	1211	第2211図	SB7133出土鉄器図	1242
第2156図	SI7002拡大図 (6)	1212	第2212図	SB7135出土鉄器図	1242
第2157図	SI7002拡大図 (7)	1213	第2213図	SB7137出土鉄器図	1242
第2158図	SI7002拡大図 (8)	1214	第2214図	SB7140出土鉄器図	1242
第2159図	SI7002拡大図 (9)	1215	第2215図	SB7142出土鉄器図	1242
第2160図	SI7002拡大図 (10)	1216	第2216図	SB7143出土鉄器図	1242
第2161図	SI7002拡大図 (11)	1217	第2217図	SB7145出土鉄器図	1243
第2162図	SI7002拡大図 (12)	1218	第2218図	SB7147出土鉄器図	1243
第2163図	SI7002拡大図 (13)	1219	第2219図	SB7149出土鉄器図	1243
第2164図	SI7002拡大図 (14)	1220	第2220図	SB7151出土鉄器図	1243
第2165図	SI7002拡大図 (15)	1221	第2221図	SB7155出土鉄器図	1243
第2166図	SI7002拡大図 (16)	1222	第2222図	SB7159出土鉄器図	1243
第2167図	SI7002拡大図 (17)	1223	第2223図	SB7173出土鉄器図	1243
第2168図	SI7002拡大図 (18)	1224	第2224図	SB7174出土鉄器図	1243

第2225図	SB7184出土鉄器図	1244
第2226図	SB7185出土鉄器図	1244
第2227図	SK7133出土鉄器図	1244
第2228図	SK7262出土鉄器図	1244
第2229図	SK7288出土鉄器図	1244
第2230図	SK7322出土鉄器図	1244
第2231図	ST7034出土鉄器図	1244
第2232図	ST7235出土鉄器図	1244

第2233図	SX7007出土鉄器図	1244
第2234図	SD7007出土鉄器図	1244
第2235図	SD7009出土鉄器図	1244
第2236図	包含層出土鉄器図	1245
第2237図	SK7306出土鉄器図	1245
第2238図	SK7337出土鉄器図	1245
第2239図	SK7367出土鉄器図	1245

分析編目次 (第5分冊)

第I章 自然化学分析

第1節	大柿遺跡から検出された遺構に残存する脂肪の分析	中野 益男…3
第2節	大柿遺跡出土の管玉、丸玉の産地分析	藁科 哲男…13
第3節	大柿遺跡における樹種同定	(株)古環境研究所…32
第4節	大柿遺跡出土試料の放射性炭素年代測定	(株)古環境研究所…37
第5節	大柿遺跡製鉄関連遺物の分析調査	村川 義行…40
第6節	大柿遺跡出土土器の胎土分析	白石 純…77
第7節	大柿遺跡出土ガラス製品の調査	植地 岳彦…90
第8節	大柿遺跡出土遺物に付着する赤色物質の調査(2)	植地 岳彦…96

第II章 まとめ

第1節	主要遺構の切り合い関係について	栗林 誠治…111
第2節	大柿遺跡出土須恵器の型式分類と編年	藤川 智之…119

第3節	大柿遺跡出土の土師器の編年について	田川 憲…135
第4節	大柿遺跡古墳時代集落出土の石器について	氏家 敏之…156
第5節	匙型土製品について	栗林 誠治…161
第6節	弥生時代～古墳時代初頭の鉄器に関して	栗林 誠治…163
第7節	大柿遺跡出土須恵器のヘラ記号について	栗林 誠治…166
第8節	口縁端部に「刻目」調整を施す須恵器について	栗林 誠治…172
第9節	須恵器内面底部(天井部)調整について	栗林 誠治…174
第10節	須恵器脚台部接合箇所における技法について	栗林 誠治…178
第11節	打ち欠きを施す須恵器について(予察)	栗林 誠治…180
第12節	製塩土器について	栗林 誠治…187
第13節	古墳時代後期の鉄器について	栗林 誠治…194
第14節	地震痕跡と災害考古学的評価	栗林 誠治…208
第15節	古墳時代小結	栗林 誠治…214

分析編挿図類目次 (第5分冊)

第I章

第1節










表1	土壌試料の残存脂肪抽出量	5
表2	試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合	5
図1	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成	6
図2	試料中に残存する脂肪のステロール組成	7
図3	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図	8
図4	試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関	9

第2節

表1	大柿遺跡出土玉類の出土地区および法量	14
図1	花仙山産玉原石の蛍光X線スペクトル	15
参考表	大柿遺跡出土玉類の産地分析結果 統計処理使用元素比	17
図2	古墳(統縄文)時代の碧玉製玉類の原材使用分布圏および碧玉・碧玉様岩の原産地	19

図3-1	大柿遺跡出土管玉(Na348)(86188)の蛍光X線スペクトル	20
図3-2	大柿遺跡出土管玉(Na148)(86189)の蛍光X線スペクトル	20
図3-3	大柿遺跡出土丸玉(Na77)(86190)の蛍光X線スペクトル	20
表2-1	各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差	22
表2-2	各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差	23
表3-1	大柿遺跡出土玉類の分析結果	21
表3-2	大柿遺跡出土玉類の分析結果	21
図4	碧玉原石のESRスペクトル(花仙山、玉谷、猿八、土岐)	24
図5-(1)	碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル	25
図5-(2)	碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル	26

図5- (3) 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル	27	図3 造滓成分とT・Feによる滓の判定	70
図5- (4) 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル	28	図4 MnO/TiO ₂ とTiO ₂ /T・Feによる滓の判定	70
表4 大柿遺跡出土玉類の原材産地分析結果	29	表8 鍛造剥片の化学成分分析値(wt%)	71
図6 大柿遺跡出土管玉(No148)の信号(Ⅱ)、Ⅲ)のESRスペクトル	30	写真9-1 羽口(OH1)のSEM像とEDX分析	71
第3節 大柿遺跡の炭化材	34	写真9-2 羽口(OH2)のSEM像とEDX分析	71
表1 大柿遺跡における樹種同定結果	35	写真9-3 羽口(OH3)のSEM像とEDX分析	72
第5節 表1 調査資料明細(鉄器)	40	写真9-4 羽口(OH4)のSEM像とEDX分析	72
表2 調査資料明細(羽口)	40	写真9-5 羽口(OH5)のSEM像とEDX分析	72
表3 調査資料明細(鉄滓)	40	写真10-1 鉄滓(OS1)のSEM像とEDX分析	73
表4 調査資料明細(鍛造剥片)	41	写真10-2 鉄滓(OS2)のSEM像とEDX分析	73
写真1-1 調査資料(鉄器)の外観写真	50	写真10-3 鉄滓(OS3)のSEM像とEDX分析	73
写真1-2 調査資料(鉄器)の外観写真	51	写真10-4 鉄滓(OS4)のSEM像とEDX分析	74
写真2 調査資料(羽口)の外観写真	52	写真10-5 鉄滓(OS5)のSEM像とEDX分析	74
写真3-1 調査資料(鉄滓)の外観写真	53	写真10-6 鉄滓(OS6)のSEM像とEDX分析	74
写真3-2 調査資料(鉄滓)の外観写真	54	写真10-7 鉄滓(OS7)のSEM像とEDX分析	75
写真3-3 調査資料(鉄滓)の外観写真	55	写真10-8 鉄滓(OS8)のSEM像とEDX分析	75
写真4 調査資料(鍛造剥片)の外観写真	56	写真10-9 鉄滓(OS9)のSEM像とEDX分析	75
写真5-1 調査資料(鉄器)の顕微鏡観察組織	57	写真10-10 鉄滓(OS10)のSEM像とEDX分析	76
写真5-2 調査資料(鉄器)の顕微鏡観察組織	58	写真10-11 鉄滓(OS11)のSEM像とEDX分析	76
写真5-3 調査資料(鉄器)の顕微鏡観察組織	59	写真10-12 鉄滓(OS12)のSEM像とEDX分析	76
写真5-4 調査資料(鉄器)の顕微鏡観察組織	60	第6節	
写真5-5 調査資料(鉄器)の顕微鏡観察組織	61	第1図 大柿遺跡内での須恵器の胎土分類(K-Ca)	81
写真6-1 調査資料(羽口)の顕微鏡観察組織	62	第2図 大柿遺跡と須恵器生産地の比較(K-Ca)	81
写真6-2 調査資料(羽口)の顕微鏡観察組織	63	第3図 大柿遺跡出土土師器の胎土分類(K-Ca)	82
写真7-1 調査資料(鉄滓)の顕微鏡観察組織	63	第4図 大柿遺跡出土土師器の胎土分類(Ti-Ca)	82
写真7-2 調査資料(鉄滓)の顕微鏡観察組織	64	第5図 大柿遺跡出土土師器と他地域の比較(K-Ca)	83
写真7-3 調査資料(鉄滓)の顕微鏡観察組織	65	第6図 大柿遺跡出土製塩土器の胎土分類(K-Ca)	83
写真7-4 調査資料(鉄滓)の顕微鏡観察組織	66	第7図 大柿遺跡出土製塩土器の胎土分類(Si-Al)	84
写真8-1 調査資料(鍛造剥片)の顕微鏡観察組織	66	第8図 大柿遺跡出土製塩土器と生産地遺跡の比較(K-Ca)	84
写真8-2 調査資料(鍛造剥片)の顕微鏡観察組織	67	第9図 大柿遺跡出土製塩土器と生産地遺跡の比較(Si-Al)	85
写真8-3 調査資料(鍛造剥片)の顕微鏡観察組織	68		
表5 鉄器の化学成分分析値(wt%)	69		
図1 調査鉄器のSi-Alの関係	69		
図2 調査鉄器のSi+Al-Tiの関係	69		
表6 羽口の化学成分分析値(wt%)	69		
表7-1 鉄滓の化学成分分析値(wt%)	70		
表7-2 鉄滓の化学成分分析値(wt%)	70		

偏光顕微鏡(写真1・2)および実体顕微鏡写真(写真3~8)	86	第7節	
第1表 大柿遺跡須恵器分析値一覧表	87	第1図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅰ類「  」類例
第2表 大柿遺跡出土土師器分析値一覧表	88	第2図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅱ類「  」類例
第3表 大柿遺跡出土製塩土器分析値一覧表	89	第3図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅱ類「  」類例
第7節		第4図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅲ類「  」類例
第1図 SB7007出土ガラス玉(資料番号230-5)	93	第5図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅳ類「  」類例
第2図 SB7051出土ガラス玉(資料番号540-41)	94	第6図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅴ類「  」類例
第3図 SB7052出土ガラス玉(資料番号546-7)	95	第7図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅵ類「  」類例
第8節		第8図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅶ類「  」類例
表1 調査結果一覧	100	第9図	須恵器ヘラ記号大柿Ⅷ類「  」類例
赤色物質付着資料(1)	101	第8節	
赤色物質付着資料(2)	102	第1図	大柿Ⅰ類刻目土器
赤色物質付着資料(3)	103	第2図	大柿Ⅱ類刻目土器
赤色物質付着資料(4)	104	第3図	大柿Ⅲ類刻目土器
赤色物質付着資料(5)	105	第9節	
赤色物質付着資料(6)	106	第1図	須恵器内面当て具痕(1)
赤色物質付着資料(7)	107	第2図	須恵器内面当て具痕(2)
第2章		第3図	須恵器内面当て具痕(3)
第2節		第10節	
第1表 各地区の須恵器出土住居のランク	121	第1図	須恵器脚台部接合技法
第1図 大柿様相Ⅱの土器(S=1/4)	122	第12節	
第2図 大柿様相Ⅲの土器(S=1/4)	123	第1図	大柿Ⅰ類製塩土器
第3図 大柿様相Ⅳの土器(S=1/4)	125	第2図	大柿Ⅱ類製塩土器
第4図 大柿様相Ⅴの土器(S=1/4)	126	第3図	大柿Ⅲ類製塩土器
第5図 大柿様相Ⅵの土器(S=1/4)	128	第13節	
第2表 大柿の諸様相の位置付け	130	第1図	出土鎌類(1)
第6図 大柿遺跡出土須恵器変遷図(1)	133	第2図	出土鎌類(2)
第7図 大柿遺跡出土須恵器変遷図(2)	134	第3図	出土鉄鏃類
第3節		第4図	出土刀子類(1)
第1図 土師器の分類図(1)	137	第5図	出土刀子類(2)
第2図 土師器の分類図(2)	139	第6図	出土剣・直刀類
第3図 土師器の編年案(1)	144	第7図	出土ノミ類
第4図 土師器の編年案(2)	145	第8図	出土馬具類
第5図 土師器の編年案(3)	146	第9図	出土棒状鉄器
第6図 土師器の編年案(4)	147	第10図	出土板状鉄器類
第7図 土師器の編年案(5)	148	第15節	
第8図 土師器の編年案(6)	149	第1図	大柿遺跡掘立柱建物規模分布図
第1表 竪穴住居跡出土土器比率表	151	第2図	大柿遺跡掘立柱建物主軸方位図
第2表 竪穴住居跡の年代表	155	第3図	鳥居地区掘立柱建物主軸方位図
第4節		第4図	横田地区掘立柱建物主軸方位図
表1 大柿遺跡古墳時代出土砥石の石材組成	158	第5図	カワラケメン地区掘立柱建物主軸方位図
表2 大柿遺跡弥生時代出土砥石の石材組成	158	第6図	馬のシャクリ地区掘立柱建物主軸方位図
表3 矢野遺跡弥生時代出土砥石の石材組成	158	第7図	松吉地区掘立柱建物主軸方位図
表4 A類砥石の石材組成	158	第8図	新貝地区掘立柱建物主軸方位図
表5 B類砥石の石材組成	158	第9図	大柿遺跡竪穴住居主軸方位図
表7 線状痕を有する礫器の石材組成	158	第10図	鳥居地区竪穴住居主軸方位図
第1図 砥石の形態	159	第11図	横田地区竪穴住居主軸方位図
第2図 線状痕を有する石器	159	第12図	カワラケメン地区竪穴住居主軸方位図
表6 砥石類の形態組成	160	第13図	馬のシャクリ地区竪穴住居主軸方位図
第5節		第14図	松吉地区竪穴住居主軸方位図
第1図 SK8288遺構・遺物図	162	第15図	新貝地区竪穴住居主軸方位図
第6節		第16図	大柿遺跡竪穴住居床面積
第1図 大柿遺跡出土弥生・古墳時代前期初頭出土鉄器図	165	第17図	調査区別竪穴住居床面積

第18図 調査区竪穴住居内区面積……………224
 第19図 大柿遺跡竈主軸方位図……………225
 第20図 鳥居地区竈主軸方位図……………225
 第21図 横田地区竈主軸方位図……………226
 第22図 カワラケメン地区竈主軸方位図……………226

第23図 馬のシャクリ地区竈主軸方位図……………227
 第24図 松吉地区竈主軸方位図……………227
 第25図 新貝地区竈主軸方位図……………228
 第1表 竪穴住居跡の年代表……………230

表目次 (第6分冊)

第1表 掘立柱建物(SA)一覧表 (1)……………1
 第2表 掘立柱建物(SA)一覧表 (2)……………2
 第3表 掘立柱建物(SA)一覧表 (3)……………3
 第4表 掘立柱建物(SA)一覧表 (4)……………4
 第5表 掘立柱建物(SA)一覧表 (5)……………5
 第6表 竪穴住居(SB)一覧表 (1)……………6
 第7表 竪穴住居(SB)一覧表 (2)……………7
 第8表 竪穴住居(SB)一覧表 (3)……………8
 第9表 竪穴住居(SB)一覧表 (4)……………9
 第10表 竪穴住居(SB)一覧表 (5)……………10
 第11表 竪穴住居(SB)一覧表 (6)……………11
 第12表 竪穴住居(SB)一覧表 (7)……………12
 第13表 竈(EH)一覧表 (1)……………13
 第14表 竈(EH)一覧表 (2)……………14
 第15表 竈(EH)一覧表 (3)……………15
 第16表 竈(EH)一覧表 (4)……………16
 第17表 竈(EH)一覧表 (5)……………17
 第18表 土坑(SK)一覧表 (1)……………18
 第19表 土坑(SK)一覧表 (2)……………19
 第20表 土坑(SK)一覧表 (3)……………20
 第21表 土坑(SK)一覧表 (4)……………21
 第22表 土坑(SK)一覧表 (5)……………22
 第23表 土坑(SK)一覧表 (6)……………23
 第24表 土坑(SK)一覧表 (7)……………24
 第25表 土坑(SK)一覧表 (8)……………25
 第26表 土坑(SK)一覧表 (9)……………26
 第27表 土坑(SK)一覧表 (10)……………27
 第28表 土坑(SK)一覧表 (11)……………28
 第29表 土坑(SK)一覧表 (12)……………29
 第30表 土坑(SK)一覧表 (13)……………30
 第31表 土坑(SK)一覧表 (14)……………31
 第32表 土坑(SK)一覧表 (15)……………32
 第33表 土坑(SK)一覧表 (16)……………33
 第34表 土坑(SK)一覧表 (17)……………34
 第35表 土坑(SK)一覧表 (18)……………35
 第36表 土坑(SK)一覧表 (19)……………36
 第37表 土墳墓(ST)一覧表 (1)……………37
 第38表 土墳墓(ST)一覧表 (2)……………37
 第39表 土墳墓(ST)一覧表 (3)……………38
 第40表 土墳墓(ST)一覧表 (4)……………38
 第41表 土墳墓(ST)一覧表 (5)……………39
 第42表 土墳墓(ST)一覧表 (6)……………39
 第43表 土墳墓(ST)一覧表 (7)……………40
 第44表 土墳墓(ST)一覧表 (8)……………40
 第45表 土墳墓(ST)一覧表 (9)……………41
 第46表 須恵器観察表 (1)……………42
 第47表 須恵器観察表 (2)……………43

第48表 須恵器観察表 (3)……………44
 第49表 須恵器観察表 (4)……………45
 第50表 須恵器観察表 (5)……………46
 第51表 須恵器観察表 (6)……………47
 第52表 須恵器観察表 (7)……………48
 第53表 須恵器観察表 (8)……………49
 第54表 須恵器観察表 (9)……………50
 第55表 須恵器観察表 (10)……………51
 第56表 須恵器観察表 (11)……………52
 第57表 須恵器観察表 (12)……………53
 第58表 須恵器観察表 (13)……………54
 第59表 須恵器観察表 (14)……………55
 第60表 須恵器観察表 (15)……………56
 第61表 須恵器観察表 (16)……………57
 第62表 須恵器観察表 (17)……………58
 第63表 須恵器観察表 (18)……………59
 第64表 須恵器観察表 (19)……………60
 第65表 須恵器観察表 (20)……………61
 第66表 須恵器観察表 (21)……………62
 第67表 須恵器観察表 (22)……………63
 第68表 須恵器観察表 (23)……………64
 第69表 須恵器観察表 (24)……………65
 第70表 須恵器観察表 (25)……………66
 第71表 須恵器観察表 (26)……………67
 第72表 須恵器観察表 (27)……………68
 第73表 須恵器観察表 (28)……………69
 第74表 須恵器観察表 (29)……………70
 第75表 須恵器観察表 (30)……………71
 第76表 須恵器観察表 (31)……………72
 第77表 須恵器観察表 (32)……………73
 第78表 須恵器観察表 (33)……………74
 第79表 須恵器観察表 (34)……………75
 第80表 須恵器観察表 (35)……………76
 第81表 須恵器観察表 (36)……………77
 第82表 須恵器観察表 (37)……………78
 第83表 須恵器観察表 (38)……………79
 第84表 須恵器観察表 (39)……………80
 第85表 須恵器観察表 (40)……………81
 第86表 須恵器観察表 (41)……………82
 第87表 須恵器観察表 (42)……………83
 第88表 須恵器観察表 (43)……………84
 第89表 須恵器観察表 (44)……………85
 第90表 須恵器観察表 (45)……………86
 第91表 須恵器観察表 (46)……………87
 第92表 須恵器観察表 (47)……………88
 第93表 須恵器観察表 (48)……………89
 第94表 須恵器観察表 (49)……………90

第95表	須惠器觀察表	(50)	91	第151表	須惠器觀察表	(106)	147
第96表	須惠器觀察表	(51)	92	第152表	須惠器觀察表	(107)	148
第97表	須惠器觀察表	(52)	93	第153表	須惠器觀察表	(108)	149
第98表	須惠器觀察表	(53)	94	第154表	須惠器觀察表	(109)	150
第99表	須惠器觀察表	(54)	95	第155表	須惠器觀察表	(110)	151
第100表	須惠器觀察表	(55)	96	第156表	須惠器觀察表	(111)	152
第101表	須惠器觀察表	(56)	97	第157表	須惠器觀察表	(112)	153
第102表	須惠器觀察表	(57)	98	第158表	須惠器觀察表	(113)	154
第103表	須惠器觀察表	(58)	99	第159表	須惠器觀察表	(114)	155
第104表	須惠器觀察表	(59)	100	第160表	須惠器觀察表	(115)	156
第105表	須惠器觀察表	(60)	101	第161表	須惠器觀察表	(116)	157
第106表	須惠器觀察表	(61)	102	第162表	須惠器觀察表	(117)	158
第107表	須惠器觀察表	(62)	103	第163表	須惠器觀察表	(118)	159
第108表	須惠器觀察表	(63)	104	第164表	須惠器觀察表	(119)	160
第109表	須惠器觀察表	(64)	105	第165表	須惠器觀察表	(120)	161
第110表	須惠器觀察表	(65)	106	第166表	須惠器觀察表	(121)	162
第111表	須惠器觀察表	(66)	107	第167表	須惠器觀察表	(122)	163
第112表	須惠器觀察表	(67)	108	第168表	須惠器觀察表	(123)	164
第113表	須惠器觀察表	(68)	109	第169表	須惠器觀察表	(124)	165
第114表	須惠器觀察表	(69)	110	第170表	須惠器觀察表	(125)	166
第115表	須惠器觀察表	(70)	111	第171表	須惠器觀察表	(126)	167
第116表	須惠器觀察表	(71)	112	第172表	須惠器觀察表	(127)	168
第117表	須惠器觀察表	(72)	113	第173表	須惠器觀察表	(128)	169
第118表	須惠器觀察表	(73)	114	第174表	須惠器觀察表	(129)	170
第119表	須惠器觀察表	(74)	115	第175表	須惠器觀察表	(130)	171
第120表	須惠器觀察表	(75)	116	第176表	須惠器觀察表	(131)	172
第121表	須惠器觀察表	(76)	117	第177表	須惠器觀察表	(132)	173
第122表	須惠器觀察表	(77)	118	第178表	須惠器觀察表	(133)	174
第123表	須惠器觀察表	(78)	119	第179表	須惠器觀察表	(134)	175
第124表	須惠器觀察表	(79)	120	第180表	須惠器觀察表	(135)	176
第125表	須惠器觀察表	(80)	121	第181表	須惠器觀察表	(136)	177
第126表	須惠器觀察表	(81)	122	第182表	須惠器觀察表	(137)	178
第127表	須惠器觀察表	(82)	123	第183表	須惠器觀察表	(138)	179
第128表	須惠器觀察表	(83)	124	第184表	須惠器觀察表	(139)	180
第129表	須惠器觀察表	(84)	125	第185表	須惠器觀察表	(140)	181
第130表	須惠器觀察表	(85)	126	第186表	須惠器觀察表	(141)	182
第131表	須惠器觀察表	(86)	127	第187表	須惠器觀察表	(142)	183
第132表	須惠器觀察表	(87)	128	第188表	須惠器觀察表	(143)	184
第133表	須惠器觀察表	(88)	129	第189表	須惠器觀察表	(144)	185
第134表	須惠器觀察表	(89)	130	第190表	須惠器觀察表	(145)	186
第135表	須惠器觀察表	(90)	131	第191表	須惠器觀察表	(146)	187
第136表	須惠器觀察表	(91)	132	第192表	須惠器觀察表	(147)	188
第137表	須惠器觀察表	(92)	133	第193表	須惠器觀察表	(148)	189
第138表	須惠器觀察表	(93)	134	第194表	須惠器觀察表	(149)	190
第139表	須惠器觀察表	(94)	135	第195表	須惠器觀察表	(150)	191
第140表	須惠器觀察表	(95)	136	第196表	須惠器觀察表	(151)	192
第141表	須惠器觀察表	(96)	137	第197表	須惠器觀察表	(152)	193
第142表	須惠器觀察表	(97)	138	第198表	須惠器觀察表	(153)	194
第143表	須惠器觀察表	(98)	139	第199表	須惠器觀察表	(154)	195
第144表	須惠器觀察表	(99)	140	第200表	須惠器觀察表	(155)	196
第145表	須惠器觀察表	(100)	141	第201表	須惠器觀察表	(156)	197
第146表	須惠器觀察表	(101)	142	第202表	須惠器觀察表	(157)	198
第147表	須惠器觀察表	(102)	143	第203表	須惠器觀察表	(158)	199
第148表	須惠器觀察表	(103)	144	第204表	土師器觀察表	(1)	200
第149表	須惠器觀察表	(104)	145	第205表	土師器觀察表	(2)	201
第150表	須惠器觀察表	(105)	146	第206表	土師器觀察表	(3)	202

第207表	土師器観察表	(4)	203	第249表	土師器観察表	(46)	245
第208表	土師器観察表	(5)	204	第250表	土師器観察表	(47)	246
第209表	土師器観察表	(6)	205	第251表	土師器観察表	(48)	247
第210表	土師器観察表	(7)	206	第252表	土師器観察表	(49)	248
第211表	土師器観察表	(8)	207	第253表	土師器観察表	(50)	249
第212表	土師器観察表	(9)	208	第254表	土師器観察表	(51)	250
第213表	土師器観察表	(10)	209	第255表	土師器観察表	(52)	251
第214表	土師器観察表	(11)	210	第256表	土師器観察表	(53)	252
第215表	土師器観察表	(12)	211	第257表	土師器観察表	(54)	253
第216表	土師器観察表	(13)	212	第258表	土師器観察表	(55)	254
第217表	土師器観察表	(14)	213	第259表	土師器観察表	(56)	255
第218表	土師器観察表	(15)	214	第260表	土師器観察表	(57)	256
第219表	土師器観察表	(16)	215	第261表	土師器観察表	(58)	257
第220表	土師器観察表	(17)	216	第262表	土師器観察表	(59)	258
第221表	土師器観察表	(18)	217	第263表	土師器観察表	(60)	259
第222表	土師器観察表	(19)	218	第264表	土師器観察表	(61)	260
第223表	土師器観察表	(20)	219	第265表	土師器観察表	(62)	261
第224表	土師器観察表	(21)	220	第266表	土師器観察表	(63)	262
第225表	土師器観察表	(22)	221	第267表	土師器観察表	(64)	263
第226表	土師器観察表	(23)	222	第268表	土師器観察表	(65)	264
第227表	土師器観察表	(24)	223	第269表	土師器観察表	(66)	265
第228表	土師器観察表	(25)	224	第270表	土師器観察表	(67)	266
第229表	土師器観察表	(26)	225	第271表	土師器観察表	(68)	267
第230表	土師器観察表	(27)	226	第272表	土師器観察表	(69)	268
第231表	土師器観察表	(28)	227	第273表	土師器観察表	(70)	269
第232表	土師器観察表	(29)	228	第274表	土師器観察表	(71)	270
第233表	土師器観察表	(30)	229	第275表	土師器観察表	(72)	271
第234表	土師器観察表	(31)	230	第276表	土師器観察表	(73)	272
第235表	土師器観察表	(32)	231	第277表	石器・石製品観察表	(1)	273
第236表	土師器観察表	(33)	232	第278表	石器・石製品観察表	(2)	274
第237表	土師器観察表	(34)	233	第279表	石器・石製品観察表	(3)	275
第238表	土師器観察表	(35)	234	第280表	石器・石製品観察表	(4)	276
第239表	土師器観察表	(36)	235	第281表	石器・石製品観察表	(5)	277
第240表	土師器観察表	(37)	236	第282表	石器・石製品観察表	(6)	278
第241表	土師器観察表	(38)	237	第283表	玉類観察表	(1)	279
第242表	土師器観察表	(39)	238	第284表	骨類観察表	(1)	280
第243表	土師器観察表	(40)	239	第285表	鉄滓観察表	(1)	281
第244表	土師器観察表	(41)	240	第286表	鉄滓観察表	(2)	282
第245表	土師器観察表	(42)	241	第287表	鉄滓観察表	(3)	283
第246表	土師器観察表	(43)	242	第288表	鞆羽口観察表	(1)	284
第247表	土師器観察表	(44)	243	第289表	鞆羽口観察表	(2)	285
第248表	土師器観察表	(45)	244				

巻頭図版目次 (第7分冊)

巻頭図版1：大柿遺跡遠景 (西から)	巻頭図版9：カワラケメン地区西側住居跡群完掘状況 (南から)
巻頭図版2：鳥井地区西側住居跡群完掘状況 (南から)	巻頭図版10：カワラケメン地区住居跡群完掘状況 (北から)
巻頭図版3：鳥井地区東側掘立柱建物完掘状況 (東から)	巻頭図版11：馬のシャクリ地区西側住居跡完掘状況 (北から)
巻頭図版4：大坪・横田地区灌漑水路完掘状況 (東から)	巻頭図版12：馬のシャクリ地区西側住居跡群完掘状況 (北から)
巻頭図版5：大坪地区灌漑水路完掘状況 (南から)	巻頭図版13：馬のシャクリ地区東側住居跡群完掘状況 (南から)
巻頭図版6：横田地区住居跡群完掘状況 (南から)	
巻頭図版7：カワラケメン地区西側住居跡群完掘状況 (北から)	
巻頭図版8：カワラケメン地区住居跡群完掘状況 (南から)	

巻頭図版14：馬のシャクリ地区北側住居跡群完掘状況
（南から）
巻頭図版15：松吉地区住居跡群完掘状況（北から）
巻頭図版16：松吉地区北側住居跡群完掘状況（南から）
巻頭図版17：新貝地区西側住居跡完掘状況（北から）
巻頭図版18：新貝地区西側住居跡完掘状況（北から）
巻頭図版19：新貝地区東側土壌墓群完掘状況（北から）

巻頭図版20：鳥井地区東側水田関連遺構完掘状況
（南から）
巻頭図版21：大坪地区西側水田関連遺構完掘状況
（南から）
巻頭図版22：大坪地区西側水田関連遺構完掘状況
（南から）
巻頭図版23：大坪地区噴砂検出状況（南から）
巻頭図版24：大坪地区北側灌漑水路完掘状況（南から）

図版目次（第7分冊）

図版 1

写真 1 池田地区 SR7001完掘状況
写真 2 鳥井地区古墳時代遺構面完掘状況（南から）
写真 3 鳥井地区古墳時代遺構面完掘状況（南から）

図版 2

写真 4 鳥井地区古墳時代遺構面完掘状況（南から）
写真 5 鳥井地区古墳時代遺構面完掘状況（東から）
写真 6 鳥井地区古墳時代遺構面完掘状況（東から）

図版 3

写真 7 大坪地区古墳時代水田遺構完掘状況（東から）
写真 8 大坪地区古墳時代灌漑水路完掘状況（西から）
写真 9 大坪地区古墳時代水田遺構完掘状況（東から）

図版 4

写真10 大坪地区古墳時代灌漑水路完掘状況（南から）
写真11 大坪地区古墳時代灌漑水路完掘状況（南東から）
写真12 大坪地区古墳時代灌漑水路完掘状況（南から）

図版 5

写真13 カワラケメン地区古墳時代遺構面検出状況（東から）
写真14 カワラケメン地区古墳時代遺構面検出状況（北から）
写真15 カワラケメン地区古墳時代遺構面検出状況（北から）

図版 6

写真16 カワラケメン地区古墳時代遺構面検出状況（北から）
写真17 カワラケメン地区古墳時代遺構面検出状況（北から）
写真18 カワラケメン地区古墳時代遺構面検出状況（北から）

図版 7

写真19 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（西から）
写真20 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（北から）
写真21 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（西から）

図版 8

写真22 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（北から）
写真23 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（東から）
写真24 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（南から）

図版 9

写真25 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（南から）
写真26 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（東から）
写真27 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（南から）

図版10

写真28 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（西から）
写真29 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（西から）
写真30 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（北から）

図版11

写真31 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（北から）
写真32 カワラケメン地区古墳時代遺構（SB7061～68）完掘状況（南から）
写真33 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（南西から）

図版12

写真34 カワラケメン地区古墳時代遺構（SB7042, 7045, 7047, 7048）完掘状況（東から）
写真35 カワラケメン地区古墳時代遺構（SB7024）完掘状況
写真36 カワラケメン地区古墳時代遺構（SB7055, 7056）完掘状況（南から）

図版13

写真37 カワラケメン地区古墳時代遺構（SB7042, 7045, 7047, 7048）完掘状況
写真38 カワラケメン地区古墳時代遺構（SB7048）完掘状況
写真39 馬のシャクリ地区古墳時代遺構検出状況（北から）

図版14

写真40 馬のシャクリ地区古墳時代遺構検出状況（南から）
写真41 馬のシャクリ地区古墳時代遺構検出状況（北東から）
写真42 馬のシャクリ地区古墳時代遺構検出状況（北から）

図版15

写真43 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（北から）
写真44 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（北から）
写真45 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（東から）

図版16

写真46 馬のシャクリ地区（SB7091, 7092, 7093）完掘状況（南から）
写真47 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（西から）
写真48 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（西から）

図版17

写真49 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（南から）
写真50 馬のシャクリ地区古墳時代遺構完掘状況（南から）
写真51 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（南から）

図版18

写真52 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（北西から）
写真53 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（北西から）
写真54 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（北西から）

図版19

写真55 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（南西から）
写真56 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（北から）
写真57 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（南から）

図版20

写真58 カワラケメン地区古墳時代遺構完掘状況（南西から）
写真59 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（南から）
写真60 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（南西から）

図版21

写真61 新貝地区古墳時代遺構完掘状況（南から）
写真62 鳥井地区 SA7002完掘状況（南から）
写真63 鳥井地区 SA7004完掘状況（東から）

図版22

写真64 鳥井地区 SA7008完掘状況（東から）
写真65 鳥井地区 SA7006完掘状況（南から）
写真66 横田地区 SA7031完掘状況

図版23

- 写真67 カワラケメン地区 SA7064, 7065完掘状況
写真68 カワラケメン地区 SA7060完掘状況
写真69 馬のシャクリ地区 SA7089完掘状況

図版24

- 写真70 馬のシャクリ地区側 SA7088完掘状況
写真71 馬のシャクリ地区側 SA7091完掘状況
写真72 馬のシャクリ地区側 SA7090完掘状況

図版25

- 写真73 馬のシャクリ地区側 SA7095完掘状況
写真74 馬のシャクリ地区側 SA7096, 7098完掘状況
写真75 鳥井地区 SB7001完掘状況

図版26

- 写真76 鳥井地区 SB7002遺物出土状況
写真77 鳥井地区 SB7002遺物出土状況
写真78 鳥井地区 SB7002竈内土層堆積状況

図版27

- 写真79 鳥井地区 SB7004竈内遺物出土状況
写真80 鳥井地区 SB7004竈完掘状況
写真81 鳥井地区 SB7004竈下部構造土層堆積状況

図版28

- 写真82 鳥井地区 SB7005竈内遺物出土状況
写真83 鳥井地区 SB7005完掘状況
写真84 鳥井地区 SB7006竈内遺物出土状況

図版29

- 写真85 鳥井地区 SB7006竈内土層堆積状況
写真86 鳥井地区 SB7007竈内遺物出土状況
写真87 鳥井地区 SB7008遺物出土状況

図版30

- 写真88 鳥井地区 SB7008小玉出土状況
写真89 鳥井地区 SB7008遺物出土状況
写真90 鳥井地区 SB7008遺物出土状況

図版31

- 写真91 横田地区 SB7016完掘状況
写真92 横田地区 SB7016遺物、炭化材出土状況
写真93 横田地区 SB7016炭化材検出状況

図版32

- 写真94 横田地区 SB7016炭化材検出状況
写真95 横田地区 SB7016遺物出土状況
写真96 横田地区 SB7016竈内遺物出土状況

図版33

- 写真97 横田地区 SB7017完掘状況
写真98 横田地区 SB7017竈完掘状況
写真99 横田地区 SB7017竈遺物出土状況

図版34

- 写真100 横田地区 SB7018竈下部構造土層堆積状況
写真101 横田地区 SB7018竈下部構造土層堆積状況
写真102 横田地区 SB7018刀子出土状況

図版35

- 写真103 横田地区 SB7020完掘状況
写真104 横田地区 SB7020竈完掘状況
写真105 横田地区 SB7021完掘状況

図版36

- 写真106 横田地区 SB7021遺物出土状況
写真107 横田地区 SB7021竈内遺物出土状況
写真108 横田地区 SB7021土坑遺物出土状況

図版37

- 写真109 横田地区 SB7023完掘状況
写真110 横田地区 SB7023竈下部構造土層堆積状況
写真111 横田地区 SB7023竈完掘状況

図版38

- 写真112 横田地区 SB7024完掘状況
写真113 横田地区 SB7024竈作業面
写真114 横田地区 SB7025完掘状況

図版39

- 写真115 横田地区 SB7025竈完掘状況
写真116 横田地区 SB7025遺物出土状況
写真117 横田地区 SB7026完掘状況

図版40

- 写真118 横田地区 SB7026竈内完掘状況
写真119 横田地区 SB7027遺物出土状況
写真120 横田地区 SB7027遺物出土状況

図版41

- 写真121 横田地区 SB7027竈内遺物出土状況
写真122 横田地区 SB7027竈下部構造土層堆積状況
写真123 横田地区 SB7027鉄滓出土状況

図版42

- 写真124 横田地区 SB7029完掘状況
写真125 横田地区 SB7029竈内遺物出土状況
写真126 横田地区 SB7029竈下部構造土層堆積状況

図版43

- 写真127 横田地区 SB7013完掘状況
写真128 横田地区 SB7013竈内遺物出土状況
写真129 横田地区 SB7013竈下部構造土層堆積状況

図版44

- 写真130 横田地区 SB7014完掘状況
写真131 横田地区 SB7014竈完掘状況
写真132 カワラケメン地区 SB7031完掘状況

図版45

- 写真133 カワラケメン地区 SB7031完掘状況
写真134 カワラケメン地区 SB7031竈完掘状況
写真135 カワラケメン地区 SB7031竈内遺物出土状況

図版46

- 写真136 カワラケメン地区 SB7031土坑内遺物出土状況
写真137 カワラケメン地区 SB7031竈2完掘状況
写真138 カワラケメン地区 SB7032竈内遺物出土状況

図版47

- 写真139 カワラケメン地区 SB7032遺物出土状況
写真140 カワラケメン地区 SB7034完掘状況
写真141 カワラケメン地区 SB7034竈完掘状況

図版48

- 写真142 カワラケメン地区 SB7034竈内遺物出土状況
写真143 カワラケメン地区 SB7034土坑遺物出土状況
写真144 カワラケメン地区 SB7037完掘状況

図版49

- 写真145 カワラケメン地区 SB7037竈内遺物出土状況
写真146 カワラケメン地区 SB7037炭化材出土状況
写真147 カワラケメン地区 SB7038, 7039完掘状況

図版50

- 写真148 カワラケメン地区 SB7040完掘状況
写真149 カワラケメン地区 SB7040遺物出土状況
写真150 カワラケメン地区 SB7040炭化材出土状況

図版51

- 写真151 カワラケメン地区 SB7040炭化材出土状況
写真152 カワラケメン地区 SB7040炭化材出土状況
写真153 カワラケメン地区 SB7040竈内遺物出土状況

図版52

- 写真154 カワラケメン地区 SB7040竈完掘状況
写真155 カワラケメン地区 SB7040竈下部構造土層堆積状況
写真156 カワラケメン地区 SB7041完掘状況

図版53

- 写真157 カワラケメン地区 SB7041遺物出土状況
写真158 カワラケメン地区 SB7041竈完掘状況
写真159 カワラケメン地区 SB7042遺物出土状況

図版54

- 写真160 カワラケメン地区 SB7042竈内遺物出土状況
写真161 カワラケメン地区 SB7042竈内遺物出土状況
写真162 カワラケメン地区 SB7042小玉出土状況

図版55

- 写真163 カワラケメン地区 SB7046遺物出土状況
写真164 カワラケメン地区 SB7046竈内遺物出土状況
写真165 カワラケメン地区 SB7050遺物出土状況

図版56

- 写真166 カワラケメン地区 SB7050ガラス小玉出土状況
写真167 カワラケメン地区 SB7051竈内遺物出土状況
写真168 カワラケメン地区 SB7051竈下部構造土層堆積状況

図版57

- 写真169 カワラケメン地区 SB7053完掘状況
写真170 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況
写真171 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況

図版58

- 写真172 カワラケメン地区 SB7053炭化材出土状況
写真173 カワラケメン地区 SB7053炭化材出土状況
写真174 カワラケメン地区 SB7053炭化材出土状況

図版59

- 写真175 カワラケメン地区 SB7053炭化材出土状況
写真176 カワラケメン地区 SB7053炭化材出土状況
写真177 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況

図版60

- 写真178 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況
写真179 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況
写真180 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況

図版61

- 写真181 カワラケメン地区 SB7053竈周辺遺物出土状況
写真182 カワラケメン地区 SB7053竈内遺物出土状況
写真183 カワラケメン地区 SB7053竈内遺物出土状況

図版62

- 写真184 カワラケメン地区 SB7053竈内遺物出土状況
写真185 カワラケメン地区 SB7053竈土層堆積状況
写真186 カワラケメン地区 SB8024遺物出土状況

図版63

- 写真187 カワラケメン地区 SB7054炭化材出土状況
写真188 カワラケメン地区 SB7054土坑内遺物出土状況
写真189 カワラケメン地区 SB7055完掘状況

図版64

- 写真190 カワラケメン地区 SB7055竈内遺物出土状況
写真191 カワラケメン地区 SB7055遺物出土状況
写真192 カワラケメン地区 SB7056竈内遺物出土状況

図版65

- 写真193 カワラケメン地区 SB7056鉄器出土状況
写真194 カワラケメン地区 SB7056竈内遺物出土状況
写真195 カワラケメン地区 SB7056竈内遺物出土状況

図版66

- 写真196 カワラケメン地区 SB7057遺物出土状況
写真197 カワラケメン地区 SB7057竈土層堆積状況
写真198 カワラケメン地区 SB7058完掘状況

図版67

- 写真199 カワラケメン地区 SB7058竈周辺
写真200 カワラケメン地区 SB7058竈内遺物出土状況
写真201 カワラケメン地区 SB7058遺物出土状況

図版68

- 写真202 カワラケメン地区 SB7059完掘状況
写真203 カワラケメン地区 SB7059遺物出土状況
写真204 カワラケメン地区 SB7059遺物出土状況

図版69

- 写真205 カワラケメン地区 SB7059ガラス製丸玉出土状況
写真206 カワラケメン地区 SB7059竈内遺物出土状況
写真207 カワラケメン地区 SB7059竈内遺物出土状況

図版70

- 写真208 カワラケメン地区 SB7059竈内遺物出土状況
写真209 カワラケメン地区 SB7059竈下部構造土層堆積状況
写真210 カワラケメン地区 SB7060完掘状況

図版71

- 写真211 カワラケメン地区 SB7060竈完掘状況
写真212 カワラケメン地区 SB7061完掘状況
写真213 カワラケメン地区 SB7061竈内遺物出土状況

図版72

- 写真214 カワラケメン地区 SB7061完掘状況
写真215 カワラケメン地区 SB7061, 7063完掘状況
写真216 カワラケメン地区 SB7062完掘状況

図版73

- 写真217 カワラケメン地区 SB7062完掘状況
写真218 カワラケメン地区 SB7062遺物出土状況
写真219 カワラケメン地区 SB7062竈周辺遺物出土状況

図版74

- 写真220 カワラケメン地区 SB7064完掘状況
写真221 カワラケメン地区 SB7064竈内遺物出土状況
写真222 カワラケメン地区 SB7064遺物出土状況

図版75

- 写真223 カワラケメン地区 SB7065遺物出土状況
写真224 カワラケメン地区 SB7066完掘状況
写真225 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉

図版76

- 写真226 カワラケメン地区 SB7066遺物出土状況
写真227 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉検出状況
写真228 カワラケメン地区 SB7066鑪口出土状況

図版77

- 写真229 カワラケメン地区 SB7066鉄滓出土状況
写真230 カワラケメン地区 SB7066鉄滓出土状況
写真231 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉近景

図版78

- 写真232 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉及び粒状滓出土状況
写真233 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉及び送風側掘削状況
写真234 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉近景

図版79

- 写真235 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉近景
写真236 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉送風口付近羽口出土状況
写真237 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉送風口付近羽口出土状況

図版80

- 写真238 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉送風口付近羽口出土状況
写真239 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉近景
写真240 カワラケメン地区 SB7066鍛冶炉近景

図版81

- 写真241 カワラケメン地区 SB7067完掘状況
写真242 カワラケメン地区 SB7067遺物出土状況
写真243 カワラケメン地区 SB7067遺物出土状況

図版82

- 写真244 カワラケメン地区 SB7067遺物出土状況
写真245 カワラケメン地区 SB7068完掘状況
写真246 カワラケメン地区 SB7068竈土層堆積状況

図版83

- 写真247 カワラケメン地区 SB7069遺物出土状況
写真248 カワラケメン地区 SB7069竈内遺物出土状況
写真249 カワラケメン地区 SB7070, 7071完掘状況

図版84

- 写真250 カワラケメン地区 SB7070竈完掘状況
写真251 カワラケメン地区 SB7072竈内遺物出土状況
写真252 カワラケメン地区 SB7072竈完掘状況

図版85

- 写真253 カワラケメン地区 SB7075遺物出土状況
写真254 カワラケメン地区 SB7075竈完掘状況
写真255 カワラケメン地区 SB7075竈完掘状況（上から）

図版86

- 写真256 カワラケメン地区 SB7075竈袖部断面
写真257 カワラケメン地区 SB7076遺物出土状況
写真258 カワラケメン地区 SB7076遺物出土状況

図版87

- 写真259 カワラケメン地区 SB7076鉄鎌出土状況
写真260 カワラケメン地区 SB7076竈完掘状況
写真261 カワラケメン地区 SB7076竈内遺物出土状況

図版88

- 写真262 カワラケメン地区 SB7076竈内遺物出土状況
写真263 カワラケメン地区 SB7076竈内遺物出土状況
写真264 カワラケメン地区 SB7080竈内遺物出土状況

図版89

- 写真265 カワラケメン地区 SB7076竈完掘状況
写真266 カワラケメン地区 SB7076炭化材出土状況
写真267 カワラケメン地区 SB7081竈遺物出土状況

図版90

- 写真268 カワラケメン地区 SB7081竈完掘状況
写真269 カワラケメン地区 SB7082完掘状況
写真270 カワラケメン地区 SB7082遺物出土状況

図版91

- 写真271 カワラケメン地区 SB7082竈完掘状況
写真272 カワラケメン地区 SB7082竈内骨片出土状況
写真273 カワラケメン地区 SB7082竈下部構造土層堆積状況

図版92

- 写真274 カワラケメン地区 SB7085完掘状況
写真275 カワラケメン地区 SB7085竈内遺物出土状況
写真276 カワラケメン地区 SB7085遺物出土状況

図版93

- 写真277 カワラケメン地区 SB7085完掘状況
写真278 カワラケメン地区 SB7085遺物出土状況
写真279 カワラケメン地区 SB7085竈下部構造土層堆積状況

図版94

- 写真280 カワラケメン地区 SB7085竈下部構造土層堆積状況
写真281 カワラケメン地区 SB7085遺物出土状況
写真282 カワラケメン地区 SB7085竈内骨片出土状況

図版95

- 写真283 カワラケメン地区 SB7087完掘状況
写真284 カワラケメン地区 SB7087竈完掘状況
写真285 カワラケメン地区 SB7088完掘状況

図版96

- 写真286 カワラケメン地区 SB7088竈完掘状況
写真287 カワラケメン地区 SB7088竈下部構造土層堆積状況
写真288 カワラケメン地区 SB7089完掘状況

図版97

- 写真289 カワラケメン地区 SB7089完掘状況
写真290 カワラケメン地区 SB7089竈周辺完掘状況
写真291 カワラケメン地区 SB7083完掘状況

図版98

- 写真292 カワラケメン地区 SB7083遺物出土状況
写真293 カワラケメン地区 SB7083土層堆積・遺物出土状況
写真294 カワラケメン地区 SB7083炭化材出土状況

図版99

- 写真295 カワラケメン地区 SB7083炭化材出土状況
写真296 カワラケメン地区 SB7083竈内遺物出土状況
写真297 カワラケメン地区 SB7083竈周辺遺物出土状況

図版100

- 写真298 カワラケメン地区 SB7083遺物出土状況
写真299 カワラケメン地区 SB7083紡錘車出土状況
写真300 カワラケメン地区 SB7084遺物出土状況

図版101

- 写真301 カワラケメン地区 SB7084竈完掘状況
写真302 馬のシャクリ地区 SB7091遺物出土状況
写真303 馬のシャクリ地区 SB7091竈内遺物出土状況

図版102

- 写真304 馬のシャクリ地区 SB7091遺物出土状況
写真305 馬のシャクリ地区 SB7091遺物出土状況
写真306 馬のシャクリ地区 SB7091遺物出土状況

図版103

- 写真307 馬のシャクリ地区 SB7091竈下部構造土層堆積状況
写真308 馬のシャクリ地区 SB7092完掘状況
写真309 馬のシャクリ地区 SB7092竈内遺物出土状況

図版104

- 写真310 馬のシャクリ地区 SB7092鉄器出土状況
写真311 馬のシャクリ地区 SB7093完掘状況
写真312 馬のシャクリ地区 SB7093竈完掘状況

図版105

- 写真313 馬のシャクリ地区 SB7095完掘状況
写真314 馬のシャクリ地区 SB7096, 7109完掘状況
写真315 馬のシャクリ地区 SB7096竈完掘状況

図版106

- 写真316 馬のシャクリ地区 SB7096竈下部構造土層堆積状況
写真317 馬のシャクリ地区 SB7096ガラス製丸玉出土状況
写真318 馬のシャクリ地区 SB7097完掘状況

図版107

- 写真319 馬のシャクリ地区 SB7097竈内遺物出土状況
写真320 馬のシャクリ地区 SB7097竈完掘状況
写真321 馬のシャクリ地区 SB7098完掘状況

図版108

- 写真322 馬のシャクリ地区 SB7098竈内遺物出土状況
写真323 馬のシャクリ地区 SB7098竈下部構造土層堆積状況
写真324 馬のシャクリ地区 SB7098竈内骨片出土状況

図版109

- 写真325 馬のシャクリ地区 SB7098砥石出土状況
写真326 馬のシャクリ地区 SB7098, 7099完掘状況
写真327 馬のシャクリ地区 SB7099遺物出土状況

図版110

- 写真328 馬のシャクリ地区 SB7099遺物出土状況
写真329 馬のシャクリ地区 SB7099遺物出土状況
写真330 馬のシャクリ地区 SB7099竈内遺物出土状況

図版111

- 写真331 馬のシャクリ地区 SB7099竈完掘状況
写真332 馬のシャクリ地区 SB7100, 7101完掘状況
写真333 馬のシャクリ地区 SB7100竈内遺物出土状況

図版112

- 写真334 馬のシャクリ地区 SB7100勾玉出土状況
写真335 馬のシャクリ地区 SB7101竈下部構造土層堆積状況
写真336 馬のシャクリ地区 SB7101管玉出土状況

図版113

- 写真337 馬のシャクリ地区 SB7103, 7105完掘状況
写真338 馬のシャクリ地区 SB7104完掘状況
写真339 馬のシャクリ地区 SB7104竈完掘状況

図版114

- 写真340 馬のシャクリ地区 SB7104鉄器出土状況
写真341 馬のシャクリ地区 SB7106竈内遺物出土状況
写真342 馬のシャクリ地区 SB7106竈下部構造土層堆積状況

図版115

- 写真343 馬のシャクリ地区 SB7107完掘状況
写真344 馬のシャクリ地区 SB7107竈完掘状況
写真345 馬のシャクリ地区 SB7107竈下部構造土層堆積状況

図版116

- 写真346 馬のシャクリ地区 SB7108完掘状況
写真347 馬のシャクリ地区 SB7109完掘状況
写真348 馬のシャクリ地区 SB7110完掘状況

図版117

- 写真349 馬のシャクリ地区 SB7110遺物出土状況
写真350 馬のシャクリ地区 SB7111, 7112完掘状況
写真351 馬のシャクリ地区 SB7112竈内遺物出土状況

図版118

- 写真352 馬のシャクリ地区 SB7112竈内遺物出土状況
写真353 馬のシャクリ地区 SB7113完掘状況
写真354 馬のシャクリ地区 SB7114完掘状況

図版119

- 写真355 馬のシャクリ地区 SB7114完掘状況
写真356 馬のシャクリ地区 SB7114竈内骨片出土状況
写真357 馬のシャクリ地区 SB7136炭化材出土状況

図版120

- 写真358 馬のシャクリ地区 SB7136炭化材出土状況
写真359 馬のシャクリ地区 SB7136竈内遺物出土状況
写真360 馬のシャクリ地区 SB7136竈完掘状況

図版121

- 写真361 馬のシャクリ地区 SB7136竈内支脚
写真362 馬のシャクリ地区 SB7136鉄器出土状況
写真363 馬のシャクリ地区 SB7137完掘状況

図版122

- 写真364 馬のシャクリ地区 SB7137遺物出土状況
写真365 馬のシャクリ地区 SB7137竈支脚
写真366 馬のシャクリ地区 SB7137竈内骨片出土状況

図版123

- 写真367 馬のシャクリ地区 SB7137竈内骨片出土状況
写真368 馬のシャクリ地区 SB7135完掘状況
写真369 馬のシャクリ地区 SB7116遺物出土状況

図版124

- 写真370 馬のシャクリ地区 SB7117完掘状況
写真371 馬のシャクリ地区 SB7119完掘状況
写真372 馬のシャクリ地区 SB7123竈内遺物出土状況

図版125

- 写真373 馬のシャクリ地区 SB7123竈内遺物出土状況
写真374 馬のシャクリ地区 SB7126完掘状況
写真375 馬のシャクリ地区 SB7128完掘状況

図版126

- 写真376 松吉地区 SB7141完掘状況
写真377 松吉地区 SB7142完掘状況
写真378 松吉地区 SB7142遺物出土状況

図版127

- 写真379 松吉地区 SB7142鍛冶炉土層堆積状況
写真380 松吉地区 SB7143完掘状況
写真381 松吉地区 SB7143竈下部構造土層堆積状況

図版128

- 写真382 松吉地区 SB7143竈下部構造土層堆積状況
写真383 松吉地区 SB7143竈下部構造土層堆積状況
写真384 松吉地区 SB7143遺物出土状況

図版129

- 写真385 松吉地区 SB7143遺物出土状況
写真386 松吉地区 SB7147完掘状況
写真387 松吉地区 SB7147竈完掘状況

図版130

- 写真388 松吉地区 SB7147竈内土層堆積状況
写真389 松吉地区 SB7148完掘状況
写真390 松吉地区 SB7148竈内遺物出土状況

図版131

- 写真391 松吉地区 SB7148竈内土層堆積状況
写真392 松吉地区 SB7153完掘状況
写真393 松吉地区 SB7155完掘状況

図版132

- 写真394 松吉地区 SB7155竈内遺物出土状況
写真395 新貝地区 SB7167完掘状況
写真396 新貝地区 SB7167遺物出土状況

図版133

- 写真397 新貝地区 SB7167竈内遺物出土状況
写真398 新貝地区 SB7167竈完掘状況
写真399 新貝地区 SB7169完掘状況

図版134

- 写真400 新貝地区 SB7169竈内遺物出土状況
写真401 新貝地区 SB7169竈下部構造土層堆積状況
写真402 新貝地区 SB7170完掘状況

図版135

- 写真403 新貝地区 SB7170竈内遺物出土状況
写真404 新貝地区 SB7171完掘状況
写真405 新貝地区 SB7171竈完掘状況

図版136

- 写真406 新貝地区 SB7171遺物・炭化物出土状況
写真407 新貝地区 SB7171竈内遺物出土状況
写真408 新貝地区 SB7172完掘状況

図版137

- 写真409 新貝地区 SB7172完掘状況
写真410 新貝地区 SB7172竈下部構造土層堆積状況
写真411 新貝地区 SB7172竈下部構造土層堆積状況

図版138

- 写真412 新貝地区 SB7173竈完掘状況
写真413 新貝地区 SB7173竈内遺物出土状況
写真414 新貝地区 SB7174完掘状況

図版139

- 写真415 新貝地区 SB7174竈内遺物出土状況
写真416 新貝地区 SB7174竈下部構造土層堆積状況
写真417 新貝地区 SB7175完掘状況

図版140

- 写真418 新貝地区 SB7175竈完掘状況
写真419 新貝地区 SB7175遺物出土状況
写真420 新貝地区 SB7175竈内遺物出土状況

図版141

- 写真421 新貝地区 SB7176完掘状況
写真422 新貝地区 SB7176竈完掘状況
写真423 新貝地区 SB7176竈内遺物出土状況

図版142

- 写真424 新貝地区 SB7177完掘状況
写真425 新貝地区 SB7178完掘状況
写真426 新貝地区 SB7178竈完掘状況

図版143

- 写真427 新貝地区 SB7178竈下部構造土層堆積状況
写真428 新貝地区 SB7180完掘状況
写真429 新貝地区 SB7180竈内遺物出土状況

図版144

- 写真430 新貝地区 SB7180竈下部構造土層堆積状況
写真431 新貝地区 SB7181完掘状況
写真432 新貝地区 SB7181竈完掘状況

図版145

- 写真433 新貝地区 SB7181遺物出土状況
写真434 新貝地区 SB7181竈内遺物出土状況
写真435 新貝地区 SB7182遺物出土状況

図版146

- 写真436 新貝地区 SB7184完掘状況
写真437 新貝地区 SB7184遺物出土状況
写真438 新貝地区 SB7184遺物出土状況

図版147

- 写真439 新貝地区 SB7184竈下部構造土層堆積状況
写真440 新貝地区 SB7185完掘状況
写真441 新貝地区 SB7185竈内遺物出土状況

図版148

- 写真442 新貝地区 SB7185遺物出土状況
写真443 カワラケメン地区 SB7053竈完掘状況
写真444 カワラケメン地区 SB7053遺物出土状況

図版149

- 写真445 カワラケメン地区 SB7090完掘状況
写真446 大坪地区 SK7064完掘状況
写真447 大坪地区 SK7050完掘状況

図版150

- 写真448 大坪地区 SK7071遺物出土状況
写真449 松吉地区 SK7307遺物出土状況
写真450 松吉地区 SK7353遺物出土状況

図版151

- 写真451 カワラケメン地区 ST7054完掘状況
写真452 鳥井地区 ST7006完掘状況
写真453 鳥井地区 ST7007完掘状況

図版152

- 写真454 鳥井地区 ST7005完掘状況
写真455 鳥井地区 SK7007完掘状況
写真456 鳥井地区 SK7039完掘状況

図版153

- 写真457 大坪地区 ST7011完掘状況
写真458 横田地区 SK7090完掘状況
写真459 横田地区 ST7015完掘状況

図版154

- 写真460 横田地区 ST7016完掘状況
写真461 横田地区 SK7094完掘状況
写真462 横田地区 SK7095完掘状況

図版155

- 写真463 横田地区 ST7021完掘状況
写真464 横田地区 ST7021完掘状況
写真465 カワラケメン地区 ST7045完掘状況

図版156

- 写真466 カワラケメン地区 ST7048完掘状況
写真467 カワラケメン地区 ST7055完掘状況
写真468 カワラケメン地区 ST7056完掘状況

図版157

- 写真469 カワラケメン地区 ST7061完掘状況
写真470 カワラケメン地区 ST7062完掘状況
写真471 カワラケメン地区 ST7063完掘状況

図版158

- 写真472 馬のシャクリ地区 ST7123遺物出土状況
写真473 馬のシャクリ地区 SK7124遺物出土状況
写真474 馬のシャクリ地区 SK7125遺物出土状況

図版159

- 写真475 馬のシャクリ地区 ST7107遺物出土状況
写真476 鳥井地区 SD7004完掘状況
写真477 鳥井地区 SD7004紡錘車出土状況

図版160

- 写真478 大坪地区 SD7007検出状況
写真479 大坪地区 SD7007遺物出土状況
写真480 大坪地区 SD7007遺物出土状況

図版161

- 写真481 大坪地区 SD7007遺物出土状況
写真482 大坪地区 SD7007遺物出土状況
写真483 大坪地区 SD7007遺物出土状況

図版162

- 写真484 大坪地区 SD7014完掘状況
写真485 大坪地区 SD7014完掘状況
写真486 大坪地区 SD7012土層堆積状況

- 図版163
写真487 大坪地区 SD7012土層堆積状況
写真488 大坪地区 SD7015検出状況 3 - 1
写真489 大坪地区 SD7015遺物出土状況
- 図版164
写真490 大坪地区 SD7015遺物出土状況
写真491 大坪地区 SD7015遺物出土状況
写真492 大坪地区 SD7015土層堆積状況
- 図版165
写真493 大坪地区 SD7015土層堆積状況
写真494 大坪地区 SD7010土層堆積状況
写真495 大坪地区 SD7010土層堆積状況
- 図版166
写真496 大坪地区 SD7010遺物出土状況
写真497 松吉地区 SD7023完掘状況
写真498 大船渡地区 SR7001完掘状況
- 図版167
写真499 大船渡地区 SR7001遺物出土状況
写真500 大船渡地区 SR7001遺物出土状況
写真501 カワラケメン地区 SR7005完掘状況
- 図版168
写真502 大船渡地区 SR7001遺物出土状況
- 図版169
写真503 鳥井地区 SB7004出土遺物
- 図版170
写真504 鳥井地区 SB7005出土遺物
- 図版171
写真505 鳥井地区 SB7006出土遺物
- 図版172
写真506 鳥井地区 SB7007出土遺物
- 図版173
写真507 鳥井地区 SB7008出土遺物 (1)
- 図版174
写真508 鳥井地区 SB7008出土遺物 (2)
- 図版175
写真509 鳥井地区 SB7008出土遺物 (3)
- 図版176
写真510 鳥井地区 SB7009出土遺物
写真511 鳥井地区 SB7011出土遺物
写真512 大坪地区 SB7012出土遺物
写真513 横田地区 SB7013出土遺物
写真514 横田地区 SB7014出土遺物
- 図版177
写真515 横田地区 SB7016出土遺物
- 図版178
写真516 横田地区 SB7017出土遺物
写真517 横田地区 SB7019出土遺物
写真518 横田地区 SB7020出土遺物
- 図版179
写真519 横田地区 SB7018出土遺物 (1)
- 図版180
写真520 横田地区 SB7018出土遺物 (2)
- 図版181
写真521 横田地区 SB7021出土遺物
写真522 横田地区 SB7022出土遺物
写真523 横田地区 SB7024出土遺物
- 写真524 横田地区 SB7025出土遺物
- 図版182
写真525 横田地区 SB7026出土遺物
写真526 横田地区 SB7027出土遺物
写真527 横田地区 SB7028出土遺物
写真528 カワラケメン地区 SB7031出土遺物
- 図版183
写真529 横田地区 SB7029出土遺物
- 図版184
写真530 カワラケメン地区 SB7032出土遺物
写真531 カワラケメン地区 SB7033出土遺物
写真532 カワラケメン地区 SB7037出土遺物
写真533 カワラケメン地区 SB7038出土遺物
写真534 カワラケメン地区 SB7039出土遺物
- 図版185
写真535 カワラケメン地区 SB7034出土遺物
- 図版186
写真536 カワラケメン地区 SB7040出土遺物
- 図版187
写真537 カワラケメン地区 SB7041出土遺物
写真538 カワラケメン地区 SB7042出土遺物
- 図版188
写真539 カワラケメン地区 SB7046出土遺物
- 図版189
写真540 カワラケメン地区 SB7050出土遺物
写真541 カワラケメン地区 SB7051出土遺物
写真542 カワラケメン地区 SB7052出土遺物
- 図版190
写真543 カワラケメン地区 SB7053出土遺物 (1)
- 図版191
写真544 カワラケメン地区 SB7053出土遺物 (2)
- 図版192
写真545 カワラケメン地区 SB7053出土遺物 (3)
- 図版193
写真546 カワラケメン地区 SB7053出土遺物 (4)
- 図版194
写真547 カワラケメン地区 SB7054出土遺物
- 図版195
写真548 カワラケメン地区 SB7056出土遺物
- 図版196
写真549 カワラケメン地区 SB7057出土遺物 (1)
- 図版197
写真550 カワラケメン地区 SB7057出土遺物 (2)
- 図版198
写真551 カワラケメン地区 SB7058出土遺物
- 図版199
写真552 カワラケメン地区 SB7059出土遺物 (1)
- 図版200
写真553 カワラケメン地区 SB7059出土遺物 (2)
- 図版201
写真554 カワラケメン地区 SB7059出土遺物 (3)
- 図版202
写真555 カワラケメン地区 SB7059出土遺物 (4)
- 図版203
写真556 カワラケメン地区 SB7059出土遺物 (5)

図版204

写真557 カワラケメン地区 SB7061出土遺物

写真558 カワラケメン地区 SB7062出土遺物

図版205

写真559 カワラケメン地区 SB7063出土遺物

図版206

写真560 カワラケメン地区 SB7064出土遺物

写真561 カワラケメン地区 SB7065出土遺物

図版207

写真562 カワラケメン地区 SB7066出土遺物 (1)

図版208

写真563 カワラケメン地区 SB7066出土遺物 (2)

図版209

写真564 カワラケメン地区 SB7066出土遺物 (3)

図版210

写真565 カワラケメン地区 SB7066出土遺物 (4)

図版211

写真566 カワラケメン地区 SB7067出土遺物 (1)

図版212

写真567 カワラケメン地区 SB7067出土遺物 (2)

図版213

写真568 カワラケメン地区 SB7068出土遺物

写真569 カワラケメン地区 SB7070出土遺物

写真570 カワラケメン地区 SB7069出土遺物

図版214

写真571 カワラケメン地区 SB7071出土遺物

写真572 カワラケメン地区 SB7072出土遺物

写真573 カワラケメン地区 SB7073出土遺物

図版215

写真574 カワラケメン地区 SB7076出土遺物

図版216

写真575 カワラケメン地区 SB7080出土遺物

写真576 カワラケメン地区 SB7084出土遺物

図版217

写真577 カワラケメン地区 SB7081出土遺物

図版218

写真578 カワラケメン地区 SB7085出土遺物

図版219

写真579 カワラケメン地区 SB7086出土遺物

写真580 カワラケメン地区 SB7087出土遺物

写真581 カワラケメン地区 SB7088出土遺物

図版220

写真582 カワラケメン地区 SB7090出土遺物

写真583 カワラケメン地区 SB7089出土遺物

写真584 馬のシャクリ地区 SB7093出土遺物

写真585 馬のシャクリ地区 SB7096出土遺物

図版221

写真586 馬のシャクリ地区 SB7091出土遺物

図版222

写真587 馬のシャクリ地区 SB7097出土遺物

写真588 馬のシャクリ地区 SB7098出土遺物

図版223

写真589 馬のシャクリ地区 SB7099出土遺物

写真590 馬のシャクリ地区 SB7100出土遺物

図版224

写真591 馬のシャクリ地区 SB7101出土遺物

図版225

写真592 馬のシャクリ地区 SB7105出土遺物

写真593 馬のシャクリ地区 SB7104出土遺物

写真594 馬のシャクリ地区 SB7106出土遺物

図版226

写真595 馬のシャクリ地区 SB7107出土遺物

写真596 馬のシャクリ地区 SB7109出土遺物

写真597 馬のシャクリ地区 SB7111出土遺物

写真598 馬のシャクリ地区 SB7112出土遺物

図版227

写真599 馬のシャクリ地区 SB7113出土遺物

写真600 馬のシャクリ地区 SB7114出土遺物

写真601 馬のシャクリ地区 SB7116出土遺物

図版228

写真602 馬のシャクリ地区 SB7119出土遺物

写真603 馬のシャクリ地区 SB7121出土遺物

図版229

写真604 馬のシャクリ地区 SB7123出土遺物

図版230

写真605 馬のシャクリ地区 SB7124出土遺物

写真606 馬のシャクリ地区 SB7126出土遺物

図版231

写真607 馬のシャクリ地区 SB7127出土遺物

写真608 馬のシャクリ地区 SB7130出土遺物

図版232

写真609 馬のシャクリ地区 SB7129出土遺物 (1)

図版233

写真610 馬のシャクリ地区 SB7129出土遺物 (2)

図版234

写真611 馬のシャクリ地区 SB7131出土遺物 (1)

図版235

写真612 馬のシャクリ地区 SB7131出土遺物 (2)

図版236

写真613 馬のシャクリ地区 SB7131出土遺物 (3)

図版237

写真614 馬のシャクリ地区 SB7131出土遺物 (4)

図版238

写真615 馬のシャクリ地区 SB7131出土遺物 (5)

図版239

写真616 馬のシャクリ地区 SB7133出土遺物

写真617 馬のシャクリ地区 SB7135出土遺物

写真618 馬のシャクリ地区 SB7136出土遺物

図版240

写真619 馬のシャクリ地区 SB7134出土遺物

図版241

写真620 馬のシャクリ地区 SB7137出土遺物

写真621 馬のシャクリ地区 SB7139出土遺物

図版242

写真622 馬のシャクリ地区 SB7140出土遺物

写真623 松吉地区 SB7141出土遺物

図版243

写真624 松吉地区 SB7142出土遺物

図版244

写真625 松吉地区 SB7143出土遺物

図版245

写真626 松吉地区 SB7145出土遺物

付図目次

池田地区遺構配置図
大船渡地区遺構配置図
鳥井地区遺構配置図
大坪地区遺構配置図
横田・カワラケメン地区遺構配置図
馬のシャクリ地区遺構配置図
松吉地区遺構配置図
新貝地区遺構配置図

第 I 章 発掘調査及び 報告書作成業務の経緯と経過

大柿遺跡は徳島県西部の三好郡三好町に所在し、昭和50年には吉野川北岸農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査が実施された。その際に弥生時代前期末と後期の集落や、古墳時代後期の集落、中世の集落が確認された。特に、弥生時代前期末の集落からは「阿方式土器」が出土したことから瀬戸内地域との交流を考える上で注目された。大柿遺跡が立地する中洲性微高地は標高約75～80m、東西約2km、南北約800mにわたる。微高地は南に向かって緩やかに傾斜するが、南端では崖を形成して吉野川に接する。北側は喜来谷川の旧流路を挟んで低位段丘下位面に接する。その比高差は約1～2mを測る。東側は喜来谷川や小川谷川を挟んで低位段丘上位面となる。その比高差は約8mを測る。微高地全体は水田もしくは牧草等の畑として利用されている。

第1節 発掘調査に至る経緯と経過

(1) 発掘調査に至る経緯

四国縦貫自動車道第10次区間（脇～美馬）の路線延長は11.7kmで、昭和63年5月18日施工命令が出され、昭和63年6月17日に路線発表された。当該区間については県教育委員会文化課（現文化財課、以下県教育委員会と呼ぶ）が昭和62・63年度に分布調査を実施し、15遺跡106,000m²を調査対象として、平成4年4月23日付で日本道路公団高松建設局（現四国支社、以下JHと呼ぶ）と埋蔵文化財の取り扱いに関する協議（文化庁協議）を終えた。平成4年度は第7次区間（徳島～脇）の調査最終年度と重なったが、用地交渉が開始され、当年度末より一部地点において試掘調査に着手し、6年度より本調査を開始した。

第11次区間（美馬～川之江）の路線延長は42.3kmで平成2年11月19日施工命令が出され、平成3年1月21日に路線発表された。当該区間は県教育委員会が平成4年度に分布調査を実施、39遺跡323,195m²を調査対象として、平成5年9月24日付で文化庁協議を終えた。平成6年度試掘調査に着手し、7年度より本調査を開始した。

この区間は平成9年度の第10次区間、10年度に11次区間のうち美馬～井川池田の供用目標が設定された。県教育委員会は6年度に第7次区間の調査実績（調査半数16.5班、調査対象68遺跡360,000m²に対して実調査面積133,464m²、実掘率37%）を勘案して、当該区間に必要な調査班数を12班（1班構成、調査員2・調査補助員2）と算出した。4・5年度は用地拾得状況にも顕著な進捗はなく、そのため第10次区間の一部において本調査が実施されたに過ぎない。6年度は全区間で用地取得が進み、10次区間の5ヶ所で本調査を実施したのを始め、両区間の21ヶ所で試掘調査を展開した。

県教育委員会はセンターから提出された6年度の試掘調査結果や用地取得状況を基に、7年度を10次区間3班、11次区間6班の計9班体制で調査することを決定した。しかしこれは、10年度中の供用時期を前提とした調査人員配置要望（10次区間必要班数11班・11次区間必要班数16班、7年度要望班数15班）とは大きな懸隔を生じた。

更に人員確定後に試掘調査が行われた美馬町薬師遺跡・坊僧遺跡では調査対象区域外に遺跡が拡がる見込みとなり、約22,000m²の追加調査の必要性が生じた。併せて第11次区間の用地取得が進捗した。そのため10次区間の調査を優先させると、11次区間は試掘調査を実施するにとどまり、本調査に着手できない状況が懸念された。このためJHから県教育委員会に対して度重なる増班要請がなされた。

7年度は県立埋蔵文化財総合センター開設に伴い、調査関係は一課二係体制が二課四係体制に改正され、調査第二課調査第一係がJH事業を担当することになった。県教育委員会は年度早々に必要班数を見直して26.5班と修正し、センターに調査第二課内の事業の調整にとどまらず、第一課事業も割愛し、調査班数の捻出に向けての調整を要請をした。結果、7年度を当面12班で対応することとした。

7年度は第10次区間の調査を概成させ、第11次区間は試掘調査を先行させる方針により、調査班の配置を変更したため、全体の実掘面積は当初計画よりも減少したものの、調査計画が大幅に変動した。また11次区間で本調査を実施した三野町丸山遺跡では約8,500㎡が追加調査が必要となったのを始め、一部の調査において大幅な遅延を生じたため、更に事業調整を行って休日まで調査員を投入する自体となったが、さほどの効果を上げるまでには至らなかった。

加えて試掘調査の結果、美馬町荒川遺跡、吉水遺跡、三好町土井遺跡、大柿遺跡などでは、当初計画を上回る調査面積が確実となったため、県教育委員会は工事工程所、調整可能な調査箇所を平成8年度に先送りすることを決めた。こうしたことから、必然的に平成8年度が事業ピークを迎える見込みとなった。JHと次年度体制について協議を進めていた県教育委員会は、年末までに8年度を35班体制で望むことを決定し、人員不足を若干の専門職員採用と30数名の教員派遣で対応する事を決定した。

この大量の教員派遣計画に対して、平成8年2月10日付文化財保存全国協議会から徳島県知事・徳島県教育長宛「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査及び文化財保護行政の適正化を求める要望書」、同3月6日付考古学研究会から「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査体制に関する質問書」、同年3月28日付日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会から「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財保護行政並びに埋蔵文化財発掘調査に関する要望書」が提出された。

これに対し県教育委員会は県教育長名で考古学研究会に同年3月22日付、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会には同年4月15日付で回答している。

8年度は調査体制が一新された。県教育委員会に埋蔵文化財担当参事(センター常務理事兼事務局長)を設置し、文化財課の埋蔵文化財担当係の強化を図ると共に、前年度に続いてセンターの組織改正が行われた。調査関係では7年度の事務分掌が全面的に改正され、三好町に埋蔵文化財センター西部事務所が設置された。調査第二課調査第一係は西部事務所勤務となり、8年度は新設の所長(センター常務理事検事長)以下134名、9年度は95名体制、8年度最大稼働時35班(通年28.5班)、9年度最大稼働時24班(通年20.5班)、計49班で事業に対応することとなった。

8年度は、第11次区間美馬～井川池田間の調査に目途を立てることを最大の主眼とした。8年度前半に10次区間及び前年度からの継続調査の完了、用地の取得がまとまった11次区間の中規模遺跡の概成、後半での大規模遺跡への効果的稼働を目指したが、土井遺跡や大柿遺跡では工程の変動要素が大きく、最後まで十分な調整が出来なかった。

9年度は円通寺遺跡、土井遺跡、大柿遺跡の進捗が懸案となり、円通寺遺跡、土井遺跡の終了から大柿遺跡への移行が事業終了の可否を左右するような状況にまでなった。大柿遺跡の進捗については『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.8・9』1997・98に触れたので、重複を避けるが、年度後半には土井・円通寺遺跡の調査を終了し、全ての班が大柿遺跡に合流し、10年3月26日に調査を終えた。10年度は2遺跡の残件調査を行い7年間の調査を完了した。調査表面積は321,294㎡、実掘率約75%、大柿遺跡の延べ面積を加算すると実掘率は当初面積を上回る。

(2) 発掘調査の経過

大柿遺跡は当初35,200㎡が調査対象とされ、7年度後半の試掘調査により、全域に遺構がみられ、遺跡の西部では水田と思われる土層堆積の拡がり確認された。調査対象地西端は吉野川橋高架となるため、高架部分を除く高架下8,470㎡については今回の調査から控除された。それでも調査必要面積は当初予定を超える54,900㎡に増え、延べ134,569㎡となることが確認された。この結果に基づき平成8年度に本線部、9年度測道部、9年度上半期までの後期による機械掘削等請負工事の設計・発注がなされたが、8年度当初に再度実施した掘削深度確認調査では精査面数が更に増加し、最終見込み263,300㎡と倍増し、予想を超える累積枚数となった。

JH協工事事務所・池田工事事務所との定期的な調整会議に加え、工事区単位の協議が増加した。大柿遺跡の調査面積、調査期間、施工方法をめぐってもJHと合意を得るには至っていなかったため、8年4月の試掘結果を基に、全区間の調査を視野に入れつつ協議を開始した。また大柿遺跡の調査をめぐってはカルバートボックス部分の先行調査により工事着工を図りたいJH12調査区分割案と、掘削深度が深く、土層・遺構面の整合を維持するための4工区11調査区センター案の調整をはじめとして、掘削土の搬出、仮置き場の確保、矢板施工の是非などの未解決案件もあった。地元への配慮では始業時における通学路上の車両通行規制も浮上した。大柿遺跡に限れば8年度12班/通年、9年度16班通年を要し、調査能力は約9,400㎡/班/年と過酷な歩掛を消化した。

平成10年度は四国縦貫自動車道関連の概成及び第10・11次関連整理業務の受託計画に基づき、再度組織改正が実施され、整理業務については新設された整理普及課が担当している。

(3) 発掘調査の方法

発掘調査にあたって大柿遺跡全体を包括するグリッドを設定した。第IV系国土座標軸を基準とし、 $X=11446.000$ 、 $Y=3040.000$ を東西南北の基点とした。この基点から1辺500mの大グリッドを設定し西から東へLoc.1、2、3と名称を与えた。更にこのグリッドを1辺100m毎に南から北へ α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ 、西から東へI、II、III、IV、Vと区画することにより中グリッドを設定した。この中グリッドを南西隅の基点から1辺5m毎に北へA、B、C、D、E…S、Tとし、東へ1、2、3、4、5…18、19、20と区画することにより小グリッドを設定した。この組み合わせでグリッドの位置を表し、大柿遺跡内における位置を特定することが出来るように設定した。

また便宜上、本体工事設計や調査工程順さらには道路、田地等の境界を利用して調査対象地を1～4区の調査区に分割した。発掘調査段階ではこの調査区とグリッドを併用して、遺物の取上や作図をおこなった。なお、大柿遺跡が中洲性微高地全体に展開し、今後も周辺地域で発掘調査が実施されることが想定されることと、遺跡名称は字名を利用することが望ましいことから、報告書作成段階にこの調査区名称は字名を利用して表記することとした。以下の通りである。

池田地区：1-1区。大船渡地区：1-2区、1-2側区。鳥居地区：2-1区。大坪地区：2-2区、2-2側区、3-1区、3-1側区。横田地区：3-2区。カワラケメン地区：3-3区、3-3側区。馬のシャクリ地区：3-4区、4-1区、4-1側区。松吉地区：4-2区、4-2側区。新貝地区：4-3区、4-3側区。

遺構番号は、発掘調査段階では(財)徳島県埋蔵文化財センターの基準に従い各調査区毎、各遺構面毎に1番から与えた。報告書作成段階に各遺構面毎に通し番号に整理し、西側すなわち池田地区より東側すなわち新貝地区に向かって、1番から順に与えた。

第2節 報告書作成業務に至る経緯

1998年3月末日をもって大柿遺跡の発掘調査作業が終了した。同時に四国縦貫自動車道第11次区間(美馬～川之江)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の大部分が完了したこととなった。四国縦貫自動車道第10次区間(脇～美馬)に係わる出土遺物はコンテナ493箱(78,830点)、第11区間に係わる出土遺物はコンテナ8,207箱(1,491,158点)で、総計8,700箱(1,569,988点)を数える。第7次区間(徳島～脇)の4倍を越えることが確認された。そこで、1997年度後半に概略の事業計画を立て、日本道路公団四国支社(以下JH)、徳島県教育委員会文化財課(以下、文化財課)、(財)徳島県埋蔵文化財センター(以下、センター)の三者間で協議を持ち、1998年度当初余に2006年までの年次別整理実施計画案を作成し、1998年度より8班/年体制で整理業務を開始し、実施することを確認した。

大柿遺跡からはコンテナ2,818箱(228,629点)の遺物が出土した。センター整理作業歩掛に照らし合わせると20.128年の整理期間が必要であることが判明した。遺跡の性格や重要性を鑑みて報告書刊行が著しく遅れることは避けるべきとの判断から、1998年度は3班体制で、1999年度以降は4班体制で整理作業を実施し、平成19年度に完了することとなった。報告にあたっては縄文時代、弥生時代、古墳時代前期初頭を第1分冊『大柿遺跡Ⅰ』とし、古墳時代中期、後期を第2分冊『大柿遺跡Ⅱ』、古代、中世を第3分冊『大柿遺跡Ⅲ』とすることも決定した。

当初計画に基づいて報告書作成業務が行われていたが、2001年度後半に状況が変化した。日本道路公団民営化の方針が決定されたことにより、当初の報告書作成業務計画に大幅な圧縮が求められた。平成13年8月22日付でJH用地部長より「埋蔵文化財発掘調査に関わる整理業務の早期実施について」で文化財課に四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告作成業務計画圧縮の調整が依頼された。これを受けて文化財課はセンターへ同計画圧縮の調整を依頼した。センターでは改めて整理計画を見直し、平成13年9月21日付で「平成13年度以降埋文センター道路公団関連(縦貫道・横断道)整理事業計画案」を文化財課に提出した。文化財課ではこの計画案に基づき、県関連事業及び国土交通省関連事業を調整し、文化財課案「平成14年度以降整理計画」を作成した。更に文化財課とセンターとの協議を経て「四国縦貫自動車道年次別整理計画」最終案が作成された。この計画案は平成14年3月13日付でJH用地部長宛、「埋蔵文化財発掘調査に関わる整理作業の早期実施について(送付)」(教文第638)で送付、同計画の通り了承されることとなった。JHの了承を受けて文化財課は、平成14年4月4日付で、センター所長宛、「平成14年度以降の日本道路公団受託事業(整理業務)の実施について(通知)」(教文第2号)で、通知した。この結果、四国縦貫自動車道及び四国横断自動車道関連の整理業務(実作業)は平成16年度末までに完了、平成17年度については報告書印刷業務のみ実施することとなった。

これによって、平成14年度は7班体制で古墳時代中・後期に属する遺構・遺物に関する本格整理を実施して『大柿遺跡Ⅱ』を編集することと、古代・中世に属する遺構・遺物の基礎整理を実施することとなった。更に平成15,16年度には、古代・中世に属する遺構・遺物の本格整理を実施し、平成17年度に『大柿遺跡Ⅲ』を刊行することとなった。

第3節 報告書作成業務の経過

大柿遺跡の報告書編集にあたっては時代別に集落と水田を同時に掲載することを方針とした。これは遺構別、すなわち集落と水田を別冊にすると水田形態の変遷を追いやすく、時期が重なる水田の扱いが楽という利点はある。しかし、集落構造と水田立地との関係を掴みにくくなり、各時代の遺跡全体像を捉えることが困難になることが予測された。この規模で、同一微高地内・同時期の集落と水田が検出されたのは徳島県内でも大柿遺跡が初めてでもあった。今後、地域史を語る上で要となる遺跡であることから、各時代毎における遺跡動態の把握は報告書作成の上で重要な課題となる。そこで、集落構造と水田立地の状況を把握しやすい時代別に報告することとした。

平成10年度は3班体制で全遺物の洗浄と並行して、縄文時代、弥生時代、古墳時代前期初頭に属する遺構・遺物の内、縄文時代の石器を中心に本格整理を開始した。平成11、12年度は4班体制で、縄文時代、弥生時代、古墳時代前期初頭に属する抽出遺物の実測、トレースと並行して各遺構の時期決定を行い、報告書図版を作成した。平成13年度には4班体制で、『大柿遺跡Ⅰ』の編集作業を行うと同時に、第2分冊『大柿遺跡Ⅱ』に掲載する古墳時代中期、後期に属する遺構・遺物の本格整理を実施した。平成13年度末には『大柿遺跡Ⅰ』が刊行された。平成14年度は7班体制で、古墳時代中・後期に属する本格整理を実施した。年度前半に遺物実測とトレースを行い、中盤に遺構トレースと図版張り込み作業を行った。年度後半には古代・中世に属する遺構・遺物の基礎整理を実施した。平成15年度は7班体制で、『大柿遺跡Ⅱ』の編集作業と古代・中世に属する遺構・遺物の本格整理作業を実施した。

第4節 報告書作成業務態勢

報告書作成業務の体制は下記の通りである。なお、発掘調査業務の体制と平成13年度以前の報告書作成業務態勢は『大柿遺跡Ⅰ』に記載している。

平成13年度

事務局

所 長 本浄敏之

事務局 長 伊丹康裕

総務課課長 高野 明

整理普及課課長 島巡賢二

総務課主査兼係長 福本紀美子

整理係係長 貞野保仁

総務課主事 田所正儀

報告書作成担当

研 究 員 横田温生、新居和代、小泉信司、栗林誠治

整理作業員 井出まゆみ、尾田光代、笠井文代、金田佐和子、川原香織、北浦佳子、近藤信美、新居恵、多田弘美、栃谷笑子、中村敬子、長谷川千恵美、藤崎まゆみ、宝窪美智子、宮崎享子、溝渕和代、吉本文恵、松下由美子、大西さとみ、溝杭智子

平成14年度

事務局

所 長 本浄敏之

事務局 長 西村和博

総務課課長 山本高史

整理普及課課長 島巡賢二

総務課主査兼係長 福本紀美子

整理係係長 貞野保仁

総務課主事 布川純子

報告書作成担当

整理係係長 貞野保仁

主任研究員 氏家敏之

研 究 員 折野佳子、新居和代、四宮玲子、栗林誠治、植地岳彦

整理作業員 井出まゆみ、尾田光代、笠井文代、金田佐和子、川原香織、北浦佳子、近藤信美、新居恵、多田弘美、枋谷笑子、中村敬子、長谷川千恵美、藤崎まゆみ、宝窪美智子、宮崎享子、溝渕和代、松下由美子、大西さとみ、溝杭智子、浅井奈穂美、池田君恵、上田弥生、榎本直美、内田智奈美、宝田法子、武田京子、富永百合香、名倉美幸、原 美代子、扶川道代、増原美恵子、矢野康子、毛登山登美子、串 容子、杉平 寛、石井真弥、山本由美、井上美穂、新宮政江、大久保栄子、松尾佳子、平岡美智子、中原美津子、日下裕美

平成15年度

事務局

所 長 本浄敏之

事務局 長 西村和博

総務課課長 山本高史

整理普及課課長 島巡賢二

総務課主査兼係長 坂尾俊一

整理係係長 貞野雅巳

総務課主事 布川純子

報告書担当

主任研究員 藤川智之(調査課第1係)、氏家敏之(整理普及課整理係)、栗林誠治(調査課調査第1係)

研 究 員 植地岳彦(整理普及課整理係)、田川 憲(整理普及課整理係)

第Ⅱ章 大柿遺跡の立地と環境

大柿遺跡が所在する三好郡三好町は、昭和30年（1955）に昼間町と足代村の1町1村が合併して成立した。三好町は徳島県北西部、吉野川の中流、北岸に位置している。東側は切谷を境に三野町、西側は西谷川を境に池田町、南側は吉野川を隔てて井川町・三加茂町、北側は讃岐山脈の尾根を境に香川県仲南町・財田町と接している。地図上の計測では、町面積54,840,000m²のうち、山地が約49,700,000m²（90.6%）、台地と低地が約4,600,000m²（8.3%）、吉野川水域が約600,000m²（1.1%）を占める。

第1節 地理的環境

(1) 概況

徳島県は四国東部に位置し、面積は4,144.23km²であるが、全面積の約8割は山地である。約2割の平野部は吉野川流域、勝浦川流域、那賀川流域、海部川流域に存在し、全て東方向に開けている。こうした徳島県の地形を決定づけるものに構造線が挙げられる。鳴門市里浦から讃岐山脈の南麓を通り、脇町―池田町―川之江市に連なる低地帯には中央構造線が東西方向に走る。この中央構造線沿いに吉野川が東流する。小松島港―徳島市八多町―佐那河内村―神山村―木屋平村―東祖谷山村―京柱峠沿いには御荷銚構造線が走り、鮎喰川上流域や勝浦川水系が東流する。阿南市中林―上那賀町小浜―四ツ足峠沿いには仏像構造線が東西に走り、那賀川水系となる。金泉寺遺跡・川端遺跡が所在する板野町は県北部の吉野川下流域北岸にあたる。中央構造線北側の内帯は領家帯である和泉層群にあたり、主に砂岩層と泥岩層の互層からなり、讃岐山脈を形成している。構造線断層系の活動により北側が隆起する事により断層崖を形成したり、構造線断層系直下は破碎帯となり軟弱地盤であることから讃岐山脈からの押し出しが盛んになり扇状地が形成されている。これら吉野川北岸の扇状地は、地殻変動の影響で西側が隆起しているために、西に向かうにつれて段丘化している。一方、中央構造線南側の外帯は三波川帯にあたり主に結晶片岩から成る。吉野川は中央構造線によって形成された構造谷に沿って流れるが、北側の讃岐山脈側からの堆積が大きいため南側によっている。山川町船戸と阿波町岩津以東の下流域は、吉野川が大きく蛇行・曲流するために、徳島平野を網状河川として流下する。南岸の名西郡内を東流する神宮入江川や飯尾川、渡内川も吉野川の旧河道と考えられる。

山川町船戸と阿波町岩津以西から池田町にかけての約38kmが中流域となる。中流域平野部の特徴は、吉野川左岸に合流する馬木谷川、黒河原谷川、河内谷川、中鳥川、中野谷川、鍋倉谷川、野村谷川、井口谷川、大谷川、曾江谷川等に代表される内帯の讃岐山脈からの支流による扇状地や開析扇状地が発達していることである。これらの扇状地や開析扇状地は中央構造線によって至る所で切断され変位している。吉野川北岸に合流する支流は、いずれも河床勾配が急で、和泉層群が分布することにより崩壊地が多い。また、年間降雨量が1,500mmを超え、多量の砂礫が下流へと供給される。このため扇状地のほか、開析扇状地が発達する。低位段丘（Ⅰ）は、砂岩に合流する支流の出口に最も一般的に分布する開析扇状地面で、これを構成する段丘礫層は市場礫層と呼ばれる。礫層堆積物中には始良 Tn 火山灰が挟在しており、この礫層の形成時期は最終氷期最盛期頃と推定される。低位段丘（Ⅱ）は低位段丘（Ⅰ）より吉野川本流川に部分的に、または低位段丘（Ⅰ）を開析した支流の谷底に細長く分布する。典型的な現成扇状地は中鳥川、中野谷川、鍋倉谷川などに認められる。平均勾配は35～90/1,000とかなり急である。吉野川はこれら北岸からの扇状地によって、南に押しやられて外帯山地の山裾を東流する。北岸か

らの扇状地による押し出しがない区間には、吉野川が幅1～2 kmの氾濫源を形成しており、旧河道や中洲状の微高地が認められるが、自然堤防は下流域に比べて発達しない。一方、南岸に合流する井内谷川、加茂谷川、山口谷川、半田川、貞光川、穴吹川等に代表される外帯からの支流は、目立った扇状地を形成していない。これは、支流が結晶片岩類に基盤を穿入蛇行するために、堆積物の供給が少ないためである。しかし、加茂谷川や貞光川、穴吹川等の吉野川合流地点では、ラッパ状に開き氾濫源状を呈したり、山口谷川、半田川、穴吹川には、支流による河岸段丘が形成されている。また、南岸山麓には吉野川本流による低位段丘（Ⅰ）～中位段丘が細切れながらも形成されている。中流域における氾濫源は、北側からの扇状地や開析扇状地に分断されるかのように幅1,000～2,000mの狭いものが約5～6 km毎に分布する。主な氾濫源としては三好町昼間、三加茂町加茂、三野町加茂野宮・川中島・中島、美馬町坊僧、穴吹町舞中島等である。中流域に見られる中央構造線断層系は、西側より IKEDA FAULT、HASIKURA FAULT、MINO FAULT、ARAKAWA FAULT、TANEE FAULT、IGUTI FAULT、TITIO FAULT である。活断層系はいずれも吉野川北岸の扇状地、開析扇状地、讃岐山脈山麓部を東西ないし東北東～西南西方向に走り、段丘面や河川を大きく変位させている。段丘面の垂直変位は、段丘面が古いほど大きく、新しいものは少ない。

(2) 地質

大柿遺跡の対岸となる井川町は、吉野川水系のもたらした第4紀の堆積物と、その基盤岩である三波川変成岩で構成されている。井川町域における三波川帯の構成岩石は、泥質片岩、砂質片岩、珪質片岩、塩基性片岩、塩基性岩、蛇紋岩に区分され、結晶片岩は曹長石の斑状変晶の見られる点紋片岩と無点紋片岩に大別される。

一方、三好町では町域の9割を占める山地の地層は和泉層群で、砂岩・泥岩の互層で構成されている。三好町域の和泉層群は砂岩相が卓越した滝久保層と泥岩相が卓越する足代層がある。滝久保層は滝久保谷上流の滝久保、増川谷川流域の中野・内野に分布する。砂岩勝ち互層を主として泥岩層や凝灰岩層を挟む。砂岩勝ち互層の砂岩は中～粗粒である。内野付近では砂岩泥岩等量互層が優勢となり足代層へと連続する。足代層は黒川原谷川流域の足代～百々路、葛籠谷川流域の葛籠～貞安に分布する。泥岩及び泥岩勝ち互層を主として凝灰岩を含む。滝久保層、足代層には淡緑～緑灰色の凝灰岩層が数枚挟まれている。単層の厚さは数10cmで、数10mの部層を構成する。単層内には平行葉理やコンボリュート葉理などが認められる。緑色火山碎屑岩片や結晶破片としての石英や長石が含まれるが、碎屑性石英粒子はほとんど含まれない。

(3) 地形

和泉層群の地質構造により各河川の浸食が進み急峻な谷地形を作る一方、山頂付近や尾根は比較的なだらかな地形となる。和泉層群と中央構造線による軟弱地盤の浸食作用は、断層崖から吉野川にかけての区間において堆積作用となり平野部を形成する。小規模ながらも吉野川南岸に比べ平野が発達している。平野部は河岸段丘・扇状地と沖積平野から構成されている。これらの区分は必ずしも明確でなく、段丘や氾濫源の表層には支流の堆積物が覆い、形態的には扇状地となっている。こうした扇状地の形成要因には地質時代に讃岐山脈が盛んに隆起した結果と考えられている。北側からの土砂は、当初、行常と土井の間を流れていた吉野川を南に押しやったと考えられている。HASIKURA FAULT と IKEDA

FAULT に挟まれた大字足代字東寺尾・上中屋・台シロ地域は中位段丘が形成されている。この段丘の北側崖は HASIKURA FAULT による断層崖であり、南側崖は IKEDA FAULT による断層崖である。一方、黒川原谷川流域の大字足代字新町谷岡・長手・山口・中の段と馬木谷川と金江谷川に挟まれた大字昼間字行常・菖蒲・土井の地域には低位段丘上位面が形成されている。更に、大字足代字東原・西原・下の段・末広・美濃田・小山・大字昼間字下中屋・中屋・荒・天神・天神中・宮内・中の番・重田には低位段丘下位面が形成されている。低位段丘に見られる崖は破碎帯が検出されないことや平面形態から、吉野川の側方浸食作用により形成された崖である。吉野川と支流沿いには谷底平野が形成されており、最大の谷底平野は低位段丘下位面以南の大柿遺跡が立地する通称「シマ」と呼ばれる地域である。その範囲は東西1.7km、南北500mに渡る。吉野川と松岡谷川、喜来谷川の旧河道、自然堤防、後背湿地等が吉野川の堆積により一つの中洲性微高地を形成したと推定される。北側の讃岐山脈と麓の段丘が隆起したことにより吉野川河道が現在の位置にまで移動し、土井ウマンブチから足代西原にかけては三波川帯の中を東流している。特に、ウマンブチから美濃田にかけての川幅は約100mと非常に狭くなっている。この為、この地点が上流からの堆積物をせき止め「シマ」を形成したと推定される。大柿遺跡はこの微高地上全体に広がる遺跡である。

大柿遺跡が展開する谷底平野は、標高約80m前後、最高地点は82.4mを測る。北側の段丘との境は約1m程度落ち込んでおり、そこから微高地中央部付近に向かって緩く盛りかがっている。この落ち込んだ箇所は松岡谷川や金江谷川の旧河道と考えられる。また、微高地内には東西方向に流れる用水路や地籍の乱れが存在する事から旧河道もしくは後背湿地等の谷状地形が存在したと推定される。特に微高地南側半分には現在でも東西方向の谷状地形が認められることから、吉野川の旧河道及び自然堤防、後背湿地が東西方向に延びていたと考えられる。

第2節 歴史的環境（古墳時代）

古墳時代初頭から前期には弥生時代に続いて吉野川沿いの沖積地に遺跡が展開し、殆どの遺跡が古墳時代初頭まで存続する。稲持遺跡遺跡の対岸に位置する足代東原遺跡からは弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての積石墓群が検出された。前方後円形積石墓1基と小型円形積石墓から構成されている。足代東原遺跡の西約500mには、これら積石墓群の造墓集団の集落と考えられる西原遺跡が確認されている。足代東原遺跡と東州津遺跡における墓制の相違は、生産基盤等が反映された結果とする考えが提示されている。前期古墳としては三加茂町丹田古墳が造営される。三加茂町加茂山の支脈標高約320m付近に立地する県西部唯一の前方後円墳である。全長約35m、合掌形竪穴式石室からは獣形鏡1面、鉄剣2振、袋状鉄斧1点、刀子1点などが出土している。前期末の美馬町七人塚古墳からは板状鉄斧が出土している。中期に関しては箱形石棺を主体部とする美馬町井川塚古墳などを除いて確認された古墳が少なく、実態は不明である。中期の集落遺跡も充分把握されていない。当該地において、本格的に古墳が造営されるのは後期以降のことである。美馬郡・三好郡内では段ノ塚穴型石室と呼ばれる地域色の強い横穴式石室が集中的に築造される。この段ノ塚穴型石室の最大の分布域は美馬町から脇町にかけての吉野川北岸地域である。美馬町大国魂古墳を初現とし、太鼓塚古墳、棚塚古墳、江の脇古墳等が7世紀前半まで連綿と築造される。吉野川南岸では穴吹町三島2号墳、三加茂町天神塚古墳、井川町須賀古墳等が築造されるが、その分布はやや散在する。ただし、三加茂町内においては、中庄八幡神社古墳群

(中庄)・極楽寺古墳群(西庄)・鴨神社古墳群(加茂)・貞広古墳群(加茂)の4群45基が築造される、南岸域では高密度の分布となる。三加茂町内には後期の集落遺跡である稲持遺跡、天神前遺跡、末石遺跡、中庄東遺跡が確認されており、当該地域が三好郡域の中心地の一つであった事は伺える。後期の集落は大柿遺跡や土井遺跡においても確認されている。

第Ⅲ章 基本層序と微地形

第1節 微地形

(1) 微地形

大柿遺跡が立地する通称「シマ」は現在は緩やかな傾斜を保つ中洲性微高地ではあるが、詳細に微地形を観察すると数条の用水路や谷地が存在することが解る。微高地南側には吉野川本川が東流する。吉野川沿いの砂州は標高約69.7m前後、微高地縁辺は標高77mを測る。微高地縁辺と吉野川水面との比高差は約10mを測り、傾斜率は2/5と急峻な崖が形成されている。微高地の最高地点は標高82.4mを測り、縁辺部との比高差は約4.6mである。特に標高78m以上は緩やかな傾斜地となっている。現在では一つの中洲性微高地として形成されているが、等高線や端点標高を詳細に観察すると、微高地内には3箇所のピークが存在する。3箇所のピークの間は100~50cm程度低くなっており、旧地形においては浅い谷もしくは河川等が存在したと推定され、現在の微高地形成に当たっては数ヶ所の中洲性微高地や自然堤防が基盤になったことが伺える。第1のピークはJR土讃線東側、地籍では石橋、堂の本を中心とする地点である。すなわち1968年に徳島県教育委員会によって吉野川北岸用水整備事業に伴い「大柿遺跡」として発掘調査が実施された地点である。第2のピークは今回の発掘調査が実施された松吉地区・馬のシャクリ地区を中心とする地点である。第1のピークから東南東約700m付近である。第3のピークは地籍では角田に相当する。吉野川に面した微高地南側斜面において70~79mの等高線は東西方向に直線状に延びる。さらに吉野川に平行する谷地形が存在していることから、本来は吉野川本川が形成した自然堤防の南斜面であったことが伺える。この北側には後背湿地が存在したと推定され、現在でも標高79.5m以北には周囲より約20~30cm程度低い水田が南北幅10mに渡って存在しており、旧地形の影響が読みとれる。さらに、79.5mの等高線が大坪地区東側でほぼ直角に北に向かって曲がっていることから、ここに南北方向の谷状地形もしくは河川が存在し、吉野川本川の後背湿地に合流したと推定される。先述の第1のピークと第3のピークの間には、現在、松尾谷川が存在する。北側低位段丘に水源を持つ松岡谷川は、第1のピークを中心とした微高地の北側縁辺に沿って南東方向に向かって流れ、大坪、横田、カワラケメン地区の交点付近で南に向きを変えて、吉野川本川の後背湿地に合流していたと推定される。この旧松尾谷川復元河道より西側を「西側微高地」、東側を「東側微高地」として呼称し、それぞれ第1、2のピークが最高所となる。西側微高地と東側微高地の先後関係においては西側微高地が先行もしくは拡大化が著しかったと推定される。さらに東側微高地の拡大化と、松尾谷川の堆積作用により東側と西側の微高地の間に細長い自然堤防が徐々に形成されたことがわかる。この自然堤防の形成時期は縄文時代晩期と推定される。自然堤防形成後、松尾谷川は中洲性微高地と低位段丘の間を東流し、喜来谷川さらには金江谷川と合流して吉野川本川に合流するようになった。この過程において、第3のピークを中心とした中洲状の小型の微高地が形成されたと推定される。東側微高地北側斜面部には、北に向かって切れ込む小谷地が検出されており、土層観察により水が流れた痕跡が確認されている。弥生時代後期には東側微高地と第3のピークの間には河道が存在していたことが確認された。現在の地形にはほぼ安定したのは古墳時代後期以降と推定される。但し、東側微高地における古墳時代後期の遺構面には、谷状の地形や、調査区南端で急激に落ち込む地形が確認されることから、その後も洪水等による地形形成が進んだと推定される。

今回の発掘調査では「シマ」と呼ばれる中洲性微高地の形成過程に伴い、遺跡景観も当然変化してお

り、微地形と集落（生産を含む）構造との関係を考える上で数多くの知見を得ることとなった。

第2節 基本層序

(1) 基本層序概略

大柿遺跡発掘調査仮設土留め工の施工に伴う地質調査が鳥居地区、大坪地区を中心に平成8年3月に実施された。その結果を参考に中洲性微高地の基本層序概略を述べる。調査対象地に分布する地層は沖積世の粘性土（Ac1、Ac2）層、砂質土（As）、礫質土（Ag）層および洪積世の礫質土（Dg）層である。各地層は一部を除いてほぼ連続して分布している。沖積層と洪積層の境界である不整合面は標高TP±69m前後である。沖積世第1粘性土（Ac1）層は地表面から4～6.6mの層厚で分布し、砂混じりシルトを主体とする。深度地表下0.3mまでは植物根を多く混入する耕作土である。細砂は不規則に混入し、場所によっては薄膜状に混入する。粘性があり、軟質である。N値は2～4で、色調は灰褐色を呈する。沖積世砂質土（As）層は第1粘性土の下位に0.3～4.3mの層厚で分布し、シルト質細砂を主体とする。シルトが不規則に混入し、地点によっては薄膜状に混入する。また、シルトの混入が少なく、中砂を多く混入する箇所がある。N値は5～15で、色調は灰褐色を呈する。沖積世第2粘性土（Ac2）層は鳥居地区南側付近の砂質土（As）層の中に最大1.5mの層厚で分布し、砂質シルトを主体とする。細砂を不規則に混入し、粘性がある。N値は5～8で、色調は淡褐色を呈する。沖積世礫質土（Ag）層は、砂質土（As）層の下位に1.1～3.7mの層厚で分布し、玉石混じりシルト質砂礫を主体とする。玉石は最大200mm程度の硬質岩である。礫は直径50mm以下の円礫を主体とする。シルトを多く混入する箇所がある。N値は50以上で、色調は灰褐色を呈する。洪積世礫質土（Dg）層は、沖積層の下位にシルト質砂礫を主体に分布する。砂岩の風化礫と硬質な礫を混入するシルトおよび砂である。礫は直径30mm以下の亜円礫を主体とする。N値は50以上で、色調は褐色を呈する。なお、ボーリング調査時（1996年3月）に確認した地下水位は標高TP+77m前後であり、沖積世第1粘性土層の中間付近に存在すると想定されている。遺構が検出されたのは沖積世第1粘土層中に相当する。

第Ⅳ章 調査成果

第1節 調査成果概要

(1) 遺構配置 (第19～26図)

大柿遺跡は主に二つの微高地から形成されており、集落関連遺構もそれぞれの微高地を中心に検出された。それぞれを西側微高地、東側微高地と呼称する。また両微高地間をつなぐ高まりを馬の背状自然堤防（または微高地）と呼称する。西側微高地は大船渡地区、鳥井地区、大坪地区が属する。東側微高地には馬のシャクリ地区、松吉地区、新貝地区が属する。馬の背状自然堤防には大坪地区の東端部分、横田地区、カワラケメン地区が属する。なお、池田地区は西側微高地の南側に展開する吉野川後背湿地もしくは自然堤防北側斜面に属する。

吉野川後背湿地に該当する池田地区においては、古墳時代前期に属する自然流路が検出された。古墳時代中・後期においても自然流路であった。集落等に関する遺構は構築されていないことが確認された。

西側微高地に該当する大船渡地区、鳥井地区、大坪地区においては、集落遺構と生産遺構が検出された。集落遺構は微高地高所を占める鳥井地区北側約1/3の範囲を中心に検出された。大船渡地区北側も集落遺構が展開しているが、竪穴住居や掘立柱建物は確認されなかった。鳥井地区で検出された集落遺構は、西側微高地縁辺部に位置し、微高地全体に展開すると推定される集落の南東縁辺部と推定される。掘立柱建物は微高地南端と、南東隅に集中する。竪穴住居は南東側に集中し、10軒が検出された。一部の竪穴住居は古代以降の水田に削平されていることから、南側にも集落が展開していた可能性が高い。生産遺構は水田と灌漑水路である。大坪地区の全面と鳥井地区の南側約2/3を中心に検出された。大船渡地区も本来は水田が展開したと推定されるが、遺構検出面まで掘削することができなかった。灌漑水路は西側微高地東端を北から南へほぼ一直線状に掘削されていると推定される。その位置は弥生時代以来さほどの変化を認められない。

馬の背状自然堤防に該当する大坪地区、横田地区、カワラケメン地区からは主に集落遺構が検出された。特に自然堤防の最高箇所該当するカワラケメン地区における竪穴住居の遺構密度は濃密で、約80軒が検出された。なお竪穴住居には鍛冶工房も含まれている。掘立柱建物は馬の背状自然堤防の西端を中心に検出された。やや竪穴住居の遺構密度が低い箇所である。土壙墓も竪穴住居と切り合う形で検出された。生産遺構は未検出であるが、横田地区南西端に東西方向に延びる灌漑水路が検出されており、調査区南側には水田域が展開すると推定される。

東側微高地に該当する馬のシャクリ地区、松吉地区、新貝地区からは主に集落遺構が検出された。東側微高地最高所は松吉地区北西付近となる。掘立柱建物は微高地全体から検出されているが、特に西側半分に集中する。南西斜面では中型総柱建物が集中している。また、微高地南側（松吉地区）では大型総柱建物（SA7110）を中心に大型掘立柱建物が配置されている。竪穴住居は微高地西斜面の遺構密度が高い。当該地は主に中・小型竪穴住居が構築されている。一方、南側では遺構密度は低くなるが、大型竪穴住居が構築されている。微高地東側の新貝地区西側約1/4に中・小型竪穴住居が集中する。さらに東側大部分は土壙墓が多数構築されている。

(2) 遺構と遺物

①掘立柱建物跡、柵列跡（第27～31図）

掘立柱建物跡と柵列跡は総計135棟検出された。その内訳は、鳥井地区からは20棟、横田地区からは15棟、カワラケメン地区からは30棟、馬のシャクリ地区からは57棟、松吉地区からは28棟、新貝地区からは5棟となる。

使用する用語に関しては、奈良国立文化財研究所1976『平城宮発掘調査報告書Ⅶ』を参考に、以下のように決定した。柱を据えるための穴を「柱掘形」。柱を支えるために予め柱掘形内に充填された土を「埋土」。柱掘形内に遺存していた柱下部を「柱根」。柱根が立ったまま腐食し、木質が粘土となったり、腐食した部分に周辺からの流れ込み土が堆積した痕跡を「柱痕」。柱を抜いた際に生じた穴に周辺の土が流れ込んで堆積したと推定されるものを「柱抜き取り痕」。柱掘形内に柱を支えるために据え置かれた石を「根石」。建物を構成する配置で遺存する全ての穴を「柱穴」と総称する。

なお、遺構掲載スケールは $S=1/50$ に統一されている。但しSA7160は $S=1/60$ である。また、遺物掲載スケールは須恵器（断面黒色塗りつぶし）および土師器（断面白抜き）は $1/3$ （無印）に、鉄器は $2/3$ （無印）に、鍛冶関連遺物は $2/3$ （無印）に、石器は $1/2$ （無印）と $1/3$ （実測図右下側に●）と $2/3$ （実測図右下側に▲）に、石製品、ガラス製品は $1/1$ （実測図右下側に■）に統一されている。さらに、図中に第Ⅳ系国土座標軸を基準に設定した5mグリッドを表記することにより、絶対位置と方位を表示した。なお、図版上位または左側が北となるように編集している。遺構平面図、遺物出土状況図、遺物出土断面図等の、●は土器、▲は石器および石、■は鉄器、□は骨片を示す。

1号掘立柱建物跡（SA7001）（第32図）

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・P6グリッドにて検出。1間（1.5m）×2間（3.0m）の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.88m、桁間最小柱間は2.38m、桁間最大柱間は3.0mを測る。建物面積は4.26㎡を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向は $N-89^{\circ}-E$ を測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径33cm、最浅深度15cm、最深深度20cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

2号掘立柱建物跡（SA7002）（第33図）

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・O6、N6グリッドにて検出。1間（1.88m）×2間以上の側柱建物である。建物西側が調査区外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.13m、桁間最大柱間は1.88mを測る。検出建物面積は2.94㎡を測る。柱穴は3基検出された。桁行方向は $N-86^{\circ}-E$ を測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径43cm、最浅深度15cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

3号掘立柱建物跡 (SA7003) (第34図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・グリッドにて検出。1間(2.5m)×4間(9.25m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.38m、梁間最大柱間は2.5m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は3.0mを測る。建物面積は23.47㎡を測る。柱穴は9基検出された。未検出の柱穴が1基存在する。桁行方向はN-2°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径50cm、最浅深度15cm、最深深度53cmを測る。EP3、6、8、9より柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径8.0cm、最大直径10cm、最浅深度20cm、最深深度35cmを測る。EP4より結晶片岩製根石が検出された。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

4号掘立柱建物跡 (SA7004) (第35図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・N6グリッドにて検出。2間(2.45m)×2間以上の総柱建物である。建物西側が調査区外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.05m、梁間最大柱間は1.38mを測る。検出建物面積は4.17㎡を測る。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-88.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径40cm、最浅深度15cm、最深深度25cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

5号掘立柱建物跡 (SA7005) (第36図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・L4、L5グリッドにて検出。1間(1.63m)×不明の側柱建物である。建物西側が調査区外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.63m、桁間最小柱間は1.75mを測る。検出建物面積は3.95㎡を測る。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-81°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径53cm、最浅深度10cm、最深深度53cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

6号掘立柱建物跡 (SA7006) (第37、38図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・M7、M8、L7、L8グリッドにて検出。2間(3.0m)×3間(4.88m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.25m、梁間最大柱間は1.8m、桁間最小柱間は1.38m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は15.22㎡を測る。柱穴は12基検出された。桁行方向はN-89°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径63cm、最大直径78cm、最浅深度33cm、最深深度100cmを測る。EP1、2、5、8、9、10、11、12より柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径8.0cm、最大直径23cm、最浅深度25cm、最深深度75cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

7号掘立柱建物跡 (SA7007) (第39図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・N17、N18グリッドにて検出。1間(3.13m)×3間(6.75m)の側柱建物である。建物南側を古代以降の水田造成のために削平を受けており、規模等は不明である。梁間最小柱間は3.13m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は2.5mを測る。検出建物面積は21.13m²を測る。柱穴は5基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-85.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径80cm、最浅深度18cm、最深深度48cmを測る。EP4で柱痕が確認された。柱痕規模は直径18cm、深度35cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

8号掘立柱建物跡 (SA7008) (第40図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・R16、R17グリッドにて検出。2間以上×4間(7.08m)の側柱建物である。建物の北側が調査区外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.05m、梁間最大柱間は1.13m、桁間最小柱間は0.88m、桁間最大柱間は1mを測る。検出建物面積は16.46m²を測る。柱穴は7基検出された。桁行方向はN-87.4°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径30cm、最大直径35cm、最浅深度15cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

9号掘立柱建物跡 (SA7009) (第41図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・R17、R18グリッドにて検出。2間(4.5m)×4間(7.25m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.13m、梁間最大柱間は2.38m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は2.12mを測る。建物面積は31.16m²を測る。柱穴は12基検出された。桁行方向はN-83.7°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径55cm、最大直径70cm、最浅深度13cm、最深深度53cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

10号掘立柱建物跡 (SA7010) (第42、43図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・P1、Q1グリッドにて検出。2間(3.63m)×4間(8.25m)の軒付側柱建物である。梁間最小柱間は1.75m、梁間最大柱間は2m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は2.5mを測る。建物面積は30.15m²を、軒部面積は8.36m²を測る。建物部柱穴は12基、軒部柱穴は2基検出された。桁行方向はN-0.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径68cm、最浅深度18cm、最深深度63cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

11号掘立柱建物跡 (SA7011) (第44図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・Q20、R20グリッドにて検出。2間? (6.23m) ×不明の建物である。一部柱穴が未検出であり、側柱建物であるか総柱建物であるかを含めて規模等は不明である。梁間柱間、桁間柱間共に不明である。建物面積は計測不能である。柱穴は2基検出された。桁行方向はN-7°-Eを測るが、東西方向、南北方向何れかを指向するかは不明である。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径55cm、最大直径85cm、最浅深度13cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

12号掘立柱建物跡 (SA7012) (第45図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・R1、R2、S1、S2グリッドにて検出。2間? ×3間 (4.63m) 以上の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために、規模等は不明である。梁間最小柱間は80m、梁間最大柱間は88m、桁間最小柱間は75m、桁間最大柱間は2.4mを測る。検出建物面積は5.43m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-0.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径35cm、最浅深度23cm、最深深度55cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。柱穴内より鉄滓1が出土。

時期は古墳時代後期である。

13号掘立柱建物跡 (SA7013) (第46図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・R3、S3グリッドにて検出。2間 (2.25m) ×3間? の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために、規模等は不明である。梁間最小柱間は1.13m、桁間最小柱間は1.25m、桁間最大柱間は2mを測る。検出建物面積は7m²を測る。柱穴は5基検出された。桁行方向はN-0°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径65cm、最浅深度10cm、最深深度25cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

14号掘立柱建物跡 (SA7014) (第47、48図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・R4、Q4グリッドにて検出。2間 (3.75m) ×4間 (7.5m) の総柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は2m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は26.59m²を測る。柱穴は15基検出された。桁行方向はN-85°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径115cm、最浅深度28cm、最深深度88cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。1は須恵器大甕胴部片である。外面は平行タタキ施後にカキ目が施されている。内面には青海波文が残る。

時期は古墳時代後期である。

15号掘立柱建物跡 (SA7015) (第49図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・Q5、R5グリッドにて検出。1間?×3間(4.5m)の側柱建物である。建物東側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間柱間は不明。桁間最小柱間は1.25m、桁間最大柱間は2mを測る。検出建物面積は6.1m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径38cm、最浅深度8cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

16号掘立柱建物跡 (SA7016) (第50図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・P5、Q5グリッドにて検出。2間?×3間(3.38m)の側柱建物である。建物東側が調査区外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は0.88m、桁間最小柱間は0.95m、桁間最大柱間は1.38mを測る。建物面積は6.12m²を測る。柱穴は5基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-89.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径30cm、最浅深度10cm、最深深度20cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

17号掘立柱建物跡 (SA7017) (第51図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・P5、O5グリッドにて検出。1間(2.25m)×2間(5.13m)の柱建物である。梁間最小柱間は1.88m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は2.08m、桁間最大柱間は3.08mを測る。建物面積は11.17m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-0.5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径68cm、最浅深度13cm、最深深度53cmを測る。EP4にて柱痕が確認された。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

18号柵列跡 (SA7018) (第52図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・R1グリッドにて検出。全長4m、柱間1.00~1.63mを測る柵列である。柱穴は4基検出された。柵列方向はN-0.1°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径53cm、最浅深度25cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

19号掘立柱建物跡 (SA7019) (第53図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・O1グリッドにて検出。1間(1.68m)×2間(1.88m)の側柱建物である。

梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.63m、桁間最小柱間は0.75m、桁間最大柱間は1.13mを測る。建物面積は2.83㎡を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-3°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径40cm、最浅深度23cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

20号柵列跡 (SA7020) (第54図)

鳥井地区、Loc.2・αⅡ・Q17、Q18グリッドにて検出。全長8m、柱間1.38~1.75mを測る柵列である。柱穴は6基検出された。柵列方向はN-88°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径53cm、最浅深度20cm、最深深度40cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

21号掘立柱建物跡 (SA7021) (第55図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・G14、H14グリッドにて検出。2間(3.5m)×3間?の総柱建物である。建物西側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は1.13mを測る。検出建物面積は6.52㎡を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-65°-Wを測り、どちらかというところ東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径63cm、最浅深度35cm、最深深度63cmを測る。EP1、5、6にて柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径35cm、最大直径48cm、最浅深度10cm、最深深度23cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

22号掘立柱建物跡 (SA7022) (第56図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・G14、G15グリッドにて検出。2間(4.03m)×3間(5.25m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.88m、梁間最大柱間は2.33m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は1.88mを測る。建物面積は19.83㎡を測る。柱穴は12基検出された。桁行方向はN-66°-Wを測り、どちらかというところ東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径68cm、最浅深度15cm、最深深度60cmを測る。EP2、3、4、5、6、9、10、11、12において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径8cm、最大直径25cm、最浅深度30cm、最深深度63cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

23号掘立柱建物跡 (SA7023) (第57図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・F16、G16グリッドにて検出。1間(2.13m)×3間(4.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.75m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.38m、桁間最大柱間は1.63mを測る。建物面積は8.75㎡を測る。桁行方向はN-23.8°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径80cm、最浅深度8cm、最深深度55cmを測る。EP4、5、6、7にて柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は23cm。最浅深度は30cm、最深深度は55cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

24号柵列跡 (SA7024) (第58図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・B20、B1グリッドにて検出。全長5.58m、柱間0.75~2.63mを測る柵列である。柱穴は6基検出された。柵列方向はN-70°-Wを測り、どちらかというところ東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径20cm、最大直径35cm、最浅深度15cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

25号掘立柱建物跡 (SA7025) (第59図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・B3、B4グリッドにて検出。1間(1.63m)×2間(4.75m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、桁間最小柱間は1.88m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は8.17㎡を測る。柱穴は4基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-1.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径45cm、最浅深度18cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

26号掘立柱建物跡 (SA7026) (第60図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・C5、C6グリッドにて検出。1間(2m)×2間(3.63m)以上の側柱建物である。建物北側部分が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は2m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は2.25mを測る。検出建物面積は7.56㎡を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-25°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径60cm、最浅深度25cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

27号掘立柱建物跡 (SA7027) (第61図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・T6、A6グリッドにて検出。1間(1.63m)×2間(3.25m)以上の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、桁間最小柱間は3.25mを測る。建物面積は5.04m²を測る。柱穴は基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-63°-Wを測り、どちらかといえば東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径60cm、最浅深度25cm、最深深度38cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

28号掘立柱建物跡 (SA7028) (第62図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・グリッドにて検出。不明×1間(4.63m)の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は不明、桁間最小柱間は4.63mを測る。柱穴は2基検出された。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径45cm、最大直径50cm、最浅深度13cm、最深深度20cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

29号掘立柱建物跡 (SA7029) (第63図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・A11グリッドにて検出。1間?×3間(3.18m)の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は不明、桁間最小柱間は1.0m、桁間最大柱間は1.18mを測る。検出建物面積は4.46m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-64°-Wを測り、どちらかといえば東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径13cm、最大直径18cm、最浅深度8cm、最深深度15cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

30号掘立柱建物跡 (SA7030) (第64図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・A12グリッドにて検出。1間(1.5m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.5m、桁間最小柱間は不明である。検出建物面積は1.98m²を測る。柱穴は2基検出された。桁行方向はN-23°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径35cm、最浅深度13cm、最深深度20cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

31号掘立柱建物跡 (SA7031) (第65図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・T11、A11グリッドにて検出。2間(3.25m)×2間(4.0m)の総柱建物である。梁間最小柱間は2.88m、梁間最大柱間は3.25m、桁間最小柱間は1.75m、桁間最大柱間は2.0m

を測る。建物面積は11.64m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-1.5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径43cm、最大直径53cm、最浅深度33cm、最深深度45cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は、最小直径は10cm、最大直径は15cm、最浅深度は18cm、最深深度は38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

32号掘立柱建物跡 (SA7032) (第66図)

横田地区、Loc.2・αⅢ・K10、K11グリッドにて検出。1間(1.88m)×3間(7.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.88m、桁間最小柱間は2.25m、桁間最大柱間は2.88mを測る。建物面積は13.62m²を測る。柱穴は6基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-89.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径35cm、最浅深度20cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

33号掘立柱建物跡 (SA7033) (第67図)

横田地区、Loc.2・βⅢ・Q13、R13グリッドにて検出。1間(1.75m)×1間(2.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は2.5m、桁間最大柱間は2.63mを測る。建物面積は4.48m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-87°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径35cm、最浅深度20cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

34号掘立柱建物跡 (SA7034) (第68図)

横田地区、Loc.2・βⅢ・S12、R12グリッドにて検出。1間(2.88m)×1間(3.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.5m、梁間最大柱間は2.88m、桁間最小柱間は3.25m、桁間最大柱間は3.63mを測る。建物面積は9.49m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-70.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径53cm、最浅深度10cm、最深深度33cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

36号柵列 (SA7036) (第70図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K18、K19グリッドにて検出。全長4.3m、柱間2.13~2.2mを測る柵列である。柱穴は3基検出された。柵列方向はN-90°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径28cm、最浅深度15cm、最深深度28cmを測る。柱痕が

確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径15cm、最浅深度15cm、最深深度28cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

37号柵列 (SA7037) (第71図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K17、K18グリッドにて検出。全長6.1m、柱間1.85～2.15mを測る柵列である。柱穴は4基検出された。柵列方向はN-88.7°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径45cm、最大直径55cm、最浅深度38cm、最深深度53cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径20cm、最浅深度38cm、最深深度43cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

38号掘立柱建物跡 (SA7038) (第72図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K17グリッドにて検出。1間(2.3m)×2間(2.43m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.3m、桁間最小柱間は1.08m、桁間最大柱間は1.43mを測る。検出建物面積は5.21m²を測る。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-82.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径43cm、最大直径63cm、最浅深度28cm、最深深度56cmを測る。EP1において柱痕を確認。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

39号掘立柱建物跡 (SA7039) (第73図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K18グリッドにて検出。2間(1.63m)×2間(2.13m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.63m、桁間最小柱間は1.05m、桁間最大柱間は1.13mを測る。検出建物面積は3.99m²を測る。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-19.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径50cm、最浅深度23cm、最深深度48cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

41号掘立柱建物跡 (SA7041) (第75図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K19、L19グリッドにて検出。2間(2.5m)×2間(3.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.13m、梁間最大柱間は1.38m、桁間最小柱間は1.45m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は8.88m²を測る。柱穴は7基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-4°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径20cm、最大直径45cm、最浅深度20cm、最深深度30cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模

は最小直径10cm、最大直径は18cm、最浅深度は20cm、最深深度は30cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より製塩土器が6点出土した。製塩土器1～4は大柿Ⅱ類である。製塩土器5、6は大柿Ⅰ類である。その他にも須恵器片、土師器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

42号掘立柱建物跡 (SA7042) (第76図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K19、K20、L19、L20グリッドにて検出。2間(3.75m)×3間(6.6m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.78m、桁間最大柱間は2.63mを測る。建物面積は22.38㎡を測る。柱穴は10基検出された。桁行方向はN-87.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径80cm、最浅深度38cm、最深深度70cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は28cm、最浅深度は38cm、最深深度は68cmを測る。根石は未検出である。

EP4より須恵器1が、EP6より須恵器2が、EP1より須恵器3が出土した。須恵器1は杯蓋である。須恵器2は杯身である。須恵器3は横瓶胴部である。

時期は古墳時代後期である。

43号掘立柱建物跡 (SA7043) (第77図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・J19、J20、K19、K20グリッドにて検出。2間(4.23m)×3間(6.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.88m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.95m、桁間最大柱間は2.38mを測る。建物面積は27.57㎡を測る。柱穴は10基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-6°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径70cm、最浅深度25cm、最深深度48cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は20cm、最浅深度は28cm、最深深度は48cmを測る。根石は未検出である。

EP3より土師器1が出土。土師器1は甕口頸部である。内外面共に横方向のイタナデが施されている。長胴甕の口頸部である。

時期は古墳時代後期である。

44号柵列 (SA7044) (第78図)

カワラケメン地区、Loc.2・αⅢ・K20、K1グリッドにて検出。全長8.55m、柱間1.05～3.38mを測る柵列である。柱穴は5基検出された。柵列方向はN-0.3°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径15cm、最大直径25cm、最浅深度8cm、最深深度40cmを測る。EP5において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最浅深度は40cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1、2が出土した。須恵器1は杯蓋である。須恵器2は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

45号掘立柱建物跡 (SA7045) (第79図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K20、K1、L20、L1グリッドにて検出。2間(3.88m)×3間(5.5

m) の側柱建物である。梁間最小柱間は1.75m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は21.5m²を測る。柱穴は10基検出された。桁行方向はN-10°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径78cm、最浅深度33cm、最深深度50cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は20cm、最浅深度は25cm、最深深度は48cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

46号掘立柱建物跡 (SA7046) (第80図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・K1、K2グリッドにて検出。1間(3.13m)×1間(3.13m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.63m、梁間最大柱間は3.13m、桁間最小柱間は2.88m、桁間最大柱間は3.13mを測る。建物面積は8.59m²を測る。桁行方向はN-15.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径30cm、最大直径93cm、最浅深度38cm、最深深度50cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最大直径は15cm、最浅深度は38cm、最深深度は50cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土、須恵器1は甕胴下部片である。

時期は古墳時代後期である。

47号掘立柱建物跡 (SA7047) (第81、82図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・I1、I2、J1、J2グリッドにて検出。2間(4.63m)×4間(7.25m)の軒付側柱建物である。梁間最小柱間は2.13m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は1.75m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は33.49m²を測る。柱穴は12基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-84.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径50cm、最大直径80cm、最浅深度38cm、最深深度70cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は33cm、最浅深度は20cm、最深深度は70cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1～5、土師器6、7が出土。須恵器1は杯身である。須恵器2は杯身である。須恵器3は杯身である。須恵器4は杯身である。須恵器5は高杯である。土師器6は甕である。土師器7は甕である。

時期は古墳時代後期である。

48号掘立柱建物跡 (SA7048) (第83図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・J1グリッドにて検出。2間(3.35m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は不明である。建物面積は不明である。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-71.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径38cm、最浅深度23cm、最深深度28cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最大直径は18cm、最浅深度は18cm、最深深度は25cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器 1 が出土。須恵器 1 は杯蓋である。
時期は古墳時代後期である。

49号掘立柱建物跡 (SA7049) (第84図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・H20、H1グリッドにて検出。2間(3.85m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は不明である。建物面積は不明である。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-89°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径30cm、最大直径45cm、最浅深度18cm、最深深度63cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は20cm、最浅深度は18cm、最深深度は63cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。
時期は古墳時代後期である。

50号掘立柱建物跡 (SA7050) (第85図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・G19グリッドにて検出。1間(1.6m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.5m、桁間最小柱間は不明である。建物面積は不明である。柱穴は2基検出された。一部に未検出の柱痕が存在する。桁行方向はN-77.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径48cm、最大直径50cm、最浅深度25cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。
時期は古墳時代後期である。

51号掘立柱建物跡 (SA7051) (第86図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・J2、K2グリッドにて検出。2間(3.75m)×2間(3.75m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は2.25mを測る。建物面積は13.71m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-79°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径70cm、最浅深度40cm、最深深度65cmを測る。EP4を除いた各柱穴より柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は18cm、最浅深度は30cm、最深深度は65cmを測る。なお、規模、土層堆積状況からEP4は柱痕のみを検出した可能性がある。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。
時期は古墳時代後期である。

52号掘立柱建物跡 (SA7052) (第87図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・J2、J3グリッドにて検出。1間(1.5m)×2間(2.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、桁間最小柱間は1.13m、桁間最大柱間は1.38mを測る。建物面積は3.41m²を測る。柱穴は4基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-90°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径45cm、最浅深

度48cm、最深深度58cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最大直径は23cm、最浅深度は48cm、最深深度は58cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。須恵器1は甕胴部片である。

時期は古墳時代後期である。

55号掘立柱建物跡 (SA7055) (第88図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・120、I1、J20、J1グリッドにて検出。2間(3.63m)×3間(5.93m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.88m、桁間最小柱間は1.75m、桁間最大柱間は2.25mを測る。建物面積は20.08m²を測る。柱穴は6基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-0°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径50cm、最大直径75cm、最浅深度25cm、最深深度58cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径20cm、最大直径は38cm、最浅深度は25cm、最深深度は58cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

56号掘立柱建物跡 (SA7056) (第89図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・G3、G4グリッドにて検出。2間(3.88m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.75m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は不明である。建物面積は不明である。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-84°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径43cm、最浅深度25cm、最深深度33cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径18cm、最大直径は20cm、最浅深度は25cm、最深深度は33cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

57号掘立柱建物跡 (SA7057) (第90図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・H7、H8グリッドにて検出。2間(3.5m)×1間(4.0m)以上の側柱建物である。梁間最小柱間は1.7m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は3.5mを測る。検出建物面積は13.51m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-55°-Wを測り、どちらかといえば東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径18cm、最大直径23cm、最浅深度15cm、最深深度23cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最浅深度は18cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

58号掘立柱建物跡 (SA7058) (第91図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・H8、H9グリッドにて検出。1間(1.13m)×1間(1.53m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.13m、桁間最小柱間は1.53mを測る。建物面積は1.71m²を測る。柱

穴は4基検出された。桁行方向はN-15°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径75cm、最浅深度28cm、最深深度38cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

59号掘立柱建物跡 (SA7059) (第92図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・F5、F6グリッドにて検出。2間(5.73m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は2.75m、梁間最大柱間は3.0m、桁間最小柱間は不明である。建物面積は不明である。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-83.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径40cm、最浅深度18cm、最深深度23cmを測る。EP2において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は15cm、最浅深度は18cm、最深深度は23cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

60号掘立柱建物跡 (SA7060) (第93図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・H12、H13グリッドにて検出。2間(4.0m)×2間(4.0m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.75m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.88m、桁間最大柱間は2.13mを測る。建物面積は14.72m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-89°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径60cm、最浅深度23cm、最深深度38cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は20cm、最浅深度は23cm、最深深度は38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

61号掘立柱建物跡 (SA7061) (第94図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・G12、G13、H12、H13グリッドにて検出。2間(3.35m)×3間(5.88m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.2m、梁間最大柱間は1.88m、桁間最小柱間は1.0m、桁間最大柱間は2.53mを測る。建物面積は18.16m²を測る。柱穴は10基検出された。桁行方向はN-82.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径18cm、最大直径28cm、最浅深度30cm、最深深度63cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

62号掘立柱建物跡 (SA7062) (第95図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・H13、I13グリッドにて検出。不明×1間(2.3m)以上の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は0.9m、桁間

最小柱間は2.3mを測る。検出建物面積は2.12m²を測る。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-72°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径50cm、最浅深度25cm、最深深度45cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

63号掘立柱建物跡 (SA7063) (第96図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・H15グリッドにて検出。不明×1間(1.8m)の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は不明、桁間最小柱間は1.8mを測る。検出建物面積は1.02m²を測る。柱穴は2基検出された。桁行方向はN-4.3°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径78cm、最浅深度23cm、最深深度73cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

64号掘立柱建物跡 (SA7064) (第97図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・C14、C15、D14、D15グリッドにて検出。3間(4.5m)×3間(5.25m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.38m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.58m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は22.01m²を測る。柱穴は11基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-89.2°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径38cm、最浅深度13cm、最深深度28cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は23cm、最浅深度は8cm、最深深度は25cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

65号掘立柱建物跡 (SA7065) (第98図)

カワラケメン地区、Loc.2・βⅢ・C14、C15、D14、D15グリッドにて検出。2間(3.88m)×3間(4.83m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.93m、梁間最大柱間は2.2m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は19.52m²を測る。柱穴は9基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-82.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径58cm、最浅深度13cm、最深深度35cmを測る。各柱穴より柱痕が確認された。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

66号掘立柱建物跡 (SA7066) (第99図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βⅣ・S19、T19グリッドにて検出。1間(3.25m)×2間(5.43m)の

側柱建物である。梁間最小柱間は3.25m、梁間最大柱間は3.63m、桁間最小柱間は2.43m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は18.07m²を測る。柱穴は5基検出された。桁行方向はN-9.5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径50cm、最大直径83cm、最浅深度10cm、最深深度25cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。須恵器1は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

67号掘立柱建物跡 (SA7067) (第100図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・R1、R2グリッドにて検出。1間(2.5m)×2間(4.28m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.4m、梁間最大柱間は2.5m、桁間最小柱間は1.95m、桁間最大柱間は2.33mを測る。建物面積は10.12m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-68.5°-Wを測り、どちらかといえば東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径43cm、最浅深度8cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。須恵器1は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

68号掘立柱建物跡 (SA7068) (第101図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・Q5、R5グリッドにて検出。1間(2.25m)×3間(5.73m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.98m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は1.65m、桁間最大柱間は2.15mを測る。建物面積は10.83m²を測る。柱穴は8基検出された。桁行方向はN-86°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径48cm、最浅深度18cm、最深深度45cmを測る。EP2、4、6において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は15cm、最浅深度は25cm、最深深度は35cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

69号掘立柱建物跡 (SA7069) (第102図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・P4、Q4グリッドにて検出。1間(1.83m)×1間(2.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.83m、桁間最小柱間は2.55m、桁間最大柱間は2.63mを測る。建物面積は4.43m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-2.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径40cm、最浅深度10cm、最深深度33cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は15cm、最浅深度は15cm、最深深度は25cmを測る。EP1、3、4において柱痕が確認された。根石は未検出である。

柱穴内より台石1が出土。台石1は結晶片岩製で、表面に浅い敲打痕が観察される。根石として転用されたと推定される。他に土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

70号掘立柱建物跡 (SA7070) (第103図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・P5、Q5グリッドにて検出。1間(2.63m)×2間(5.13m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.45m、梁間最大柱間は2.63m、桁間最小柱間は2.25m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は12.7m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-2.3°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径68cm、最浅深度28cm、最深深度50cmを測る。EP5、6において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最大直径は15cm、最浅深度は18cm、最深深度は33cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

71号掘立柱建物跡 (SA7071) (第104図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・C2グリッドにて検出。1間(2.25m)×2間(3.85m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.18m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は1.85m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は8.19m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-14.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径58cm、最浅深度8cm、最深深度48cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

72号掘立柱建物跡 (SA7072) (第105図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・N5、N6、O5、O6グリッドにて検出。1間(3.63m)×2間(5.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.13m、梁間最大柱間は3.63m、桁間最小柱間は2.2m、桁間最大柱間は3.05mを測る。建物面積は17.62m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-12.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径55cm、最浅深度23cm、最深深度38cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

73号掘立柱建物跡 (SA7073) (第106図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・S5、S6、T5、T6グリッドにて検出。3間(4.02m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.25m、梁間最大柱間は1.5m、桁間最小柱間は不明である。検出建物面積は1.34m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-89.8°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径45cm、最大直径55cm、最浅深度15cm、最深深度38cmを測る。EP2において柱痕が確認された。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

74号掘立柱建物跡 (SA7074) (第107図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・Q8、Q9、R8、R9グリッドにて検出。1間(4.6m)×4間(7.18m)の側柱建物である。梁間最小柱間は4.13m、梁間最大柱間は4.6m、桁間最小柱間は1.13m、桁間最大柱間は2.38mを測る。建物面積は30.44m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-9°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径20cm、最大直径58cm、最浅深度13cm、最深深度40cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

75号掘立柱建物跡 (SA7075) (第109図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・N9、O9グリッドにて検出。1間(4.9m)×3間(6.95m)の側柱建物である。梁間最小柱間は4.5m、梁間最大柱間は4.9m、桁間最小柱間は1.83m、桁間最大柱間は2.88mを測る。建物面積は33.52m²を測る。柱穴は7基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-7.6°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径50cm、最浅深度8cm、最深深度55cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は33cm、最浅深度は18cm、最深深度は55cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1、敲石2が出土。須恵器1は杯身である。敲石2は結晶片岩製で、右側面に敲打痕や剥離痕が観察される。

時期は古墳時代後期である。

76号掘立柱建物跡 (SA7076) (第110図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・P8、P9グリッドにて検出。1間(1.95m)×1間(2.08m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.88m、梁間最大柱間は2.08m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は2.08mを測る。建物面積は3.8m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-10.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径60cm、最浅深度18cm、最深深度38cmを測る。EP1において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径20cm、最浅深度は38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

77号掘立柱建物跡 (SA7077) (第111図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・R11、R12、S11、S12グリッドにて検出。2間(3.25m)×3間以上の総柱建物である。建物北側が調査対象地外へと広がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は1.18m、桁間最大柱間は1.3mを測る。検出建物面積は6.61m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-85°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径45cm、最浅深度20cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

78号掘立柱建物跡 (SA7078) (第112図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・O11、O12、P11、P12グリッドにて検出。1間(3.5m)×3間(5.7m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.25m、梁間最大柱間は3.63m、桁間最小柱間は1.38m、桁間最大柱間は2.63mを測る。建物面積は18.99m²を測る。柱穴は8基検出された。桁行方向はN-15°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径15cm、最大直径50cm、最浅深度13cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

79号掘立柱建物跡 (SA7079) (第113図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・M12、N12グリッドにて検出。1間(4.5m)×3間(6.8m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.75m、梁間最大柱間は4.78m、桁間最小柱間は1.55m、桁間最大柱間は3.45mを測る。建物面積は27.37m²を測る。柱穴は8基検出された。桁行方向はN-9.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径65cm、最浅深度5.0cm、最深深度28cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径18cm、最浅深度は18cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

80号掘立柱建物跡 (SA7080) (第114図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・K12、K13、L12、L13グリッドにて検出。1間(4.68m)×4間(8.08m)の側柱建物である。梁間最小柱間は4.55m、梁間最大柱間は4.68m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は2.13mを測る。建物面積は37.05m²を測る。柱穴は10基検出された。桁行方向はN-13°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径58cm、最浅深度10cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

81号掘立柱建物跡 (SA7081) (第115図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・Q15、R15グリッドにて検出。1間(2.3m)×1間(3.0m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.13m、梁間最大柱間は2.3m、桁間最小柱間は2.88m、桁間最大柱間は3.0mを測る。建物面積は6.74m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-0.1°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径30cm、最浅深度18cm、最深深度38cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

82号掘立柱建物跡 (SA7082) (第116図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・O14、O15グリッドにて検出。2間(3.78m)×3間(6.33m)の総柱建物である。梁間最小柱間は3.6m、梁間最大柱間は3.78m、桁間最小柱間は1.0m、桁間最大柱間は3.0mを測る。建物面積は22.97m²を測る。柱穴は10基検出された。桁行方向はN-87°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径30cm、最大直径55cm、最浅深度20cm、最深深度45cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

83号掘立柱建物跡 (SA7083) (第117図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・N14、N15グリッドにて検出。1間(1.73m)×2間(6.1m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.58m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.85m、桁間最大柱間は4.05mを測る。建物面積は9.73m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-86°-Wを測り、方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径45cm、最浅深度18cm、最深深度48cmを測る。EP2において柱痕を確認。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

84号掘立柱建物跡 (SA7084) (第118図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・O15グリッドにて検出。1間(2.45m)×2間(5.15m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.25m、梁間最大柱間は2.45m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は2.98mを測る。建物面積は10.8m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-4.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径45cm、最浅深度18cm、最深深度48cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

85号掘立柱建物跡 (SA7085) (第119図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・N15、O15グリッドにて検出。1間(2.38m)×2間(4.33m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.38m、梁間最大柱間は2.5m、桁間最小柱間は2.05m、桁間最大柱間は2.25mを測る。建物面積は10.36m²を測る。柱穴は5基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-6.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径45cm、最大直径53cm、最浅深度18cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

87号掘立柱建物跡 (SA7087) (第121図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・C3、C4グリッドにて検出。1間(3.25m)×1間(4.0m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.2m、梁間最大柱間は3.25m、桁間最小柱間は3.43m、桁間最大柱間は4.0mを測る。建物面積は12.03m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-83°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径48cm、最浅深度10cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

88号掘立柱建物跡 (SA7088) (第122図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・C4、C5グリッドにて検出。2間(3.1m)×2間(3.5m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.63m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は1.88mを測る。建物面積は10.87m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-13.5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径55cm、最大直径90cm、最浅深度38cm、最深深度53cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径20cm、最大直径は43cm、最浅深度は38cm、最深深度は53cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

89号掘立柱建物跡 (SA7089) (第123図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・A4、A5グリッドにて検出。2間(4.05m)×不明の側柱建物である。建物南側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は2.0m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は不明である。検出建物面積は5.29m²を測る。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-6°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径70cm、最浅深度25cm、最深深度33cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径23cm、最大直径は25cm、最浅深度は25cm、最深深度は33cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

90号掘立柱建物跡 (SA7090) (第124図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・B6グリッドにて検出。2間(3.55m)×2間(4.5m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.3m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.78m、桁間最大柱間は2.55mを測る。建物面積は14.18m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-80.5°-Eを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径45cm、最大直径73cm、最浅深度23cm、最深深度58cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径18cm、最大直径は30cm、最浅深度は23cm、最深深度は58cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

91号掘立柱建物跡 (SA7091) (第125図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・B6、B7グリッドにて検出。2間(3.45m)×2間(4.38m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.38m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.93m、桁間最大柱間は2.25mを測る。建物面積は13.24㎡を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-6°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径75cm、最浅深度30cm、最深深度50cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は35cm、最浅深度は30cm、最深深度は50cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

92号掘立柱建物跡 (SA7092) (第126図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・C8グリッドにて検出。1間(2.6m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと広がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は2.6m、桁間最小柱間は不明である。検出建物面積は3.93㎡を測る。柱穴は2基検出された。桁行方向はN-0.5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径43cm、最大直径48cm、最浅深度33cm、最深深度38cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

93号掘立柱建物跡 (SA7093) (第127図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・B7、B8、C7、C8グリッドにて検出。2間(3.75m)×不明の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと広がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.75m、梁間最大柱間は2.05m、桁間最小柱間は2.45mを測る。検出建物面積は9.39㎡を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径55cm、最大直径70cm、最浅深度30cm、最深深度45cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径18cm、最大直径は30cm、最浅深度は30cm、最深深度は45cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

94号掘立柱建物跡 (SA7094) (第128図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・A6、A7、B6、B7グリッドにて検出。2間(3.9m)×不明の総柱建物である。梁間最小柱間は1.8m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.38m、桁間最大柱間は1.5mを測る。検出建物面積は6.06㎡を測る。柱穴は5基検出された。桁行方向はN-13°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径55cm、最浅深度18cm、最深深度38cmを測る。EP2において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は28cm、最浅深度は35cm、最深深度は40cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

95号掘立柱建物跡 (SA7095) (第129図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・A5、A6グリッドにて検出。2間(3.75m)×不明の側柱(総柱)建物である。建物南側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.7m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.75mを測る。検出建物面積は5.9m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径60cm、最大直径93cm、最浅深度28cm、最深深度58cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は38cm、最浅深度は28cm、最深深度は58cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

96号掘立柱建物跡 (SA7096) (第130図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・A7、A8グリッドにて検出。2間(3.63m)×3間(5.1m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.88m、桁間最小柱間は1.43m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は16.9m²を測る。柱穴は12基検出された。桁行方向はN-4°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径10cm、最大直径65cm、最浅深度8.0cm、最深深度43cmを測る。EP1~10において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径18cm、最大直径は33cm、最浅深度は23cm、最深深度は43cmを測る。なおEP11、12は柱痕のみを検出した可能性がある。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

98号掘立柱建物跡 (SA7098) (第131図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・A8、B8グリッドにて検出。2間(3.1m)×2間(4.0m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.38m、梁間最大柱間は3.1m、桁間最小柱間は1.88m、桁間最大柱間は2.13mを測る。建物面積は11.8m²を測る。柱穴は8基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径78cm、最浅深度15cm、最深深度50cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は25cm、最浅深度は25cm、最深深度は65cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

99号掘立柱建物跡 (SA7099) (第132図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・D20、D1グリッドにて検出。1間(1.88m)×2間(3.25m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.88m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は6.11m²を測る。柱穴は4基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-64.5°-

Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径38cm、最浅深度15cm、最深深度40cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

100号掘立柱建物跡 (SA7100) (第133図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・B20グリッドにて検出。1間(2.13m)×不明の側柱建物である。建物南側が調査対象地外へと広がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は2.13m、桁間最小柱間は不明である。検出建物面積は3.65m²を測る。柱穴は2基検出された。桁行方向はN-13°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径40cm、最浅深度18cm、最深深度25cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

101号掘立柱建物跡 (SA7101) (第134図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・B2、B3グリッドにて検出。2間(3.05m)×不明の側柱建物である。建物南側が調査対象地外へと広がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.58m、桁間最小柱間は不明である。検出建物面積は3.18m²を測る。柱穴は3基検出された。桁行方向はN-11°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径15cm、最大直径25cm、最浅深度20cm、最深深度25cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

102号掘立柱建物跡 (SA7102) (第135図)

馬のシャクリ地区、Loc.2・βIV・B7、B8、C7、C8グリッドにて検出。1間(2.3m)×1間(2.75m)の総柱建物である。梁間最小柱間は2.28m、梁間最大柱間は2.3m、桁間最小柱間は2.13m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は5.56m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-18°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径60cm、最浅深度23cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

103号掘立柱建物跡 (SA7103) (第136図)

松吉地区、Loc.2・αIV・R1、R2グリッドにて検出。2間(3.18m)×不明の側柱建物である。建物西側が調査対象地外へと広がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.4m、梁間最大柱間は1.83m、桁間最小柱間は2.08mを測る。検出建物面積は6.28m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-80°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径43cm、最浅深度20cm、最深深度30cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大

直径は28cm、最浅深度は38cm、最深深度は68cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

104号掘立柱建物跡 (SA7104) (第137図)

松吉地区、Loc.2・αIV・O9、P9グリッドにて検出。2間(3.5m)×2間(4.13m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は2.13mを測る。建物面積は13.8m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-83°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径45cm、最大直径63cm、最浅深度25cm、最深深度45cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は28cm、最浅深度は18cm、最深深度は45cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

105号掘立柱建物跡 (SA7105) (第138図)

松吉地区、Loc.2・αIV・M1、N1グリッドにて検出。1間(2.75m)×2間(3.25m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.5m、梁間最大柱間は2.75m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は8.53m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-74°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径1.05cm、最浅深度15cm、最深深度35cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

106号掘立柱建物跡 (SA7106) (第139図)

松吉地区、Loc.2・αIV・L20、L1、M20、M1グリッドにて検出。1間(2.25m)×2間(4.88m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.18m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は3.1mを測る。建物面積は9.94m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-82.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径55cm、最浅深度18cm、最深深度30cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は20cm、最浅深度は28cm、最深深度は30cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

107号掘立柱建物跡 (SA7107) (第140図)

松吉地区、Loc.2・αIV・K1、K2、L1、L2グリッドにて検出。1間(3.63m)×2間(7.88m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.63m、梁間最大柱間は3.75m、桁間最小柱間は3.5m、桁間最大柱間は4.38mを測る。建物面積は26.45m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-2°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径55cm、最浅深

度10cm、最深深度50cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

108号掘立柱建物跡 (SA71408) (第141図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I1、I2、J1、J2グリッドにて検出。1間(2.75m)×2間(3.35m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.55m、梁間最大柱間は2.75m、桁間最小柱間は1.13m、桁間最大柱間は2.2mを測る。建物面積は8.88㎡を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-84°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径43cm、最浅深度25cm、最深深度33cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

109号掘立柱建物跡 (SA7109) (第142図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I2、J2グリッドにて検出。1間(2.25m)×1間(3.48m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.2m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は3.13m、桁間最大柱間は3.48mを測る。建物面積は7.13㎡を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-81.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径45cm、最浅深度15cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。EP2において結晶片岩製根石を検出。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

110号掘立柱建物跡 (SA7110) (第143、144図)

松吉地区、Loc.2・αIV・J5、J6、K5、K6グリッドにて検出。3間(5.25m)×3間(6.63m)の総柱建物である。梁間最小柱間は5.0m、梁間最大柱間は5.25m、桁間最小柱間は6.5m、桁間最大柱間は6.63mを測る。建物面積は33.89㎡を測る。柱穴は15基検出された。桁行方向はN-21°-Eを測り、どちらかといえば南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径75cm、最浅深度18cm、最深深度50cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は25cm、最浅深度は13cm、最深深度は45cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

111号掘立柱建物跡 (SA7111) (第145図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I6、J6、I7、J7グリッドにて検出。1間(3.75m)×2間(4.53m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.65m、梁間最大柱間は3.75m、桁間最小柱間は1.43m、桁間最大柱間は3.0mを測る。建物面積は16.29㎡を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-80.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径58cm、最大直径70cm、最浅深度20cm、最深深度50cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。
時期は古墳時代後期である。

112号掘立柱建物跡 (SA7112) (第146図)

松吉地区、Loc.2・αIV・J7、J8、K7、K8グリッドにて検出。1間(3.13m)×2間(7.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.0m、梁間最大柱間は3.13m、桁間最小柱間は3.63m、桁間最大柱間は4.0mを測る。建物面積は22.07㎡を測る。柱穴は5基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-89.3°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径88cm、最浅深度8.0cm、最深深度58cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。
時期は古墳時代後期である。

113号掘立柱建物跡 (SA7113) (第147図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I9、I10、J9、J10グリッドにて検出。2間(4.25m)×4間(6.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.0m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は27.46㎡を測る。柱穴は11基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-87.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径55cm、最浅深度15cm、最深深度50cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径23cm、最大直径は30cm、最浅深度は23cm、最深深度は50cmを測る。なおEP9は柱痕のみを検出した可能性がある。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。須恵器1は大甕胴部片である。
時期は古墳時代後期である。

114号掘立柱建物跡 (SA7114) (第148図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I11、I12、J11、J12グリッドにて検出。2間(4.25m)×2間(4.75m)の総柱建物である。梁間最小柱間は2.0m、梁間最大柱間は2.25m、桁間最小柱間は2.25m、桁間最大柱間は2.5mを測る。建物面積は19.54㎡を測る。柱穴は6基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-9°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径63cm、最大直径86cm、最浅深度18cm、最深深度30cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。
時期は古墳時代後期である。

115号掘立柱建物跡 (SA7115) (第149図)

松吉地区、Loc.2・αIV・G9、H9グリッドにて検出。2間(3.13m)×2間(4.25m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.63m、桁間最小柱間は1.88m、桁間最大柱間は2.13mを測る。建物面積は12.66㎡を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-2.5°-Wを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径50cm、最浅深度25cm、最

深深度38cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径20cm、最大直径は38cm、最浅深度は25cm、最深深度は38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

116号掘立柱建物跡 (SA7116) (第150図)

松吉地区、Loc.2・αIV・G10グリッドにて検出。2間(3.38m)×3間(4.0m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は1.25m、桁間最大柱間は1.5mを測る。建物面積は13.29m²を測る。柱穴は6基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-82°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径55cm、最浅深度20cm、最深深度38cmを測る。EP3、5、6において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径33cm、最大直径は35cm、最浅深度は20cm、最深深度は23cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

117号掘立柱建物跡 (SA7117) (第151図)

松吉地区、Loc.2・αIV・M17、N17グリッドにて検出。2間(3.38m)×2間(3.75m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.75m、桁間最小柱間は1.75m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は12.42m²を測る。柱穴は8基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-81°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径58cm、最浅深度15cm、最深深度38cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は20cm、最浅深度は15cm、最深深度は38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

118号掘立柱建物跡 (SA7118) (第152図)

松吉地区、Loc.2・αIV・M17、N17グリッドにて検出。1間(2.2m)×1間(2.88m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.13m、梁間最大柱間は2.2m、桁間最小柱間は2.75m、桁間最大柱間は2.88mを測る。建物面積は5.73m²を測る。柱穴は4基検出された。桁行方向はN-79.5°-Wを測り、方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径28cm、最大直径33cm、最浅深度8.0cm、最深深度23cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

119号掘立柱建物跡 (SA7119) (第153図)

松吉地区、Loc.2・αIV・L20、L1、K20、K1グリッドにて検出。2間(3.75m)×2間(5.38m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は3.13mを測る。建物面積は19.04m²を測る。柱穴は8基検出された。桁行方向はN-86.5°-Wを

測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径38cm、最大直径55cm、最浅深度23cm、最深深度35cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は18cm、最浅深度は23cm、最深深度は33cmを測る。EP3において結晶片岩製根石が検出された。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

120号掘立柱建物跡 (SA7120) (第154図)

松吉地区、Loc.2・αIV・J1、K1グリッドにて検出。2間(3.75m)×3間(4.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.63m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.25m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は16.04m²を測る。柱穴は8基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-3°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径50cm、最浅深度23cm、最深深度45cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

121号掘立柱建物跡 (SA7121) (第155図)

松吉地区、Loc.2・αIV・J2、K2グリッドにて検出。1間(3.88m)×3間(4.75m)の側柱建物である。梁間最小柱間は3.75m、梁間最大柱間は3.88m、桁間最小柱間は1.38m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は17.74m²を測る。柱穴は8基検出された。桁行方向はN-5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は方形を呈する。柱掘形規模は最小直径33cm、最大直径53cm、最浅深度25cm、最深深度65cmを測る。EP1、8において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は15cm、最浅深度は38cm、最深深度は48cmを測る。根石は未検出である。

時期は古墳時代後期である。

122号掘立柱建物跡 (SA7122) (第156図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I1、I2グリッドにて検出。1間(1.38m)×3間(4.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.25m、梁間最大柱間は1.38m、桁間最小柱間は1.13m、桁間最大柱間は1.75mを測る。建物面積は5.99m²を測る。柱穴は7基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-81°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径40cm、最浅深度15cm、最深深度28cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

123号掘立柱建物跡 (SA7123) (第157図)

松吉地区、Loc.2・αIV・I20、I1J20、J1グリッドにて検出。2間(4.0m)×4間(6.75m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.83m、梁間最大柱間は2.13m、桁間最小柱間は1.5m、桁間最大柱間は1.88mを測る。建物面積は25.79m²を測る。柱穴は11基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-87.2°-Eを測り、東西方向を指向する。各柱穴において柱穴は円形を呈する。柱掘形

規模は最小直径50cm、最大直径90cm、最浅深度18cm、最深深度40cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より鉄滓1が出土したが、掘立柱建物内には鍛冶炉等の遺構は検出されていない。よって鍛冶工房として考える必要はない。鉄滓1は中世遺物である可能性を想定する必要がある。

時期は古墳時代後期である。

124号掘立柱建物跡 (SA7124) (第158図)

松吉地区、Loc.2・αIV・G18、G19、H18、H19グリッドにて検出。2間(3.83m)×2間(4.63m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.78m、梁間最大柱間は2.08m、桁間最小柱間は2.05m、桁間最大柱間は2.55mを測る。建物面積は17.0m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-89°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径20cm、最大直径45cm、最浅深度10cm、最深深度48cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径10cm、最大直径は13cm、最浅深度は38cm、最深深度は48cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。須恵器1は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

125号掘立柱建物 (SA7125) (第159図)

松吉地区、Loc.2・αIV・G1、G2グリッドにて検出。1間(1.7m)×2間(3.58m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.75m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は6.33m²を測る。柱穴は5基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-12°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径45cm、最浅深度10cm、最深深度53cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1、2が出土。須恵器1は杯身である。須恵器2は杯身である。

時期は古墳時代後期である。

126号掘立柱建物跡 (SA7126) (第160図)

松吉地区、Loc.2・αIV・G1、G2、F1、F2グリッドにて検出。1間(2.63m)×2間(4.1m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.5m、梁間最大柱間は2.63m、桁間最小柱間は1.75m、桁間最大柱間は2.0mを測る。建物面積は10.23m²を測る。柱穴は5基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-13°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径35cm、最大直径40cm、最浅深度15cm、最深深度63cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最浅深度は40cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

127号掘立柱建物跡 (SA7127) (第161図)

松吉地区、Loc.2・αIV・O6、P6グリッドにて検出。1間(2.5m)×2間(3.5m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.38m、梁間最大柱間は2.5m、桁間最小柱間は3.5mを測る。建物面積は8.48m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-9.7°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を

呈する。柱掘形規模は最小直径30cm、最大直径45cm、最浅深度8.0cm、最深深度28cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より須恵器1が出土。須恵器1は杯蓋である。

時期は古墳時代後期である。

128号掘立柱建物跡 (SA7128) (第162図)

松吉地区、Loc.2・αIV・O8、O9、P8、P9グリッドにて検出。2間(3.75m)×3間(6.0m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.35m、梁間最大柱間は2.03m、桁間最小柱間は1.9m、桁間最大柱間は2.15mを測る。建物面積は19.45m²を測る。柱穴は12基検出された。桁行方向はN-87°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径83cm、最浅深度13cm、最深深度25cmを測る。柱痕は未確認である。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

129号掘立柱建物跡 (SA7129) (第163図)

松吉地区、Loc.2・αIV・O9、O10、P9、P10グリッドにて検出。1間(2.60m)×2間(4.63m)の側柱建物である。梁間最小柱間は2.23m、梁間最大柱間は2.63m、桁間最小柱間は2.0m、桁間最大柱間は2.13mを測る。建物面積は10.26m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径23cm、最大直径58cm、最浅深度10cm、最深深度18cmを測る。EP4において柱痕が確認された。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

130号掘立柱建物 (SA7130) (第164図)

松吉地区、Loc.2・αIV・P12、P13、Q12、Q13グリッドにて検出。2間(3.25m)×2間(4.25m)の総柱建物である。梁間最小柱間は1.38m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.88m、桁間最大柱間は2.25mを測る。建物面積は14.23m²を測る。柱穴は9基検出された。桁行方向はN-84°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径60cm、最浅深度5.0cm、最深深度23cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径23cm、最浅深度は23cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

131号掘立柱建物跡 (SA7131) (第165図)

新貝地区、Loc.2・αV・J5、J6、K5、K6グリッドにて検出。3間(5.5m)×5間(10.13m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.33m、梁間最大柱間は2.15m、桁間最小柱間は1.75m、桁間最大柱間は2.75mを測る。建物面積は53.07m²を測る。柱穴は16基検出された。桁行方向はN-75.5°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径25cm、最大直径58cm、最浅

深度20cm、最深深度63cmを測る。柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径18cm、最大直径は23cm、最浅深度は15cm、最深深度は30cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

132号掘立柱建物跡 (SA7132) (第166図)

新貝地区、Loc.2・αV・K14、L14グリッドにて検出。1間(1.83m)×2間(3.43m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.83m、桁間最小柱間は1.3m、桁間最大柱間は2.05mを測る。建物面積は5.93m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-12.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径43cm、最大直径63cm、最浅深度30cm、最深深度48cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径15cm、最大直径は20cm、最浅深度は25cm、最深深度は30cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

133号掘立柱建物跡 (SA7133) (第167図)

新貝地区、Loc.2・αV・L15、L16グリッドにて検出。1間(2.0m)×2間(2.93m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.83m、梁間最大柱間は2.0m、桁間最小柱間は1.38m、桁間最大柱間は1.5mを測る。建物面積は5.97m²を測る。柱穴は6基検出された。桁行方向はN-7.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径30cm、最大直径50cm、最浅深度28cm、最深深度40cmを測る。EP1～3において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は15cm、最浅深度は30cm、最深深度は38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

134号掘立柱建物跡 (SA7134) (第168図)

新貝地区、Loc.2・αV・M15、M16、N15、N16グリッドにて検出。2間(3.13m)×3間(4.13m)の側柱建物である。梁間最小柱間は1.5m、梁間最大柱間は1.63m、桁間最小柱間は1.25m、桁間最大柱間は1.5mを測る。建物面積は13.09m²を測る。柱穴は10基検出された。桁行方向はN-1.5°-Eを測り、南北方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径40cm、最大直径55cm、最浅深度28cm、最深深度55cmを測る。各柱穴において柱痕が確認された。柱痕規模は最小直径13cm、最大直径は20cm、最浅深度は23cm、最深深度は48cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

135号掘立柱建物跡 (SA7135) (第169図)

新貝地区、Loc.2・αV・F12、F13グリッドにて検出。2間(2.7m)×1間(3.55m)以上の側柱建物である。建物北側が調査対象地外へと拡がるために規模等は不明である。梁間最小柱間は1.2m、梁

間最大柱間は1.5m、桁間最小柱間は1.63m、桁間最大柱間は1.75mを測る。検出建物面積は9.15m²を測る。柱穴は7基検出された。一部に未検出の柱穴が存在する。桁行方向はN-80°-Wを測り、東西方向を指向する。柱穴は円形を呈する。柱掘形規模は最小直径43cm、最大直径63cm、最浅深度28cm、最深深度38cmを測る。根石は未検出である。

柱穴内より土器片が出土したが、図化は出来ない。

時期は古墳時代後期である。

② 竪穴式住居（第170～175図）

西側微高地に該当する大船渡地区、鳥井地区、大坪地区において、竪穴式住居が検出されたのは鳥井地区のみである。竪穴式住居は微高地高所を占める鳥井地区北側約1/3の範囲を中心に検出された。鳥井地区で検出された竪穴式住居11軒は、西側微高地縁辺部に位置し、微高地全体に展開すると推定される集落の南東縁辺部に該当する。竪穴住居は南東側に集中し、一部の竪穴住居は古代以降の水田に削平されていることから、南側にも集落が展開していた可能性が高い。

馬の背状自然堤防に該当する大坪地区、横田地区、カワラケメン地区からは79軒の竪穴式住居が検出された。特に自然堤防の最高箇所には該当するカワラケメン地区における竪穴住居の遺構密度は濃密で、約60軒が検出された。なお竪穴式住居には鍛冶工房も含まれている。横田地区からは18軒が検出された。

東側微高地に該当する馬のシャクリ地区、松吉地区、新貝地区からは約90軒検出された。東側微高地最高所は松吉地区北西付近となる。竪穴式住居は微高地西斜面に該当する馬のシャクリ地区の遺構密度が高い。当該地は主に中・小型竪穴式住居が構築されている。一方、南側では遺構密度は低くなるが、大型竪穴式住居が構築されている。微高地東側の新貝地区西側約1/4に中・小型竪穴式住居が集中する。

なお、竪穴式住居の床面積30㎡以上を大型、20～30㎡を中型、20㎡未満を小型とする。

また、遺構掲載スケールは、全体遺構図・全体遺物出土状況図はS=1/50に、柱穴(EP)・周壁溝(ED)土層図はS=1/50に、竈(EH)遺構図・竈下部構造図・土坑(EK)遺構図・竈内遺物出土状況図・土坑内遺物出土状況図はS=1/20に統一されている。遺物掲載スケールは須恵器・土師器はS=1/3（無印）に、鉄器・鍛冶関連遺物（鉄滓、羽口等）はS=2/3（無印）に、石器はS=1/2（無印）と1/3（●印）に統一されている。

1号竪穴式住居（SB7001）（第176～179図）

松吉地区、O3、O4グリッドにて検出。西側微高地の南東側斜面部に立地する竪穴式住居である。西群集落南東側縁辺に位置する。住居北辺部の竈煙道部と壁を除いて、中世水田に大きく削平を受けている。

形態・規模

平面形態は方形を呈すると推定される。残存主軸長は1.3m、深度は26.0cm、残存床面積1.02㎡、内区面積5.46㎡を測る。主軸方位はN-3°-Wを測る。

土層

遺構内覆土は水田造成時に削平されており、殆ど残存していない。僅かに北西側壁部に黄褐色粘性砂質土層が検出されたのみである。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.75m、EP2-3間は1.75m、EP3-4間は2.25m、EP4-1間は2.3mを測る。

EP1内覆土は1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄色シルト質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層は黄褐色シルト質土層、5層はにぶい黄色粘質土層である。EP2内覆土は1層は黄褐色粘性債津土層、2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は1～4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色

シルト質土層である。

周壁溝は北西側壁部において検出された。上端幅30cm、底面幅15cmを測る。

竈

竈 EH1 は住居北壁中央部に構築されている。袖や支脚は既に削平されており、煙道部と下部構造のみが検出された。竈主軸方位は N-10°-W を測る。煙道長は95cm、煙道幅は31cmを測る。竈下部構造が構築されている。平面形態は不整円形を呈し、主軸長80cm、幅100cm、深度14cmを測る。

竈内土層は12層に分層出来る。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は暗褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層である。

6層上面には焼土層が拡がっており、竈使用時の燃焼部下面と推定される。9層上面には被熱による焼け込みが確認され、竈燃焼部から煙道にかけての壁面と推定される。2層は煙道天井部と推定される。2層下面には被熱による焼け込みが確認され、更に炭化物層が堆積している。3、4層は煙道内堆積土である。3層中にはにぶい黄褐色粘性砂質土ブロックや炭化物が含まれる。4層中には直径2cm程度の焼土ブロックや極小粒の炭化粒が含まれる。6～13層が竈下部構造埋土である。

遺物出土状況

削平により遺物は殆ど検出されなかった。僅かに竈西側部分壁際より土師器甕の胴部片が出土した。図化は出来ない。

時期

古墳時代後期と推定される。

2号竪穴式住居 (SB7002) (第180～193図)

鳥井地区、N19、O20グリッドにて検出。西側側微高地の南縁部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.400mを測る。西群群集落に属する。南側を中世以降の水田遺構により削平を受けており、北側約3/4のみの検出となった。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.2m、深度は38cm、残存床面積26.24m²、残存内区面積8.53m²、主軸方位は N-17°-W を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層で炭化物を若干含む。2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。3層はオリーブ褐色粘性砂質土層で炭化物を若干含む。4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。5層は黄褐色粘性砂質土層である。6層は灰黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。7層は黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。11層は黄褐色粘性砂質土層である。12層は黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.26m、EP2-3間は2.36m、EP3-4

間は2.15m、EP4-1間は2.3mを測る。

EP1内覆土は9層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6、7層は黄褐色粘性砂質土層、8、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は4層に分層でき、1、2層は鈍い黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は6層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は長軸155cm、深度30cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は焼土層（褐色粘性砂質土層）で炭化物を大量に含み、3層は黄褐色粘性砂質土層である。土器は2層中より出土。

周壁溝は幅35cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1、2層は褐色粘性砂質土層、3、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅64cm、燃烧部最大幅51cm、支脚-焚口間36cm、支脚-奥壁間37cm、煙道長128cm、煙道幅42cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃烧部覆土は1~23層である。

下部構造として円形を呈する土坑が掘削されている。長軸134cm、短軸133cm、深度7cmを測る。下部構造埋土は24~29層である。

竈内覆土は22層に分層でき、1、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で炭化粒を含み、2、15層は黄褐色粘性砂質土層で炭化粒を含み、4、18層は灰黄褐色粘性砂質土層で炭化粒・焼土を含み、6層は褐色砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層で炭化物・焼土を含み、13、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で焼土を含み、竈天井部崩落前に堆積したと推定される。16層は褐色砂質土層で炭化物・焼土を含み、竈天井部崩落前に堆積したと推定される。17、19、20、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22、23層は褐色粘性砂質土層（焼土層）で炭化物や土器片を含み、24層は黄褐色粘性砂質土層、25、31、35層は褐色粘性砂質土層（焼土層）で燃烧部下部の焼き込み面と推定される。26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。30、32、33、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で竈袖部である。

遺物出土状況

遺物は住居覆土中層および床面直上を中心に出土した。中層からは須恵器杯9や無蓋高杯10が出土。床面直上からは須恵器杯蓋2、3が出土。遺物の大半は竈内およびEK1を中心に検出された。竈内からは土師器甕13、15が燃烧部を中心に検出された。甕15は口縁部を下に向けて出土しており、竈支脚として使用されたと推定される。甕13は煮沸具として使用されたと推定されるが、破片がEK1からも出土しており原位置を保つものではない。

出土遺物

須恵器杯蓋5天井部には刺突文が施されている。須恵器杯8、9は口縁端部が外反するやや特異な器

形である。土師器甕17は外面には明瞭な頸部を有さない。鉢として分類する必要も想定しなければならない。土師器鉢は18～21である。18のように椀状を呈する器形と、19、20のように杯状を呈する器形と、21のように外方へ開く器形がある。鉄器2185-1は馬具である。鍔踏込金具である。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

3号竪穴式住居 (SB7003) (第194～198図)

鳥井地区、O20グリッドにて検出。西側微高地の南縁部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.4mを測る。西群集落に属する。西側をSB7002に削平されている。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は不明、深度は18cm、残存床面積23.51m²、内区面積8.55m²を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層は暗灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層で炭化物や土器を含み、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.05m、EP2-3間は2.825m、EP3-5間は2.2m、EP5-1間は2.7mを測る。EP1内覆土は9層に分層でき、1、4、9、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2、7層は黄褐色砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4、5、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は5層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は6層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は6層に分層でき、1、2、3、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内遺構覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。しかし、削平により下部構造のみの検出となった。下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸153cm、短軸151cm、深度11cmを測る。下部構造埋土は4.5層である。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層で、上面に明褐色粘性砂質土層（焼土層）が薄く堆積している。2、3層は褐色粘性砂質土層（焼土層）で、2層は燃焼部～煙道部にかけての天井部が崩落したものと推定される。3層は使用による焼け込み面と推定される。4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

住居覆土内からは須恵器1が出土。竈下部構造埋土からは土師器甕の破片が出土した。この甕破片が竈構築に伴い先行して埋められたものかどうかは不明である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

4号竪穴式住居（SB7004）（第199～206図）

鳥井地区、R14、15グリッドにて検出。西側微高地の南縁部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.7mを測る。西群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.75m、深度は25cm、床面積18.09m²、内区面積5.04m²を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は24層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2～5層は黄褐色粘性砂質土層で、5、9層は炭化物を含む。6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は暗灰黄色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層で、煙道部天井崩落土を含む。11層は暗灰黄色粘性砂質土層、12層は焼土層で、燃烧部内灰・焼土堆積層、13、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で、13層は焼土・炭化物を含む。16層は明褐色粘性砂質土層で、炭化物を含む。17、18、19層は黄褐色粘性砂質土層、20、21、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23、24層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は6基検出された。4本柱構造である。EP1－2間は2.35m、EP2－4間は2m、EP4－5間は2.3m、EP5－1間は2.05mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1～4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2、3内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は5層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP5内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP6内遺構覆土は6層に分層でき、1～6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅35cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は3層に分層でき、1～3層は黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1内遺構覆土は4層に分層でき、1、4層はオリーブ褐色砂質土層、2、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK2内遺構覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層（焼土層）で、炭化物と土器を含む。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅68cm、燃烧部最大幅40cm、支脚－焚口間29cm、支脚－奥壁間20cm、煙道長27cm、煙道幅22cm、支脚高17cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広が

る。

燃焼部覆土は2、9、10、11、12、18、24層である。南北方向土層は15層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9、10層は黄褐色粘性砂質土層で、10層は煙道天井部崩落土を含む。11層は暗灰黄色粘性砂質土層、12層は焼土層で、燃焼部内堆積土である。14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。17、18、19層は黄褐色粘性砂質土層、20、21、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23、24層は黄褐色粘性砂質土層である。東西方向土層は20層に分層でき、2層はオリーブ褐色砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は赤褐色粘質土層で、天井被熱部崩落土である。12層は褐色粘性砂質土層、19層は明褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26、29層は浅黄色粘性砂質土層、27層は明褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30、31層は黄褐色粘性砂質土層で、30層は焼土を含む。32、33、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層である。

下部構造として円形を呈する土坑が掘削されている。長軸117cm、短軸117cm、深度17cmを測る。下部構造埋土は17、19、20～24層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺と南西隅のEK2を中心に出土した。EK2床面には焼土が検出された。須恵器1と土師器3はEK上面より出土した。竈燃焼部からは土師器甕4が出土した。甕4は口縁部を竈下部構造埋土内に埋め、底部を上に向けた状態で出土したことから竈支脚として使用されたことがわかる。竈燃焼部および右袖外側より土師器甕5が出土した。底部は右袖外側より、口縁部は竈内燃焼部より出土した。右袖上面を中心に東西に分割されており、上方からの落下（投棄）行為も想定される。竈燃焼部左袖付近からは土師器甕6が出土した。

出土遺物

須恵器杯身1の底部外面には手持ちヘラ削りが施されている。土師器甕4は竈支脚として使用されたために、外面は被熱赤変が観察される。甕5は硬度の焼成であり、胎土にも金雲母を含んでおり領家帯（香川、愛媛）の粘土を使用する地域からの搬入品の可能性もある。甕6は胴部外面に粘土が付着している。この粘土は竈固定用粘土と推定され、本来の煮沸具であったと推定される。サヌイカト製石鏃7、8は流れ込みである。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

5号竪穴式住居（SB7005）（第207～215図）

鳥井地区、O15、P15グリッドにて検出。西側微高地の南縁部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.7mを測る。西群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.38m、深度は38cm、床面積37.1m²、内区面積11.68m²を測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は46層に分層できる。1～5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で、2層は焼土粒を含む。6

層は褐色粘性砂質土層で炭化粒を含む。7、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で、8層は炭化物を含む。9層は暗褐色粘性砂質土層で、焼土・炭化粒を含む。10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層で炭化物・焼土を含む。12層は黄褐色砂質土層で焼土粒・炭化粒を含む。13、14層は褐色粘性砂質土層で炭化物・焼土を含む。15層は黄褐色シルト質土層で、住居壁面からの崩落土層である。16、17層は褐色粘性砂質土層で炭化物・焼土粒を含む。18層は褐色粘質土層、19層は黄褐色砂質土層で焼土を含む。20～22、24層は暗褐色粘性砂質土層で、21、24層は焼土を含む。23層は暗褐色粘質土層で焼土粒・炭化粒を含む。25層は褐色粘性砂質土層で炭化粒を含む。26層は黒褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.85m、EP2-3間は3.25m、EP3-4間は2.13m、EP4-1間は3.4mを測る。EP1内覆土は10層に分層でき、1、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7、8層はオリーブ褐色粘質土層、9層は黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は12層に分層でき、1、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2～8層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層はにぶい黄色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は9層に分層でき、1層はにぶい黄色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄色砂質土層、9層は黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は8層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2～4層は黄褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層である。

周壁溝は幅80cm、深度10cmを測る。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Eを測る。支脚は砂岩製である。支脚は2基設置されている。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅85cm、燃焼部最大幅60cm、支脚-焚口間20cm、支脚-奥壁間35cm、煙道長38cm、煙道幅25cm、支脚高13cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は19、20、28～34、48、49層である。袖部構築土は50、51、52層である。

竈内覆土は28～30層は黄褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘質土層、32層は黒褐色粘性砂質土層で、燃焼部内灰・焼土を含む33層は極暗赤褐色粘性砂質土層で、焼土・天井崩落土を含む。35、36、37層は褐色粘性砂質土層で、36、37層は焼土層である。38、39、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で、39、40層は焼土・炭化物を含む。41層は黄褐色粘性砂質土層、42、43、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43、44層は焼土・炭化物を含む。45、46、47層は黄褐色粘性砂質土層で、45、47層は焼土を含む。48層は暗褐色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含む。49層は褐色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含み、天井崩落土と推定される。50層は黄褐色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層（焼土層）、52、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層は黄褐色砂質土層、55、56層は褐色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含む。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸127cm、短軸124cm、深度18cmを測る。下部構造埋土は36～47層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺より出土した。住居覆土中からは須恵器器台2と高杯3が出土したのみである。いずれも碎片であり流れ込みの可能性がある。竈右側前面(EP1)付近から土師器甕7が床面直上より集中して出土した。竈燃焼部内からは土師器甕8が集中して出土した。いずれも砂岩製支脚の周辺、燃焼面よりやや浮いた状態で出土した。竈右袖上面より須恵器杯蓋1が伏せた状態で出土した。蓋杯1は完形での出土であり、当住居に帰属するものである。

出土遺物

土師器甕7は平底底部に口径に比して長胴化した胴部を有する。外面は丁寧な棒状工具によるナデが施されている。土師器甕8は丸底底部に幅広の胴部を有する。胴部中央部には竈固定用粘土が付着する。本来の煮沸具であったと推定される。土師器甕9は把手付近のみの出土である。8、9の胎土は似ているが、7の胎土と焼成は肉眼観察による限り違う。鉄器2186-1は鉄鏝である。片刃箭の切先である。なお刀子の可能性もある。サヌカイト製スクレイパー10とサヌカイト製石鏝11は流れ込みである。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

6号竪穴式住居 (SB7006) (第216～223図)

鳥井地区、M14、N15グリッドにて検出。西側微高地の南側緩斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.4mを測る。西群集落に属する。南側を近代以降の水田により削平されている。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。検出主軸長は1.38m、直交軸長は4.5m、深度は25cm、検出床面積6.34㎡、内区面積1.95㎡を測る。中型の竪穴式住居と推定される。

土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4、6、7、8、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12、13層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は0.8m、EP2-3間は1.75m、EP3-4間は0.93m、EP4-1間は1.2mを測る。EP1、EP4内覆土は6層に分層でき、1、3、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅47.5cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は4層に分層でき、1、3、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅58cm、燃焼部最大幅40cm、支脚-焚口間26cm、支脚-奥壁間34cm、煙道長21cm、煙道幅22cm、支脚高19cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は11、14、15、16、17.25層である。袖部構築土は27、28、29、31、32、33層である。

竈内覆土は24層に分層でき、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層は赤褐色粘質土層で焼土を含む。

16、26層は褐色粘質土層で焼土・灰・炭化物を含む。17層は赤褐色粘性砂質土層で火床である。18層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化物・焼土を含む。19、20層はオリーブ褐色粘質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層はオリーブ褐色粘質土層、23層は黄褐色粘質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘質土層、24、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層は褐色砂質土層、28層は黄褐色砂質土層、29、30層は黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。31層は褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で焼土を含む。33層は黄褐色粘性砂質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸114cm、短軸110cm、深度25cmを測る。下部構造埋土は18～25、35～38層である。

遺物出土状況

住居覆土中層より粘土塊3、須恵器蓋杯5、6が出土。竈左袖外側の床面直上からは砥石9が出土。主要遺物は竈および焚口部付近を中心に出土した。竈焚口部前面には掻き出しによる灰層が広がっており、土師器甑8や土師器甕7の口縁部が出土した。竈燃焼部からは砂岩製支脚10が原位置を保った状態で検出された。竈燃焼部支脚周辺の燃焼面からやや浮いた状態で甑8や甕7の胴部片が集中して出土した。

出土遺物

粘土塊1～4は弧を描く端部を有することから轆羽口と推定される。ただし、操業に伴う赤変硬化や鉄滓やガラス滓の付着が認められないことから、轆本体側の部位と推定される。土師器甕7は丸底化した底部と口径に比して長胴化した胴部を有する。土師器甑8はつつ抜けタイプの底部と把手を有する。砂岩礫10は竈支脚である。上部の網掛け部が被熱部に該当する。一部に敲打痕や剥離痕が観察される。結晶片岩礫11は用途不明である。上面に大きな剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

7号竪穴式住居（SB7007）（第224～230図）

鳥居地区、P12、P13、Q12、Q13グリッドにて検出。西側微高地の南側縁辺部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.73mを測る。西群集落に属する。南側約2/3を近代以降の水田造成時に削平を受けており、北壁を除いて柱穴だけの検出となった。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1.63m、直交軸長は5.5m、深度は28cm、残存床面積6.46㎡、内区面積7.22㎡、推定床面積30.25㎡を測る。住居主軸方位はN-19°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は5層に分層できる。2層は暗赤褐色粘性砂質土層で焼土を含む。13層はオリーブ褐色粘質土層で張床硬化面である。14、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.1m、EP2-3間は2.35m、EP3-4間は2.05m、EP4-1間は2.4mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土

層、2、3層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は3層に分層でき、1～3層は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は3層に分層でき、1、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅90cm、燃焼部最大幅57cm、煙道長17cm、煙道幅33cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は1～5、8層である。袖部構築土は10層である。

竈内覆土は12層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層で焼土を含む。2層は暗赤褐色粘性砂質土層で焼土を含む。3層は褐色粘性砂質土層で焼土・炭化粒を含む。4層は赤褐色粘性砂質土層で天井被熱部崩落土である。6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は明赤褐色粘性砂質土層、8、9層は赤褐色粘質土層で、8層は袖部被熱赤変部、9層は火床である。10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸116cm、短軸89cm、深度17cmを測る。下部構造埋土は9、11、12層である。

遺物出土状況

古代以降の削平により遺構覆土の残存状況は良好とは言えない。住居北東隅に焼土面が、竈左外側に焼土面や炭化物層が拡がることから焼失住居の可能性がある。しかし、床面直上レベルでの遺物出土量は総じて少ない。これがカタツケ行為に起因するものか、古代以降の削平に起因するものかは不明である。

竈左袖外側付近を中心に須恵器甕3が検出された。竈内燃焼部より土師器甕4とガラス小玉5が出土した。

出土遺物

須恵器杯身1は底部に「×」形を呈するヘラ記号が施されている。須恵器杯身2は流れ込みの可能性がある。須恵器甕3は大甕の胴下部である。外面は平行タタキ施後にユビナデが施されている。土師器甕4は口径に比して長胴化した胴部を有する。ガラス小玉5はブルー系で、穿孔沿いに細長く伸びた気泡が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

8号竪穴式住居（SB7008）（第231～246図）

鳥井地区、N13、N14グリッドにて検出。西側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.3mを測る。西群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は3.63m、深度は18cm、床面積17.74m²、内区面積4.91m²、主軸方位はN-3°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。鍛冶関連遺物が出土しており、鍛冶工房の可能性もある。

土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2、4層は灰黄色粘性砂質土層、3、5層は暗灰黄色粘性砂質土層で、3層は炭化物を、5層は焼土を含む。6層は黄褐色粘性砂質土層で焼土を含む。7層は暗灰黄色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含む。8層は灰黄色粘性砂質土層で炭化物を含む。9は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.1m、EP2-3間は2.7m、EP3-4間は1.2m、EP4-1間は2.35mを測る。EP1、2内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は5層に分層でき、1～4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は7層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2～6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は3層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

EP1-2間において土坑EK1が検出された。平面形態は不整楕円形を呈する。長軸74cm、短軸54cm、深度12cmを測る。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-2°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅80cm、燃烧部最大幅37cm、支脚-焚口間43cm、支脚-奥壁間11cm、煙道長32cm、煙道幅49cm、支脚高17cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃烧部覆土は1、3、7、11～13、39、40、21～24層である。袖部構築土は25～30層である。

竈内覆土は37層に分層できる。11層は黒褐色粘性砂質土層で炭化粒・焼土を含む。12層は黄灰色砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層は暗灰黄色粘質土層（焼土層）で炭化物を含む。15層は明赤褐色粘質土層（焼土層）、16、17、18層は黄褐色粘質土層で、16層は焼土を含む。19、20層は黄褐色粘性砂質土層で、20層は炭化物を含む。21層は褐色粘性砂質土層で被熱赤変袖部である。22層は赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、23層は赤褐色粘性砂質土層で被熱赤変袖部である。24、25層は橙色粘性砂質土層（焼土層）、26層は明赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、27層は暗灰黄色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含む。28、29層は黄褐色粘性砂質土層で、28層は焼土・炭化粒を含む。30層は明赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層は暗灰黄色粘性砂質土層で焼土を含む。33～37層は黄褐色粘性砂質土層、38層は暗灰黄色粘性砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層は黒褐色粘性砂質土層、43層は明黄褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層は黒褐色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含む。46、47層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整五角形を呈する土坑が掘削されている。長軸131cm、短軸99cm、深度18cmを測る。下部構造埋土は15～20、31～37層である。

遺物出土状況

遺物の遺存状態は良好である。住居北東隅からは骨片（図中の□）が50×30cmの範囲に拡がって出土した。EP2南側と東壁沿いからは土師器甕22が出土した。EP1、2周辺からは土師器甕28が出土した。

竈前面のEP1-4ライン付近からは須恵器杯7、高杯16、甕19、土師器甕21、30、甗38がまとまって出土した。EK1内より土師器甕23が結晶片岩礫とともに出土している。

竈内からの遺物出土量は少ない。砂岩製支脚は遺存しているが、竈燃焼部内からの土器類の出土は少ない。わずかに鉄器2187-2が焚口部より出土したのみである。

なお、内区を中心に砂岩礫や結晶片岩礫が比較的多く出土している。これらの自然礫や台石の類を鍛冶関連遺物として認識する必要性も考慮しなければならない。鍛冶炉は未検出である。しかし、鞆羽口や鍛冶滓が出土したり、敲石(42、43、44)の出土量は他住居に比べて多いことから、SB7008は鍛冶工房の可能性も想定されよう。

出土遺物

須恵器杯蓋1天井部には「+」状のヘラ記号が施されている。杯蓋2天井部には「○」状のヘラ記号が施されている。杯12は口縁端部が外反し、明瞭な平底を有する。いわゆる「異形杯」の範疇に含まれるものであろう。高杯16は口縁端部に打ち欠きが施されている。砥石46は結晶編岩河原石製で、上面に擦痕が観察される。また右側面には敲打痕も観察される。砥石47は砂岩製である。敲石43、44は礫の角を使用した敲打を行っている。不明石器52は大型の結晶片岩割石である。不明石器53は大型の砂岩割石である。52、53共に用途は不明である。54、55、56、64は鞆羽口である。57~62は鍛冶滓である。63も鍛冶滓であるが、メタル部分が残る。玉69は滑石製の扁平な白玉である。管玉70は碧玉製である。上部に製作時の剥離痕が残る。鉄器2187-1は曲刃鎌である。基部に折り返しはない。鉄器2187-2は刀子茎部である。鉄器2187-3は不明鉄器である。先端が四角錘状に尖っている。鉄器2187-4は鑿である。先端部が潰れており、使用痕と推定される。鉄器2187-5は棒状を呈する不明鉄器である。鉄鏃もしくは未製品の可能性がある。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

9号竪穴式住居(SB7009)(第247~251図)

鳥井地区、N14グリッドにて検出。西側微高地の南側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.4mを測る。西群集落に属する。西側をSB7008に削平されている。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は0.88m、深度は16cm、残存床面積2.26m²、主軸方位はN-11°-Eを測る。中型の竪穴式住居と推定される。

土層

遺構内覆土は9層に分層できる。1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP1-2間は0.85mを測る。EP1、3内覆土は3層に分層でき、1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は3層に分層でき、1、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅37.5cm、深度12cmを測る。遺構内覆土は2層に分層でき、1、2層は黄褐色粘性砂質土層

である。

竈

竈は未検出である。

遺物出土状況

遺物は床面直上では検出されず、主に遺構覆土上・中層より出土している。住居の埋没最終過程段階を示すものと推定される。住居北東隅より結晶編岩礫2が出土。住居東壁沿いより須恵器杯身2が出土。

出土遺物

須恵器杯身2は底部に手持ちヘラケズリを施している。不明石器2は結晶片岩河原石製で下端部に敲打による剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

11号竪穴式住居（SB7011）（第252～259図）

鳥井地区、R20、R1グリッドにて検出。西側微高地の最高箇所付近に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高80.7mを測る。西群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.3m、深度は28cm、床面積19.6㎡、内区面積4.28㎡、主軸方位はN-10°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は8層に分層できる。1、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6～8層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は0.7m、EP2-3間は1.35m、EP3-4間は0.7m、EP4-1間は1.18mを測る。EP1内覆土は8層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6～8層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は6層に分層でき、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2～4層は黄褐色粘性砂質土層、5、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2～4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅50cm、深度15cmを測る。遺構内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅65cm、燃烧部最大幅45cm、支脚-焚口間29cm、支脚-奥壁間40cm、煙道長87cm、煙道幅37cm、支脚高17cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃烧部覆土は1、2、13、9～12、23層である。

9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はオリーブ黄色砂質土層で炭化物を含み、11、12層は褐色砂質土

層で、12層は煙道部堆積土で炭化物・焼土を含む。14層はにぶい黄色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含む、16層はにぶい黄色粘性砂質土層、17層はオリーブ褐色粘性砂質土層で土器片・炭化物を含む。18層はにぶい黄色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層で炭化物を含み、20、22層は褐色粘性砂質土層（焼土層）、21層は黄褐色粘性砂質土層で焼土・炭化物を含み、23層は黄褐色砂質土層で焼土・炭化物・灰層を含み、24層は灰黄褐色砂質土層で焼土・炭化物・灰層を含み、25、26層はにぶい黄褐色砂質土層で焼土を含み、27層は赤褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層は赤褐色砂質土層で焼土を含む。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土した。竈内には砂岩製支脚が遺存していた。竈燃焼部より須恵器杯蓋2、3、高杯6、土師器甕8、9が出土した。高杯6は燃焼部床面直上より脚部を切断した後に、伏せた状態で出土している。土師器甕類はいずれも破片での出土である。こうしたことから、竈廃絶後に廃絶に伴う祭祀行為が行われたものと推定される。

住居覆土中層より鍛冶滓12～20が出土しているが、鍛冶炉は未検出である。これら鍛冶滓が当該住居に伴うものか、流れ込みによる中世段階の鍛冶滓かは、判別が困難である。ただし周辺には鍛冶工房の可能性のあるSB7008が構築されていることや、鍛冶炉が未検出の竪穴式住居からも鉄滓が出土する例が多いことから、住居廃絶に伴う廃棄の可能性も想定できよう。

出土遺物

須恵器杯蓋2は天井部が明瞭な平底状を呈しており、杯身の可能性もある。高杯6は脚部を切断しており、打ち欠き土器の一種である。土師器11は手捏土器である。鉄滓12～20はいずれも小片である。メタルが遺存するものは少ない。鉄器2188-1は鉄鏃である。棘被篋である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

12号竪穴式住居（SB7012）（第260～264図）

大坪地区、I10、I11グリッドにて検出。馬の背状自然堤防の西端に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.25m、深度は48cm、床面積26.23m²、内区面積7.31m²を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は46層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は暗褐色粘質土層、5層は暗褐色粘性砂質土層で炭化物層を含む。6、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で、7層は炭化物を含み、8層は暗褐色粘質土層、9、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で、10層には炭化粒を含み、11層は暗灰黄色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13、14層は暗褐色粘質土層で焼土を含み、15層は暗灰黄色粘質土層、16層はオリーブ褐色粘質土層、17、18層は暗灰黄色粘質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は灰オリーブ粘性砂質土層、21層は暗褐色粘性砂質土層、22層は灰黄褐色粘質土層で炭化物を含み、23層は暗褐色粘質土層、24層は褐色粘質土層で煙道天井部崩落土と推定される。26層は暗褐色粘質土層、27層は褐色粘質土層で

竈燃焼部天井崩落土、28層は赤褐色粘質土層で竈燃焼部火床面である。29層は赤褐色粘質土層、30層は赤褐色シルト質土層、31層はオリーブ褐色粘質土層、32層は暗灰黄色粘質土層、33黄褐色粘質土層、34層は暗灰黄色粘質土層、35層は黄褐色シルト質土層で炭化物を含み、36層は灰オリーブ食粘性砂質土層、37層は黄褐色粘質土層、38層は暗灰黄色粘質土層、39層は暗灰黄色粘性砂質土層、40層は暗灰黄色粘質土層、41層は褐色粘質土層、42層は黄褐色粘質土層、43層はにぶい黄褐色粘質土層、44層は黄褐色粘質土層、45層は黄褐色粘質土層、46層はオリーブ褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP1-2間は2.5m、EP2-3間は1.85mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は6層に分層でき、1層は褐色粘性砂質土層、2～4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は暗オリーブ褐色粘質土層、6層は暗褐色粘質土層である。EP3内覆土は6層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は安価食粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅35cm、深度20cmを測る。

竈

竈は北西辺中央部において検出された。主軸方位はN-47°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅68cm、燃焼部最大幅49cm、支脚-焚口間32cm、支脚-奥壁間22cm、煙道長58cm、煙道幅28cm、支脚高23cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は1～6層である。1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい赤褐色粘質土層、3層は暗赤褐色粘質土層、4層は褐色粘質土層、5層は暗赤褐色粘質土層で、いずれも炭化物を含む。

遺物出土状況

遺物は竈内からのみの出土であった。住居覆土中からは須恵器甕1のみの出土であり、床面直上や覆土下層からの遺物出土は認められない。竈内には砂岩製支脚が遺存していた。遺物は主に竈燃焼部中層より出土した。支脚左奥から土師器高杯3が脚部を切断し、伏せた状態で置かれていた。支脚焚き口側からは土師器甕2、5がまとまって出土した。

出土遺物

土師器高杯6の内面には多数の敲打痕が観察され、敲打により脚部をはずしたと推定される。土師器甕2はやや尖底気味の丸底底部に、球形の体部を有する。土師器甕4は短く外反する口辺部を有する。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

13号竪穴式住居 (SB7013) (第265～271図)

横田地区、F14、G14グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.75m、深度は25cm、残存床面積10.48m²、内区面積2.7m²、住居主軸方位はN-8°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は18層に分層できる。1層は暗オリーブ色砂質土層、2層は暗赤褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、3～5層はオリーブ褐色砂質土層、6層は灰オリーブ色砂質土層、7層は暗赤褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、9層はオリーブ褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、10、11層は灰オリーブ色砂質土層で、10層は焼土・炭化物・骨片を含み、12層は赤褐色砂質土層で焼土を含み、13、14層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層で焼土を含み、18層は褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.48m、EP2-3間は0.85m、EP3-4間は1.75m、EP4-1間は1.2mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は4層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は3層に分層でき、1層は褐色砂質土層、2、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP5内覆土は4層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-11°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚き口部幅65cm、燃焼部最大幅33cm、支脚-焚き口間43cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長46cm、煙道幅35cm、支脚高20cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。竈内は21層に分層することができる。燃焼部覆土は1～9、21層である。1層は灰オリーブ色砂質土層で焼土を含み、2層は暗オリーブ色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、4層は暗赤褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、5層はオリーブ褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、6層は灰オリーブ色砂質土層で焼土・炭化物・骨片を含み、7層は灰オリーブ色砂質土層、8、9層はオリーブ褐色砂質土層、10層は赤褐色砂質土層で焼土を、11層は黄褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、12層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、13層はにぶい黄褐色で焼土・炭化物を含み、14層は褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層で焼土を含み、16層は褐色砂質土層、17層は暗褐色砂質土層で焼土を含み、18層は褐色粘性砂質土層、19、20、21層はオリーブ褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸193cm、短軸135cm、深度20cmを測る。下部構造埋土は10～20、22層である。

遺物出土状況

遺物は遺構覆土下層～床面直上を中心に出土した。EP2-3ライン付近に結晶片岩河原石（未図化）と共に須恵器杯1が出土した。竈内には砂岩製支脚が遺存していた。竈内燃焼部を中心に土師器甕5、8が出土した。遺物は竈内燃焼部中層よりの出土である。竈焚き口前面からは土師器甕8が出土した。

出土遺物

須恵器杯蓋1の天井部には手持ちヘラケズリが施されている。土師器6は直口壺である。土師器甕8は大型甕の胴部である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

14号竪穴式住居 (SB7014) (第272～277図)

横田地区、E15、E16、F15、F16グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.68m、深度は23cm、床面積20.09m²、内区面積5.41m²、住居主軸方位はN-20°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層で焼土を含み、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層で炭化物・焼土を含み、5層は褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層で焼土を含み、10層はにぶい赤褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.725m、EP2-3間は1.75m、EP3-4間は1.65m、EP4-1間は1.83mを測る。EP1内覆土は5層に分層でき、1、2層は暗オリーブ褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は6層に分層でき、1層は暗オリーブ褐色砂質土層、2～5層はオリーブ褐色砂質土層で炭化物を含み、6層は黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1層は暗オリーブ褐色砂質土層、2、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は5層に分層でき、1層は暗オリーブ褐色砂質土層、2～4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅100cm、燃焼部最大幅72cm、支脚-焚口間32cm、支脚-奥壁間5cm、煙道長42cm、煙道幅27cm、支脚高22cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は7～9層である。7層は黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9、18層はオリーブ褐色砂質土層で焼土を含み、10層はにぶい赤褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化物を含み、13層は褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層は黄褐色砂質土層、17、19層は褐色砂質土層、20層はオリーブ褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸150cm、短軸102.5cm、深度15cmを測る。下部構造埋土は10～14、17～20層である。

遺物出土状況

遺物は住居覆土中・上層より碎片となった状態で出土した。まとまった遺物の出土が見られるのは竈内のみである。竈内には砂岩製支脚が遺存していた。竈燃焼部より土師器甕8、椀9が出土した。土師器椀9は砂岩支脚付近より出土しており、竈廃絶に伴う祭祀行為の可能性が有る。

出土遺物

須恵器杯3底部にはヘラ記号が施されている。土師器椀9外面には成形時のユビオサエによるひび割れが残る。土師器10、11は甑破片である。10は把手、11は底部で、つつぬけ形となる。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅵ段階である。

15号竪穴式住居（SB7015）（第278～283図）

横田地区、C17、D18グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.4mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.08m、深度は35cm、床面積16.57m²、内区面積6.54m²、住居主軸方位はN-22°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1～3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、6層はオリーブ褐色で焼土を含む。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は2.4m、EP3-4間は1.78m、EP4-1間は2.5mを測る。EP1内覆土は褐色砂質土層である。EP2内覆土は1層に分層でき、褐色砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は2層に分層でき、1、2層は褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-23°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。残存焚口部幅56cm、燃烧部最大幅36cm、支脚-焚口間92cm、支脚-奥壁間37cm、残存煙道長24cm、残存煙道幅36cm、支脚高28cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。竈内覆土は6層に分層できる。燃烧部覆土は4～6層である。4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、6層はオリーブ褐色で焼土を含む。7、8層は褐色砂質土層で、7層は焼土を含む。9層はオリーブ褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。残存長軸48cm、残存短軸48cm、深度14cmを測る。下部構造埋土は7～9層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内からの出土であり、住居覆土床面直上～下層からは碎片のみの出土である。竈内には砂岩製支脚が遺存していた。竈燃烧部床面直上～中層の支脚周辺から土師器甕3が出土。胴部のみの出土である。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器瓶類2は口頸部のみの出土である。外面にはユビナデの痕跡が残る。土師器甕3は胴部のみの出土である。土師器壺4も胴部のみの出土である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅴ段階である。

16号竪穴式住居 (SB7016) (第284～294図)

横田地区、T11、T12、S11、S12グリッドにて検出。東西両微高地をつなぐ馬の背状自然堤防の南側側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.30mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.95m、深度は30cm、床面積35.48m²、内区面積7.02m²、主軸方位はN-6°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は炭化粒や焼土粒を含むにぶい黄褐色砂質土層、4層は炭化粒を含む褐色砂質土層、5層は炭化粒と焼土粒を含む暗褐色砂質土層、6層は焼土層、7層は炭化物と焼土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は炭化粒を含むにぶい黄褐色砂質土層、10層は炭化粒や焼土粒を多く含む褐色砂質土層、11層は焼土層と暗褐色砂質土層が混在する土層、12層は焼土層を含むにぶい黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.36m、EP2-3間は2.36m、EP3-4間は2.41m、EP4-1間は2.22mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は3層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、3層は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、5層は焼土粒や炭化粒を含む黄褐色砂質土層、6層は焼土粒を含むオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は暗灰黄色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は6層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、6層は焼土粒を含むオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は暗灰黄色砂質土層、9層は灰オリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は2層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層である。

周壁溝は幅20cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央において検出された。主軸方位はN-2°-Wを測る。竈支脚は遺存していない。焚口部幅76cm、燃焼部最大幅51cm、煙道長12cm、煙道幅40cmを測る。竈下部構造は円形の土坑が掘削されている。長軸130cm、短軸80cm、深度25cmを測る。

竈内覆土は35層に分層でき、1～4層および27～31層が燃焼部内覆土である。5～26層、32～35層が下部構造および袖部埋土である。1層は褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい赤褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層はにぶい赤褐色砂質土層、10層は灰オリーブ色砂質土層、11層は暗褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層は褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層は褐色砂質土層、25層は褐色砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層は赤褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層はオリーブ褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい赤褐色焼土層、32層は褐色砂質土層、33層は褐色砂質土層、34層は褐色砂質土層、35層は

褐色砂質土層である。煙道部覆土は、1層はにぶい赤褐色砂質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層は暗褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

焼失住居である。住居南西部付近を中心に炭化物層や焼土層が検出された。西側壁面付近ではアシもしくはワラ状の細い繊維が残る炭化物層が検出された。南側壁面付近では炭化材が検出された。

遺物は主に内区および竈付近を中心に検出された。内区中央部からは土師器23、24、25が、床面直上より出土した。EP2南側付近では須恵器1、10、13、砂岩礫29が床面からやや浮いた状態で検出された。

竈燃焼部内からは須恵器12、土師器22、24が検出された。右袖外側からは土師器21がほぼ完形の状態で検出された。これらの遺物は床面直上で検出された。

出土遺物

須恵器1は口縁端部に打ち欠きを施す杯蓋である。須恵器2～7は杯蓋である。須恵器8～17は杯身である。須恵器13は口縁端部に打ち欠きを施す杯身である。須恵器杯身10の底部には手持ちヘラケズリが施されている。須恵器杯身14の底部には手持ちヘラケズリが施されている。土師器21は完形の甕で、内外面共に板ナデが施されている。土師器22は竈内燃焼部において出土した甕である。21に比べてやや長胴化の傾向が認められる。底部を欠損するが、竈機能時に使用された個体と推定される。支脚ではない。砂岩礫29の右側外縁部には剥離痕が観察される。その機能・用途は不明である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

17号竪穴式住居（SB7018）（第295～302図）

横田地区、B2、B3グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.05m、深度は7cm、床面積14.98m²、内区面積3.6m²を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は2層に分層できる。1層は黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい赤褐色砂質土層、5層はにぶい黄色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は灰色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層はにぶい赤褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質

土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色砂質土層である。EP5内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP6内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-21°-Eを測る。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅82cm、燃焼部最大幅43cm、煙道長49cm、煙道幅35cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は11層に分層でき、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい赤褐色砂質土層、5層はにぶい黄色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は灰色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層はにぶい赤褐色砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層である。

燃焼部覆土は1、3、10層である。

下部構造として方形を呈する土坑が掘削されている。長軸88cm、短軸80cm、深度15cmを測る。下部構造埋土は2、4、5～9、11～14層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺から集中して出土している。竈内には支脚は遺存していない。竈内燃焼部床面付近からは須恵器杯4、土師器甕5が出土した。杯4は底部のみ、甕5は上半部のみの出土である。竈下部構造埋土内より土師器甕の胴部片が出土した。いずれも埋土中層中であり、竈構築前に破片を埋めたものと推定される。

なお、住居中央部から炭化材が、下層～中層にかけて斜めの状態で出土している。しかし、床面からは炭化物や焼土粒は検出されていない。焼失住居と考えるよりも、埋没過程において火を使用した痕跡と考える方が妥当であろう。なお、床面直上遺物が少ないことから、住居廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたものと推定される。

住居覆土中より鉄滓6～10が出土している。当住居には鍛冶炉は構築されておらず、住居埋没過程での流れ込み、もしくは鍛冶工房関連世帯が住居廃絶時に廃棄した可能性を考慮する必要がある。

出土遺物

須恵器杯身1は浅い身を持つ。須恵器杯身3は口縁端部に打ち欠きを施す。土師器甕5は上半部のみの凶化であるが、供伴する破片には底部片がある。鉄滓6～10はメタルの含有度が低い。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

18号竪穴式住居 (SB7018) (第303～312図)

横田地区、C3、D4グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。北東隅は調査対象地外である。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は4.3m、深度は15cm、残存床面積22.75m²、内区面積8.01m²、住居主軸方位はN-5°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は24層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は灰黄色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層は黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層は黄褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層はにぶい黄褐色砂質土層、24層は褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は6基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.1m、EP2-3間は2.9m、EP3-4間は1.78m、EP4-1間は3.1mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP5内覆土は、1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP6内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部が検出された。残存焚口部幅72cm、燃焼部最大幅31cm、支脚-焚口間51cm、支脚-奥壁間21cm、支脚高16cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として五角形を呈する土坑が掘削されている。長軸93cm、短軸78cm、深度20cmを測る。

1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は灰黄色砂質土層、9層は赤褐色砂質土層、10層は暗褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層は明黄褐色砂質土層、15層はにぶい赤褐色砂質土層、16層は黄褐色砂質土層、17層は明赤褐色砂質土層、18層はにぶい赤褐色砂質土層、19層は明黄褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層、21層は明黄褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層は灰オリーブ色粘質土層、29層はにぶい赤褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層は褐色砂質土層、33層は褐色砂質土層、34層は褐色砂質土層、35層は褐色砂質土層、36層は褐色砂質土層、37層は褐色砂質土層、38層は褐色砂質土層、39層は褐色砂質土層、40層は褐色砂質土層、41層は褐色砂質土層、42層はにぶい赤褐色砂質土層、43層はにぶい黄褐色砂質土層、44層は褐色砂質土層、45層は褐色砂質土層、46層はオリーブ黄色砂質土層、47層は褐色砂質土層、48層はにぶい黄褐色砂質土層、49層はオリーブ褐色粘性砂質土層、50層は褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈周辺と、住居北東隅から出土した。住居南壁付近の覆土上層中からは土師器甕15、16が

集中して出土した。この甑15はEP1付近の焼土層中からも破片が出土した。EP1北東側からも甑18が出土している。竈外左側からは須恵器杯2、3、土師器甕7、8、12がまとまって出土している。特に土師器甕7、8は、竈左袖外側に接する様に出土している。竈焚き口前面からは土師器甕12、13、鉢14が出土している。竈内には土師器甕製支脚甕6が遺存していた。底部を上に向けて頸部までを埋設した状態で出土しており、使用状況を反映している。

出土遺物

須恵器杯身2の受部はほぼ水平に拡がり、最大径は受部よりやや下位に位置する。須恵器杯身3は口縁端部に打ち欠きが施されている。土師器甕6は竈支脚で、調整技法は他の甕と共通している。甕7は球形を呈する体部に、ほぼ垂直に立ち上がる口辺部を有する。鉢14は平底底部に直線状に外方に拡がる体部を有する。甑15、16、17は、18底部つつぬけタイプである。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

19号竪穴式住居（SB7019）（第313～317図）

横田地区、T14、A14グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は不明、深度は12cm、残存床面積4.78㎡、残存内区面積1.7㎡、住居主軸方位はN-110°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。大柿遺跡内では西方向を指向する竈が伴う住居は珍しい。

土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色砂質土層、4層は灰オリーブ色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造と推定される。EP1-2間は1.7mを測る。EP1、2内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は西辺中央部において検出された。主軸方位はN-110°-Wを測る。煙道部が検出された。煙道長55cm、煙道幅55cmを測る。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸103cm、短軸88cm、深度5cmを測る。1層はオリーブ黄色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はオリーブ黄色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層は褐色砂質土層である。

遺物出土状況

住居覆土は削平を受けており遺存状態は良好とは言い難い。内区床面付近を中心に須恵器杯6、8、10、土師器甑15、不明石器16が出土した。

出土遺物

須恵器杯蓋2口縁端部外面にはヘラ描きによる斜め方向の沈線が施されている。須恵器杯10底部には赤色顔料が付着している。須恵器杯11は底部にヘラ記号が施されている。不明石器16は結晶片岩河原石で、周辺部に敲打による剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

20号竪穴式住居（SB7020）（第318～321図）

横田地区、A12、A13グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高77.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は不明、深度は5cm、残存床面積6.13m²を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は1基検出された。EP1内覆土は、1層は暗灰黄色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は調査対象地外のため未検出である。

遺物出土状況

EP1南側より須恵器杯身2、石器12が出土。住居中央から南半分にかけては焼土層が広がっている。焼土層上面より土師器甕11が出土した。焼土層下面より須恵器杯身4、5が出土した。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2～9は杯身である。杯身6は体部が椀状を呈する。土師器甕11は長胴甕である。石器12は結晶片岩製で上部に敲打による剥離痕を有する。石器13は砂岩製で表面に敲打痕を得有する。石器15は砥石で、擦痕と鉄器刃部による深い削り痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

21号竪穴式住居（SB7021）（第322～329図）

横田地区、A9、B10グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は不明、深度は22cm、残存床面積13.34m²、内区面積3.63m²、住居

主軸方位はN-10°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は9層に分層できる。1～3層は黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は暗灰黄色砂質土層で焼土を含み、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層で炭化物を含み、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層で炭化物を含む。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.6m、EP2-3間は1.88m、EP3-4間は1.6m、EP4-1間は1.33mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1～3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は2層に分層でき、1、2層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は2層に分層でき、1、2層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は3層に分層でき、1～3層はオリーブ褐色砂質土層である。

内区中央部より土坑EK1が検出された。土坑EK1は長軸1.18m、短軸0.93m、深度0.39mを測る。EK1内覆土は2層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は灰オリーブ褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部が検出された。焚口部幅87cm、燃烧部最大幅45cm、支脚-焚口間46cm、支脚-奥壁間14cmを測る。燃烧部では焼土層が広がる。竈内覆土は20層に分層できる。燃烧部覆土は1～7、13層である。1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4、5層はオリーブ褐色砂質土層、6～9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層で炭化物を含み、11層は褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層で焼土を含む、14層は褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、15層はオリーブ褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層で焼土を含み、18層はオリーブ褐色砂質土層、19層は褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸62cm、短軸17cm、深度17cmを測る。下部構造埋土は11、12、14～20層である。

遺物出土状況

遺物は竈内とEK1上面より集中して出土した。竈燃烧部上面より土師器甕5、6が出土した。EK1内1層中より土師器甕2が出土した。そのほかの遺物は覆土中よりの出土である。

出土遺物

須恵器1は杯身である。土師器甕2は頸部のくびれが小さく、口縁外反も小さい形態の甕である。土師器甕3は頸部のくびれが小さく口縁部も直線状に立ち上がる形態の甕である。土師器甕4、5は長胴甕である。土師器鉢7は平底底部を有する。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

22号竪穴式住居 (SB7022) (第330～332図)

横田地区、S14グリッドにて検出。両微高地を繋ぐ埋没自然堤防上に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高約78.00mを測る。東群集落に属する。遺構の殆どは調査区外へと拡がり、西辺部分の

みの検出となった。

形態・規模

平面形態は方形を呈すると推定される。残存主軸長は0.47m、深度は23cm、残存床面積3.18m²を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は2層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は未検出である。調査区外に構築されていると推定される。周壁溝も未検出である。

竈

竈は未検出である。調査区外に構築されていると推定される。

遺物出土状況

住居西辺壁際より土師器甕1が立位状態で1、2層の境付近から出土した。

出土遺物

凶化可能遺物は土師器甕1点である。1は土師器甕である。小型甕で外面胴部にはタテハケが、内面胴部には棒状工具によるオサエが施されている。やや厚手の造りである。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

23号竪穴式住居 (SB7023) (第333～339図)

横田地区、C5、D4グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.22m、深度は15cm、床面積15.57m²、内区面積5.9m²、住居主軸方位はN-1°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は5層に分層できる。1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は灰黄色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.05m、EP2-3間は2.2m、EP3-4間は2.2m、EP4-1間は1.58mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2～4層は褐色砂質土層、である。EP2内覆土は6層に分層でき、1、3層は黄褐色砂質土層、2、5層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1、2層は黄褐色砂質土層、3、4層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は4層に分層でき、1～4層は褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部が検出された。焚口部幅86cm、燃烧部最大幅40cm、支脚-焚口間67cm、支脚-奥壁間14cm、

支脚高13cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は19層に分層できる。燃焼部覆土は1～5層である。1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は灰黄色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は炭化物層、9層褐色砂質土層で焼土を含み、10層は褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、11層は灰オリーブ色砂質土層、12層はオリーブ褐色砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色砂質土層、15層は焼土混じりの炭化物層、16層はオリーブ褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層で炭化粒を含み、19層はオリーブ褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸113cm、短軸90cm、深度15cmを測る。下部構造埋土は6～19層である。

遺物出土状況

竈内より土師器甕5が出土した。甕5は竈支脚として設置されていたものである。竈左袖上面より須恵器1が出土。竈燃焼部より土師器2が出土。住居北東側より土師器3が出土。そのほかの遺物は覆土中からの出土である。覆土中より鉄滓7が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。土師器2は甑口縁である。土師器3は口辺部が直立する形態の甕である。土師器4は長胴甕である。土師器5は頸部くびれが小さい形態の甕である。土師器6は平底底部の大型甕である。鉄滓7は比較的大型である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

24号竪穴式住居（SB7024）（第340～346図）

横田地区、A5、B6グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高77.9mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.75m、深度は12cm、床面積16.66m²、内区面積5.59m²、住居主軸方位はN-5°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は5層に分層できる。1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層で炭化物を含み、3層は灰オリーブ色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はにぶい黄色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.5m、EP2-3間は2.3m、EP3-4間は1.5m、EP4-1間は2.3mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は4層に分層でき、1～3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は3層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Wを測る。支脚は未検出である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅103cm、燃焼部最大幅56cmを測る。燃焼部では焼土層が広がる。燃焼部覆土は4、5層である。

竈内覆土は10層に分層できる。4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はにぶい黄色砂質土層、6層はにぶい赤褐色砂質土層で炭化粒を含み、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8、9層は褐色砂質土層に炭化粒を含み、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は灰オリーブ色砂質土層、12層は褐色砂質土層である。13層は灰オリーブ色砂質土層、14、15層はにぶい黄褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸141cm、短軸110cm、深度15cmを測る。下部構造埋土は6～15層である。

遺物出土状況

住居床面直上より土器片が出土しているが、いずれも破片である。甕内も同様に破片のみの出土である。いずれも図化できない。住居北東側より鉄器2189-1が出土。

竈支脚がないことや、床面直上出土遺物が少ないことから、住居廃絶に伴うカタヅケ行為が行われたと推定される。

出土遺物

須恵器1は杯身である。土師器2は小型甕である。口辺部が垂直に立ち上がる形態である。鉄器2189-1は曲刃鎌である。左側基底部には折り返しがある。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

25号竪穴式住居 (SB7025) (第347～354図)

横田地区、T12、A13グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は2.63m、深度は10cm、残存床面積9.6m²、残存内区面積5.28m²、住居主軸方位はN-5°-Eを測る。

土層

遺構内覆土は4層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化粒を含み、2、3層はオリーブ褐色砂質土層で、3層は焼土を含み、4層は黄褐色砂質土層で炭化物を含む。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP2-3間は2m、EP3-1間は1.7mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1～3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色砂質土層、2、3層はオリーブ褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Eを測る。袖部、燃焼部および煙道部が

検出された。焚口部幅80cm、燃烧部最大幅35cm、煙道長50cm、煙道幅28cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃烧部覆土は1～4層である。

竈内覆土は25層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化物を含み、2、3層はオリーブ褐色砂質土層で、3層には焼土を含み、4層は黄褐色砂質土層である。5層は黒褐色砂質土層で焼土と炭化物を含み、6層は褐色砂質土層、7～10層はにぶい黄褐色砂質土層で、8層には炭化粒を含み、11層は赤褐色砂質土層、12層はオリーブ褐色砂質土層、13、14、15層は褐色砂質土層で、13層には焼土を、14層には炭化物を含み、16層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化粒を含み、17層は黒褐色砂質土層で焼土・炭化粒を含み、18層は褐色砂質土層、19、20層はにぶい黄褐色砂質土層で、20層は焼土を含み、21層はにぶい赤褐色砂質土層で灰・炭化物を含み、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層で焼土を含む。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸108cm、短軸97cm、深度20cmを測る。

遺物出土状況

遺物は床面直上を中心に出土した。EP1東側より、床面からやや浮いた状態で須恵器6が出土。内区南東付近より、床面直上で須恵器5が出土。EP2-3ライン西側より須恵器1が、床面直上より出土。竈内燃烧部床面直上より土師器片が出土。

出土遺物

須恵器1、2は杯蓋である。須恵器3～6は杯身である。3は杯蓋の可能性もある。杯身5の口縁端部には打ち欠きが施されている。杯身6の底部にはヘラ記号が施されている。須恵器7は高杯脚部である。土師器8は甕口縁部である。土師器8、9は長胴甕胴部である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

26号竪穴式住居 (SB7026) (第355～362図)

横田地区、C20、N1グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.4mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.45m、深度は17cm、床面積27.91m²、内区面積6.98m²、住居主軸方位はN-2°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は19層に分層できる。1～6層はにぶい黄褐色砂質土層で、1、4層は炭化物を、5層は焼土・炭化物を含み、7層は黄褐色砂質土層、8層はにぶい赤褐色砂質土層、9層は暗赤褐色砂質土層で焼土・炭化物・灰を含み、10層は赤褐色砂質土層で炭化粒を含み、11層は暗褐色砂質土層に炭化粒を含み、12層はにぶい黄褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、13層は褐色砂質土層、14～19層はにぶい黄褐色砂質土層で、15層は炭化物を、16層は炭化物・焼土を、18層は炭化物を含む。

柱穴・周壁溝

柱穴は13基検出された。基本的には4本柱構造である。EP1-2間は2.1m、EP2-3間は2.7m、EP3-4間は1.8m、EP4-1間は2.6mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1～3層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色砂質土層、2、3層は褐色砂質土層、4層は

にぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1～4層は褐色砂質土層である。EP4内覆土は5層に分層でき、1層は灰黄色砂質土層、2～6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP5内覆土は2層に分層でき、1、2層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP6内覆土は黄褐色砂質土層である。EP7内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層である。EP8内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層である。EP9内覆土は4層に分層でき、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP10内覆土は4層に分層でき、1、2層は褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層である。EP11内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層である。EP12内覆土は2層に分層でき、1、2層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP13内覆土は4層に分層でき、1～4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅10cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅110cm、燃焼部最大幅36cm、支脚-焚口間40cm、支脚-奥壁間28cm、煙道長98cm、煙道幅26cm、支脚高6cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は1～9、18～21、23～27層である。

竈内覆土は28層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3、4層は褐色砂質土層で炭化粒を含み、5層は黄褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、6、7層はにぶい赤褐色（焼土層）、8層は灰黄色砂質土層で焼土を含み、9、21層は赤褐色砂質土層（焼土層）、10～13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層は褐色砂質土層、15～17層は褐色砂質土層で、15層は炭化物を、16層は焼土を含み、18、19層はにぶい赤褐色砂質土層で、18層は炭化物を含み、20層は赤褐色砂質土層（焼土層）、22～24層はにぶい黄褐色砂質土層で、22、23層は焼土・炭化物を含み、25層は褐色砂質土層、26層はにぶい赤褐色砂質土層、27層は明赤褐色砂質土層（焼土層）、28層はにぶい黄褐色砂質土層である。

下部構造として不整形を呈する土坑が掘削されている。長軸63cm、短軸52cm、深度23cmを測る。下部構造埋土は10～17、22、28層である。

煙道内覆土は2層に分層でき、1層は黄褐色砂質土層で炭化物・焼土を含み、2層はにぶい褐色砂質土層（焼土層）である。

遺物出土状況

覆土中からはいずれも碎片である。竈内より土師器16、18が出土。両土師器とも竈下部構造埋土よりの出土である。土師器16、18は竈支脚残存の可能性もある。住居南端より鉄器2190-1が出土。

出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5～10は杯身である。杯7、8は杯蓋の可能性もある。須恵器11は無蓋高杯、須恵器12は瓶類口縁部である。須恵器13は無蓋高杯で、口縁端部に打ち欠きを施す。土師器15～18は甕である。甕15は長胴甕、甕16、17は口縁部が直立する形態の甕である。甕18は球状体部を有する甕である。鉄器2190-1は曲刃鎌である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

27号竪穴式住居（SB7027）（第363～376図）

横田地区、C2、D2グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.95m、深度は17cm、床面積16.04m²、内区面積5.19m²、住居主軸方位はN-1°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄色砂質土層、2層は灰黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4～6層は暗灰黄色砂質土層で炭化粒を含み、7～10層はにぶい黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.78m、EP2-3間は2m、EP3-4間は1.95m、EP4-1間は2.02mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1層は褐色砂質土層、2、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は3層に分層でき、1、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1、2層は褐色砂質土層、3層は黒褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は2層に分層でき、1層は褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃烧部最大幅35cm、支脚-焚口間26cm、支脚-奥壁間2cm、煙道長43cm、煙道幅25cm、支脚高19cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は27層に分層できる。1～4層はにぶい黄褐色砂質土層で、2層は炭化物・焼土を含み、3層は焼土を含み、5、6層は褐色砂質土層で焼土・炭化粒を含み、7層は黄褐色砂質土層で炭化粒・灰を含み、8層はにぶい赤褐色砂質土層で焼土・灰を含み、9層はオリーブ褐色砂質土層で炭化粒・焼土・灰を含み、10層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化粒・焼土・灰を含み、11層は黄褐色砂質土層で炭化粒・焼土・灰を含み、12、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層は褐色砂質土層、15、16層は褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層はにぶい赤褐色砂質土層で炭化粒を含み、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層は褐色砂質土層で焼土・炭化粒を含み、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄色砂質土層、23～27層は褐色砂質土層で、23層は炭化粒・焼土・灰を含む。燃烧部覆土は1～8、15、16層である。

下部構造として不整円形を呈する土坑が掘削されている。長軸102cm、短軸96cm、深度17cmを測る。下部構造埋土は9～27層である。

煙道部覆土は3層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化粒を含み、2層はにぶい赤褐色で灰・焼土・骨片を含み、3層は褐色砂質土層で焼土を含む。

遺物出土状況

遺構内より万遍なく遺物が出土しているが、特に竈付近に集中する。住居北東隅の床面からやや浮いた状態で、土師器甕31、土師器甗40が出土。EP1東側より土師器甕37が出土。EP1-2ライン東側よ

り須恵器杯蓋1が、床面からやや浮いた状態で出土。住居南東隅の床面直上より須恵器杯身10が出土。EP2-3ライン付近の上層中より須恵器杯14が出土。内区を中心に広範囲に散った状態で須恵器甕25、26が出土。EP4付近床面直上より須恵器甕28、土師器甕35が出土。竈左袖外側の床面直上より須恵器杯身7、13、21、椀22、土師器甕36が出土。

竈前面では土師器甕33が集中した状態で床面直上より出土。竈右袖上面より須恵器杯身2が出土。竈内には2個体の土師器甕(29、30)が口縁部を下に向けて設置されていた。ただし、甕30は燃烧部床面より浮いた状態である。竈廃絶に伴い土師器甕を伏せた状態で置いたものと推定される。一方、甕29は竈下部構造埋土内に口縁部が埋められた状態で出土したことから、竈支脚である。

覆土より鉄滓41~44が出土。ただし鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1~5は杯身である。須恵器6~21は杯身である。杯身10の口縁端部には打ち欠きが施されている。杯身11底部外面には赤色顔料が塗布されている。土師器甕29は竈支脚で、やや作りが粗い。甕30、31は長胴甕である。土師器39、40は甌である。把手は出土していないが本来は伴うものと推定される。鉄滓41~44はメタルの遺存が少なく、発泡が進む。鉄器2191-1は鉄鏃もしくは鉄剣の切先である。鉄器2191-2は刀子茎部である。鉄器2191-3は鉄鏃片刃箭である。ただし形状が柳葉状を呈する事から未製品の可能性もある。鉄器2191-4は三角鉄片である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

28号竪穴式住居(SB7028)(第377~378図)

横田地区、D3グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は不明、深度は5cm、残存床面積11.07m²を測る。竈、柱穴も未検出であり、竪穴住居ではない可能性もある。

土層

遺構内覆土は2層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴・周壁溝は未検出である。

竈

竈は未検出である。

遺物出土状況

覆土中より須恵器1、2が出土

出土遺物

須恵器1は無蓋高杯である。須恵器2は甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

29号竪穴式住居 (SB7029) (第379～384図)

横田地区、A2、A3グリッドにて検出。馬の背状自然堤防南側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。直交軸長は5.6m、推定床面積31.36㎡を測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層は黄褐色砂質土層で炭化物・焼土を含み、2、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は灰オリーブ色砂質土層、7層はにぶい赤褐色砂質土層、9層は灰オリーブ色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層で焼土を含み、11層は黄褐色砂質土層で焼土を含み、12、13層は褐色砂質土層、14層はオリーブ黄色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴・周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅80cm、燃焼部最大幅46cm、支脚－焚口間38cm、支脚－奥壁間13cm、煙道長115cm、煙道幅33cm、支脚高10cmを測る。

竈内覆土は22層に分層できる。1層は褐色砂質土層で焼土・炭化物・灰を含み、2層は褐色砂質土層で焼土・炭化物を含み、3層は黄褐色砂質土層で焼土・炭化粒を含み、4、5層はにぶい赤褐色砂質土層で、4層は焼土を含み、6層は暗褐色砂質土層で炭化粒・灰を含み、7層はにぶい赤褐色で炭化粒を含み、8層は褐色砂質土層で炭化粒を含み、9層はにぶい赤褐色砂質土層、11層はにぶい赤褐色砂質土層で炭化物を含み、12～17層は褐色砂質土層で焼土を含み、18層は黄褐色砂質土層、19層は褐色砂質土層で炭化粒を含み、20層はにぶい黄褐色砂質土層で炭化粒を含み、21～23層は褐色砂質土層である。

下部構造として円形を呈する土坑が掘削されている。長軸120cm、短軸83cm、深度20cmを測る。

遺物出土状況

竈右側一帯より須恵器4、6、8、12、14、土師器15、19、21、石器23が比較的集中して出土した。ただし床面より20cm程度浮いた状態である。竈燃焼部中層より須恵器13が伏せた状態で出土した。竈支脚は未検出である。竈廃絶に伴い置かれたものと推定される。竈右袖部構築土内より須恵器5が出土した。完形品である。竈構築前に埋設されたものである。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋である。須恵器4～6は杯身である。須恵器8はハソウで、底部には手持ちヘラ削りが施されている。須恵器9、10は長頸壺もしくは瓶類の口縁部である。須恵器11、12は平瓶である。須恵器13は無蓋高杯である。須恵器14は台付椀で、口縁端部には打ち欠きが施されている。土師器15～21は甕である。土師器22は椀である。石器23は結晶片岩川原石で下部に剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

31号竪穴式住居 (SB7031) (第385～395図)

カワラケメン地区、J16、J17グリッドにて検出。馬の背状自然堤防の北斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.63m、深度は48cm、床面積33.3m²、内区面積9.76m²、住居主軸方位はN-1°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は14層に分層できる。3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で炭化粒を含み、13層は灰黄色粘性砂質土層、24～26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層は灰オリーブ色砂質土層、45層は灰オリーブ色粘性砂質土層、46層は暗灰黄色粘性砂質土層、47、48層は黄褐色粘性砂質土層、49層はオリーブ褐色粘性砂質土層、50層は黄褐色粘性砂質土層、51、52層は灰オリーブ色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は8基検出された。基本的には4本柱構造である。EP1-2間は2.25m、EP2-3間は2.85m、EP3-4間は2.28m、EP4-1間は3.1mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は10層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層オリーブ褐色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ色砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は10層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は灰オリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4、6層は灰オリーブ色砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は13層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2、9層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7、8層は灰オリーブ色砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は王は褐色砂質土層、12層は暗灰黄色砂質土層、13層は褐色砂質土層である。EP5内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP6内覆土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は銘黄褐色粘性砂質土層である。EP7内覆土は2層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層である。EP8内覆土は2層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は暗灰黄色砂質土層である。

土坑EK1は長軸145cm、短軸80cm、深度10cmを測る。EK1内覆土は3層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅35cm、深度15cmを測る。遺構内覆土1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈EH1は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-2°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅74cm、燃焼部最大幅52cm、支脚-焚口間47cm、支脚-奥壁間21cm、煙道長75cm、煙道幅33cm、支脚高21cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。竈袖内には結晶片岩製割石がたてられている。本来この割石が袖部前面であった可能性もある。

竈内覆土は41層に分層できる。1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘性砂質土層、

14層は灰黄褐色粘性砂質土層で焼土・炭化粒を含み、15層は暗灰黄色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色砂質土層、17層は暗褐色粘質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は暗灰黄色粘性砂質土層、21、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、29層はオリーブ褐色粘質土層、30層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、31層は暗灰黄色粘性砂質土層、32層は暗褐色粘質土層（焼土層）、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層は灰オリーブ褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘質土層、36オリーブ褐色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層は暗灰黄色粘性砂質土層、40層は灰オリーブ色砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層はオリーブ褐色粘性砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で焼土を含み、54層は褐色粘性砂質土層（焼土層）、55層は灰オリーブ褐色粘性砂質土層、56層はオリーブ褐色粘性砂質土層、57、58層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄色粘質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62、64層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土）、63層はにぶい黄色粘性砂質土層、65層は灰黄色粘質土層、66層は灰黄色砂質土層、67、68層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、69層は黄褐色砂質土層、70層は黄褐色粘性砂質土層、71層は灰オリーブ色砂質土層、72、73層はオリーブ褐色粘性砂質土層、74層は黄褐色砂質土層、75、76層はオリーブ褐色砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸190cm、短軸148cm、深度26cmを測る。

EH1西側、EP4北側より竈EH2が床面より検出された。不整形を呈する浅い土坑の両短側辺に沿って、結晶片岩割石が「ハ」字状に置かれている。土坑内覆土は3層に分層でき、いずれも焼土層である。結晶片岩割石の内側には比熱による赤変が観察される。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土している。砂岩製支脚周辺より土師器甕7、9が大型破片の状態で出土。EK1南東肩より須恵器5が出土。そのほかの遺物は遺構覆土中層よりの出土である。

出土遺物

須恵器1は杯身である。須恵器2は椀である。須恵器3は大甕である。須恵器4はハソウで、口縁端部全週に打ち欠きが施されている。内部に穿孔された粘土塊6が伴う。土師器4は甕口縁部である。土師器7は長胴甕で、内外面ともに板ナデが施されている。土師器8は土師状を呈する小型甕である。鉄器2192-1は刀子である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

32号竪穴式住居（SB7032）（第396～406図）

カワラケメン地区、J18、J19、I18、I19グリッドにて検出。東西両微高地をつなぐ馬の背状自然堤防鞍部付近に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.00mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-7°-Eを、主軸長は5.25m、深度は38cm、床面積35.65㎡、内区面積10.7㎡を測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は発掘調査時に図化されていない。

柱穴・周壁溝

柱穴は8基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.4m、EP2-3間は2.82m、EP3-4間は2.62m、EP4-1間は2.9mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は3層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP5内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP6内覆土は6層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。EP7内覆土はにぶい黄褐色粘質土層である。EP8内覆土は褐色砂質土層である。

土坑EK1のピット状の落ち込み内覆土は3層に分層でき、1、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。南側の覆土は2層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅22cm、深度10cmを測る。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Eを測る。支脚は残っていない。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅96cm、燃焼部最大幅60cm、残存煙道長125cm、煙道幅26cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は1~10、30~35層である。1層は暗灰黄粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘質土層（焼土層、袖焼け込み面）、6層はオリーブ褐色粘質土層、7層は褐色粘質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色砂質土層、32層はオリーブ褐色砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整円形を呈する土坑が掘削されている。長軸183cm、短軸146cm、深度11cmを測る。下部構造埋土は11~29、36~46層である。11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘質土層、15層はオリーブ褐色粘質土層、16層は灰黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はオリーブ褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色砂質土層、22層はオリーブ褐色砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色砂質土層、26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はオリーブ褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、36層は灰黄褐色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層はオリーブ褐色粘質土層、40層は黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層はオリーブ褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層、46層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈周辺部を中心に検出された。内区中央部から須恵器甗36と土師器把手付甕47が出土した。竈内からは土師器甗46や甕37～45が出土した。竈焚き口外側からは結晶片岩49が出土した。一部に被熱痕があるために、本来は竈支脚であったと推定される。

出土遺物

須恵器1～11は杯蓋である。須恵器12～22は杯身である。ただし15～17は付蓋の可能性もある。須恵器甗36は、大柿遺跡唯一の須恵器甗である。また、土師器把手付甕47も大柿遺跡唯一の出土例である。砥石50は凝灰岩製で4面の使用痕が観察される。また鉄器刃部の最終仕上げに使用されたと推定される浅く鋭い溝状の擦痕も観察される。鍛冶鉄滓51が出土しているが、鍛冶工程の痕跡は検出されていない。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

33号竪穴式住居（SB7033）（第407～413図）

カワラケメン地区、I17、J18グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は0.5m、深度は15cm、残存床面積8.95m²、住居主軸方位はN-8°-Wを測る。

土層

遺構内覆土は発掘調査時に凶化されていない。

柱穴・周壁溝

柱穴は1基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP1内覆土は6層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部が検出された。焚口部幅40cm、燃烧部最大幅34cm、支脚-焚口間33cm、支脚-奥壁間19cm、支脚高7cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は30層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3～5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は暗灰黄色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は銘黄褐色粘性砂質土層、13、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層は黄褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色粘性砂質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層は暗灰黄色粘性砂質土層、20層はにぶい黄橙色砂質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層はオリーブ褐色粘質土層、23、24層は黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層は暗灰黄色粘質土層、28層は暗灰黄色粘性砂質土層、29層はオリーブ褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層である。燃烧部覆土は1～8、17～20層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸115cm、短軸72cm、深度21cmを測る。下部構造埋土は9～16、21～30層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土した。竈内燃焼面条より土師器甕4、5、甗7が大型破片の状態出土した。竈左側より土師器甕3が床面からやや浮いた状態で出土した。甕3は正位置で保った状態で出土したが、底部は伴わない。住居西壁より須恵器1が出土。

出土遺物

須恵器1は杯身である。土師器3は強く外反する口辺部を有する甕である。土師器甕4、5は底部で、やや丸みを持った平底底部である。土師器7は甗で、つつぬけ底部を有する。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

34号竪穴式住居（SB7034）（第414～423図）

カワラケメン地区、H16、I18グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は4.75m、深度は23cm、残存床面積28.25m²、内区面積9.45m²、住居主軸方位はN-16°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は19層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ色年、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層は灰黄褐色粘性砂質土層、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層、16、17層は黄褐色粘性砂質土層、18、20、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は7基検出された。本来は4本柱構造と推定される。EP1-2間は3.1m、EP3-1間は3.2mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は6層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は灰オリーブ色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は5層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗オリーブ色粘性砂質土層、4、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は7層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2～4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は4層に分層でき、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP6内覆土は7層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘質土層である。

土坑 EK 1 は長軸150cm、短軸53.8cm、深度20cmを測る。EK 1 内覆土は3層に分層でき、1層は灰黄褐色粘質土層で焼土・炭化物を含み、2層はにぶい黄褐色粘質土層で焼土・炭化物を含み、3層はにぶい黄褐色粘質土層である。

周壁溝は幅55cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-17°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅40cm、燃焼部最大幅52cm、支脚-焚口間40cm、支脚-奥壁間28cm、煙道長73cm、煙道幅43cm、支脚高33cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。竈袖内部には結晶片岩割石が設置されている。

竈内覆土は44層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層で焼土を含み、4層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で焼土・炭化粒を含み、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層で焼土・炭化粒を含み、8層は褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層（焼土層）、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は暗灰黄色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14、15層はオリーブ褐色粘性砂質土層で15層は焼土・炭化粒を含み、16層は褐色粘質土層（焼土層）17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層は黄褐色粘質土層、19層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、20、21層は黄褐色粘質土層、22層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、23、24層は黄褐色粘性砂質土層、25～27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で焼土を含み、29層はオリーブ褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層で焼土・炭化粒を含み、31、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、34層は黄褐色粘質土層、35層はにぶい赤褐色粘質土層で焼土・炭化物を含み、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は暗灰黄色粘性砂質土層、38層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、39層は黄褐色粘性砂質土層、40、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、44層は灰黄褐色粘質土層で焼土・炭化物を含む。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸163cm、短軸154cm、深度34cmを測る。

遺物出土状況

遺物は主に竈内及びEK 1より出土した。居住区内からの出土遺物はやや床面から浮いた状態での出土である。EP 1 周辺より須恵器5、土師器31、32が出土。EP 5 付近より須恵器20が出土。竈内燃焼部最上層より須恵器1、4が出土。セットの杯身と杯蓋である。竈廃絶時に埋納されたものと推定される。竈廃絶に伴う祭祀の一形態である。竈内燃焼部床面付近より土師器27、30が出土。EK 1 内より土師器28が出土。覆土内より輪羽口33と鉄滓34が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋である。須恵器4～7は杯身である。須恵器7、8は有蓋高杯である。須恵器16は壺である。土師器27、28は甕である。土師器30は鉢である。32はガラス小玉である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きを施す。土師器27は長胴甕である。土師器27は長胴甕であるが、底部と胴部は伴わない。石器31は結晶片岩製で、敲打痕と剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

35号竪穴式住居（SB7035）（第424～430図）

カワラケメン地区、I18、J18グリッドにて検出。東西両微高地をつなぐ馬の背状自然堤防頂上付近に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.50mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-16°-W、主軸長は4.9m、深度は5cm、床面積19.76㎡、内区面積4.55㎡を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は4層に分層できる。1層はにぶい黄橙色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.64m、EP2-3間は1.48m、EP3-4間は1.88m、EP4-1間は1.54mを測る。EP1内覆土は5層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は4層に分層でき、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は最大幅88cm、深度18cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は灰黄褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。燃烧部や袖部は削平を受けており、下部構造のみの検出となった。下部構造として不整形を呈する土坑が掘削されている。長軸142cm、短軸140cm、深度8cmを測る。下部構造埋土は1～14層である。1、2層は焼土粒を含むオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は焼土層、6層は焼土ブロックを含む灰黄褐色粘質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は炭化粒を含む灰黄褐色粘質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層は灰オリーブ色砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺構内覆土がほとんど削平されており、床面直上よりわずかな須恵器片と土師器片が採取されたに過ぎない。EP3-4間において土師器甕が集中して出土しているが、図化はできない。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2は壺口頸部である。頸部外面にはカキ目が施されている。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

36号竪穴式住居 (SB7036) (第431～436図)

カワラケメン地区地区、G19、G20、H19、H20グリッドにて検出。東西両微高地をつなぐ馬の背状自然堤防鞍部付近に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.80mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-9°-Eを、推定主軸長は5.0m、深度は12cm、残存床面積19.23㎡、内区面積11.52㎡を測る。中型の竪穴式住居である。西側の一部を古代以降の遺構により削平されている。

土層

遺構内覆土は19分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は灰黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は黄灰色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.7m、EP2-3間は3m、EP3-4間は2.65m、EP4-1間は3.65mを測る。EP1内覆土は、灰黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において左袖下部構造のみ検出された。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸103cm、短軸97cm、深度20cmを測る。

1層は灰褐色粘性砂質土層、2層はにぶい赤褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

居住区における遺構覆土遺存状況が悪く、居住区での遺物出土数は少ない。わずかの竈周辺からの出土が認められるのみである。竈右袖西側より須恵器2、土師器3が出土。竈内燃烧部より土師器甕道部変が出土しているが、図化はできない。

出土遺物

須恵器1、2は甕である。土師器3は甕で、強く外湾する口縁部を有する形態の甕である。胴部内面には棒状工具による強い押さえが施されている。土師器4は甗である。ただし把手上部の径が小さくな

ることから把手付鍋の可能性もある。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

37号竪穴式住居 (SB7037) (第437～444図)

カワラケメン地区、H20、H1、I20、I1グリッドにて検出。東西両微高地をつなぐ馬の背状自然堤防の北側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.80mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は6.0m、深度は25cm、残存床面積44.67㎡、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は7層に分層できる。1層は灰黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は灰褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層は暗灰黄色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色砂質土層、14層はオリーブ褐色砂質土層、15層はオリーブ褐色砂質土層、16層は黄褐色砂質土層、17層は黄褐色砂質土層、18層は黄褐色砂質土層、19層は黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.86m、EP2-3間は3.56m、EP3-4間は1.9m、EP4-1間は4.02mを測る。EP1内覆土は3層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層(柱痕)、3層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層(柱痕)3層は黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は3層に分層でき、1層はオリーブ褐色粘性砂質土(柱痕)、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層(柱痕)、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Eを測る。支脚は砂岩製である。燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅46cm、燃烧部最大幅23cm、支脚-焚き口間29cm、支脚-奥壁間39cm、煙道長48cm、煙道幅38cm、支脚高23cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃烧部覆土は3～7層である。3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は焼土や炭化物を含む暗褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土、である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸133cm、短軸101cm、深度18cmを測る。下部構造埋土は11～36層である。11、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土、14層は黄灰色砂質土層、15、36層は黄灰色粘性砂質土層、16、35層はにぶい赤褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は暗褐色砂質土層、21、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層は褐色砂質土層、24、26、27、34層は灰黄褐色砂質土層、28、29、30、31層は黄褐色粘性

砂質土層、32、33層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

住居北東隅より大型炭化材が2本検出されており、焼失住居の可能性がある。住居覆土からは須恵器1～5が出土しているが、いずれも碎片である。また、竈内より土師器甕7や、土師器甑9が出土しているが、完形ではない。こうした床面や竈内からの遺物出土量は少ない状況から、住居廃絶に伴うカタヅケ行為がなされた可能性がある。ただし、竈内には支脚が残されており、廃絶に伴う破壊行為は行われていないと推定される。

なお、竈周辺より製塩土器11、12が出土している。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器5は大甕胴下部である。内面当て具痕に円形の板状工具を使用しており、青海波文とは違うのが特徴である。土師器7は甕底部で、平底である。土師器8は甕底部で丸底である。土師器9は甑口縁部である。土師器10は杯である。内外面には丁寧なヘラミガキが施されている。製塩土器11は大柿Ⅰ類型、12は大柿Ⅱ類型に該当する。両者共に細片であり、本遺構に伴うものは疑問が残る。

時期

古墳時代中期後期・大柿様相Ⅱ段階である。

38号竪穴式住居（SB7038）（第445～450図）

カワラケメン地区、H1、I2グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は2.0m、深度は15cm、残存床面積8.1m²、内区面積5.62m²、住居主軸方位はN-1°-Wを測る。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.55m、EP2-3間は2.2m、EP3-4間は1.53m、EP4-1間は2.4mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は灰白色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅102cm、燃焼部最大幅27cm、支脚-焚口間48cm、支脚-奥壁間32cm、煙道長77cm、煙道幅27cm、支脚高22cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸118cm、短軸102cm、深度17cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色砂質土層、4層は明黄褐色砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は赤褐色粘性砂質土層、8層はにぶい赤褐色砂質土層、9層はにぶい赤褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は暗灰色粘性砂質土層、14層はにぶい黄色砂質土層、15層は灰黄色粘性砂質土層、16層は黄褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層、19層は暗灰色砂質土層、20層はオリーブ褐色砂質土層、21層はオリーブ褐色砂質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色砂質土層、25層はオリーブ褐色砂質土層、26層は黄灰色砂質土層、27層は明黄褐色砂質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色砂質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層はオリーブ褐色砂質土層である。

煙道部覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層はにぶい褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

居住区における遺構覆土遺存状況が悪く、居住区での遺物出土数は少ない。わずかの竈周辺からの出土が認められるのみである。竈内燃焼部床面からは土師器7、8が大型破片の状態出土。甕7は完形に復元できる。

出土遺物

須恵器1は杯身であるが、杯蓋の可能性もある。須恵器2～4は杯身である。須恵器5は甕である。土師器6、7は甕である。甕7は球形体部に直立する口縁部を有する形態の小型甕である。土師器8は鍋である。土師器9は椀である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

39号竪穴式住居（SB7039）（第451～458図）

カワラケメン地区、H2、I3グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.32m、深度は38cm、床面積9.4m²、内区面積2.49m²、住居主軸方位はN-16°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は25層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄褐色粘性砂質土層、11層は灰褐色粘性砂質土層、12層は灰褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層、19層は赤褐色砂質土層、

20層は褐色粘質土層、21層は赤褐色砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1m、EP2-3間は1.53m、EP3-4間は0.78m、EP4-1間は1.43mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-16°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅40cm、燃烧部最大幅28cm、支脚-焚口間39cm、支脚-奥壁間13cm、煙道長62cm、煙道幅20cm、支脚高13cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸107cm、短軸90cm、深度19cmを測る。

1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は灰褐色粘性砂質土層、9層は明黄褐色砂質土層、10層は灰褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は灰黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は灰黄褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄橙色砂質土層、23層はにぶい黄橙色砂質土層、24層はにぶい黄色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層は褐色粘質土層、29層は赤褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

住居内覆土に炭化材や焼土層が広がることから焼失住居の可能性がある。住居北東隅中層より炭化材が検出された。なお、焼失住居の可能性はあるが、居住区内での遺物出土量は少なく、焼失前後においてカタヅケ行為が行われた可能性がある。遺物は主に竈周辺より検出された。竈内燃烧部堆積土には小型の骨片（図中では□）が出土している。動物は不明である。竈内燃烧部下層より土師器1が出土。甕1は右袖部上面からも出土しており、使用状況を反映していると推定される。竈周辺からは製塩土器が出土している。また、鉄滓16が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

土師器1、2、4～6は甕である。土師器3は甗である。土師器7は椀である。土師器8～15は製塩土器である。甕1は倒卵形体部に直線状に外反する口辺部を有する形態の甕である。甕2は短い口辺部が特徴の甕である。甗3はつつぬけ形底部と推定される。製塩土器8は椀状の形態である。外面には条

痕文が施されている。製塩土器9～15は大柿1類で、外面にはタタキが施されている。鉄滓16はメタルがほとんど遺存せず、発泡状である。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

40号竪穴式住居（SB7040）（第459～471図）

カワラケメン地区、F3、G3グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.5m、深度は35cm、床面積19.9m²、内区面積5.45m²、住居主軸方位はN-12°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は26層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層、10層は黄灰色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄色砂質土層、15層は暗灰黄色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄色砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は灰黄褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は褐色灰色粘質土層、25層は灰黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は灰黄色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、不整形を呈し、長軸175cm、短軸155cm、深度60cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅65cm、燃焼部最大幅45cm、支脚-焚口間23cm、支脚-奥壁

間29cm、煙道長50cm、煙道幅33cm、支脚高18cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸107cm、短軸97cm、深度15cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は暗赤褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色粘質土層、7層は暗灰黄色粘質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層、9層はオリーブ褐色粘質土層、12層はオリーブ褐色粘質土層、13層はオリーブ褐色粘質土層、14層は暗オリーブ褐色粘質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層は暗灰黄色粘性砂質土層、25層は明黄褐色粘質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は黒褐色粘性砂質土層、29層は暗褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は暗褐色粘性砂質土層、32層は赤褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は暗褐色粘性砂質土層、36層は黒褐色粘性砂質土層、37層はにぶい赤褐色焼土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は灰黄色砂質土層、40層は黄褐色粘性砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層は暗灰黄色粘性砂質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層は灰オリーブ色粘性砂質土層、45層はオリーブ褐色粘性砂質土層、46層は黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層は黄褐色粘性砂質土層、49層は灰褐色焼土層、50層は灰黄色粘性砂質土層、51層は暗灰黄色粘性砂質土層、52層は黄灰色粘質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層は灰黄褐色粘性砂質土層、56層は黄褐色粘性砂質土層、57層は黄褐色粘性砂質土層、58層はにぶい黄色粘性砂質土層、59層は灰黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層はオリーブ褐色粘性砂質土層、62層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺構内より大量の炭化材と焼土層が検出されており、焼失住居である。特に住居北東側1/4に集中する。炭化材は直径約20cm程度の部材と直径8cm程度の部材の2種類から構成されている。住居中心から放射状に延びる部材は屋根骨格材と推定される。

遺物は床面直上と竈内や土坑EK1を中心に出土した。住居北東1/4（特に外区）を中心に出土しており、住居内の空間占有を検討する上での良資料となる。EP南東側より土師器9が出土。EP3-4ライン西側より土師器10が出土。竈右袖東側、住居壁付近からは土師器16が出土。竈内燃焼部中層より土師器15、製塩土器38、39が出土。EK1内より製塩土器35、43、44やそのほかの製塩土器が出土。

出土遺物

須恵器1~4は杯蓋である。須恵器5~7は杯身である。須恵器8は甕である。土師器9~26は甕である。土師器27~30は椀である。土師器31~50は製塩土器である。石器51は不明石器である。杯蓋4は流れ込みの可能性が高い。甕9~12は布留甕の特徴を残す。甕16、25、26は長胴化の傾向が認められる。椀27~30は浅い杯状の形態と、深い鉢状の形態に細分できる。製塩土器31、32、33は大柿1類で、外面にタタキが施されている。製塩土器40~50は大柿3類で、椀状の形態をとる。石器51は結晶片岩川原石で、下部及び左側面に剥離痕が観察される。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

41号竪穴式住居（SB7041）（第472～481図）

カワラケメン地区、H3、I4グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.7m、深度は45cm、床面積16.48m²、内区面積5.18m²、住居主軸方位はN-4°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は27層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄灰色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は灰色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層は灰黄褐色粘性砂質土層、22層は灰白色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2m、EP2-3間は1.63m、EP3-4間は2m、EP4-1間は2.38mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は灰褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄灰色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅90cm、燃烧部最大幅90cm、煙道長80cm、煙道幅30cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸109cm、短軸60cm、深度18cmを測る。

1層はにぶい黄色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はオリーブ褐色粘質土層、4層はにぶい赤褐色粘質土層、5層はオリーブ褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色粘質土層、7層はオリーブ褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層はオリーブ褐色粘質土層、15層は黄褐色粘質土層、16層はオリーブ褐色粘質土層、17層は黄褐色粘質土層、18層は黄褐色粘質土層、19層はにぶい黄色砂質土層、20層は

オリーブ褐色粘質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層はオリーブ褐色粘質土層、23層は黄灰粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層は灰黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に居住区を中心に検出された。層位は床面直上遺物は少なく、中層から上層にかけての出土が中心である。EP 2 北西より須恵器17が、隣接する炭化材の下から土師器36が出土。内区東側より須恵器24が出土。EP 2 - 3 ライン付近より土師器37が出土。EP 3 南西側より須恵器6が出土。EP 3 - 4 ライン中央付近より須恵器7が出土。隣接して須恵器5、29が出土。竈は調査区側溝掘削時に削平されており、プライマリーな遺物出土状況は保持されていない。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋である。須恵器4～19は杯身である。須恵器20は椀である。須恵器21～27は高杯である。須恵器28、29は甗である。須恵器35は器台である。土師器36～40は甕である。杯身1は天井部にヘラ記号が施されている。杯身4は流れ込みである。杯身14～18は蓋の可能性もあるが、口縁端部の形状から杯身とした。甗28、29は同一個体の可能性がある。甕36～38は長胴甕である。甕39は球形体部に直立口縁部を有する形態の小型甕である。鉄器2193-1は不明板状鉄製品である。当初、鉄鎌を想定した。しかし刃部が形成されていないことや、厚味が均一であることから、未製品と考えられる。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

42号竪穴式住居 (SB7042) (第482～490図)

カワラケメン地区、J20、K1グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.5m、深度は43cm、床面積11.16㎡、住居主軸方位はN-4°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は40層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は褐色砂質土層、14層は黄褐色砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層はにぶい赤褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はオリーブ褐色砂質土層、20層はにぶい黄色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は炭化物層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は明赤褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層は黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層、40層は灰黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP 1 - 2 間は0.85m、EP 2 - 3 間は1.6m、EP 3 - 4 間

は1.05m、EP4－1間は1.8mを測る。EP1内覆土は図化されていない。EP2内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅26cm、煙道長43cm、煙道幅43cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整隅丸方形を呈する土坑が掘削されている。長軸113cm、短軸96cm、深度25cmを測る。

1層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はオリーブ褐色砂質土層、20層はにぶい黄色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は炭化物層、26層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、27層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄色砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は明赤褐色砂質層、35層は暗褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層は黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層、39層は明黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺構内より炭化材や焼土層が検出されており焼失住居である。ただし、炭化材や焼土層は中層～上層にかけて検出されており、住居廃絶後埋没過程において火をかけられた可能性も想定できよう。竈及び炭化材の下から出土した遺物群と、炭化材より上面で出土した遺物群に分けることができる。前者は、土師器6、9である。後者は須恵器4、10等である。なお、鉄滓12が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋である。須恵器4は杯身である。須恵器5は短頸壺である。土師器6、7は甕である。土師器8、9は椀である。須恵器10は大甕である。石器11は砂岩製砥石である。杯蓋1は有蓋高杯の蓋である。杯身4は蓋の可能性があり、流れ込みの可能性もある。甕6は長胴化の傾向がある。甕7は布留甕の特徴を残す。椀8、9は浅い杯状の形態と、深い鉢状の形態に分けることができる。砂岩製砥石11は、細かい擦痕が観察される。

時期

古墳時代中期・大柵様相Ⅱ段階である。

43号竪穴式住居（SB7043）（第491～493図）

カワラケメン地区、I19、J20グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は2.88m、深度は10cm、残存床面積13.89m²、住居主軸方位はN-15°-Eを測る。

土層

遺構内覆土は15層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は褐色砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において煙道部のみが検出された。主軸方位はN-18°-Eを測る。煙道長40cm、煙道幅23cmを測る。煙道部覆土は、1層は灰黄色粘性砂質土、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土である。

遺物出土状況

遺構内覆土の遺存状況が良好でなく、床面直上遺物はない。

出土遺物

須恵器1は杯身である。内湾する口辺部を有する。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

44号竪穴式住居（SB7044）（第494～496図）

カワラケメン地区、G2グリッドにて検出。東西両微高地をつなぐ馬の背状自然堤防の頂上付近に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.60mを測る。東群集落に属する。

SB7049と切り合い関係にあることや、遺構構築面と遺構覆土に差が無く南側壁面を検出時に掘削したために、南東隅を中心とした一部のみの検出となった。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は15cm、内区面積4.4m²を測る。中型の竪穴式住居と推定される。

土層

遺構内覆土はほとんど残存しておらず、わずかに暗褐色砂質土が南西隅より確認された。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.6m、EP2-3間は1.62m、EP3-4間は1.54m、EP4-1間は1.92mを測る。EP1内覆土は4層に分層でき、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層（柱痕）、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は5層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層（柱痕）、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層（柱痕）、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層（柱痕）、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈はSB7049に削平されているために未検出である。

遺物出土状況

EP 2 付近より炭化材と鉄器 1 が床面直上より出土した。

出土遺物

鉄器2194-1は曲刃鎌である。先端部に強い屈曲がある。

時期

古墳時代後期である。

46号竪穴式住居 (SB7046) (第497~505図)

カワラケメン地区、E3、F4グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1.82m、深度は25cm、残存床面積8.17m²、残存内区面積1.82m²、住居主軸方位はN-6°-Eを測る。

土層

遺構内覆土は35層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄灰色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は赤褐色焼土層、17層はにぶい黄色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄色粘性砂質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP 1-2間は1.85mを測る。EP 1内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層である。EP 2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色粘質土層である。EP 3内覆土は、オリーブ褐色砂質土層である。EP 4内覆土は、オリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-2°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅50cm、燃焼部最大幅42cm、支脚-焚口間26cm、支脚-奥壁間19cm、煙道長30cm、煙道幅25cm、支脚高8cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸124cm、短軸89cm、深度11cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、

4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は赤褐色焼土、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄色粘性砂質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄色粘性砂質土層、25層はにぶい黄色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

居住区内では床面直上から中層にかけてのレベルで遺物が出土している。内区 EP 1 付近より須恵器 1 が出土。北東側より須恵器 9、11 が出土。竈内燃焼部床面直上より土師器 16 が出土。土師器 16 破片は EP 1 周辺からも出土している。

出土遺物

須恵器 1～8 は杯身である。須恵器 9 は長頸壺である。須恵器 10、11 は甕である。須恵器 14 は横瓶である。土師器 15～17 は甕である。石器 18～19 は砥石である。石器 20～21 は不明石器である。杯身 3～8 は杯蓋の可能性もある。甕 15 は短く外反する口辺部が特徴である。甕 16 は長胴甕である。砥石 18 は変成岩で、4 条の筋状の擦痕が観察される。玉類の研磨用の用途が想定される。砥石 19 は結晶片岩で、左右両側縁に鉄器刃部による細かい擦痕が観察される。石器 20 は砂岩製の台石と推定される。石器 21、22 は結晶片岩製で縁辺部に剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相 VI 段階である。

47号竪穴式住居（SB7047）（第506～514図）

カワラケメン地区、G 2、F 3 グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高 78.8m を測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は 3.82m、深度は 25cm、残存床面積 14.76m²、内区面積 3.8m²、住居主軸方位は N-7°-W を測る。小型の竪穴式住居と推定される。

土層

遺構内覆土は 35 層に分層できる。1 層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2 層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3 層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4 層は黄褐色粘性砂質土層、5 層は灰オリーブ色粘性砂質土層、6 層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7 層は灰オリーブ色粘性砂質土層、8 層は暗灰黄色粘性砂質土層、9 層は灰オリーブ色粘性砂質土層、10 層は暗灰黄色粘性砂質土層、11 層は黄褐色粘性砂質土層、12 層は黄灰色粘性砂質土層、13 層は暗灰黄色粘性砂質土層、15 層は灰黄色粘性砂質土層、16 層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17 層はオリーブ褐色粘性砂質土層、18 層は黄褐色粘性砂質土層、19 層は暗灰黄色粘性砂質土層、20 層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21 層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22 層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23 層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.05m、EP2-3間は2.13m、EP3-4間は1.3m、EP4-1間は2.08mを測る。EP1内覆土は、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-23°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅33cm、燃焼部最大幅33cm、支脚-焚口間41cm、支脚-奥壁間17cm、煙道長10cm、煙道幅30cm、支脚高4cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。燃焼部覆土は1、2、14~23層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸102cm、短軸82cm、深度18cmを測る。

24層は褐色粘性砂質土層、25層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は灰褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、37層はにぶい橙色焼土層、38層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は灰黄色粘性砂質土層、41層はにぶい褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は居住区内床面直上からはほとんど検出されていない。覆土中層から上層にかけて須恵器小片が出土したのみである。竈内より土師器破片がまとまって出土した。

出土遺物

須恵器1、2は杯蓋である。須恵器3~12は杯身である。須恵器13、14は甕である。土師器15~20は甕である。土師器21は甗である。杯身4、5、11、12は杯蓋の可能性もある。甕15、16、17は長胴甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

48号竪穴式住居（SB7048）（第515~517図）

カワラケメン地区、F3、F4グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所~北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1m、深度は13cm、残存床面積4.08m²、住居主軸方位はN-

0°-Eを測る。

土層

遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は未検出である。

竈

竈は下部構造（EK1）のみが検出された。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸65cm、短軸52.5cm、深度5cmを測る。下部構造埋土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

床面からも遺構覆土中からもほとんど遺物は出土していない。EK1内覆土上面より須恵器1が出土したのみである。

出土遺物

須恵器1は杯身である。須恵器2、3は甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

49号竪穴式住居（SB7049）（第518～520図）

カワラケメン地区、C1、H2グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈すると推定される。主軸長は4.5m、深度は7cm、床面積20.42m²、内区面積5.8m²を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は6層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は1.93mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色砂質土層、5層はにぶい黄橙色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層である。

竈

竈は未検出である。

出土遺物

須恵器 1 は杯身である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

50号竪穴式住居 (SB7050) (第521～530図)

カワラケメン地区、G5グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。SB7051、SB7052によって削平されており遺存状態は良好ではない。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.8m、深度は20cm、床面積33.36m²、内区面積11.33m²、住居主軸方位はN-5°W-を測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は4層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造である。EP1-2間は2.7m、EP2-3間は3.3mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-2°-Wを測る。支脚は未検出である。袖部、燃烧部および煙道部が検出されたが、燃烧部の半分はSB7050により削平されている。焚き口幅35cm、燃烧部最大幅35cm、煙道長85cm、煙道幅17cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸94cm、短軸88cm、深度17cmを測る。

1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は暗灰黄色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層は暗灰黄色粘性砂質土層、16層は灰黄褐色粘性砂質土層、17層は灰黄褐色粘質土層、18層は暗褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は灰黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層はオリーブ褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、

34層は褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

竈左袖西側とEK 1内よりまとまって出土した。竈左袖西側からは須恵器7と土師器29と製塩土器41～44、46～48が折り重なるような状態で出土。EK 1内下層からは製塩土器36～70が碎片と化した状態で出土。

出土遺物

須恵器1～6は杯蓋、7～20は杯身である。須恵器21は高杯、22は甕、23、24は瓶類である。土師器28～35は甕である。製塩土器は36～70である。製塩土器36～55は大柿Ⅰ罌で、外面にはタタキが施されている。鉄器2195-1は刀子である。切先が内湾気味になるのが特徴である。石器71は砂岩製で、敲打痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

51号竪穴式住居（SB7051）（第531～540図）

カワラケメン地区、F5、G6グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.73m、深度は38cm、床面積34.42m²、内区面積8.39m²、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は灰オリーブ粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層は灰黄褐色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層、26層は黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP 1-2間は2.45m、EP 2-3間は2.7m、EP 3-4間は2.4m、EP 4-1間は2.8mを測る。EP 1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP 2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂

質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色砂質土層である。

土坑EK1は、南西隅に構築されている。平面形態は楕円形を呈し、長軸92.5cm、短軸68.8cm、深度32.5cmを測る。遺構内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-9°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅55cm、燃焼部最大幅20cm、支脚-焚口間40cm、支脚-奥壁間13cm、煙道長6cm、煙道幅12cm、支脚高19cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸118cm、短軸88cm、深度24cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色砂質土層、30層は暗灰黄色粘性砂質土層、31層は灰黄褐色粘性砂質土層、32層は黄褐色粘性砂質土層、33層は灰黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は明黄褐色粘質土層、36層は灰黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色焼土層、39層は黄褐色焼土層、40層はにぶい赤褐色粘質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄色粘性砂質土層、44層は明黄褐色粘質土層、45層はにぶい赤褐色焼土層、46層は黒褐色粘質土層、47層は灰黄褐色粘質土層、48層はにぶい黄色粘質土層、49層は黄褐色粘質土層、50層は黄褐色粘質土層、51層は黄褐色粘質土層、52層はにぶい黄褐色粘質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層は灰黄褐色粘質土層、55層は灰黄褐色粘質土層、56層はオリーブ褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は灰オリーブ粘性砂質土層、59層は灰オリーブ粘性砂質土層、60層は黄褐色粘質土層、61層はオリーブ褐色粘質土層、62層はにぶい褐色焼土層、63層は灰黄褐色粘質土層、64層は黄褐色粘性砂質土層、65層は黄褐色粘性砂質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい赤褐色焼土層、68層は灰黄褐色粘質土層、69層はにぶい赤褐色焼土層、70層はにぶい褐色焼土層、71層はにぶい橙色焼土層、72層はオリーブ褐色粘性砂質土層、73層は黄褐色粘性砂質土層、74層は黄褐色粘性砂質土層、75層は黄褐色粘性砂質土層、76層は灰黄褐色粘質土層、77層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、78層は黄褐色粘性砂質土層、79層は灰オリーブ粘性砂質土層、80層は灰黄褐色粘質土層、81層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺物出土状況

遺物は主にEK1内と竈周辺から出土した。居住区では南端から須恵器1と土師器10が出土。内区EP2北側から石器40と鉄器2196-1が出土。EP1北側中層からは須恵器4が出土。EK1内からは製塩土器14~38とガラス小玉41が出土。製塩土器はいずれも細片化している。竈内砂岩製支脚を中心にして燃焼部床面直上から土師器片が出土した。いずれも甕胴部である。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2は無蓋高杯である。須恵器3は杯身である。須恵器4、5は有蓋高杯である。須恵器6、7は甕である。土師器8~12は甕である。土師器13は椀である。14~38は製塩土器である。石器39は敲石である。石器40は砥石である。甕9は短く外反する口辺部を有する小型甕であ

る。甕10、11は長胴甕である。製塩土器14～29は大柿Ⅰ類である。製塩土器30～36は大柿Ⅱ類である。製塩土器37、38は大柿Ⅲ類である。敲石39は結晶片岩製で上下両端部に敲打痕が観察される。砥石40は凝灰岩製である。鉄器2196-1は棒状鉄製品である。上下両端部に欠損は認められない。未製品もしくは切片と推定される。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

52号竪穴式住居（SB7052）（第541～546図）

カワラケメン地区、F4、G5グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.5m、深度は35cm、床面積14.9㎡、内区面積6.23㎡、住居主軸方位はN-1°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は2.5m、EP3-4間は1.78m、EP4-1間は2.5mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅17cm、燃烧部最大幅21cm、煙道長57cm、煙道幅38cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は灰黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は灰黄褐色砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色砂質土層、18層は灰黄褐色粘性砂質土層、19層は暗灰黄色粘性砂質土層、20層はにぶい黄色砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、23層はにぶい赤褐色焼土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層は暗灰黄

色砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい赤褐色焼土層、31層はにぶい黄色粘質土層、32層は黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸100cm、短軸80cm、深度20cmを測る。下部構造埋土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層である。

遺物出土状況

床面直上からは須恵器1のみである。竈内からも遺物は出土していない。そのほかの遺物は遺構内中層以上のレベルで出土した。住居廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたと推定される。

出土遺物

須恵器1～3は杯身である。須恵器4は壺である。土師器5は甑、土師器6は甕である。ガラス製品7は小玉である。石器8は敲石である。杯身1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身1～3は蓋の可能性もある。甕6は大型長胴甕である。敲石8は結晶片岩川原石製で、頭部に敲打痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

53号竪穴式住居 (SB7053) (第547～562図)

カワラケメン地区、F9、G9グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.15m、深度は25cm、床面積32.94㎡、内区面積9.42㎡、住居主軸方位はN-4°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は53層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は暗褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は暗褐色粘性砂質土層、20層は赤褐色焼土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層は暗褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は灰黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層

層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、64層は黄褐色粘性砂質土層、65層は黄褐色粘性砂質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、69層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.6m、EP2-3間は2.5m、EP3-4間は2.35m、EP4-1間は2.8mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は明黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃烧部最大幅42cm、支脚-焚口間41cm、支脚-奥壁間40cm、煙道長72cm、煙道幅30cm、支脚高23cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸135cm、短軸115cm、深度22cmを測る。

8層は黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、70層は黄褐色粘性砂質土層、71層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、72層はオリーブ褐色粘性砂質土層、73層は褐色粘性砂質土層、74層は黄褐色砂質土層、75層はにぶい黄褐色砂質土層、76層は褐色粘性砂質土層、77層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、78層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、80層は黄褐色粘性砂質土層、81層は黄褐色粘性砂質土層、82層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、83層は褐色粘性砂質土層、84層は黄褐色粘性砂質土層、85層は黄褐色砂質土層、86層は黄褐色砂質土層、87層は黄褐色砂質土層、88層は明赤褐色砂質土層、89層は明黄褐色粘性砂質土層、90層はにぶい褐色粘性砂質土層、91層は明赤褐色粘性砂質土層、92層は明黄褐色粘性砂質土層、93層はにぶい黄褐色焼土層、94層は黒褐色粘質土層、95層は黄褐色粘性砂質土層、96層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、97層はにぶい黄色粘性砂質土層、98層はにぶい赤褐色焼土層、99層はにぶい黄褐色粘質土層、100層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、101層は黄褐色粘性砂質土層、102層はオリーブ褐色砂質土層、103層は黄褐色粘性砂質土層、104層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、105層はにぶい黄褐色粘性砂質土層

土層、106層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、107層は明黄褐色粘性砂質土層、108層はにぶい黄色粘性砂質土層、109層はにぶい黄色粘性砂質土層、110層はにぶい黄褐色砂質土層、111層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、112層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、113層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、114層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、115層はにぶい黄褐色粘質土層、116層は黄褐色粘性砂質土層、117層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、118層はにぶい赤褐色焼土層、119層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、120層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、121層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺構内覆土床面直上～中層にかけて大量の炭化材、炭化物、焼土層が検出された。焼失住居である。遺物は床面直上～炭化材層の間で検出された。炭化材は幅30cm程度の部材と、幅10cm程度の部材、藁(萱)状の繊維質の部材に分けることができる。太い部材はEP間を繋ぐ位置と住居対角線に沿って出土している。細い部材は住居中心から放射状に延びる位置を中心に出土している。

遺物は床面直上を中心に出土しており、被災以前の状況を反映しているものと推定される。土器類は圧倒的に竈及び北壁側に集中する。内区からは小片のみである。南壁沿いにも遺物集中区がある。南壁沿いからは須恵器3、6、11土師器29、34が出土。土師器29、34はほぼ完形を保つことから、原位置よりの出土と推定される。ただし一部破片が1.5m離れていることから、棚状施設からの落下も想定できよう。住居北東側隅付近からは須恵器14、15と土師器37が出土。竈西側から住居北西隅にかけては須恵器1、2、4、8、9、土師器33、41が出土。須恵器杯類は完形もしくは、破片が近接して検出されている。原位置もしくは落下地点を反映していると推定される。

竈西側からは須恵器甕23が床面直上から正位置を保った状態で検出された。当初より竈左袖西側に隣接して置かれていたものと推定される。竈右袖東側の床面直上からは須恵器12、土師器32、36が出土。杯身12は完形であるが床面よりやや浮いており、落下の可能性がある。甕32は床面直上から正位置の状態での出土であり、原位置を保つものと推定される。甕36は竈右袖肩部直上からの出土であり、大型破片化している事から落下の可能性が想定される。竈内からは砂岩製の支脚と土師器甕38が口縁部を下に向けた倒立位で検出された。当初支脚は砂岩製のみであったが、後に甕31も支脚として転用されたと推定される。竈焚き口部床面直上より須恵器13が出土。甕31底部を突き破り入れ子状態で、土師器甕38が正位置を保った状態で出土。砂岩製支脚周辺からは土師器甕30が大型破片化した状態で出土。竈右袖上面からは土師器甕40が出土。甕38とセットになる可能性がある。竈支脚奥からは須恵器7、10が出土。使用状況を反しているとは認めがたいが、落下の可能性も想定される。竈煙道の煙出し箇所より土師器甕32が、倒立位で出土。底部は依存しており「煙突」としての機能は認めがたい。被災時に置かれた可能性を想定する必要がある。

住居西壁沿いより黄色粘土が出土している。混和剤状の砕いた砂礫を含み、土師器製作のための原材料の可能性はある。

出土遺物

須恵器1～7は杯蓋である。須恵器8～21は杯身である。須恵器22は壺である。須恵器23～25は甕である。土師器26～39は甕である。土師器40、41は甕である。

杯蓋1、杯身8～11は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身8、甕23はヘラ記号が施されている。甕29～32は長胴甕である。甕33～38は球形体部に直立口辺部を有する小型甕である。甕40、41はともにつつぬけ底部である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

54号竪穴式住居（SB7054）（第563～572図）

カワラケメン地区、H7、H8グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.88m、深度は40cm、床面積15.74m²、内区面積3.58m²、住居主軸方位はN-5°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は43層に分層できる。1層は明黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層はにぶい赤褐色焼土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は褐色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層はにぶい褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.43m、EP2-3間は1.48m、EP3-4間は1.23m、EP4-1間は1.68mを測る。EP1内覆土は、1層は灰褐色粘質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層である。

土坑EK1は、北東隅より検出された。平面形態は楕円形を呈し、長軸170cm、短軸62.5cm、深度22.5

cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅72cm、燃焼部最大幅46cm、煙道長115cm、煙道幅21cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。深度17cmを測る。

4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層はにぶい赤褐色焼土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は褐色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層はにぶい褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層は灰黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層は褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層は灰黄褐色粘性砂質土層、50層は褐色粘性砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

床面直上より炭化材や焼土層が検出されており、焼失住居である。遺物は床面直上の遺物群と炭化材含層よりも高い層位で出土する一群に分けることができる。住居廃絶に伴い、カタヅケ行為の後に被火したものと想定される。床面直上の遺物群としては、土師器4、8である。土師器4は竈右袖前面よりの出土である。土師器8はEK1内に正位置で埋設されていた。上層の遺物群は須恵器1、2、3、土師器5である。甕5は竈直上であるが、遺構検出面からの出土である。なお、鉄滓12が出土しているが鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1は杯身、須恵器2は壺、須恵器3は甕である。土師器4～11は甕である。鉄器2197-1は曲刃鎌である。左側基部に折り返しを有する。甕はいずれも長胴甕である。鉄器2197-2は棒状鉄製品である。上端部は欠損しているが、下端部に欠損は認められない。下部側は鉄鎌台形関状に広がる。未製品と推定される。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

55号竪穴式住居（SB7055）（第573～582図）

カワラケメン地区、G10、G11グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は4.5m、深度は18cm、残存床面積17.94m²、内区面積4.13m²、住居主軸方位はN-16°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は39層に分層できる。1層はにぶい黄橙色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄橙色粘質土層、6層は褐色粘質土層、7層は明黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層はにぶい黄褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層は褐色粘質土層、15層はにぶい黄橙色粘質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層は暗褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘質土層、30層は暗褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は暗褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色粘質土層、36層は灰黄褐色粘性砂質土層、37層は暗褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は赤褐色粘質土層、51層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.92m、EP2-3間は2.05m、EP3-4間は1.3m、EP4-1間は1.5mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層である。

土坑EK1は、住居北東隅に構築されており、平面形態は不整楕円形を呈し、長軸72.5cm、短軸60cm、深度15cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅32cm、燃烧部最大幅46cm、煙道長40cm、煙道幅40cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸180cm、短軸159cm、深度6cmを測る。

7層は明黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄色粘質土層、15層はにぶい黄褐色粘質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層は暗褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘質土層、30層は暗褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は暗褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色粘質土層、36層は灰黄褐色粘性砂質土層、37層は暗褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は赤褐色粘質土層、40層はオリーブ褐色粘性砂質土層、41層はオリーブ褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色粘性砂質土層、43層は褐色粘質土層、44層は褐色粘質土層、45層はにぶい赤褐色粘質土層、46層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、47層は黄褐色粘質土層、48層は黄褐色粘質土層、49層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、50層は灰黄褐色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は居住区西側半分と竈内より出土した。居住区からの出土遺物は、主に中層から上層にかけての出土である。EP3南側より鉄器2198-1、2198-2が隣接して出土。EP4南東側より須恵器15が出土。EP4覆土上面より須恵器2が出土、EP4西側より須恵器1、14、3が出土。竈燃焼部床面から中層にかけて土師器16が出土。なお、竈内下層土には骨片が多数含まれている。

出土遺物

須恵器1～12は杯身である。須恵器13は高杯である。須恵器14、15は甕である。土師器16、17は甕である。鉄器2198-1は刀子である。2198-2は棒状鉄製品である。断面形態は台形を呈し、屈曲点よりやや厚味を減じる。刃部は形成されていない。刀子未製品の可能性がある。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

56号竪穴式住居（SB7056）（第583～593図）

カワラケメン地区、G10、G11グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。残存主軸長は5.05m、深度は13cm、床面積20.24m²、内区面積6.11m²、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は9層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は浅黄色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は灰黄褐色粘性砂質土層、9層は灰黄色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造である。EP1-2間は2.33m、EP2-3間は1.7mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂

質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅67cm、燃焼部最大幅43cm、支脚-焚口間49cm、支脚-奥壁間38cm、煙道長56cm、煙道幅28cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸115cm、短軸78cm、深度16cmを測る。

10層は褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘性砂質土層、13層は暗灰黄色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は暗赤褐色粘質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層は暗褐色粘質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層は赤褐色焼土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘性砂質土層、36層は褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層は褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘性砂質土層、43層はオリーブ褐色粘性砂質土層、44層はオリーブ褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

内区床面を中心に炭化材や焼土が検出されており、焼失住居である。住居東側より鉄器2199-2が出土。竈西側より土師器9が出土。EP2東側より石器14が出土。いずれも住居床面からの出土である。竈内燃焼部～焚き口にかけて多数の骨片が出土した。砂岩製支脚に被せるように口縁部を下に向けた土師器甕8が出土。燃焼部西側～焚き口の床面直上から中層にかけて土師器11が出土。燃焼部東側～焚き口の床面直上～中層にかけて土師器7が出土。竈内遺物出土層は煙道側から焚き口に向けて三角堆積となっており、住居埋没過程で土師器7、8、11が堆積したものと推定される。竈西側の住居北壁沿いにおいて土師器12が床面直上より出土。竈東側の住居北壁沿いにおいて土師器7が、中層～上層より出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2、3は杯身である。須恵器4は無蓋高杯である。須恵器5、6杯身である。土師器7～11は甕である。土師器12、13は杯である。石器14は敲石である。杯3は流れ込みである。無蓋高杯4は短脚三角形透かしの脚部に波状文を施した杯部を有する。甕7、11は長胴甕である。甕8は布留甕の特徴を残す。杯12、13の外表面はハケ調整が、内表面にはヘラミガキ調整が施されている。敲石14は緑色岩製である。鉄器2199-1は鉄鏃である。片丸造の柳葉形を呈する鏃身部に、厚味のある頸部を有する。台形関である。鉄器2199-2は大型刀子もしくは小刀である。角尻を呈する茎部には目釘孔が伴う。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

57号竪穴式住居（SB7057）（第594～604図）

カワラケメン地区、D9、D10グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は3.3m、深度は30cm、床面積9.54m²、内区面積2.4m²、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は20層に分層できる。1層は灰黄色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は灰白色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は灰黄褐色粘性砂質土層、17層は黄灰色粘性砂質土層、18層は灰黄色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.05m、EP2-3間は1.25m、EP3-4間は1.18m、EP4-1間は1.33mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ黄色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は灰黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-10°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅55cm、燃焼部最大幅33cm、支脚-焚口間67cm、支脚-奥壁間29cm、煙道長31cm、煙道幅22cm、支脚高13cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸137.5cm、短軸122.5cm、深度23cmを測る。

2層は灰黄褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、21層は暗灰黄色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄色粘性砂質土層、28層は暗灰黄色粘性砂質土層、29層は灰黄褐色粘性砂質土層、30層は暗灰黄色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層は灰黄褐色粘質土層、35層はに

ぶい黄橙色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層は灰黄褐色粘性砂質土層、39層はオリーブ褐色粘質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄色粘性砂質土層、42層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、43層はにぶい褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、48層は暗赤褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層は褐色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層、52層は褐色粘性砂質土層、53層は暗灰黄色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層は黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層は灰黄褐色粘性砂質土層、60層は褐色粘性砂質土層、61層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層は黄褐色粘性砂質土層、64層は褐色粘性砂質土層、65層は褐色粘性砂質土層、66層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、67層は褐色粘性砂質土層、68層は褐色粘性砂質土層、69層は褐色粘性砂質土層、70層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、71層は褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

住居床面～下層にかけて炭化材や焼土が検出されており、焼失住居である。竈周辺から出土した遺物は、床面直上～下層にかけての出土層位であり比較的プライマリーな状況を残すと推定される。竈燃焼部内からの遺物は砂岩製支脚のみである。竈右袖上面より土師器8が一箇所に集中した状態で出土した。竈右袖東側より須恵器1、2が床面直上より出土。セットの杯蓋と推定される。住居北東隅より須恵器6が床面からやや浮いた状態で出土。EP1東側の床面直上より土師器12が横転した状態で出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2～5は杯身である。須恵器6は甕である。土師器7～12は甕である。石器13は砥石である。石器14は不明石器である。杯身2底部内面には当て具痕跡が残る。杯蓋1と杯身2は出土状況からセット関係と推定される。杯身4は皿状の体部を呈する。甕7は球形体部に直立する口辺部を有する小型甕である。甕8、12は長胴甕である。砥石13は凝灰岩製である。不明石器14は結晶片岩製で、縁辺に敲打による剥離痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

58号竪穴式住居（SB7058）（第605～615図）

カワラケメン地区、E10、F11グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は4.3m、深度は25cm、床面積20.93m²、内区面積4.25m²、住居主軸方位はN-5°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は31層に分層できる。1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は灰黄褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘性砂質土層

土層、13層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は浅黄粘性砂質土層、16層はにぶい黄色粘性砂質土層、17層はにぶい黄色粘性砂質土層、18層は黄褐色砂質土層、19層はにぶい褐色焼土、20層は灰黄色粘性砂質土層、21層は、22層は灰オリーブ粘性砂質土層、23層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、24層は灰黄色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.63m、EP2-3間は1.55m、EP3-4間は1.43m、EP4-1間は1.63mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は灰褐色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は灰オリーブ粘質土層、2層は黒褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層は明黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は灰黄褐色粘質土層、10層はオリーブ褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅87cm、燃焼部最大幅28cm、支脚-焚口間43cm、支脚-奥壁間30cm、煙道長43cm、煙道幅17cm、支脚高21cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸121cm、短軸97cm、深度18cmを測る。

2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、15層は浅黄色粘性砂質土層、32層は黄褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄橙色粘質土層、36層はにぶい黄色砂質土層、37層は橙色砂質土層、38層は灰褐色粘質土層、39層は灰褐色粘質土層、40層はにぶい黄色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘質土層、43層はにぶい赤褐色粘質土層、44層は灰黄褐色粘質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層、46層は褐色粘質土層、47層は灰褐色焼土層、48層はにぶい黄色粘性砂質土層、49層はにぶい赤褐色焼土層、50層は灰黄褐色粘性砂質土層、51層は灰褐色焼土層、52層は褐色粘性砂質土層、53層は灰黄褐色粘性砂質土層、54層は明黄褐色粘質土層、55層は橙色砂質土層、56層は黄褐色砂質土層、57層はにぶい黄褐色砂質土層、58層は灰黄褐色粘性砂質土層、59層は黄褐色粘性砂質土層、60層は黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層は暗灰黄色砂質土層、63層はにぶい黄色砂質土層、64層はにぶい黄橙色粘質土層、65層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、66層はにぶい褐色砂質土層、67層は浅黄色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色粘質土層、69層はにぶい黄褐色粘質土層、70層はにぶい黄色粘質土層、71層は黄褐色粘質土層、72層は褐色粘性砂質土層、73層はにぶい黄褐色粘質土層、74層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、75層はにぶい黄褐色粘質土層、76層は黒褐色粘質土層、77層はにぶい黄

橙粘質土層、78層はにぶい黄褐色粘質土層、79層はにぶい褐色粘質土層、80層は黄褐色粘質土層、81層はにぶい赤褐色焼土層、82層はにぶい黄褐色粘質土層、83層はにぶい黄色粘質土層、84層は黄褐色粘性砂質土層、85層は黄色粘性砂質土層、86層は黄褐色粘質土層、87層は黄褐色粘性砂質土層、88層はにぶい黄色粘性砂質土層、89層はにぶい黄褐色砂質土層、90層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、100層はにぶい赤褐色焼土層、101層は褐色粘性砂質土層、102層は明黄褐色粘質土層、103層はにぶい黄褐色砂質土層、104層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、105層はにぶい黄褐色砂質土層、106層はにぶい黄橙色粘質土層、107層は黄褐色砂質土層、108層はにぶい黄色砂質土層、109層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、110層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、112層はにぶい黄色粘性砂質土層、112層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、113層はにぶい黄褐色粘質土層、114層は明赤褐色粘性砂質土層、115層は褐色粘性砂質土層、116層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、117層はにぶい黄褐色粘質土層、118層は黄褐色粘性砂質土層、119層はにぶい黄色砂質土層、120層は黄褐色粘性砂質土層、121層は黄褐色粘性砂質土層、122層は黄褐色粘性砂質土層、123層はにぶい黄褐色砂質土層、124層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、125層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

住居内床面からやや浮いた状態で焼土層と炭化物層が検出されており、焼失住居である。ただし、炭化材等はほとんど出土しておらず、被災後にカタヅケが行われたと推定される。居住区内からの遺物出土数は少なく、また床面直上からの出土もない。EP2付近より須恵器5、6が出土。須恵器6は完形である。竈内からは土師器を中心に出土している。竈内燃焼部内より土師器15が出土。竈袖部上面より土師器14、18、19が出土。

出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5～12は杯身である。須恵器13は壺である。土師器14～17は甕である。土師器18は甑である。土師器19は甑もしくは把手付甕である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身5、10は底部内面に当て具痕が残る。杯身12の体部は皿状を呈する。蓋の可能性もある。甕14、15は長胴甕である。甕17は鍋状体部と推定される。甑18はつつぬけ底部である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

59号竪穴式住居（SB7059）（第616～632図）

カワラケメン地区、F12グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.75m、深度は18cm、床面積39.77m²、内区面積10.8m²、住居主軸方位はN-10°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は75層に分層できる。1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は灰オリーブ色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色灰色粘性砂質土層、9層は褐色灰色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘

性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層は灰黄褐色粘性砂質土層、19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層は灰黄褐色粘性砂質土層、21層は灰黄色粘性砂質土層、22層は褐色灰色粘性砂質土層、23層は灰黄色粘性砂質土層、24層は黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はオリーブ褐色砂質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はオリーブ褐色砂質土層、31層はオリーブ褐色砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層はオリーブ褐色粘性砂質土層、42層は灰黄褐色粘性砂質土層、43層はオリーブ褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層は褐色粘性砂質土層、46層はオリーブ褐色粘性砂質土層、47層は褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は暗灰黄色粘質土層、50層はにぶい黄色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層、52層はオリーブ褐色粘性砂質土層、53層はオリーブ褐色粘性砂質土層、54層は褐色粘性砂質土層、55層は褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層はオリーブ褐色粘性砂質土層、59層は褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄色粘性砂質土層、62層は灰黄褐色粘性砂質土層、63層は黄褐色粘性砂質土層、64層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、65層は灰黄褐色粘性砂質土層、66層はオリーブ褐色粘性砂質土層、67層は黄褐色砂質土層、68層は黄褐色粘性砂質土層、69層は黄褐色粘性砂質土層、70層は黄褐色砂質土層、71層はオリーブ褐色砂質土層、72層は黄褐色粘性砂質土層、73層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、74層は褐色粘性砂質土層、75層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.25m、EP2-3間は3.05m、EP3-4間は2.5m、EP4-1間は3.3mを測る。EP1内覆土は、1層は灰黄褐色粘質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は暗灰黄色粘質土層、5層は黄灰色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層は褐色粘質土層、11層はオリーブ褐色粘質土層、12層はオリーブ褐色粘質土層、13層は褐色粘質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層は灰黄褐色粘質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は明黄褐色粘性砂質土層、8層は黄灰色粘性砂質土層、9層は明黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄色粘性砂質土層、14層は灰黄色粘性砂質土層、15層はにぶい黄色粘性砂質土層、16層は黄灰色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は暗灰黄色粘質土層、5層は暗灰黄色粘質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は灰黄色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層、8層は灰色粘性砂質土層、9層はにぶい黄色粘

性砂質土層である。

周壁溝は幅30cm、深度8cmを測る。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-9°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅72cm、燃焼部最大幅50cm、支脚-焚口間23cm、支脚-奥壁間20cm、煙道長79cm、煙道幅36cm、支脚高18cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸135cm、短軸99cm、深度11cmを測る。

遺物出土状況

遺構内からは189点の遺物が出土した。床面直上から上層にかけて出土している。一部に焼土が検出されたが、焼失住居とは考えがたい。また、大型遺物に限らず小型遺物においても破片間距離が3mを超えるものがあり、住居内遺物出土状況が、プライマリーな状況を反映しているかどうかは不明である。竈内からは土師器甕152が竈支脚として埋設されている。支脚周辺からは土師器157破片が出土。竈左袖西側からは須恵器62と土師器153が出土。鉄滓189が出土しているが鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1~61は杯蓋である。須恵器62~123、127は杯身である。須恵器124~139は壺、甕、瓶類の口縁部である。須恵器131は無蓋高杯である。須恵器134、135、140、141は甕である。須恵器142は平瓶、143は提瓶である。須恵器144は壺である。須恵器145、146は甕、須恵器147は横瓶である。土師器150~170は甕である。土師器171は甌である。石器187は台石である。玉188は丸玉である。

杯蓋1~3には口縁端部に打ち欠きが施されている。杯蓋14内面には粘土貼り付けによる補修痕が観察される。杯蓋16、17口縁端部には刻み目が施されている。杯身62~64、66、69口縁端部には打ち欠きが施されている。杯身72底部外面にはタタキ工具痕跡と「×」状に赤色顔料が塗布されている。杯身122は皿状体部と外反する口縁部が特徴の異形杯である。杯蓋の可能性もある。内面には粘土貼り付けによる補修痕が観察される。甕141は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕152は球形体部に直立する口縁部を有する小型甕である。竈支脚である。甕150、151、156、157は長胴甕である。台石187は結晶片岩製で、縁辺部に敲打痕や剥離痕が観察される。丸玉188はグリーンタフ製である。鉄滓189はメタルが遺存する。鉄器2200-1は鉄鏃もしくは鉄剣である。片鑄造の身を持つ。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

60号竪穴式住居 (SB7060) (第633~640図)

カワラケメン地区、E15、E16グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所~北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は4.38m、深度は5cm、床面積17.31m²、内区面積5.31m²、住居主軸方位はN-3°-Wを測る。中型の竪穴式住居と推定される。

土層

遺構内覆土は7層に分層できる。1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土

層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.61m、EP2-3間は1.7m、EP3-4間は1.6m、EP4-1間は1.83mを測る。EP1~4内覆土は11層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層、10、11層は黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅80cm、燃焼部最大幅48cm、支脚-焚口間46cm、支脚-奥壁間32cm、煙道長5cm、煙道幅25cm、支脚高24cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は73層に分層できる。2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10~13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、14層は灰黄褐色粘質土層で焼土・炭化物を含み、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は暗褐色粘質土層（焼土・炭層）、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層は灰黄褐色粘性砂質土層（焼土・炭層）、19層は明赤褐色粘性砂質土層、20層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、21、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は明赤褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘質土層、26層は灰黄褐色粘質土層（焼土・炭層）、27層は黄褐色粘質土層、28層はにぶい黄色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘質土層、30層は黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32~34層は黄褐色粘性砂質土層、35、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は明赤褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘質土層、40層は黄褐色粘質土層、41層は明赤褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘質土層、43~45層は黄褐色粘性砂質土層、46、48、50層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、47層はオリーブ褐色粘性砂質土層、49、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層は灰黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層は褐色粘性砂質土層、56層は黄褐色粘質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は黒褐色粘質土層、59層はにぶい黄褐色粘質土層、60層はにぶい褐色砂質土層、61層は褐色粘質土層、62層は黄褐色粘質土層、63、64層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、65層は褐色粘質土層、66層は黄褐色粘質土層、67層は明赤褐色粘性砂質土層、68層はオリーブ褐色粘質土層、69層は黒褐色粘質土層（焼土・炭層）、70層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、71層はにぶい褐色粘性砂質土層、72層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、73層は褐色砂質土層、74層は黄褐色砂質土層、75層はにぶい黄褐色粘質土層、76層は褐色粘質土層、77、78層は黄褐色粘質土層、79層は明赤褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸142cm、短軸131cm、深度20cmを測る。

遺物出土状況

住居西側より炭化物層が検出されたが、焼失住居とは認めがたい。内区EP1南西側より須恵器4が出土。EP4北側より須恵器2が出土。竈内燃焼部上層より土師器6が出土。

出土遺物

須恵器 1 は杯蓋 2 は、3 は杯身、4 は甕である。土師器 5～7 は甕である。石器 8 は砥石である。杯身 2 底部にはヘラ記号が施されている。杯身 3 には口縁端部に打ち欠きが施されている。甕 6 は長胴甕であるが、口縁部は未検出である。砥石 8 は緑色岩製で、鉄器刃部による擦痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

61号竪穴式住居（SB7061）（第641～650図）

カワラケメン地区、E14、E15グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.4mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は6.05m、深度は13cm、残存床面積44.93㎡、内区面積12.38㎡、住居主軸方位はN-5°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は15層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ色粘性砂質土層、8、9層は黄褐色粘性砂質土層、10、11層はにぶい黄色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は灰黄色粘性砂質土層、14、15層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.58m、EP2-3間は3.38m、EP3-4間は2.55m、EP4-1間は3.18mを測る。EP1内覆土は9層に分層でき、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は浅黄色粘性砂質土層、7～9層黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は11層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は10層に分層でき、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層、5層は灰オリーブ色粘性砂質土層、6層は黄灰色粘性砂質土層、7、8層は灰色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層、10層はにぶい黄色粘性砂質土層である。EP4内覆土は10層に分層でき、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ色粘性砂質土層、5層は黄灰色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7～9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄灰色粘性砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃燒部および煙道部が検出された。焚口部幅62cm、燃燒部最大幅56cm、煙道長85cm、煙道幅25cmを測る。

燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は86層に分層できる。16層は暗灰黄色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18～22、25、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23、24層は暗灰黄色粘性砂質土層、26層はにぶい黄色粘質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は灰黄褐色粘質土層、29層は黄褐色粘質土層、30層は暗灰黄色粘質土層、32層はにぶい黄色粘質土層、33層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、34層は灰黄褐色粘質土層で焼土・炭化物を含み、35、36層は灰黄色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は暗灰黄色粘性砂質土層、39層は灰黄色粘性砂質土層、40層は灰オリーブ色粘質土層、41層は黄灰色粘質土層、42層は黒褐色粘質土層、43、44、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45、48層は黒褐色粘質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、50層はにぶい黄色粘性砂質土層、51、54層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、52層はにぶい黄色粘性砂質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、55層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、56～58層は黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、60層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、61層はにぶい黄色粘性砂質土層、62～65層は黄褐色粘性砂質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい黄色粘質土層、68層は暗灰黄色粘質土層、69層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、70層は黄褐色粘質土層、71、72層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、73層は暗灰黄色粘性砂質土層、74層はにぶい黄褐色粘質土層、75層は灰黄褐色粘質土層、76層は暗灰黄色粘性砂質土層、77層は黄褐色粘性砂質土層、78、79層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、80、82層はにぶい赤褐色粘質土層（焼土層）、81層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、83層は灰黄褐色粘性砂質土層、84層は黄褐色粘性砂質土層、85層は暗灰黄色粘質土層、86層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、87層は黄褐色粘性砂質土層、88層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、89層は黄褐色粘性砂質土層、90層はにぶい黄色粘性砂質土層、91層は黄褐色粘性砂質土層、92、94層はにぶい黄色粘性砂質土層、93層は黄褐色粘性砂質土層、95、96層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、97～99層は黄褐色粘性砂質土層、100層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、101層は褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整三円形を呈する土坑が掘削されている。長軸174cm、短軸145cm、深度21cmを測る。

遺物出土状況

居住区からは小片の土器片と鉄器2201-1が出土したのみである。土器小片は図化できない。鉄器2201-1は竈前面より出土。遺物は主に竈内より出土した。竈内燃焼部中層より須恵器7と土師器13、14が出土。竈右袖部下面、下部構造覆土中より土師器15が出土。竈構築以前に埋納されたものである。竈構築に伴う祭祀行為と推定される。

出土遺物

須恵器1～6は杯蓋、6～11は杯身である。土師器12～16は甕、17は甑である。石器18は敲石である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きを施す。杯身7～9は杯蓋の可能性もある。甕12、14は長胴甕である。甕15、13、16は、球形体部に外反する口辺部を有する形態の小型甕である。敲石18は結晶片岩製で敲打痕が観察される。鉄器2201-1は曲刃鎌である。大型で緩い弧を描く。左側基部に折り返しを有する。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

62号竪穴式住居（SB7062）（第652～659図）

カワラケメン地区、E13、F14グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式

住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.8m、深度は75cm、床面積18.34m²、内区面積5.6m²、住居主軸方位はN-2°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は16層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3、7、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4、6、8、11層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層は浅黄色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、12、13層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP2-3間は1.78m、EP3-1間は2.08mを測る。EP1内覆土は10層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は12層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄灰色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は灰オリーブ色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は10層に分層でき、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ黄色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄色粘性砂質土層、10層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅43cm、燃烧部最大幅61cm、支脚-焚口間47cm、支脚-奥壁間13cm、煙道長61cm、煙道幅40cm、支脚高18cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は57層に分層できる。2、7、19、23、25、27、28、33、38、41、45、47、60、61、62、67、68、69層は黄褐色粘性砂質土層、17、20、21、26、52、56層はにぶい赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、18、42、層は灰黄色粘質土層、22層は黒色粘質土層、24、59層は明黄褐色粘性砂質土層、29、31、35、37、39、48、49、53、55、57、58、63、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30、51、70層はにぶい黄色粘性砂質土層、32、34、64層は褐色粘性砂質土層、36層は灰黄褐色粘性砂質土層、40、71層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、43層は暗灰黄色粘性砂質土層、44、46、50、層はオリーブ褐色粘性砂質土層、54層は黒色粘質土層（炭化物層）である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸200cm、短軸143cm、深度20cmを測る。

遺物出土状況

住居内より炭化材や焼土層が若干検出された。ただし、焼失住居かどうかは不明である。遺物は主に竈周辺部を中心に検出された。EP2南西側の床面直上から下層にかけて土師器5が出土。内区EP2北

東側より須恵器1が出土。内区竈前面より石器11が出土。竈内には砂岩製支脚が遺存する。支脚周辺より土師器甕の破片と須恵器3が出土。右袖上面より土師器8が出土。竈右袖東側より土師器6、7、9が出土。いずれも床面直上である。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋、4は杯身である。土師器5～9は甕である。土師器10は鉢である。石器11は台石である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕7、8、9は長胴甕である。甕5は球形体部に直立する口辺部を有する小型甕である。台石11は砂岩製で断面三角形を呈する頂点部に敲打痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

63号竪穴式住居（SB7063）（第660～669図）

カワラケメン地区、D15、E16グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は6.05m、深度は28cm、床面積31.81㎡、内区面積7.5㎡、住居主軸方位はN-22°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は16層に分層できる。1、2、4、5、6、9、15、16層はにぶい黄褐色粘質土層で、6層には炭化物・焼土を含み、3、7、8、10～14層は褐色粘質土層で、7、11～14層には炭化物を、8層には焼土を含む。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.3m、EP2-3間は2.48m、EP3-4間は2.04m、EP4-1間は2.6mを測る。EP1内覆土は7層に分層でき、1、2層は黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は過食粘質土層、5、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は8層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は8層に分層でき、1層は黄褐色粘質土層、2、4、5層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、6、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は8層に分層でき、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘質土層、3、5層はにぶい黄褐色粘質土層、4、6、7、8層は黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は未検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-18°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅68cm、燃烧部最大幅30cm、煙道長64cm、煙道幅34cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は71層に分層できる。17、19、24、54層は褐色粘質土層、18、27、28、39、40、44、46、53、

60、61、62、66、75、76、77、79、80、82層はにぶい黄褐色粘質土層、20、21、35、41、45、51、59、69、83層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22、層は灰黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄色粘質土層、26、33、50、72.73、86層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、30、68、82、87層は褐色粘性砂質土層（焼土層）、31、32、63、64、82層は褐色砂質土層、36、47、48層は明赤褐色粘性砂質土層（焼土層）、37、38、55、65、70、71、84層はにぶい褐色粘性砂質土層（焼土層）、42、43、49、67、74、78、85層は明褐色粘性砂質土層（焼土層）、52、57、58、81層は黄褐色粘性砂質土層、56層は明黄褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸162cm、短軸120cm、深度16cmを測る。

遺物出土状況

住居床面直上から下層にかけて炭化材、焼土層、炭化物層が検出された。焼失住居である。炭化材は直径10cm以下の部材で、放射状に分布する。炭化物層には藁状の植物繊維が観察され、屋根材と推定される。住居南壁付近の中層より須恵器4と石器18が出土。内区 EP 3 北東側の下層より土師器8が出土。EP 1 - 4 ライン上、竈焚き口部前面より石器17が出土。竈内燃焼部下層より土師器14が出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2～4は杯身、5は無蓋高杯、6は壺である。土師器7～13は甕、14は甑である。石器15は敲石、16はスクレイパー、17、18は不明石器である。杯蓋1は摘みである。杯身3、4は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕7、9、10は長胴甕である。甕8は球形体部に手捏ね状の口辺部を有する小型甕である。甑14は多孔底部で、大柿遺跡では唯一の出土例となる。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

64号竪穴式住居（SB7064）（第670～676図）

カワラケメン地区、B15、C15グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.1m、深度は18cm、内区面積4.97m²、住居主軸方位はN-14°-Wを測る。

土層

遺構内覆土は14層に分層できる。1、11層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は暗灰褐色粘性砂質土層、3、5、6、7、10層はにぶい黄色粘性砂質土層、4、8、12、14層は灰黄色粘性砂質土層、9、13層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP 1 - 2 間は1.83m、EP 2 - 3 間は1.95m、EP 3 - 4 間は1.83m、EP 4 - 1 間は1.89mを測る。EP 1 内覆土は9層に分層でき、1、3、4、5、6、8、9層は黄褐色粘性砂質土層、2、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP 2 内覆土は7層に分層でき、1、6層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層である。EP 3 内覆土は7層に分層でき、1、5、7層は黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、

4層は黄灰色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層である。EP4内覆土は9層に分層でき、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2、3層は灰黄色粘性砂質土層、4、6、9層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリブ褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅52cm、燃焼部最大幅31cm、支脚-焚口間42cm、支脚-奥壁間52cm、煙道長32cm、煙道幅52cm、支脚高18cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

1層は暗灰黄色粘性砂質土層、15層は暗灰黄色粘質土層、16、17層は灰黄褐色粘質土層、18、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は黄灰色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、23層は黄褐色粘質土層、24、25層は灰黄褐色粘質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘質土層、32層は灰黄褐色粘質土層、33層はにぶい石化色砂質土層、34層はにぶい褐色粘性砂質土層、35、36層はにぶい黄色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層は褐色砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘質土層、46層は褐色粘質土層、47層はにぶい黄褐色粘質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層は黄褐色砂質土層、50層は黄褐色砂質土層、51層は黄褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘質土層、53層はにぶい黄色粘質土層、54層は褐灰色粘性砂質土層、55層は黄灰色粘性砂質土層、56層は灰黄色粘質土層、57層は褐灰色粘質土層、58層は黄褐色粘性砂質土層、59層は灰黄色粘質土層、60層は黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄色粘性砂質土層、63層は褐色粘性砂質土層、64層はにぶい黄色粘性砂質土層、65、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67、68層は黄褐色粘性砂質土層、69層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、70層は黄褐色粘性砂質土層、71層は黄褐色粘性砂質土層、72層はにぶい黄褐色砂質土層、73層は褐色砂質土層、74層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、75層はにぶい黄色粘性砂質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸134cm、短軸103cm、深度22cmを測る。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土した。居住区内からは須恵器小片が出土したのみである。竈内燃焼部砂岩製支脚周辺からは土師器甕片が出土しているが図化できない。

出土遺物

須恵器1は杯身、2は提瓶である。土師器3は甕、4は壺である。杯身1は口縁端部に打ち欠きを施す。提瓶2はカキ目が施されており、球形の体部と推定される。壺4は小型直口壺である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

65号竪穴式住居 (SB7065) (第677~684図)

カワラケメン地区、B14、D15グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所~北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高77.9mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は0.83m、深度は14cm、残存床面積2.07m²、住居主軸方位はN-5°-Wを測る。住居北辺のみの検出である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅44cm、燃焼部最大幅38cm、支脚-焚口間25cm、支脚-奥壁間35cm、煙道長88cm、煙道幅30cm、支脚高5cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸138cm、短軸104cm、深度25cmを測る。

1層は灰褐色粘性砂質土層、2層は灰色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は褐灰色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ色粘性砂質土層、9層は灰黄褐色粘性砂質土層、10層は灰オリーブ色粘性砂質土層、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層は浅黄色砂質土層、13層はにぶい黄色粘性砂質土層、14層は灰黄色粘性砂質土層、15層は灰黄褐色粘性砂質土層、17層は灰黄色粘性砂質土層、18層は褐灰色粘性砂質土層、19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層は灰黄色粘性砂質土層、21層は灰オリーブ色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は灰オリーブ色粘性砂質土層、24層は灰黄色粘性砂質土層、25層は黄灰色粘性砂質土層、26層は黄灰色粘性砂質土層、27層は灰黄褐色粘性砂質土層、29層は灰色粘性砂質土層、30層は灰オリーブ色粘性砂質土層、31層は黄灰色粘性砂質土層、34層は黄灰色粘性砂質土層、35層は灰黄色粘性砂質土層、36層はにぶい黄橙色粘質土層、37層は黄褐色粘質土層、38層はにぶい黄色粘性砂質土層、39層は褐色粘質土層、40層はにぶい黄褐色粘質土層、41層はにぶい黄色粘性砂質土層、42層は灰黄色粘質土層、43層はにぶい黄色粘質土層、44層は黄褐色粘質土層、45層は灰黄色粘質土層、46層はにぶい褐色砂質土層、47層は黄褐色粘質土層、48層はオリーブ黄色粘性砂質土層、49層は黄褐色粘質土層、50層はにぶい黄色粘質土層、51層は灰オリーブ色粘質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内と、住居北壁沿いより出土した。竈西側北壁沿いにおいて床面からやや浮いた状態で須恵器1、2が出土。竈内においては土師器が出土。燃焼部には土師器甕4が支脚として埋設されている。支脚周辺からは土師器3が大型破片となって出土。

出土遺物

須恵器1、2は杯身である。土師器3、4は甕、5は甑である。杯身1、2には口縁端部に打ち欠きが施されている。甕3は長胴甕である。甕4は球形体部に直立する口辺部を有する小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

66号竪穴式住居（SB7066）（第685～701図）

カワラケメン地区、D12、E13グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.0mを測る。東群集落に属する。鍛冶工房である。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は3.63m、深度は30cm、床面積15.2m²、内区面積4.08m²、住居主

軸方位はN-11°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は28層に分層できる。1層は浅黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層は灰黄色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄色粘性砂質土層、10層は浅黄色粘性砂質土層、11層は黄灰色粘性砂質土層、12層は灰黄色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層は黄灰色粘性砂質土層、15層は灰黄色粘性砂質土層、16層は灰褐色粘性砂質土層、17層は、18層は灰黄色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層は浅黄色粘性砂質土層、22層はにぶい黄色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄色粘性砂質土層、25層は黄灰色粘性砂質土層、26層は灰黄色粘性砂質土層、27層は褐灰色粘性砂質土層、28層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.2m、EP2-3間は2.33m、EP3-4間は1.15m、EP4-1間は2.23mを測る。EP1内覆土は、1層は灰オリーブ色粘性砂質土層、2層は灰色砂質土層、3層は黄灰色粘質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はオリーブ黄色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は灰オリーブ色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層は灰オリーブ色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ色粘性砂質土層、5層は灰黄色粘質土層、6層は灰オリーブ色粘性砂質土層、7層は灰色粘性砂質土層、8層は黄灰色粘性砂質土層、9層は黄灰色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は黄灰色粘質土層、2層は灰オリーブ色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は暗灰黄色粘質土層、7層はオリーブ黄色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は灰オリーブ色粘性砂質土層、2層は灰色砂質土層、3層は黄灰色粘質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はオリーブ黄色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は灰オリーブ色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅71cm、燃焼部最大幅43cm、支脚-焚口間17cm、支脚-奥壁間34cm、煙道長44cm、煙道幅28cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸128cm、短軸67cm、深度20cmを測る。

29層はにぶい黄色粘性砂質土層、30層は灰黄褐色粘性砂質土層、31層は灰黄褐色粘質土層、32層は灰オリーブ粘質土層、33層はにぶい黄色粘性砂質土層、35層は暗灰黄色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘質土層、37層は灰黄色粘質土層、38層はにぶい黄褐色粘質土層、39層は黄褐色粘質土層、40層は灰黄褐色粘質土層、41層はにぶい黄色粘質土層、42層は灰黄褐色粘質土層、43層はにぶい黄褐色粘質土層、44層は褐灰色粘質土層、45層は黄褐色粘質土層、46層は灰オリーブ色粘質土層、47層はにぶい褐色焼土層、48層は浅黄色焼土層、49層はにぶい褐色焼土層、50層は灰黄色粘質土層、51層は浅黄色粘性砂質土層、52層はにぶい褐色粘性砂質土層、53層はにぶい褐色粘性砂質土層、54層はにぶい赤褐色焼土層、55層はにぶい赤褐色焼土層、56層は灰オリーブ色粘性砂質土層、57層は灰色粘性砂質土層、60層はにぶい

黄色粘性砂質土層、61層は灰黄色粘性砂質土層、62層は黄灰色粘性砂質土層、63層は黄灰色粘性砂質土層、64層はにぶい黄色粘性砂質土層、65層はにぶい黄色粘性砂質土層、66層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、67層は灰黄色粘性砂質土層、68層はにぶい黄色粘性砂質土層、69層は黄灰色粘性砂質土層、70層は灰黄褐色粘質土層、71層は灰黄褐色粘質土層、72層は灰黄色粘質土層、73層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、74層は黄褐色粘質土層、75層は褐灰色粘質土層、76層は灰黄色粘性砂質土層、77層は灰オリーブ色粘性砂質土層、78層はにぶい黄色粘質土層、79層は黄灰色粘質土層、80層は黄灰色粘性砂質土層、81層はにぶい黄色粘性砂質土層、82層は灰黄褐色粘質土層、83層は褐色粘質土層、84層は黄灰色粘質土層、85層はにぶい黄色粘質土層、86層はにぶい黄色粘性砂質土層、87層はにぶい褐色焼土層、88層は灰オリーブ色粘性砂質土層、89層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、90層は黄灰色粘性砂質土層、91層は黄灰色粘性砂質土層、92層は黄灰色粘性砂質土層、93層はにぶい黄色粘性砂質土層、99層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、100層はにぶい黄橙色粘質土層である。

鍛冶炉

鍛冶炉は竈前面、住居中央よりやや北西よりの地点に構築されている。基底部のみの検出である。住居床面より約6cm程度盛り上った基底部(炭化物+灰色粘土)状に炭化物層が堆積している。長軸55cm、短軸38cmを測る。鍛冶炉基底部は基本的には炭化物により構築されている。炭化物の間には鉄錆が堆積している。

鍛冶炉東側には送風口が敷設されている。送風施設として鍛冶炉東側に土坑が掘削されている。鍛冶炉から約20cm離れた地点に、鞆羽口固定用の台座が設置されている。台座は鍛冶炉側が低く、鞆側が高くなるように上面が斜めになっている。黄色粘土製である。周辺には鞆羽口38が転落した状態で出土した。台座の下にはカーボンペットが敷設されている。台座周辺は被熱により赤変、黒変した箇所が確認される。よって操業時には台座から東側は土坑基底部が露出していたものと推定される。ただし、鍛冶炉構築前に除湿を目的として火をかけた可能性もある。

鍛冶炉EH2東側の羽口設置土坑覆土は4層に分層でき、1層は灰オリーブ色粘性砂質土層で炭化物や粒状滓を含む。2層は灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ色粘性砂質土層である。

鍛冶炉から約50cm離れて砂岩が2つ設置されている。表面には鉄錆も観察されることから金床石の可能性も想定される。

複数の鞆羽口の出土から相当数の操業が想定される。

遺物出土状況

遺物は鍛冶炉西側を中心に検出された。いずれも床面直上である。EP1付近からは須恵器10が出土。金床石の近くからは鞆羽口37が床面直上より出土。住居南壁沿いより土師器34が出土。EP3東側より須恵器5が出土。EP3北西側より須恵器15、17、22、土師器27が出土。鍛冶炉南側より須恵器1、3、9、12が出土。鍛冶炉西側より須恵器4、11、13、14、23、24、土師器26が出土。

竈内には支脚として土師器甕31が埋設されている。通常支脚として甕を転用する場合は、口縁部を下に向けて倒立位で設置するのが通有であるが、甕31は胴部上半部のみの遺存で口縁部を上に向けて設置されている。支脚周辺には甕30を割り、花卉状に敷き詰めている。

なお、竈に鍛冶炉が近接していることや、竈内覆土中より骨片等が出土していないことから、竈EH1は明かりとり機能が優先されているものと推定される。

出土遺物

須恵器1～8は杯蓋、9～24は杯身、25は甕である。土師器26～35は甕、36は甌である。土製品37～46は甕羽口である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身9～12は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯20～23は杯蓋の可能性もある。羽口37は被熱により発泡している。羽口38は被熱により発泡し、一部には鉄滓が付着している。鉄滓58は鹿角に付着した鉄滓である。

未製品や鍛冶片は出土していない。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

67号竪穴式住居（SB7067）（第702～713図）

カワラケメン地区、B13、C14グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.55m、深度は33cm、床面積23.26㎡、内区面積4.43㎡、住居主軸方位はN-6°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は19層に分層できる。1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は灰色粘性砂質土層、9層はオリーブ黄色粘性砂質土層、10層はオリーブ黄色粘性砂質土層、11層は灰オリーブ色粘性砂質土層、12層は灰色粘性砂質土層、13層は黄灰色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘質土層、15層は黄褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、19層は灰黄色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.53m、EP2-3間は1.88m、EP3-4間は1.54m、EP4-1間は2.03mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層はにぶい黄色粘質土層、5層は灰オリーブ色粘性砂質土層、6層は黄灰色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は灰黄色粘性砂質土層、9層は黄灰色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄色粘質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄灰色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は暗灰黄色粘質土層、5層は灰オリーブ色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄灰色粘質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は灰黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は灰オリーブ色粘性砂質土層、9層は灰オリーブ色粘性砂質土層、10層はオリーブ黄色粘性砂質土層、11層は黄灰色粘質土層、12層は灰色粘性砂質土層、13層は灰オ

リーブ色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅77.5cm、深度20cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい褐色焼土層、2層はオリーブ黄色粘性砂質土層、3層はオリーブ黄色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ色粘性砂質土層、5層はオリーブ黄色粘性砂質土層、6層は灰オリーブ色粘性砂質土層、7層はオリーブ黄色粘性砂質土層、8層は灰色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-9°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅60cm、燃焼部最大幅41cm、煙道長40cm、煙道幅20cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、20層は灰黄色粘性砂質土層、21層はにぶい黄色粘性砂質土層、22層は灰色粘性砂質土層、23層は黄灰色粘質土層、24層は暗灰黄色粘質土層、25層は灰黄色粘質土層、26層は黄灰色粘質土層、27層は黄灰色粘質土層、28層は灰黄色粘質土層、29層は灰オリーブ色粘質土層、30層は灰黄褐色粘性砂質土層、31層は灰黄褐色粘性砂質土層、32層は灰黄褐色粘性砂質土層、33層は灰黄色粘性砂質土層、34層は灰黄褐色粘性砂質土層、35層は灰黄褐色粘質土層、36層はにぶい褐色焼土層、37層はにぶい黄色粘質土層、38層はにぶい黄色粘性砂質土層、39層はにぶい黄色粘質土層、40層はにぶい黄色粘性砂質土層、41層は灰黄色粘性砂質土層、42層はにぶい黄色粘性砂質土層、43層は灰黄色粘性砂質土層、44層は暗灰黄色粘性砂質土層、45層は暗灰黄色粘性砂質土層、46層は黄灰色粘質土層、47層は黄灰色粘性砂質土層、48層は暗灰黄色粘性砂質土層、49層はオリーブ黄色粘性砂質土層、50層は灰オリーブ色粘性砂質土層、51層は灰オリーブ色粘性砂質土層、52層は褐色灰色粘質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層は灰黄褐色粘性砂質土層、55層は浅黄色粘性砂質土層、56層は黄灰色粘性砂質土層、57層は黄灰色粘性砂質土層、58層はオリーブ黄色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

住居内床面から中層にかけて炭化材や藁状の植物繊維炭化物層が検出された。焼失住居である。遺物は炭化材等より下層で出土した。EP2付近からは直径30cm前後の炭化材が多数検出された。これら大型炭化材の下面より、藁状植物繊維炭化物層が検出されている。藁状炭化物は屋根材と推定され、大型炭化材は柱材と推定される。被災により屋根が落下した後に柱が倒れたと推定される。

EP2西側より土師器7、8、9が出土。EP4覆土上面より土師器10が出土。竈内からはほとんど遺物は出土していない。右袖東側より土師器6が出土。鉄滓13が出土しているが鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1、2は杯蓋である。須恵器3は高杯、4は壺、5は横瓶である。土師器6～8は甕、9、10は甕、11は鉢である。石器12は砥石である。甕6、8は布留甕の特徴を残す。甕7は胴部に内面からの敲打による穿孔が施されている。鉢11は内面にヘラミガキが施されている。砥石12は砂岩製で、表裏面に摩滅と鉄器刃部による擦痕が観察される。鉄器14～16は緩い弧を描く薄い鉄片である。不明製品である。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

68号竪穴式住居（SB7068）（第714～720図）

カワラケメン地区、C12、C13グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は3.05m、深度は30cm、残存床面積14.66m²、残存内区面積5.21m²、住居主軸方位はN-12°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

1層は黄褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層は褐色粘質土層、16層は黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄色粘性砂質土層、18層は黄褐色砂質土層、19層は黄褐色粘質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘質土層、28層は黄褐色粘質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄色粘性砂質土層、32層は黄褐色粘質土層、33層はにぶい黄褐色粘質土層、34層は黄褐色粘質土層、35層はにぶい黄褐色粘質土層、36層はにぶい黄色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘質土層、38層は黄褐色粘質土層、39層はにぶい黄色砂質土層、40層はオリーブ黄色粘性砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層は黄褐色粘質土層、43層はオリーブ黄色粘質土層、44層はにぶい黄色粘性砂質土層、45層はオリーブ黄色粘質土層、46層はにぶい黄色粘質土層、47層はにぶい黄色粘性砂質土層、48層はにぶい褐色焼土層、49層は黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造と推定される。EP1-2間は2.1mを測る。EP1内覆土は、1層は黄灰色粘性砂質土層、2層は灰黄褐色粘質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ砂質土層、5層は灰白色粘性砂質土層、6層は灰オリーブ粘性砂質土層、7層は灰オリーブ粘性砂質土層、8層は灰色粘質土層、9層は灰色粘質土層、10層は灰色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層は灰黄色粘質土層、2層はにぶい黄色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層は明黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅53cm、燃焼部最大幅35cm、支脚-焚口間13cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長39cm、煙道幅23cm、支脚高13cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸130cm、短軸105cm、深度15cmを測る。

1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色

色粘質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は褐色砂質土層、13層は黄褐色粘質土層、14層は褐色焼土層、15層は黄褐色粘質土層、16層はにぶい黄色粘性砂質土層、17層はにぶい褐色砂質土層、18層はにぶい黄橙色砂質土層、19層はにぶい黄色粘性砂質土層、20層はオリーブ色粘性砂質土層、21層はにぶい黄色砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ黄色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘質土層、25層はオリーブ黄色粘質土層、26層は暗灰黄色粘質土層、27層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、28層は黄褐色砂質土層、29層はにぶい黄色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土した。燃焼部に支脚として、土師器甕7が口縁部を上に向けて転用・埋設されている。甕7は胴下半部が欠損しており、欠損したために支脚として転用したものと想定される。支脚周辺から土師器6、8も出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2～5は杯身である。土師器6～8は甕である。土師器6、7は頸部にくびれがほとんどない長胴甕である。甕8は大型長胴甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

69号竪穴式住居（SB7069）（第721～727図）

カワラケメン地区、B12、C13グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高77.9mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1.25m、深度は17cm、残存床面積5.02m²、住居主軸方位はN-11°-Wを測る。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.13mを測る。

竈

竈は北辺中央部において検出された。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅95cm、燃焼部最大幅41cm、煙道長57cm、煙道幅30cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸140cm、短軸105cm、深度30cmを測る。

1層は灰褐色粘質土層、2層は灰黄色粘性砂質土層、3層は黄灰色粘性砂質土層、4層は灰黄色粘性砂質土層、5層は黄灰色粘性砂質土層、6層は灰黄色粘性砂質土層、7層は灰黄色粘性砂質土層、8層は黄灰色粘性砂質土層、9層は黄灰色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層は明黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄色粘性砂質土層、13層は黄灰色粘性砂質土層、14層はにぶい黄色粘性砂質土層、15層はにぶい黄色粘質土層、16層はにぶい黄色粘質土層、17層はにぶい黄色粘質土層、18層は明褐色砂質土層、19層は黄灰色粘性砂質土層、20層は浅黄色粘質土層、21層は黄灰色粘質土層、22層はにぶい黄色粘質土層、23層は黄褐色粘質土層、24層は浅黄色粘性砂質土層、25層はにぶい赤褐色焼土層、26層は

灰黄色粘質土層、27層は黄褐色粘質土層、28層は褐色粘質土層、29層は明黄褐色粘性砂質土層、30層は明褐色砂質土層、31層はにぶい黄色粘質土層、32層は明赤褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ黄色粘性砂質土層、34層はにぶい黄色粘質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層は明赤褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄色粘質土層、38層は黄褐色砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色砂質土層、43層はにぶい黄褐色砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層はオリーブ褐色粘性砂質土層、47層は浅黄色粘性砂質土層、48層は黄灰色粘性砂質土層、49層はにぶい黄色粘性砂質土層、50層は黄灰色粘性砂質土層、51層は黄灰色粘性砂質土層、52層はにぶい黄色粘性砂質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄色粘性砂質土層、55層は灰黄色粘性砂質土層、56層はにぶい黄色粘性砂質土層、57層はオリーブ黄色粘性砂質土層、58層はにぶい黄色粘性砂質土層、59層は黄褐色粘性砂質土層、60層は黄褐色粘質土層、61層はにぶい黄色粘性砂質土層、62層は明黄褐色粘性砂質土層、63層は黄灰色粘性砂質土層、64層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、65層はにぶい黄褐色粘質土層、66層はにぶい黄色粘質土層、67層はにぶい黄色砂質土層、68層は明褐色砂質土層、69層は黄褐色粘質土層、70層は明黄褐色粘性砂質土層、71層は黄褐色粘質土層、72層は灰黄色粘性砂質土層、73層は黄褐色粘質土層、74層はにぶい黄色粘性砂質土層、75層はオリーブ褐色粘質土層、76層は灰黄色粘質土層、77層は黄褐色粘質土層、78層は暗オリーブ色粘質土層である。

遺物出土状況

中層より炭化材が出土しているが、焼失住居かどうかは判別不能である。遺物は主に竈周辺から出土した。竈右袖東側より須恵器5と土師器10が出土。土師器10は横転した状態での検出である。竈左袖西側より須恵器6と、土師器11～13、18が床面直上より出土。竈内燃焼部下層より土師器14が大型破片化して出土。竈燃焼部より砂岩礫が出土しており、支脚であった可能性がある。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋、4～8は杯身、9は高杯である。土師器10～15は甕、16～18は甑である。石器19は砥石である。杯身6は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕10は長胴甕である。甕12、13、15は頸部くびれがほとんどない小型甕である。甑18はつつぬけ底部である。砥石19は砂岩製である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

70号竪穴式住居（SB7070）（第728～733図）

カワラケメン地区、D11、E12グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.25m、深度は10cm、床面積22.91m²、内区面積8.4m²、住居主軸方位はN-0°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は24層に分層できる。1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄色粘性砂質土層、9層は暗

灰黄色粘性砂質土層、10層は黄灰色粘性砂質土層、11層は暗灰黄色粘性砂質土層、12層は灰オリーブ色粘性砂質土層、13層は浅黄色粘質土層、14層は灰オリーブ色粘性砂質土層、15層は暗灰黄色粘性砂質土層、16層は浅黄色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は灰オリーブ色粘性砂質土層、19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は灰黄色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は3.05m、EP3-1間は1.85mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は暗灰黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。焚き口部をSTに切られている。主軸方位はN-0°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚き口部幅75cm、燃烧部最大幅60cm、支脚-焚き口間21cm、支脚-奥壁間13cm、煙道長26cm、煙道幅26cm、支脚高13cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。

19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は灰黄色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈周辺より出土した。竈燃烧部床面直上より土師器10が口縁部を下に向けた倒立位で出土した。支脚として転用された可能性もある。竈左袖部よりやや浮いた状態で土師器9や須恵器3、4が出土。須恵器3、4は隣接しているが同一個体ではない。

出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3～7は杯身、8は壺である。土師器9～11は甕である。甕10は球形体部に直立する短い口辺部を有する小型甕である。甕11は鉢状体部の小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

71号竪穴式住居（SB7071）（第734～739図）

カワラケメン地区、D11グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.58m、深度は20cm、床面積32.86m²、内区面積1047m²を測る。

大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は17層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は明黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、12層は浅黄色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は灰黄褐色粘性砂質土層、15層は灰オリーブ色粘性砂質土層、16層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、17層は灰白色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.7m、EP2-3間は3.15m、EP3-4間は2.54m、EP4-1間は2.79mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層は明褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は明褐色砂質土層、7層は明褐色砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層は明褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-10°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅80cm、燃烧部最大幅40cm、1層は灰黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層はにぶい黄橙色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は明褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、16層は灰黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄橙色粘質土層、18層は明黄褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄橙色砂質土層、21層は黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は明黄褐色粘性砂質土層、25層は灰黄色粘性砂質土層、26層は灰黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄色粘性砂質土層、28層は灰黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい褐色焼土層、31層はオリーブ黄色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、36層は褐色灰色粘性砂質土層、37層は黄灰色粘質土層、38層は灰オリーブ色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘性砂質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸94cm、短軸88cm、深度20cmを測る。

煙道内覆土は4層に分層でき、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄灰色粘質土層、3層はにぶ

い黄色粘質土層、4層は灰白色粘質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に居住区内から出土しており、竈内からは小片のみである。内区 EP1 西側において床面直上より石器11が出土。EP2-3 ライン南側において上層より須恵器2、4が出土。EP3-4 ライン沿いにおいて中層から上層にかけて土師器7が出土。EP4 北側において床面直上より須恵器1、2が出土。内区西側において獣歯が出土。

出土遺物

須恵器1-3は杯蓋、4-6は杯身である。土師器7、10は甑である。土師器8、9は手捏ね土器である。杯蓋2は内面に当て具痕跡が残る。杯身4は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身6は底部にヘラ記号が施されている。甑7はつつぬけ底部である。手捏ね土器8、9は鉢状を呈する。砥石11は砂岩製で、上面と右側面を使用している。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

72号竪穴式住居 (SB7072) (第740~755図)

カワラケメン地区、F15、G16グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所~北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.6m、深度は40cm、床面積28.21㎡、内区面積7.55㎡、住居主軸方位はN-15°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は57層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、19層は灰黄褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層、26層はにぶい黄褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層、28層は灰黄色粘質土層、29層は灰黄色粘質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘質土層、34層はにぶい黄褐色粘質土層、35層はにぶい黄褐色粘質土層、36層は褐色粘質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘質土層、39層は黄褐色粘性砂質土層、40層は灰黄色粘質土層、41層は灰黄色粘質土層、42層は灰黄色粘質土層、43層は褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層は暗灰黄色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色粘質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層はオリーブ褐色粘質土層、53層は灰黄色粘質土層、54層は褐色粘質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質

土層、56層は褐色粘質土層、57層は褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2m、EP2-3間は2.15m、EP3-4間は1.6m、EP4-1間は2.58mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は灰黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層は灰黄褐色粘質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は灰黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層は灰黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は灰黄褐色粘質土層、4層は褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層は褐色粘質土層、7層は褐色粘質土層、8層は褐色粘質土層である。

周壁溝は幅32.5cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層は黄褐色粘性砂質土層、33層は黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Eを測る。支脚は砂岩製と土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅90cm、燃焼部最大幅66cm、支脚-焚口間35cm、支脚-奥壁間55cm、煙道長100cm、煙道幅35cm、支脚高20cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸112cm、短軸95cm、深度22cmを測る。

3層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層、61層はにぶい黄褐色粘質土層、62層は灰黄褐色粘質土層、63層は褐色粘質土層、64層は灰黄褐色粘質土層、65層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、66層は褐色粘質土層、67層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色粘質土層、69層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、70層は褐色粘質土層、71層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、72層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、73層はにぶい黄褐色粘質土層、74層は褐色粘質土層、75層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、76層はにぶい黄褐色粘質土層、77層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、78層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、79層は暗灰黄褐色粘性砂質土層、80層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、81層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、82層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、83

層はにぶい黄褐色粘質土層、84層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、85層はにぶい黄褐色粘質土層、86層は黄褐色粘性砂質土層、87層は黄褐色粘性砂質土層、88層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、89層はオリーブ褐色粘性砂質土層、90層は褐色粘質土層、91層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、92層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、95層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、96層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、97層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、98層は褐色粘性砂質土層、99層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、100層は褐色粘性砂質土層、101層は褐色粘性砂質土層、102層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、103層は褐色粘性砂質土層、104層は黄褐色粘性砂質土層、105層は暗灰黄褐色粘性砂質土層、106層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、107層は黄褐色粘性砂質土層、108層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、109層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

床面直上から中層にかけて炭化材や藁状植物繊維の炭化物層、焼土層が検出されており、焼失住居である。竈内には砂岩製支脚と土師器甕31支脚が並立して設置されている。

なお、遺物出土状況は図化されているが、取り上げ番号が不明のため対応できない。

出土遺物

須恵器1～17は杯蓋、18～27は杯身である。須恵器28は壺である。須恵器29は横瓶である。土師器30～43、48は甕である。土師器44～46は甑である。土師器47は壺である。石器49は不明石器である。石製品50は白玉である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯蓋11は口縁端部に刻み目が施されている。杯身18は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕31は支脚である。大きく広がる口辺部が特徴であり、転用ではなく当初から支脚として使用することを目的として製作されたと推定される異形甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

73号竪穴式住居（SB7073）（第756～760図）

カワラケメン地区、C10、D10グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は1.73m、深度は7cm、残存床面積5.4m²、住居主軸方位はN-17°-Wを測る。

土層

遺構内覆土は3層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘質土層、11層は褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は1基検出された。本来は4本柱構造と推定される。EP1内覆土は、1層は灰色粘質土層、2層は灰オリーブ色粘質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は明黄褐色粘質土層、6層は明黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-21°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃燒部および煙道部が検出された。焚口部幅70cm、燃燒部最大幅31cmを測る。燃燒部では焚き口の外側に

も焼土層が広がる。竈内覆土の2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層褐色焼土・粘性砂質土層は、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、12層は黄褐色粘質土層、13層は黄褐色焼土・粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層は暗褐色粘性砂質土層、31層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘性砂質土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層はオリーブ褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄色粘性砂質土層、42層はにぶい黄色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘質土層である。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸153cm、短軸98cm、深度17cmを測る。

遺物出土状況

遺物は主に居住区覆土上層から出土している。

出土遺物

須恵器1は杯身である。土師器2、4は甑である。土師器3、5は甕である。甕3は小型甕である。甕5は長胴甕で、胴部に竈固定用粘土が付着する。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

74号竪穴式住居（SB7074）（第761～764図）

カワラケメン地区、G16グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。南西隅のみの検出である。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は35cm、残存床面積3.77m²を測る。

土層

遺構内覆土は31層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は褐色粘質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘質土層、13層は褐色粘質土層、14層は褐色粘質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘質土層、28層は褐色粘質土層、29層は褐色粘質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は1基検出された。本来4本柱構造と推定される。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は褐色粘質土層、10層は褐色粘質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に中層から上層にかけて出土した。また、上層より小型の炭化物も検出された。EP1南側において須恵器3が中層より出土。EP1西側において須恵器4、6と土師器7が上層より出土。

出土遺物

須恵器1、2は杯蓋である。須恵器3～5は杯身である。須恵器6は高杯である。土師器7は甕である。高杯6は短脚円形透かしが伴う。甕7は大型長胴甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

75号竪穴式住居（SB7075）（第765～772図）

カワラケメン地区、F14、G15グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は3.18m、深度は25cm、床面積11.62㎡、内区面積1.51㎡、住居主軸方位はN-2°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は18層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は灰黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は灰黄色粘性砂質土層、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は灰黄色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は0.55m、EP2-3間は0.75m、EP3-4間は0.67m、EP4-1間は0.88mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性

砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は灰黄褐色砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅27cm、燃焼部最大幅41cm、支脚-焚口間32cm、支脚-奥壁間3cm、煙道長123cm、煙道幅38cm、支脚高12cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。天井構架が遺存する。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸83cm、短軸63cm、深度14cmを測る。

2層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は灰黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層はにぶい褐色焼土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層は褐色粘性砂質土層、36層はにぶい赤褐色焼土層、37層はにぶい黄色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘性砂質土層、40層は暗灰黄色粘性砂質土層、41層は暗灰黄色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層は灰黄褐色粘性砂質土層、44層は暗灰黄色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄色粘性砂質土層、47層はにぶい黄色粘性砂質土層、48層は黄褐色粘性砂質土層、49層は暗灰黄色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、51層はにぶい赤褐色粘質砂質土層、52層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい灰黄褐色粘質砂質土層、54層は褐色粘性砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層は褐色粘性砂質土層、61層は褐色粘性砂質土層、62層は褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土。竈内燃焼部より須恵器3が出土。周辺からは土師器甕胴部片が出土したが図化できない。居住区内からの出土遺物は非常に少なく、住居廃絶に伴い、丁寧なカタヅケ行為が行われたと推定される。

出土遺物

須恵器1は甕である、須恵器2は高杯である。須恵器3は横瓶である。土師器4は椀である。椀4は内面に放射状のヘラミガキが施されている。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

76号竪穴式住居 (SB7076) (第773~780図)

カワラケメン地区、G13、H14グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所~北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.3mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.88m、深度は33cm、床面積32.59m²、内区面積10.6m²、住居主軸方位はN-7°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は81層に分層できる。3層は灰黄褐色粘質土層、4層は灰黄褐色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層は灰黄褐色粘質土層、9層は灰黄褐色粘質土層、10層は灰黄褐色粘質土層、11層は灰黄褐色粘性砂質土層、12層は灰黄褐色粘質土層、13層は暗灰黄色粘質土層、14層は灰黄褐色粘質土層、15層は暗灰黄色粘質土層、16層は灰黄褐色粘質土層、17層は灰黄褐色粘性砂質土層、18層は灰黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層はにぶい黄褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層は灰黄褐色粘性砂質土層、25層は灰黄褐色粘質土層、26層はにぶい黄褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層、28層はにぶい黄褐色粘質土層、29層は灰黄褐色粘質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層はにぶい黄褐色粘質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘質土層、35層は褐色粘質土層、36層は灰黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘質土層、43層は暗灰黄色粘質土層、44層は灰黄褐色粘質土層、45層はにぶい黄褐色粘質土層、46層は灰黄褐色粘質土層、47層は灰黄褐色粘質土層、48層はにぶい黄褐色粘質土層、49層は灰黄褐色粘質土層、50層は灰黄褐色粘性砂質土層、51層は灰黄褐色粘質土層、52層は灰黄褐色粘質土層、53層はにぶい黄褐色粘質土層、54層はにぶい黄褐色粘質土層、55層はにぶい黄褐色粘質土層、56層は灰黄褐色粘質土層、57層は灰黄褐色粘質土層、58層はにぶい黄褐色粘質土層、59層は褐色粘質土層、60層はにぶい黄褐色粘質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層はにぶい黄褐色粘質土層、64層はにぶい黄褐色粘質土層、65層はにぶい黄褐色粘質土層、66層はにぶい黄褐色粘質土層、67層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、70層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、71層はにぶい黄褐色砂質土層、72層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、73層はにぶい黄褐色粘質土層、74層はにぶい黄褐色粘質土層、75層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、76層はにぶい黄褐色粘質土層、77層はにぶい黄褐色粘質土層、78層はにぶい黄褐色粘質土層、79層は褐色粘質土層、80層は褐色粘性砂質土層、81層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.38m、EP2-3間は2.7m、EP3-4間は2.3m、EP4-1間は2.95mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は黒褐色粘質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層は褐色粘質土層である。EP3内覆土は、1層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、

5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、層は灰黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅35cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅110cm、燃焼部最大幅71cm、支脚-焚口間35cm、支脚-奥壁間14cm、煙道長160cm、煙道幅26cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸118cm、短軸110cm、深度13cmを測る。

1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄色粘性砂質土層、8層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は灰黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は灰褐色粘質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層は褐色粘質土層、26層は灰黄褐色粘性砂質土層、27層は灰黄褐色粘質土層、28層は灰黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘質土層、31層は褐色粘質土層、32層は暗灰黄色粘質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい赤褐色粘性砂質土、焼土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層は褐色灰色粘性砂質土層、37層は暗灰黄色粘性砂質土層、38層は灰黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい赤褐色焼土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層は黄褐色粘質土層、44層は褐色焼土層、45層はにぶい褐色焼土層、46層は灰黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層は褐色灰色粘性砂質土層、51層は褐色灰色粘性砂質土層、52層は灰黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい赤褐色焼土層、54層はにぶい黄色粘性砂質土層、55層はにぶい黄色粘性砂質土層、56層は灰黄褐色粘性砂質土層、57層は暗灰黄色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

床面直上遺物は非常に少なく、また図化できるものもない。須恵器1は内区中央部において床面直上付近から出土。鉄器2202-1はED覆土上面から出土。竈内燃焼部から焚き口部において、床面からやや浮いた状態で土師器10が出土。竈右袖上面より土師器10が出土。竈内からは骨片が出土している。

一方、土師器10は破片間距離が約5mあり、プライマリーな状態を保つものではない。同様に須恵器

6や土師器12も破片間距離が遠い。こうしたことから、住居廃絶時にカタヅケ行為が行われ、その後埋没過程において流れ込んだものと推定される。

出土遺物

須恵器1～5は杯蓋、6、7は杯身、8は高杯である。土師器9～13は甕、14、15は甑である。杯蓋1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯蓋2はSB7077に伴う可能性がある。高杯8はSB7077に伴う可能性がある。甕9、10は大型長胴甕である。甑14、15はつつぬけ底部と推定される。鉄器2202-1は鉄鏃である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

77号竪穴式住居 (SB7077) (第781～790図)

カワラケメン地区、H13、H14グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。SB7076に切られている。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.88m、床面積32.59m²、内区面積10.6m²、住居主軸方位はN-7°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は16層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.1mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅125cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は灰黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、住居南壁沿いに構築されており、平面形態は不整楕円形を呈し、長軸102cm、短軸91cm、深度30cmを測る。遺構内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は暗褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。

2層は暗灰黄色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は暗

灰褐色粘性砂質土層、23層は灰黄褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は暗褐色粘性砂質土層、28層は褐色砂質土層、29層は褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

床面直上付近までSB7076により削平されているために遺物はほとんど検出されていない。床面付近からは焼土層や炭化材が検出されており、焼失住居である。居住区東側のED覆土上面付近より土師器5が出土。土師器5の破片は竈内からも出土。居住区西側のED覆土上面より石器9が出土。土坑EK1東側において床面直上より須恵器4が出土。竈内覆土より多数の骨片が出土。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋である。須恵器4は杯身である。土師器5～7は甕である。土師器8は鉢である。石器9は不明石器である。杯蓋1と杯身4はセット関係と推定される。杯蓋3は抓みで、内面に当て具痕が残る。杯身4は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕5は長胴化の傾向が伺えるが、布留甕の特徴を残す。甕6は布留甕の特徴を残す。鉢8は内面に放射状のヘラミガキが施されている。不明石器9は砂岩製で、大きな剥離痕が観察される。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

78号竪穴式住居（SB7078）（第790～792図）

カワラケメン地区、H13グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2は杯身である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

79号竪穴式住居（SB7079）（第793図）

カワラケメン地区、I12グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。

時期

古墳時代後期と推定される。

80号竪穴式住居（SB7080）（第794～801図）

カワラケメン地区、G9、H9グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.83m、深度は25cm、床面積9.26㎡、内区面積2.58㎡、住居主軸方位はN-4°-Wを測る。

土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.2m、EP2-3間は1.4m、EP3-4間は1.15m、EP4-1間は1.4mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃焼部最大幅57cm、支脚-焚口間15cm、支脚-奥壁間28cm、煙道長47cm、煙道幅35cm、支脚高10cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として隅丸方形を呈する土坑が掘削されている。長軸110cm、短軸110cm、深度22cmを測る。12層は灰黄褐色粘性砂質土層、13層は灰黄褐色粘性砂質土層、14層は褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は暗灰黄色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘性砂質土層、19層は暗灰黄色粘性砂質土層、20層は灰褐色粘質土層、21層は褐色粘性砂質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層は暗褐色粘性砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、27層は暗褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は暗褐色粘性砂質土層、31層は褐色砂質土層、32層は褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層はにぶい赤褐色焼土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は暗褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい褐色粘性砂質土層、44層は灰黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄色粘性砂質土層、46層は灰黄褐色粘性砂質土層、47層は灰黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄色粘性砂質土層、49層は灰黄褐色粘性砂質土層、50層は灰黄褐色粘性砂質土層、51層は褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘性砂質土層、53層は暗灰黄色粘性砂質土層、54層は灰黄褐色粘性砂質土層、55層は褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

居住区西側半分において床面直上より焼土層や炭化材が検出された。焼失住居である。遺物は主に竈を中心に出土した。竈支脚として土師器2が口縁部を上にして埋設されている。土師器2は胴下半部を欠損しており、破損後に支脚として転用されたと推定される。竈燃焼部床面直上から焚き口部にかけて、土師器1が集中して出土。竈東側の床面直上より石器3が出土。

出土遺物

土師器1は把手付甕である。土師器2は甕である。石器3は敲石である。把手付甕1は扁平な球形体部を有する。甕の可能性もある。甕2は小型甕である。敲石3は結晶片岩製で、上面と右側面に敲打痕が残る。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

81号竪穴式住居（SB7081）（第802～810図）

カワラケメン地区、G9、H10グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.4mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.4m、深度は28cm、床面積11.63m²、内区面積1.96m²、住居主軸方位はN-23°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は42層に分層できる。1層は黄褐色粘質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は灰黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はにぶい黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層はにぶい黄褐色粘質土層、16層はにぶい黄褐色粘質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層はにぶい黄褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層、26層は灰黄褐色粘質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘質土層、32層は黄褐色粘質土層、33層はにぶい黄褐色粘質土層、34層は黄褐色粘質土層、35層はにぶい黄褐色粘質土層、36層はにぶい黄褐色粘質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層は褐色粘性砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層は褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP2-3間は0.8m、EP3-1間は1.25mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-20°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅65cm、燃焼部最大幅41cm、支脚-焚口間32cm、支脚-奥壁間20cm、煙道長32cm、煙道幅23cm、支脚高14cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸114cm、短軸96cm、深度23cmを測る。

25層はにぶい黄褐色粘質土層、41層は灰黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層はオリブ褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層は灰黄褐色粘性砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、49層は灰黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層は褐色粘質土層、53層は黄褐色粘性砂質土層、54層は暗灰黄色粘性砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層は褐色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層は褐色粘性砂質土層、60層は褐色粘性砂質土層、61層は褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層は褐色粘性砂質土層、64層は黄褐色粘性砂質土層、65層は褐色粘性砂質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい赤褐色焼土層、68層はにぶい赤褐色焼土層、69層はにぶい赤褐色焼土層、70層はにぶい赤褐色焼土層、71層は褐色粘性砂質土層、72層はにぶい黄褐色粘質土層、73層は褐色粘性砂質土層、74層は褐色粘性砂質土層、75層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、76層は褐色粘性砂質土層、77層は褐色粘性砂質土層、78層は褐色粘性砂質土層、79層は褐色粘性砂質土層、80層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、81層は黄褐色粘性砂質土層、82層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、83層は黄褐色粘性砂質土層、84層は褐色粘性砂質土層、85層は灰黄褐色粘性砂質土層、86層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は居住区南側と竈周辺を中心に、遺構面直上より出土している。中層より炭化材が出土しているが、焼失住居かどうかは判別不明である。住居南東隅において須恵器1、土師器12、13、鉄器2203-1が、床面直上～下層より出土。EP2南側において須恵器3、6、土師器10、18が床面直上より出土。EP2周辺からは土師器17が2地点に集中して出土。EP3覆土上面より石器19が出土。住居北西隅において須恵器5、7が中層より出土。石器19、須恵器5、7は、埋没過程に伴う遺物の可能性が高い。住居北東隅において土師器11、12、13が、床面よりやや浮いた状態で出土。

竈左袖西側より土師器13が出土。竈焚き口部前面の床面直上より、土師器10が出土。竈左袖上面より土師器12が出土。土師器12は、燃焼部内の支脚周辺からも出土している。袖部西側に口縁部が集中し、燃焼部内に底部から胴下半部が集中していることから、落下もしくは投棄の可能性が高い。竈右袖東側からは、須恵器2、9、土師器11、13が重なるように出土。

出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5～7は杯身である。須恵器8は壺である、須恵器9は甕である。土師器10～18は甕である。石器19は不明石器である。杯身6は口縁端部に打ち欠きが施されている。底部にはヘラ記号が施されている。杯身7は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕10、12、16、17は長

胴甕である。甕11、13は球形体部の小型甕である。不明石器19は砂岩製で、縁辺部に敲打痕と、上下端部に剥離痕が観察される。鉄器2203-1は輪金である。幅9mm、厚味3.3mmの鉄棒を長楕円形に折り曲げている。端部が内側に食い込んでいることから責金具の可能性もある。馬具と考えられる。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

82号竪穴式住居（SB7082）（第811～819図）

カワラケメン地区、I5、I6グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は2.95m、深度は28cm、床面積8.26㎡、住居主軸方位はN-5°-Wを測る。

土層

遺構内覆土は5層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘質土層、5層はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は0.55mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄橙色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄橙色砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅54cm、燃焼部最大幅15cm、支脚-焚口間40cm、支脚-奥壁間70cm、煙道長40cm、煙道幅27cm、支脚高18cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として円形を呈する土坑が掘削されている。長軸86cm、短軸84cm、深度19cmを測る。

1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄橙色粘質土層、12層は明赤褐色砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は明黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい褐色砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層は明褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層は明褐色粘性砂質土層、23層はにぶい褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は明褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄橙色砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層はにぶい黄橙色砂質土層、38層は黄褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は明赤褐色砂質土層、42層は明褐色粘性砂質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄橙

色粘性砂質土層、45層は黄褐色砂質土層、46層は明赤褐色焼土層、47層は褐色粘性砂質土層、48層は黄褐色砂質土層、49層は黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘質土層、52層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄橙色粘質土層、55層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に居住区南側と竈内に集中している。須恵器1、2は南壁沿いより出土。竈内燃焼部から焚き口部にかけて骨片（図中では□）が多数出土している。獣種は不明である。砂岩製支脚に被せるように須恵器3が出土。支脚周辺より土師器9、10が出土。土師器10は焚き口部からも出土。

出土遺物

須恵器1～3、5は杯身、4は高杯、6、7は甕、8は横瓶である。土師器9、10は甕である。杯身1は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身3は杯蓋となり、杯身2とセットとなる可能性もある。土師器9は長胴甕である。甕10は球形体部に内傾しながら立ち上がる口辺部を有する小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

83号竪穴式住居（SB7083）（第820～833図）

カワラケメン地区、H6、I6グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.38m、深度は33cm、床面積28.63m²、内区面積6.67m²、住居主軸方位はN-1°-を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は72層に分層できる。1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄橙色砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘質土層、16層はにぶい黄橙色砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色砂質土層、20層はオリーブ褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層ははり床、27層は黄褐色砂質土層、28層はオリーブ褐色砂質土層、29層はオリーブ褐色粘性砂質土層、30層はオリーブ褐色砂質土層、31層は黄褐色砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘性砂質土層、36層はオリーブ褐色粘性砂質土層、37層はオリーブ褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層はオリーブ褐色粘性砂質土層、40層は黄褐色砂質土層、41層ははり床、42層は黄褐色粘性砂質土層、43層はオリーブ褐色粘性砂質土層、44層はオリーブ褐色粘性砂質土層、45層はオリーブ褐色粘性砂質土層、46層はオリーブ褐色粘性砂質土層、47層はオリーブ褐色粘性砂質土層、48層はオリーブ褐色粘性砂質土層、49層は黄褐色砂質土層、50層はオリーブ褐色粘性砂質土層、51層はオリー

ブ褐色砂質土層、52層はオリーブ褐色砂質土層、53層はオリーブ褐色砂質土層、54層は黄褐色粘性砂質土層、55層は黄褐色砂質土層、56層はオリーブ褐色粘性砂質土層、57層はオリーブ褐色砂質土層、58層はオリーブ褐色粘性砂質土層、59層はオリーブ褐色粘性砂質土層、60層はオリーブ褐色粘性砂質土層、61層はオリーブ褐色粘性砂質土層、62層はオリーブ褐色粘性砂質土層、63層はオリーブ褐色粘性砂質土層、64層はオリーブ褐色粘性砂質土層、65層はオリーブ褐色粘性砂質土層、66層はオリーブ褐色粘性砂質土層、67層は黄褐色粘性砂質土層、68層は黄褐色粘性砂質土層、69層は黄褐色砂質土層、70層はオリーブ褐色粘性砂質土層、71層はオリーブ褐色粘性砂質土層、72層はオリーブ褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.73m、EP2-3間は2.05m、EP3-4間は1.65m、EP4-1間は2.45mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は明黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄色砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

周壁溝は幅35cm、深度8cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Wを測る。支脚は砂岩製である。2つの砂岩礫を「ハ」字状に設置している。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅62cm、燃焼部最大幅30cm、支脚-焚口間43cm、支脚-奥壁間24cm、煙道長16cm、煙道幅23cm、支脚高11cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸129cm、短軸106cm、深度10cmを測る。

71層は暗褐色砂質土層、72層は暗褐色砂質土層、73層は褐色砂質土層、74層はにぶい黄褐色砂質土層、75層はオリーブ褐色砂質土層、76層はにぶい赤褐色砂質土層、77層はオリーブ褐色砂質土層、78層はオリーブ褐色砂質土層、79層は褐色砂質土層、80層は暗褐色砂質土層、81層は褐色砂質土層、82層はにぶい黄褐色砂質土層、83層はにぶい赤褐色砂質土層、84層は褐色砂質土層、85層は黄褐色砂質土層、86層は褐色砂質土層、87層は褐色砂質土層、88層はにぶい黄褐色砂質土層、89層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺物出土状況

床面直上から中層にかけて炭化材や焼土層が出土しており、焼失住居である。炭化材の堆積状況を観察すると、住居中央部では床面直上付近から検出されている。一方、住居壁沿いでは中層から検出されている。特に南側や西側では三角堆積が観察される。こうしたことから、住居廃絶後に住居内に土砂が流入し始めてから、上部構造が被火したと推定される。住居廃絶にあたっては上部構造が建った状態で遺棄するパターンが存在した事が確認された。なお被火原因は放火か失火かは判別不能である。

竈上面の中層より土師器6が出土。土師器6は竈内燃焼部と居住区全体に小片が散らばっている。竈西側の北壁沿いにおいて土師器8が床面直上より出土。EP1西側より土師器9が床面直上より出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2は杯身である。須恵器3は椀、4は無蓋高杯である。須恵器5は甕である。土師器6～8は甕である。土師器9は鉢である。石器10は紡錘車である。椀3は外方へ直線状に広がる杯部に櫛描波状文が施されている。無蓋高杯4は内外面に赤色顔料が塗布されている。甕6、8にはやや長胴化の傾向が認められる。甕6、7の口縁部には布留甕の特徴が残る。鉢9はユピナデ調整である。紡錘車10は結晶片岩製で、上面には使用による摩滅痕が観察される。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

84号竪穴式住居（SB7084）（第834～843図）

カワラケメン地区、I5、J6グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.01m、深度は43cm、床面積15.37㎡、内区面積3.58㎡、住居主軸方位はN-13°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は36層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は灰黄褐色砂質土層、11層は灰黄褐色砂質土層、12層は灰黄褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘質土層、20層はにぶい黄橙色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層はにぶい黄褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は崩壊のため土色なし、26層は褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄橙色砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄橙色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.17m、EP2-3間は1.5m、EP3-4間は1.18m、EP4-1間は1.5mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は明黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は明黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は明黄褐色粘質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄橙色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅20cm、深度8cmを測る。遺構内覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Wを測る。支脚は砂岩製である。支脚は2つの砂岩礫を「ハ」字状に設置している。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅72cm、燃焼部最大幅46cm、支脚-焚口間18cm、支脚-奥壁間23cm、煙道長92cm、煙道幅42cm、支脚高11cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸108cm、短軸102cm、深度20cmを測る。

2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄橙色粘質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層は黄褐色粘性砂質土層、33層は褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘質土層、35層はにぶい褐色砂質土層、36層はにぶい黄色粘質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色砂質土層、39層はにぶい黄色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色砂質土層、42層は黄褐色砂質土層、43層は明黄褐色砂質土層、44層は明褐色粘性砂質土層、45層はにぶい褐色砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘質土層、47層はにぶい黄褐色粘質土層、48層はにぶい褐色粘質土層、49層はにぶい褐色粘質土層、50層はオリーブ褐色粘性砂質土層、51層は暗赤褐色粘性砂質土層、52層は暗赤褐色砂質土層、53層はオリーブ褐色粘性砂質土層、54層はオリーブ褐色砂質土層、55層は明黄褐色砂質土層、56層は黄褐色粘質土層、57層は黄褐色粘性砂質土層、58層はにぶい黄色粘質土層、59層は明黄褐色砂質土層、60層は明黄褐色粘質土層、61層は明褐色砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘質土層、63層はオリーブ褐色砂質土層、64層は焼土層、65層は暗赤褐色砂質土層、66層は黄褐色砂質土層、67層は黄褐色砂質土層、68層は黄褐色砂質土層、69層は暗赤褐色砂質土層、70層はオリーブ褐色砂質土層、71層は暗オリーブ褐色砂質土層、72層はオリーブ褐色砂質土層、73層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主の床面直上と竈周辺より出土。ただし居住区内出土遺物は、小片で且つ出土量も少ない。EP4西側より須恵器2が床面直上より出土。竈内からは土師器甕の胴部片が出土したが図化はできない。竈焚き口部より石器9が出土。また竈燃焼部から焚き口部にかけて、獣骨片が出土している。なお、EP3付近と竈西側北壁付近より、炭化した藁状植物繊維が検出された。焼失住居かどうかは判別不能である。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2～4は杯身、5は台付長頸壺、6は甕である。土師器7は壺、8は甕である。石器9は台石である。杯身2は口縁端部に打ち欠きが施されている。台付長頸壺5は脚台部のみ出土で、逆台形透かしが3方向に施されている。壺7は小型壺であるが、体部形態は不明である。甕8は長胴甕である。台石9は結晶片岩製で、上面に敲打痕が観察される。上部には切断面が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

85号竪穴式住居 (SB7085) (第844～856図)

カワラケメン地区、I4、J5グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住

居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.58m、深度は25cm、床面積38.12m²、内区面積11.55m²、住居主軸方位はN-15°-Wを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は21層に分層できる。1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層は黄褐色砂質土層、10層はオリーブ褐色砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層は暗褐色砂質土層、14層は灰黄色砂質土層、15層はオリーブ褐色砂質土層、16層はオリーブ褐色砂質土層、17層はオリーブ褐色砂質土層、18層は灰黄色砂質土層、19層は黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄色砂質土層、21層は暗褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は3.15m、EP2-3間は2.78m、EP3-4間は2.55m、EP4-1間は2.53mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は暗褐色砂質土層、3層はにぶい黄橙色砂質土層、4層は暗褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい赤褐色砂質土層、9層は黒褐色砂質土層である。

周壁溝は幅37.5cm、深度7cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄橙色粘質土層、3層は明黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、EP1に切られた状態で構築されている。平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸170cm、短軸120cm、深度45cmを測る。遺構内覆土は、9層に分層できる。1層は明黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、9層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅78cm、燃焼部最大幅37cm、支脚-焚口間21cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長52cm、煙道幅43cm、支脚高13cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸228cm、短軸160cm、深度19cmを測る。

1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄橙色粘質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、23層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、24層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、25層はにぶい黄色粘質土層、26層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、27層はにぶい黄色粘質土層、28層は明黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、31層は褐色粘質土層、32層はにぶい黄橙色粘質土層、33層はにぶい黄褐色粘質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄橙色粘質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層

は浅黄色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘質土層、40層はにぶい黄橙色粘質土層、41層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、44層は明赤褐色砂質土層、45層は灰褐色砂質土層、46層は明赤褐色砂質土層、47層はにぶい黄橙色粘質土層、48層は明赤褐色砂質土層、49層はにぶい褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄褐色砂質土層、51層は明赤褐色砂質土層、52層は暗褐色砂質土層、53層はにぶい赤褐色砂質土層、54層は黄褐色砂質土層、55層は暗褐色砂質土層、56層は褐色砂質土層、57層はにぶい赤褐色砂質土層、58層は褐色砂質土層、59層はにぶい黄褐色砂質土層、60層はオリーブ褐色砂質土層、61層は褐色砂質土層、62層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、63層はにぶい褐色粘性砂質土層、64層は明黄褐色粘性砂質土層、65層はにぶい黄橙色粘質土層、66層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、67層はにぶい褐色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色砂質土層、69層は黄褐色砂質土層、70層は暗褐色砂質土層、71層は明赤褐色砂質土層、72層は明赤褐色砂質土層、73層はにぶい黄褐色砂質土層、74層はにぶい黄褐色砂質土層、75層はにぶい褐色粘性砂質土層、76層は黄褐色砂質土層、77層はにぶい黄褐色砂質土層、78層はオリーブ褐色砂質土層、79層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、80層は明赤褐色砂質土層、81層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、82層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、83層は灰褐色砂質土層、84層は褐色粘質土層、85層は暗褐色砂質土層、86層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、87層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、88層は明褐色粘質土層、89層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、90層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、91層は橙色砂質土層、92層は浅黄色粘性砂質土層、93層は明黄褐色粘性砂質土層、94層は明黄褐色粘性砂質土である。

遺物出土状況

遺物はED沿いと竈周辺より出土している。住居床面直上から炭化材や焼土層が検出されている。焼失住居である。ただし、被災後のカタツケ行為が行われた可能性が高い。竈内支脚として土師器甕12が出土。口縁部を上に向けた正位置で埋設されている。埋設あたっては胴下半部を打ち割り、竈下部構造埋土内に埋納している。支脚周辺からは須恵器5、土師器13、17が出土。住居北東隅からは須恵器6が出土。住居北西隅からは土師器20、23が床面直上より出土。付近では噴砂も検出されている。鉄滓24～26が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～7は杯蓋、8、10、11は杯身、9は無蓋高杯である。土師器12は～18、22は甕である。土師器19は杯身、23は甕である。ガラス製品27は小玉である。杯蓋1、2は口縁端部に打ち欠きが施されている。無蓋高杯9は櫛描波状文が施されている。甕12は長胴甕で、外面には棒状工具によるナデが施されている。甕13は小型甕である。甕17、20は球形体部の小型甕である。ガラス小玉27はブルー系である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

86号竪穴式住居（SB7086）（第857～870図）

カワラケメン地区、K2、L3グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.05m、深度は20cm、床面積23.13m²、内区面積7.12m²、住居

主軸方位はN-7°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層はにぶい黄色砂質土層、2層は灰黄褐色砂質土層、3層は灰黄褐色砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層、5層は灰黄褐色砂質土層、6層は灰黄褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層は灰黄褐色砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、11層は灰黄褐色砂質土層、12層は灰黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.15m、EP2-3間は2.13m、EP3-4間は1.9m、EP4-1間は1.95mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層は褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅25cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、住居中央やや南西よりに構築されている。平面形態は不整長方形を呈し、長軸123cm、短軸111cm、深度8.8cmを測る。遺構内覆土1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層である。

土坑EK2は、住居南東隅に構築されている。平面形態は不整楕円形を呈し、長軸189cm、短軸126cm、深度6.3cmを測る。遺構内覆土は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅34cm、燃焼部最大幅28cm、支脚-焚口間22cm、支脚-奥壁間17cm、煙道長79cm、煙道幅30cm、支脚高17cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸122cm、短軸100cm、深度25cmを測る。

2層は灰黄褐色砂質土層、3層は灰黄褐色砂質土層、4層は灰黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色砂質土層、13層はオリーブ褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は明黄褐色砂質土層、18層はオリーブ褐色砂質土層、19層は暗褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層はオリーブ褐色砂質土層、24層は黄褐色砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層は黄褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層は黄褐色砂質土層、30層は赤褐色砂質土層、31層は黄褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は黄褐色粘性砂質土層、34層は赤褐色砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層はオリーブ褐色砂質土層、38層は褐色砂質土層、39層はオリーブ褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂

質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層はにぶい黄橙色砂質土層、45層は黄褐色砂質土層、46層は明赤褐色粘性砂質土層、47層は黄褐色砂質土層、48層は黄褐色砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄色粘性砂質土層、51層は明褐色砂質土層、52層は明赤褐色粘性砂質土層、53層は明黄褐色粘性砂質土層、54層は黄褐色砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層は黄褐色砂質土層、57層は褐色粘性砂質土層、58層は黄褐色砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主にEK2と竈周辺から出土している。EK2内からは土師器11、12、石器21、鉄器2204-1は出土。ほかにも図化できない製塩土器片が出土している。EP2北西より石器23が浮いた状態で出土。EK1北西側縁辺部で須恵器1が出土。EK1内からは炭化材や獣骨片も出土。EP1より須恵器8、土師器14が出土。EP4南東側より須恵器5、6土師器15、石器22が床面より出土。竈西側北壁沿いより須恵器4と製塩土器18、19、20が出土。竈内燃焼部支脚周辺より須恵器3、土師器17が出土。竈燃焼部～焚き口部にかけて獣骨片が出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2～5は杯身、6は甕、7、8は高杯、9、10は甕である。土師器11～13は甕、14は高杯、15は甑、16、17は鉢である。石器21、22は敲石である。石器23は不明石器である。杯身2は流れ込みの可能性があり、杯蓋の可能性もある。杯身5、6は底部にヘラ記号が施されている。杯身6は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕11は長胴甕である。甕13は布留甕の特徴を残す。鉢16は外面は板ナデ調整が、内面にはユビナデ調整が施されている。鉢17は内外面に板ナデ調整が施されている。製塩土器18は大柿Ⅰ類である。製塩土器19、20は大柿Ⅲ類である。敲石21は砂岩製で、左右側縁に敲打痕が観察される。敲石22は砂岩製で、上下両端部に敲打痕が観察される。不明石器23は結晶片岩製で、左側縁に剥離痕が観察される。鉄器2204-1は棒状鉄器である。器種は不明である。

時期

古墳時代中期・大柿様相Ⅱ段階である。

87号竪穴式住居（SB7087）（第871～879図）

カワラケメン地区、I5、J5グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。残存主軸長は1.68m、深度は23cm、残存床面積13.14m²、住居主軸方位はN-4°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は7層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は黄灰色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.33mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層はにぶい

黄橙色粘性砂質土層、5層はにぶい黄色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅15cm、深度7cmを測る。遺構内覆土はにぶい黄橙色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅52cm、燃烧部最大幅31cm、支脚-焚口間48cm、支脚-奥壁間36cm、煙道長129cm、煙道幅42cm、支脚高10cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸126cm、短軸101cm、深度25cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄色砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄色砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄橙色砂質土層、19層はにぶい黄色砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層は浅黄色粘質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層、23層は明黄褐色粘性砂質土層、24層は浅黄色粘質土層、25層は浅黄色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層は明赤褐色砂質土層、29層は黄褐色粘質土層、30層はにぶい黄色粘質土層、31層は橙色砂質土層、32層は褐色砂質土層、33層は明褐色砂質土層、34層は褐色砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘質土層、40層は黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄色粘性砂質土層、43層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘質土層、45層は明褐色砂質土層、46層は明赤褐色砂質土層、47層は明赤褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土した。居住区内出土遺物は非常に少ない。竈内燃烧部、砂岩製支脚周辺からは土師器9が出土。土師器9一部破片は竈左袖西側からも出土している。

出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5、6は杯身、7は無蓋高杯である。土師器8は椀である。土師器9は甑である。杯身5は口縁端部に打ち欠きが施されている。椀8は内面に放射状ヘラミガキが施されている。甑9はつつぬけ底部で、本来は把手が伴う。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

88号竪穴式住居 (SB7088) (第880～888図)

カワラケメン地区、I4、J5グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.3m、深度は35cm、残存床面積17.52m²、内区面積4.33m²、住居主軸方位はN-12°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は17層に分層できる。1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色砂質土層、9層は明黄褐色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.78m、EP2-3間は1.4mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄色粘質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、4層は黄褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。

周壁溝は幅12.5cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-15°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅60cm、燃焼部最大幅38cm、支脚-焚口間37cm、支脚-奥壁間37cm、煙道長95cm、煙道幅35cm、支脚高12cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸134cm、短軸108cm、深度16cmを測る。

1層はにぶい黄色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色粘質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層は明黄褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄色粘質土層、22層はにぶい黄褐色粘質土層、23層は明黄褐色粘質土層、24層は黄褐色粘性砂質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄色砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、33層は黄褐色粘性砂質土層、34層は明赤褐色砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は橙色粘性砂質土層、38層は浅黄色砂質土層、39層は褐色粘質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は明褐色砂質土層、42層は褐粘質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、45層は明褐色砂質土層、46層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、47層は褐色粘質土層、48層は褐色粘質土層、49層はにぶい黄色砂質土層、50層はにぶい黄色砂質土層、51層は黄褐色粘性砂質土層、52層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、53層は黄褐色砂質土層、54層は黄褐色粘質土層、55層は黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄色砂質土層、57層は黄褐色砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄色粘性砂質土層、60層は黄褐色粘質土層、61層は明黄褐色粘性砂質土層、62層は明赤褐色粘性砂質土層、63層は黄褐色粘性砂質土層、64層はにぶい黄色粘性砂質土層、65層は明黄褐色粘質土層、66層は褐色粘質土層、67層は黄褐色粘性砂質土層、68層はにぶい黄色粘性砂質土層、69層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、70層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、71層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、72層はにぶい黄褐色

色粘性砂質土層、73層は明褐色粘性砂質土層、74層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、75層は明赤褐色粘性砂質土層、76層は明黄褐色粘性砂質土層、77層はにぶい黄褐色砂質土層、78層は黄褐色粘性砂質土層、79層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、80層は黄褐色粘性砂質土層、81層はにぶい黄色粘性砂質土層、82層は黄褐色粘性砂質土層、83層は黄褐色粘性砂質土層、84層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、85層は黄褐色粘性砂質土層、86層は黄褐色粘質土層、87層はにぶい黄褐色粘質土層、88層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、89層は黄褐色粘性砂質土層、90層は黄褐色粘性砂質土層、91層は黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺に集中している。居住区からは図化できない遺物が若干出土した。竈内燃烧部床面直上からは、土師器甕片が出土したが図化できない。竈前底部の床面直上からは、土師器4が集中して出土。竈東側からは土師器5と須恵器3が出土。竈燃烧部～焚き口部にかけて獣骨片が出土。鞆羽口6が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1、2は杯身、3は大甕である。土師器4、5は甕である。甕4、5は球形体部の小型甕である。羽口6は被熱による発泡が進んでいる。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

89号竪穴式住居（SB7089）（第889～897図）

カワラケメン地区、K17、L18グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存主軸長は3.25m、深度は35cm、残存床面積11.14㎡、内区面積4.76㎡、住居主軸方位はN-2°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は12層に分層できる。1層はにぶい黄色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は褐色砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.48m、EP2-3間は2m、EP3-4間は1.08m、EP4-1間は1.68mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は暗褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は明黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層

はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層ある。

周壁溝は幅30cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅53cm、燃焼部最大幅28cm、支脚-焚口間25cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長62cm、煙道幅37cm、支脚高22cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸107cm、短軸82cm、深度25cmを測る。

2層は黄色砂質土層、10層は褐色砂質土層、13層はオリーブ褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層、16層はオリーブ褐色砂質土層、17層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色砂質土層、19層は黄褐色粘性土層、20層は褐色砂質土層、21層は褐色砂質土層、22層は褐色砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は黄褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄色砂質土層、31層はにぶい黄褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色砂質土層、43層はにぶい黄色砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄色砂質土層、46層はオリーブ褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内と竈前底部から出土した。居住区出土遺物は非常に少ない。竈前底部の床面から約4cm程度浮いたレベルから、土師器2、3が横転した状態で出土した。土師器2が北側に集中しており、本来は土師器3の上に土師器2を重ねた状態で置かれていた可能性がある。竈内燃焼部からは土師器1が出土。土師器1は床面からやや浮いた状態で検出されており、本来は竈に据えられていた可能性もある。竈内燃焼部からは獣骨片が出土。

出土遺物

土師器1～3は甕である。甕1は球形体部に外湾する口辺部を有する大型甕である。甕2は長胴甕で、底部は平底である。甕3は球形体部に直立する口辺部を有する小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

90号竪穴式住居（SB7090）（第898～905図）

カワラケメン地区、F8、G9グリッドにて検出。馬の背状自然堤防最高所～北側に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.5m、深度は15cm、床面積21.27㎡、内区面積7.69㎡、住居主軸方位はN-13°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は22層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は灰黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は灰黄褐色粘質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘質土層、13層は灰白色粘質土層、14層はオリーブ褐色粘質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はオリーブ褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.4m、EP2-3間は2.35m、EP3-4間は1.98m、EP4-1間は2.58mを測る。

周壁溝は幅20cm、深度5cmを測る。遺構内覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃焼部最大幅56cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸143cm、短軸126cm、深度21cmを測る。

20層は灰黄褐色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄色粘性砂質土層、24層はにぶい赤褐色焼土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層、26層は灰褐色焼土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層は黄褐色粘質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層はオリーブ褐色粘質土層、31層は灰黄色粘質土層、32層は暗灰黄色粘質土層、33層はにぶい黄色粘質土層、34層は褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘質土層、36層は褐色粘質土層、37層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、38層は褐色砂質土層、39層は褐色粘性砂質土層、40層は褐色粘性砂質土層、41層は褐色砂質土層、42層は褐色砂質土層、43層は褐色砂質土層、44層はにぶい黄褐色砂質土層、45層は灰黄褐色砂質土層、46層はにぶい赤褐色焼土層、47層はにぶい黄褐色砂質土層、48層はにぶい褐色焼土層、49層は灰黄褐色焼土層、50層は褐色焼土層、51層はにぶい黄褐色焼土層、52層は褐色砂質土層、53層は褐色砂質土層、54層は灰黄褐色粘性砂質土層、55層は褐色砂質土層、56層は灰黄褐色砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内と、竈前底部を中心に出土した。居住区からの遺物出土量は少ない。EP2-3ライン付近において、須恵器5が床面直上より出土。竈掻き出しの灰層が広がる付近では、土師器8、11が床面直上より出土。竈内焚き口付近では、やや浮いた状態で土師器11、10、8が出土。

出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5、6は杯身である。須恵器7は甕である。土師器8～11は甕である。杯身5は底部にヘラ記号が施されている。甕8、9は長胴甕である。甕10は球形体部の小型甕である。甕11は球形体部の大型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅳ段階である。

91号竪穴式住居（SB7091）（第906～918図）

馬のシャクリ地区、R15、Q15グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.6m、深度は25cm、残存床面積27.34㎡、内区面積7.4㎡、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は15層に分層できる。1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色砂質土層、13層は数回の水没のため不祥、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.48m、EP2-3間は2.8m、EP3-4間は2.05m、EP4-1間は2mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黒褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄色粘質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄色砂質土層、7層は黄褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、にぶい黄褐色砂質土層である。

土坑EK1は、EP2に切られる形で検出された。平面形態は楕円形を呈し、長軸100cm、短軸82.5cm、深度12.5cmを測る。遺構内覆土は、1層は灰黄褐色粘質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。上面に結晶片岩礫がおかれている。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は須恵器高杯製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅70cm、燃烧部最大幅41cm、支脚-焚口間22cm、支脚-奥壁間5cm、煙道長48cm、煙道幅28cm、支脚高9cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として不整楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸131cm、短軸110cm、深度25cmを測る。

2層は黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、13層は数回の水没のため不祥、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘土層、18層は褐色粘土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層は暗褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層は暗赤褐色砂質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、

28層はオリーブ褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、30層は黄褐色砂質土層、31層はオリーブ褐色粘性砂質土層砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層は暗褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、37層はオリーブ褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層は黒褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層、42層は黒褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、44層は暗灰黄色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層は極暗褐色粘性砂質土層、47層はオリーブ褐色粘質土層、48層は黄褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層はオリーブ褐色粘性砂質土層、51層は黒褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘性砂質土層、53層は暗赤褐色砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層はオリーブ褐色粘性砂質土層、56層はオリーブ褐色粘性砂質土層、57層はオリーブ褐色粘性砂質土層、58層はオリーブ褐色粘性砂質土層、59層は黄褐色砂質土層、60層はオリーブ褐色粘性砂質土層、61層はオリーブ褐色砂質土層、62層はオリーブ褐色砂質土層、63層は黄褐色粘性砂質土層、64層は黄褐色砂質土層、65層はオリーブ褐色粘性砂質土層、67層は黄褐色粘性砂質土層、68層は暗褐色粘性砂質土層、69層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内と居住区床面直上より出土。覆土中層より炭化材と焼土層が検出された。焼失住居である。炭化材や焼土層は中層より検出されることから、住居廃絶後にしばらくの埋没期間が存在し、引かしたものと考えられる。竈内の遺物出土状況から、廃絶に伴うカタヅケ行為は行われていないと考えられる。

EP2 覆土上面より須恵器1が出土。竈前底部の床面直上より土師器15が出土。竈右袖左側より土師器14、16、17が出土。甕14は正位置を保った状態で検出された。竈左袖南西側において、須恵器2、8が床面からやや浮いた状態で出土。竈内燃焼部では、支脚として須恵器13が転用されている。支脚周辺からは土師器15、16、須恵器6が出土。特に甕15の底部は支脚に接していることから、甕15は竈にかけられた状態で遺棄されたことがわかる。鉄滓19、20が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～5は杯蓋、6～12は杯身である。須恵器13は有蓋高杯である。土師器14～17は甕である。土製品18は轆羽口である。杯身5～8は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身12は底部にヘラ記号が施されている。有蓋高杯12は、短脚で方形透かし状の切り込みが3方向より施されている。支脚への転用にあたっては、脚部を上に向ける倒立位で設置されている。甕14～16は長胴甕である。甕15、16が竈内より出土しており、セット関係にあると考えられる。甕17は小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

92号竪穴式住居 (SB7092) (第919～925図)

馬のシャクリ地区、P16、Q17グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.48m、深度は18cm、床面積18.29m²、内区面積4.68m²、住居主軸方位はN-9°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は3層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.6m、EP2-3間は1.48m、EP3-4間は1.35m、EP4-1間は1.73mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-5°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃烧部最大幅37cm、支脚-焚口間64cm、支脚-奥壁間19cm、煙道長25cm、煙道幅36cm、支脚高2cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸128cm、短軸107cm、深度26cmを測る。

1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい赤褐色粘質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層は褐色砂質土層、15層は明赤褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色砂質土層、18層は褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は褐色砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層は黄褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は褐色砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層は褐色砂質土層、37、38層は褐色砂質土層、39層は褐色砂質土層、40層はにぶい黄色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄色粘性砂質土層、43層はにぶい黄色砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、46層は黄褐色粘性砂質土層、47層は黄褐色粘性砂質土層、48層は褐色砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層は黄褐色砂質土層、51層は褐色砂質土層、52層はにぶい褐色砂質土層、53層は褐色砂質土層、54層はにぶい褐色砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層は褐色砂質土層、63層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、64層は褐色砂質土層、65層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、66層は褐色粘性砂質土層、67層

は褐色砂質土層、68層は黄褐色砂質土層、69層は褐色砂質土層、70層は褐色粘性砂質土層、71層は褐色粘質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈周辺から出土している。竈内燃焼部より土師器3が出土。ほかにも土師器甕胴部片が出土しているが、図化はできない。

出土遺物

須恵器1は杯身である。須恵器2は大甕である。土師器3は球形体部に直立する口縁部を有する小型甕である。鉄器2205-1は刀子である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

93号竪穴式住居 (SB7093) (第926～934図)

馬のシャクリ地区、R16、S17グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.7m、深度は16cm、床面積14.64m²、内区面積3.57m²、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層は黄褐色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.38m、EP2-3間は1.5m、EP3-4間は1.25m、EP4-1間は1.53mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-0°-Eを測る。支脚は結晶片岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅91cm、燃焼部最大幅50cm、支脚-焚口間39cm、支脚-奥壁間11cm、煙道長83cm、煙道幅105cm、支脚高17cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸107cm、短軸99cm、深度19cmを測る。

5層は黄褐色砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は黄褐色砂質土層、16層はにぶい黄褐色砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層はにぶい黄色粘性砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層は黄褐色砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色粘質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層は明黄褐色粘性砂質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層は黒褐色粘性砂質土層、36層は褐色粘土層、37層は黄褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色粘性砂質土層、40層はオリーブ褐色粘性砂質土層、41層はオリーブ褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色砂質土層、43層は褐色粘性砂質土層、44層は明黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色砂質土層、46層はにぶい黄色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層は褐色砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘質土層、50層はにぶい黄褐色砂質土層、51層は黄褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色砂質土層、53層は明黄褐色粘性砂質土層、54層は褐色焼土層、55層はにぶい黄色粘性砂質土層、56層は黄褐色砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層は明褐色焼土層、60層は黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色砂質土層、62層は褐色粘土層、63層は黄褐色砂質土層、64層は褐色砂質土層、65層は黄褐色粘性砂質土層、66層は褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺と、居住区南東側を中心に出土した。居住区南東側出土遺物は、自然礫等で図化していない。竈燃焼部の支脚周辺からは、須恵器4が床面から浮いた状態で出土。支脚は石器9の転用である。

出土遺物

須恵器1～6は杯身、7は甕である。土製品8は不明土製品である。石器9は敲石である。杯身1～3は口縁端部に打ち欠きが施されている。不明土製品8は、欠損頂部から左斜め下方向に向かって、焼成前に穿孔されている。石器9は結晶片岩製で、右側縁部と上部に敲打痕が、下端部には剥離痕が観察される。弥生石器の転用品か。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

94号竪穴式住居（SB7094）（第935～937図）

馬のシャクリ地区、T18、T19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.7mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は40cm、床面積16.88m²、内区面積5.46m²を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は15層に分層できる。1層は黄褐色粘質土層、2層はにぶい黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は黄褐色粘質土層、10層は黄褐色

砂質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘質土層、13層はにぶい黄褐色粘質土層、14層はにぶい黄褐色粘質土層、15層は黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.18mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層は黄褐色粘質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色粘質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層はにぶい黄褐色粘質土層である。

出土遺物

遺物はほとんど出土していない。わずかに覆土中より須恵器1が出土。須恵器1は杯身である。杯蓋の可能性もある。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

95号竪穴式住居（SB7095）（第938～942図）

馬のシャクリ地区、S18、T19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.55m、深度は13cm、床面積6.89m²、内区面積4.22m²、住居主軸方位はN-5°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は5層に分層できる。1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.5m、EP2-3間は1.43m、EP3-4間は1.55m、EP4-1間は1.45mを測る。EP1内覆土は、1層は暗灰黄色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は暗灰黄色砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄色粘質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅77cm、燃烧部最大幅48cm、煙道長38cm、煙道幅41cmを測る。

燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸117cm、短軸89cm、深度22cmを測る。

6層は褐色粘質土層、7層は黄褐色粘質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は褐色焼土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層は褐色焼土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色砂質土層、21層は黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層は極暗褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は極暗褐色粘性砂質土層、29層は褐色粘性砂質土層、30層は極暗褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘性砂質土層、36層はにぶい褐色粘質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい褐色粘質土層、39層は黄褐色粘性砂質土層、40層は黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色砂質土層、43層は極暗褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層はオリーブ褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層はオリーブ褐色粘性砂質土層、48層は黒褐色粘性砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層はオリーブ褐色粘性砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層は黄褐色粘性砂質土層、53層はオリーブ褐色粘性砂質土層、54層はオリーブ褐色粘性砂質土層、55層はオリーブ褐色粘性砂質土層、56層はオリーブ褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘性砂質土層、59層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内より、土師器甕胴部片が出土しているが図化できない。

時期

古墳時代後期である。

96号竪穴式住居（SB7096）（第943～951図）

馬のシャクリ地区、Q18、R19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.63m、深度は33cm、床面積20.69m²、内区面積6.96m²、住居主軸方位はN-14°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は11層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色粘質土層、10層は黄褐色粘質土層、11層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.8m、EP2-3間は2.28m、EP3-4間は1.9m、EP4-1間は2.25mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶ

い黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリブ褐色砂質土層、6層はオリブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はオリブ褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-1°-Eを測る。支脚は土師器鉢製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅68cm、燃烧部最大幅53cm、支脚-焚口間68cm、支脚-奥壁間28cm、煙道長71cm、煙道幅100cm、支脚高16cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸116cm、短軸103cm、深度29cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリブ褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄色砂質土層、21層はにぶい黄褐色砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層は黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層は褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はにぶい褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層は明褐色粘土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層は黄褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色砂質土層、38層は黄褐色砂質土層、39層はにぶい黄褐色砂質土層、40層は黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄褐色砂質土層、42層はオリブ褐色粘性砂質土層、43層は極暗褐色粘性砂質土層、44層はオリブ褐色粘性砂質土層、45層はオリブ褐色粘性砂質土層、46層はオリブ褐色粘性砂質土層、47層はオリブ褐色粘性砂質土層、48層はオリブ褐色砂質土層、49層は黄褐色粘性砂質土層、50層は黄褐色粘性砂質土層、51層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、52層はオリブ褐色粘性砂質土層、53層はオリブ褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、56層はオリブ褐色粘性砂質土層、57層はオリブ褐色粘性砂質土層、58層はオリブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土した。居住区からは小片のみの出土で、住居廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたものと推定される。竈内支脚は土師器8の転用である。口縁部を下に向けて、倒立位で下部構造埋土中に設置している。支脚上面より土師器9が出土。胴上半部は出土していない。竈左袖構築在中より須恵器4が出土。竈構築時に杯身4を半分に分り、埋納している。竈構築に伴う祭祀行為の一環である。

出土遺物

須恵器1～3は杯蓋、4～7は杯身である。土師器8は鉢、9は甕である。土製品10は土玉である。石器11は石鏃である。杯身4は、半分に分った状態で同一地点より出土した。一種の打ち欠きである。杯身6は口縁端部に打ち欠きが施されている。鉢8は丸底底部に直線状に開く体部である。土玉10は一部を欠損している。石鏃11はサヌカイト製で、流れ込みである。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

97号竪穴式住居（SB7097）（第952～962図）

馬のシャクリ地区、P17、P18グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.98m、深度は20cm、床面積13.79m²、内区面積4.86m²、住居主軸方位はN-9°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は8層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.05m、EP2-3間は1.63m、EP3-4間は2.03m、EP4-1間は1.78mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

土坑EK1は、竈東側の北壁沿いに構築されている。平面形態は不整楕円形を呈し、長軸132.5cm、短軸107.5cm、深度10cmを測る。遺構内覆土は、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-3°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅70cm、燃焼部最大幅49cm、支脚-焚口間32cm、支脚-奥壁間34cm、煙道長20cm、煙道幅62cm、支脚高15cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸101cm、短軸94cm、深度15cmを測る。

4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は暗赤褐色粘性砂質土層、6層は暗褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は暗褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層は暗褐色粘性砂質土層、14層は暗赤褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層は暗赤褐色粘性砂質土層、17層は暗褐色粘性砂質土層、18層は褐色粘土層、19層はオリーブ褐色粘性砂質土層、20層

はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層は褐色粘土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層はオリーブ褐色砂質土層、29層は黒褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘土層、31層は褐色粘土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、34層は黒褐色粘性砂質土層、35層は黄褐色粘性砂質土層、36層はオリーブ褐色粘性砂質土層、37層はオリーブ褐色粘性砂質土層、38層は暗褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は褐色粘土層、41層は暗赤褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は主に竈内より出土している。EP1内埋土中より土師器8が出土。EP1内に柱痕が観察されることから、土師器8は柱を立てる前に埋納されたことが確認された。EP2北東付近において石器13が出土。竈支脚は土師器11である。口縁部を下に向けて、倒立位で設置されている。竈燃焼部上層や、左袖上面からは須恵器2が出土。竈廃絶に伴い置かれた可能性もある。また、土師器9、10も燃焼部下層より出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2～6は杯身である。須恵器7は甕である。土師器8～12は甕である。石器13は敲石である。杯身2は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕8は長胴甕である。甕9、10は大型長胴甕である。甕11は支脚である。球形体部に外反気味に立ち上がる口辺部を有する小型甕である。敲石13は結晶片岩製で、表裏面と左右側縁に敲打痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

98号竪穴式住居 (SB7098) (第963～970図)

馬のシャクリ地区、O17、P18グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.8mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は2.88m、深度は20cm、床面積9.47㎡、内区面積5.48㎡、住居主軸方位はN-21°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は7層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.25mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-20°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅58cm、燃焼部最大幅38cm、支脚-焚口間36cm、支脚-奥壁間16cm、煙道長23cm、煙道幅73cm、支脚高19cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸120cm、短軸95cm、深度19cmを測る。

4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は灰黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層は暗褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層は褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層は橙色砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘質土層、22層は褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はオリーブ褐色粘性砂質土層、28層はオリーブ褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄色砂質土層、32層は黄褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層は褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層はにぶい黄褐色砂質土層、43層はにぶい褐色砂質土層、44層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、45層はにぶい褐色砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、48層は褐色砂質土層、49層は褐色粘性砂質土層、50層はにぶい褐色砂質土層、51層は褐色砂質土層、52層は明褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄褐色粘質土層、54層は明褐色粘性砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はオリーブ褐色粘性砂質土層、58層は黄褐色粘性砂質土層、59層は褐色粘性砂質土層、60層はオリーブ褐色粘性砂質土層、61層はオリーブ褐色粘性砂質土層、62層は黄褐色粘質土層、63層はオリーブ褐色粘性砂質土層、64層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内を中心に出土した。居住区からはほとんど出土しておらず、廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたと考えられる。EP2覆土上層より須恵器2が出土。竈内燃焼部床面直上より土師器甕片が多数出土した。おそらく土師器8の胴部と考えられるが、接合できなかった。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2～5は杯身、6は甕である。土師器7は壺、8は甕である。石器9は砥石である。甕8は長胴甕である。砥石9は凝灰岩製で、欠損後も使用している。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

99号竪穴式住居 (SB7099) (第971～980図)

馬のシャクリ地区、O18、P19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.7m、深度は28cm、床面積23.22m²、内区面積6.95m²、住居主軸方位はN-8°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は9層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は暗灰黄色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.05m、EP2-3間は2.13m、EP3-4間は2.43m、EP4-1間は2.05mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅85cm、燃烧部最大幅45cm、支脚-焚口間51cm、支脚-奥壁間12cm、煙道長65cm、煙道幅87cm、支脚高18cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸115cm、短軸103cm、深度23cmを測る。

5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色砂質土層、11層はにぶい黄褐色砂質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色砂質土層、19層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、20層はにぶい褐色粘質土層、21層は黄褐色砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層は黒褐色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層はにぶい赤褐色粘土層、29層はオリーブ褐色粘性砂質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層はにぶい赤褐色粘土層、32層はにぶい赤褐色粘土層、33層は黄褐色砂質土層、34層はにぶい赤褐色粘土層、35層は暗褐色粘性砂質土層、36層は黄褐色粘性砂質土層、37層は褐色粘性砂質土層、38層は黄褐色砂質土層、39層は暗灰黄色粘性砂質土層、40層はにぶい赤褐色粘土層、41層はオリーブ褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色粘性砂質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層は黄褐色粘性砂質土層、45層は黄褐色砂質土層、46層はオリーブ褐色粘性砂質土層、47層はオリーブ褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘性砂質土層、49層は黄褐色砂質土層、50層はオリーブ褐色粘性砂質土層、51層はオリーブ褐色粘性砂質土層、52層はオリーブ褐色粘性砂質土層、53層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内と、居住区北東側を中心に出土した。居住区出土遺物は中層から上層にかけての出土である。南壁沿いにおいて、須恵器2が中層より出土。東壁沿いにおいて、須恵器4、10が中層より出土。内区では須恵器3、16、1718、19、土師器25が小片となって出土。EP1北側付近では土師器22、25が、中層より出土。竈支脚は、土師器21である。口縁部を下に向けた倒立位で設置されている。竈燃焼部下層からは、須恵器1、土師器20、24が大型破片となって出土。竈右袖上面からは、須恵器2が出土。竈左袖西側において、中層より須恵器13が出土。

出土遺物

須恵器1～9は杯蓋、10～14は杯身、15は杯、16は有蓋高杯、17は椀、18、19は甕である。土師器20～24は甕である。杯蓋3はヘラ記号が施されている。杯身12、13は口縁端部に打ち欠きが施されている。有蓋高杯16は、長脚2段透かしと推定される。甕20、22、21は大型長胴甕である。甕21は竈支脚である。球形体部の小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

100号竪穴式住居（SB7100）（第981～988図）

馬のシャクリ地区、O19、P20グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.68m、床面積17.9㎡、内区面積8.1㎡、住居主軸方位はN-3°-Eを測る。

土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.75m、EP2-3間は2m、EP3-4間は2.6m、EP4-1間は2.03mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層は暗灰黄色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は灰オリーブ色粘性砂質土層、5層は灰黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は灰オリーブ色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅70cm、燃焼部最大幅48cm、煙道長63cm、煙道幅55cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸99cm、短軸83cm、深度26cmを測る。

9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層は暗灰黄色粘性砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は暗褐色粘性砂質土層、20層は暗褐色粘性砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は赤褐色粘性砂質土層、25層は赤褐色粘性砂質土層、26層は褐色砂質土層、27層は褐色砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層はにぶい赤褐色粘質土層、30層はオリーブ褐色粘性砂質土層、31層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、35層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、36層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層は黄褐色砂質土層、41層はにぶい黄色粘性砂質土層、42層は暗灰黄色粘性砂質土層、43層は黄褐色粘性砂質土層、44層は褐色粘性砂質土層、45層はにぶい黄褐色砂質土層、46層は黄褐色砂質土層、47層は褐色粘性砂質土層、48層はにぶい赤褐色粘質土層、49層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄色粘性砂質土層、51層は褐色砂質土層、52層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層は褐色砂質土層、55層は褐色砂質土層、56層は赤褐色粘性砂質土層、57層はにぶい赤褐色粘質土層、58層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、59層はオリーブ褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色砂質土層、61層は黄褐色粘性砂質土層、62層はオリーブ褐色粘性砂質土層、63層は褐色粘性砂質土層、64層は黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内を中心に出土した。住居北西において、中層中より石製品13が出土。EP1北側の北壁沿いにおいて土師器9が出土。竈内燃焼部中層より、須恵器2、4の小片と、土師器8、11、12が集中して出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2～4は杯身、5～7は甕である。土師器8～10は甕、11、12は鉢である。石製品13は勾玉である。杯身3は碗の可能性もある。甕8～10は長胴甕である。鉢11は球形体部に内腕する口縁部を有する。口縁端部はユビオサエ調整のみである。鉢12は内湾気味に上方へ開く体部に外反気味に開く口辺部を有する。勾玉13は滑石製である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

101号竪穴式住居 (SB7101) (第989～997図)

馬のシャクリ地区、O20、P1グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.75m、深度は25cm、床面積23.98m²、内区面積6.6m²、住居主軸方位はN-4°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.1m、EP2-3間は2.15m、EP3-4間は2.3m、EP4-1間は1.75mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-0°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅75cm、燃烧部最大幅55cm、支脚-焚口間36cm、支脚-奥壁間32cm、煙道長58cm、煙道幅78cm、支脚高26cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸115cm、短軸105cm、深度20cmを測る。

11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層は褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層は褐色砂質土層、18層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層、20層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、21層は黒褐色粘性砂質土層、22層はにぶい褐色砂質土層、23層はにぶい黄褐色砂質土層、24層は褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層は褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色砂質土層、29層は赤褐色粘性砂質土層、30層は明黄褐色砂質土層、31層は褐色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄褐色砂質土層、34層はオリーブ褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層は褐色粘性砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、40層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、41層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、42層は褐色粘性砂質土層、43層はにぶい赤褐色土層、44層はにぶい黄褐色粘質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい赤褐色土層、47層は赤褐色粘質土層、48層は黄褐色粘性砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘質土層、50層は赤褐色粘質土層、51層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、52層は黒褐色粘性砂質土層、53層は黄褐色砂質土層、54層は黄褐色砂質土層、55層は黄褐色砂質土層、56層は黄褐色粘土層、57層は黒褐色粘性砂質土層、58層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、59層は黄褐色粘土層、60層は黄褐色粘土層、61層は褐色粘質土層、62層は褐色粘性砂質

土層、63層はにぶい黄褐色砂質土層、64層は褐色粘性砂質土層、65層はにぶい黄褐色砂質土層、66層は黄褐色砂質土層、67層は褐色砂質土層、68層はにぶい褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内を中心に出土した。砂岩製支脚を中心に、土師器20、23が大型破片化した状態で出土。土師器20は竈左袖西側からも出土。竈焚き口部の床面直上において、須恵器9、11、14、17が出土。鉄滓25が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～8は杯蓋、9～11は杯身、12は椀、13はハソウ、14は台付壺、15、16は甕、17は壺である。土師器18、19は甕、20は把手付甕、21、22は甗、23は鉢である。石製品24は管玉である。ハソウ13の内外面には赤色顔料が塗布されている。甕18、19は長胴甕である。把手付甕20は球形体部である。甗の可能性もある。甗21、22はつつぬけ底部である。管玉24はグリーンタフ製である。鉄滓25にはほとんどメタルは残っていない。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

103号竪穴式住居（SB7103）（第998～1001図）

馬のシャクリ地区、Q20、R1グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.05m、深度は8cm、床面積13.33㎡、内区面積5.0㎡を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は4層に分層できる。1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造である。EP1－2間は1.7m、EP2－3間は2.2m、EP3－4間は1.95m、EP4－1間は1.95mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は構築されていない。炉も構築されていない。住居中央にEP5が構築されているが、焼土等は未検出である。

遺物出土状況

遺物はほとんど出土していない。EP4 南西において、覆土上層より土師器5が出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2は杯身である。須恵器3、4は甕である。土師器5は長胴甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

104号竪穴式住居（SB7104）（第1002～1010図）

馬のシャクリ地区、S20、T1グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は23cm、床面積36.05㎡、内区面積9.15㎡、住居主軸方位はN-0°-Eを測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は25層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は明黄褐色砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はオリーブ褐色粘性砂質土層、11層は暗灰黄色粘性砂質土層、12層はオリーブ褐色粘性砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層は黄褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はオリーブ褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層はオリーブ褐色粘質土層、20層はにぶい黄褐色粘質土層、21層は黄褐色砂質土層、22層は褐色粘質土層、23層は褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色砂質土層、25層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.05m、EP2-3間は2.85m、EP3-4間は2.35m、EP4-1間は3.05mを測る。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-11°-Wを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅64cm、燃焼部最大幅47cm、支脚-焚口間22cm、支脚-奥壁間25cm、煙道長50cm、煙道幅58cm、支脚高2cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸106cm、短軸96cm、深度34cmを測る。

5層は明黄褐色砂質土層、6層は黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘質土層、26層は黄褐色粘性砂質土層、27層は黄褐色粘性砂質土層、28層はにぶい黄褐色粘質土層、29層は黄褐色粘性砂質土層、

30層は黄褐色粘性砂質土層、31層は褐色粘質土層、32層はにぶい褐色粘性砂質土層、33層はにぶい褐色粘質土層、34層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、35層は黄褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層はにぶい黄褐色粘質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は黄褐色砂質土層、40層にぶい黄褐色砂質土層、41層は暗褐色粘性砂質土層、42層はオリーブ褐色粘性砂質土層、43層はにぶい黄褐色砂質土層、44層はオリーブ褐色粘性砂質土層、45層は黄褐色粘性砂質土層、46層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、47層はにぶい黄褐色粘質土層、48層はにぶい黄褐色砂質土層、49層はにぶい黄褐色粘質土層、50層は褐色粘質土層、51層はにぶい褐色砂質土層、52層は明黄褐色砂質土層、53層はにぶい黄褐色砂質土層、54層はにぶい黄褐色砂質土層、55層は黄褐色砂質土層、56層はにぶい黄褐色砂質土層、57層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、58層は褐色粘性砂質土層、59層は赤褐色粘性砂質土層、60層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、61層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、62層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、63層は褐色粘性砂質土層、64層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、65層は褐色粘質土層、66層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、67層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、68層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、69層は明褐色砂質土層、70層は褐色粘質土層、71層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、72層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、73層は黄褐色砂質土層、74層は明褐色砂質土層、75層は黄褐色粘性砂質土層、76層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、77層はにぶい黄橙色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺部と、内区を中心に出土した。いずれも床面直上からの出土である。EP4南東側において、須恵器20が床面直上より出土。EP3南側において、須恵器15が床面直上より出土。EP4北側の北壁沿いにおいて、須恵器1が出土。土師器24は竈焚き口部周辺と住居中央部より出土。竈東側において、土師器23が床面直上より出土。竈内燃焼部中層より須恵器12が出土。

出土遺物

須恵器1～10は杯蓋、11～18は杯身、19は有蓋高杯、20は長頸壺、21、22は甕である。土師器23～29、31は甕、30は壺、32は甗、33、34は鉢である。杯身14、15は口縁端部に打ち欠きが施されている。長頸壺20は肩部に櫛描波状文が施されている。甕23は大型長胴甕である。甕24、28、29は球形体部の小型甕である。鉢23は内湾気味に立ち上がる体部を有する。鉄器2206-1は不明鉄器である。不整台形を呈する。切片もしくは鉄鏃未製品である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

105号竪穴式住居（SB7105）（第1011～1017図）

馬のシャクリ地区、P1、Q2グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.13m、深度は20cm、床面積20.53m²、内区面積5.0m²、住居主軸方位はN-11°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は7層に分層できる。1、2、3層は黄褐色粘性砂質土層、4、5層は褐色粘質土層、6層は褐色粘質土層、7層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.28m、EP2-3間は1.75m、EP3-4間は1.45m、EP4-1間は1.6mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は黄褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層、5層は黄褐色砂質土層、6層は、オリーブ褐色砂質土層、7層はオリーブ褐色砂質土層、8層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅60cm、燃焼部最大幅36cm、煙道長19cm、煙道幅38cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸123cm、短軸103cm、深度28cmを測る。

2層は黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層は黄褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘性砂質土層、17層はにぶい褐色粘質土層、18層はにぶい褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色粘質土層、20層は黄褐色粘性砂質土層、21層はにぶい褐色粘質土層、22層は褐色粘質土層、23層はにぶい黄褐色粘質土層、24層はにぶい黄褐色粘質土層、25層は褐色粘性砂質土層、26層はにぶい黄褐色粘質土層、27層は褐色粘質土層、28層は褐色粘質土層、29層はにぶい黄褐色粘質土層、30層は黄褐色粘性砂質土層、31層は黄褐色砂質土層、32層はにぶい黄褐色砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、34層はにぶい黄褐色砂質土層、35層は黄褐色砂質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層は黄褐色砂質土層、38層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、39層は灰黄褐色粘性砂質土層、40層は褐灰色粘性砂質土層、41層はにぶい赤褐色粘土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層は灰黄褐色粘性砂質土層、44層は赤褐色粘土層、45層は赤褐色粘土層、46層は褐色粘性砂質土層、47層は灰黄褐色粘性砂質土層、48層は褐色粘質土層、49層は黄褐色粘性砂質土層、50層はにぶい黄橙色粘性砂質土層、51層は褐色粘質土層、52層はにぶい黄褐色粘質土層、53層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、54層はにぶい黄褐色粘質土層、55層はにぶい褐色粘質土層、56層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、57層はにぶい黄褐色砂質土層、58層は黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内からのみ出土した。竈燃焼部からは土師器13と、土師器甕胴部片が出土した。胴部は図化できない。竈右袖東側において、須恵器10が床面からやや浮いた状態で出土した。居住区からは須恵器小片のみの出土である。住居廃絶に伴いカタヅケ行為が行われたと考えられる。鉄滓16が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～9は杯蓋、10、11は杯身、12は高杯である。土師器13～15は甕である。杯身10は完形である。高杯12は長脚で、2段方形透かしが4方向に施されている。甕13、14は大型長胴甕である。鉄滓16

は比較的メタルが遺存する。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

106号竪穴式住居（SB7106）（第1018～1027図）

馬のシャクリ地区、N20、O1グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は長方形を呈する。主軸長は5.85m、深度は25cm、床面積21.9m²、内区面積7.58m²、住居主軸方位はN-85°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は15層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、2層は黄褐色砂質土層図、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、5層はにぶい黄褐色粘質土層図、6層は褐色粘性砂質土層図、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、8層はにぶい黄褐色粘質土層図、9層は黄褐色粘質土層図、10層は褐色粘性砂質土層図、11層は褐色粘質土層図、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図、13層は暗褐色粘性砂質土層図、14層はオリーブ褐色砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層図である。

柱穴・周壁溝

柱穴は5基検出された。4本柱構造もしくは6本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は1.45m、EP3-4間は1.15m、EP4-5間は2.15m、EP5-1間は3.03mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は暗オリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP5内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層は暗灰黄色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は西辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は結晶片岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅54cm、燃焼部最大幅38cm、支脚-焚口間50cm、支脚-奥壁間21cm、煙道長13cm、煙道幅71cm、支脚高12cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。竈右袖内には結晶片岩板石が埋設されている。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸100cm、短軸100cm、深度24cmを測る。

22層は褐色粘性砂質土層、23層はにぶい黄色粘性砂質土層、24層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、25層はにぶい黄褐色砂質土層、26層はにぶい黄褐色砂質土層、27層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、28層は褐

色砂質土層、29層は赤褐色砂質土層、30層は暗灰黄色砂質土層、31層は赤褐色粘質土層、32層は暗灰黄色砂質土層、33層はにぶい黄褐色粘質土層、34層は褐色粘質土層、35層は褐色粘質土層、36層はにぶい黄褐色砂質土層、37層はオリーブ褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層はにぶい黄褐色砂質土層、40層はオリーブ褐色砂質土層、41層は褐色砂質土層、42層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、43層は褐色粘質土層、44層はにぶい黄褐色砂質土層、45層はにぶい黄褐色粘質土層、46層は黄褐色粘質土層、47層は黄褐色粘質土層、48層は褐色砂質土層、49層は黄褐色粘質土層、50層は褐色粘土層、51層は褐色粘質土層、52層は褐色粘質土層、53層は褐色粘質土層、54層はにぶい黄褐色粘質土層、55層はにぶい黄褐色砂質土層、56層はにぶい黄褐色粘質土層、57層は黄褐色砂質土層、58層はにぶい黄褐色粘質土層、60層はにぶい黄褐色砂質土層、61層はにぶい黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺と、居住区南側を中心に出土した。EP3南側において、須恵器1が床面直上より出土。EP3-4ライン南側において、石器22が床面直上より出土。EP4西側において、土師器18が床面よりやや浮いた状態で、石器23が床面直上より出土。竈左袖南側において、土師器19が床面直上より出土。竈右袖北側において、須恵器2が床面直上より出土。竈内からは土師器甕が出土したが、図化できない。

出土遺物

須恵器1～9は杯蓋、10～16は杯身、17は台付長頸壺である。土師器18、19は甕、20は鉢である。石器21、22は敲石、23は砥石である。杯蓋1は抓みが伴う。杯身10、11は杯蓋の可能性もある。杯身15は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕18、19は球形体部の小型甕である。敲石21は結晶片岩製で、左右側縁に敲打痕が施されている。敲石22は結晶片岩製で、右側縁と上下両端部に敲打痕が施されている。砥石23は結晶片岩製で、助面と右側縁に敲打痕が観察される。上面と右側縁に鉄器刃部による擦痕が観察される。敲石からの転用品である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

107号竪穴式住居 (SB7107) (第1028～1036図)

馬のシャクリ地区、O3、P4グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.95m、深度は25cm、床面積17.99m²、内区面積5.67m²、住居主軸方位はN-7°-Eを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は30層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層は褐色粘性砂質土層、6層は黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘質土層、9層は黄褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層は黄褐色粘質土層、12層は黄褐色砂質土層、13層は黄褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、15層は黄褐色粘性砂質土層、16層は黄褐色粘性砂質土層、17層は黄褐色粘性砂質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色砂質土層、21層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、22層はにぶい黄褐色砂質土層、23層は黄褐色粘性砂質土層、24層は黄褐色砂質土層、25

層は黄褐色粘性砂質土層、26層は黄褐色粘質土層、27層はにぶい黄褐色砂質土層、28層はにぶい黄色砂質土層、29層は黄褐色砂質土層、30層は黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.9m、EP2-3間は2.05m、EP3-4間は2.05m、EP4-1間は2.3mを測る。EP1内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層は黄褐色粘質土層である。EP4内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色砂質土層である。

竈西側に土坑EK1が構築されている。平面形態は楕円形を呈し、長軸90cm、短軸65cm、深度8cmを測る。遺構内覆土1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅71cm、燃烧部最大幅46cm、支脚-焚口間41cm、支脚-奥壁間22cm、煙道長38cm、煙道幅59cm、支脚高16cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸125cm、短軸105cm、深度15cmを測る。

1層はにぶい黄色砂質土層、31層はにぶい黄色粘性砂質土層、32層はにぶい黄色粘性砂質土層、33層は黄褐色粘性砂質土層、34層は黄褐色砂質土層、35層はにぶい黄褐色砂質土層、36層はにぶい黄色砂質土層、37層はにぶい黄色粘性砂質土層、38層は黄褐色砂質土層、40層はにぶい黄色砂質土層、41層はにぶい黄褐色砂質土層、42層は褐色砂質土層、43層はにぶい黄色砂質土層、44層は明褐色砂質土層、45層はにぶい黄橙色砂質土層、46層はにぶい黄褐色砂質土層、47層はにぶい黄褐色砂質土層、48層はにぶい黄褐色粘質土層、49層は褐色砂質土層、50層はにぶい黄褐色砂質土層、51層はにぶい黄褐色砂質土層、52層はにぶい黄褐色砂質土層、53層は黄褐色砂質土層、54層は黄褐色砂質土層、55層はにぶい黄褐色粘質土層、56層は黄褐色砂質土層、57層はにぶい黄褐色砂質土層、58層は明褐色砂質土層、59層は明褐色砂質土層、60層は明褐色砂質土層、61層は明褐色砂質土層、62層は褐色粘性砂質土層、63層はにぶい黄褐色砂質土層、64層は黄褐色砂質土層、65層はにぶい黄褐色粘質土層、66層は褐色砂質土層、67層はにぶい黄褐色粘質土層、68層は褐色砂質土層、69層は褐色砂質土層、70層は褐色砂質土層、71層はにぶい黄褐色粘質土層、72層は黄褐色砂質土層、73層は橙色砂質土層、74層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、75層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、76層はにぶい黄褐色砂質土層、77層は褐色砂質土層、78層はにぶい黄褐色砂質土層、79層は黄褐色砂質土層、80層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内からのみである。居住区内からは須恵器小片が出土しているが、いずれも覆土上層からの出土である。竈支脚として土師器23が転用されている。土師器23は口縁部を下に向けた倒立位で設置されている。鞆羽口25と鉄滓26が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1～9は杯蓋、10～13は杯身、14は瓶類、15は長頸壺、16は高杯、17、18は甕である。土師器

19～23は甕である。石器24は砥石である。土製品25は鞆羽口である。杯身12は口縁端部に打ち欠きが施されている。甕19は頸部がほとんどくびれない小型甕である。甕23は平底底部に、算盤玉形体部を有する小型甕である。同器形は少ないことから、当初から支脚として使用することを目的に製作されたと考えられる。砥石24は凝灰岩製で、仕上げ砥石である。鞆羽口25は、外面に板ナデを施している。右側端部には被熱による発泡は認められない。右側に鞆からの送風管が装着された。鉄滓26は断面が碗形を呈する。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

108号竪穴式住居 (SB7108) (第1037～1038図)

馬のシャクリ地区、S20、T1グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は4.55m、深度は50cm、床面積19.79m²、内区面積5.25m²を測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は10層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はにぶい黄褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1－2間は2.25m、EP2－3間は1.8m、EP3－4間は1.95m、EP4－1間は1.7mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土は、褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は構築されていない。炉も未検出である。

時期

時期は不明である。竈等が構築されていないことから古墳時代中期前半以前と推定される。ただし、遺物が出土していないために詳細は不明である。古墳時代後期である。

109号竪穴式住居 (SB7109) (第1039～1041図)

馬のシャクリ地区、Q17、R18グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.9mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は6.1m、深度は33cm、床面積42.7m²、内区面積6.63m²を測る。大型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、13層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.95m、EP2-3間は1.9m、EP3-4間は2.15m、EP4-1間は2.2mを測る。EP1内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP3内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。ただし、上面をSB7104により削平を受けているために詳細は不明である。

遺物出土状況

遺物出土状況図を作成するような大型遺物は出土していない。いずれも覆土上層からの出土である。

出土遺物

須恵器1、2は杯身である。土師器3は壺である。土師器4、5は甕で、球形体部を有する小型甕である。土師器6は小型壺である。石器7はサヌカイト製石庖丁で、流れ込みである。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

110号竪穴式住居 (SB7110) (第1042~1047図)

馬のシャクリ地区、R1、S2グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は3.68m、深度は10cm、床面積11.5m²、内区面積4.36m²、住居主軸方位はN-92°-Wを測る。小型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.5m、EP2-3間は2m、EP3-4間は

1.75m、EP 4 - 1 間は2.05mを測る。EP 1 内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP 2 内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。EP 3 内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層である。EP 4 内覆土は、1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は西辺中央部において検出された。主軸方位はN-90°-Wを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅65cm、燃焼部最大幅39cm、煙道長20cm、煙道幅56cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は、1層は黄褐色砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘質土層、6層はにぶい黄褐色砂質土層、7層はにぶい黄褐色砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

居住区中層より焼土層が検出された。焼失住居の可能性がある。ただし、遺物はほとんど出土しておらず、カタヅケ行為が行われた可能性もある。竈内燃焼部において、土師器5が中層より出土。

出土遺物

須恵器1は杯蓋である。須恵器2～4は杯身である。土師器5は甕である。甕5はやや長胴化の傾向が認められる体部に、大きく外反する口辺部が特徴の小型甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

111号竪穴式住居 (SB7111) (第1048～1050図)

馬のシャクリ地区、S17、T18グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.1mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.4m、深度は25cm、残存床面積5.8㎡を測る。中型の竪穴式住居である。SB7112に切られており、規模は不明である。

土層

遺構内覆土は3層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP 1 - 2 間は2.45m、EP 2 - 3 間は2.13m、EP 3 - 4 間は2.73m、EP 4 - 1 間は2.3mを測る。EP 1 内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 2 内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘質土層である。EP 3 内覆土は、1層は黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層である。EP 4 内覆土は、1層は黄褐色砂質

土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色砂質土層である。

出土遺物

遺物出土状況を図化するほどの大型遺物は出土していない。須恵器1～6は杯蓋である。須恵器7、8は杯身である。須恵器9は壺である。土師器10は甕である。杯蓋1は焼成時のゆがみが激しい。杯蓋2、5には成形時の粘土接合痕が残る。甕10は長胴甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相IV段階である。

112号竪穴式住居（SB7112）（第1051～1059図）

馬のシャクリ地区、S16、T17グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.25m、深度は28cm、床面積26.98m²、内区面積6.77m²、住居主軸方位はN-2°-Wを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は9層に分層できる。1層は暗灰黄色粘性砂質土層、2層は暗灰黄色粘性砂質土層、3層は暗灰黄色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層はオリーブ褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層は暗灰黄色粘性砂質土層、8層は暗灰黄色粘性砂質土層、9層は暗灰黄色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は2.6m、EP2-3間は1.9m、EP3-4間は2.25m、EP4-1間は1.9mを測る。

周壁溝は幅10cm、深度7cmを測る。遺構内覆土は、暗灰黄色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-4°-Wを測る。支脚は土師器甕製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅87cm、燃焼部最大幅50cm、支脚-焚口間34cm、支脚-奥壁間32cm、煙道長9cm、煙道幅20cm、支脚高18cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸101cm、短軸101cm、深度32cmを測る。

1層はにぶい黄色粘性砂質土層、11層は灰黄色粘性砂質土層、12層は灰黄色粘性砂質土層、13層は褐色粘土層、14層は極暗褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄色粘土層、16層はにぶい黄色粘土層、17層は灰黄色粘性砂質土層、18層は極暗褐色粘性砂質土層、19層は極暗褐色粘性砂質土層、20層は黄褐色粘性土層、21層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、22層は灰オリーブ色粘性砂質土層、23層は灰オリーブ色粘性砂質土層、24層は灰オリーブ色粘性砂質土層、25層は灰オリーブ色粘性砂質土層、26層は極暗褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄色粘土層、28層は褐色粘土層、29層は極暗褐色粘性砂質土層、30層はにぶい黄色粘土層、31層はにぶい黄色粘土層、32層はにぶい赤褐色粘性砂質土層、33層はにぶい黄色粘土層である。

遺物出土状況

遺物は竈周辺から出土しており、居住区からは小片のみの出土である。竈支脚は土師器6である。実測図は復元実測されたものである。支脚に転用するにあたっては、縦方向に半裁された甕6を、口縁部を煙道側に向けて横位置で燃焼部床面に設置されている。支脚周辺からは大型破片化した土師器7、8、9が、床面直上から中層にかけて出土した。竈東側の北壁沿いにおいて、須恵器5が床面直上より出土。須恵器4は遺構検出レベルでの出土である。

出土遺物

須恵器1は杯蓋、2は杯身、3～5は高杯である。土師器7～9は甕である。杯蓋1は成形時の粘土接合痕が観察される。高杯3は有蓋高杯、低脚に方形透かしが2方向から施されている。高杯4は長脚に2段方形透かしが3方向から施されている。高杯5は長脚に2段方形透かしが4方向から施されている。甕6は球形体部に直立する口辺部を持つ小型甕である。甕7～9は中型長胴甕である。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

113号竪穴式住居（SB7113）（第1060～1068図）

馬のシャクリ地区、M3、N4グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.0mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は7.3m、深度は18cm、床面積22.05m²、内区面積4.38m²、住居主軸方位はN-4°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はオリーブ褐色粘性砂質土層、4層は黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は1.63m、EP2-3間は1.9m、EP3-4間は1.78m、EP4-1間は1.95mを測る。EP1内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP2内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP3内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。EP4内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-7°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅77cm、燃焼部最大幅50cm、支脚-焚口間41cm、支脚-奥壁間28cm、煙道長40cm、煙道幅43cm、支脚高20cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

竈内覆土は、1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、9層はオリーブ褐色粘性砂質土層、10層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、11層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、12層はにぶい黄色粘質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層は褐色粘質土層、17層は暗褐色粘性砂質土層、18層は明赤褐色粘質土層、19層はにぶい黄褐色砂質土層、20層は

暗褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色砂質土層、23層はオリーブ褐色砂質土層、24層は褐色粘質土層、25層は暗褐色粘性砂質土層、26層はオリーブ褐色粘性砂質土層、27層はにぶい黄色粘質土層、28層は暗褐色粘性砂質土層、29層はにぶい黄褐色砂質土層、30層はにぶい黄褐色砂質土層、31層はにぶい黄色粘質土層、32層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、33層はオリーブ褐色粘性砂質土層、34層はオリーブ褐色粘性砂質土層、35層はオリーブ褐色粘性砂質土層、36層はオリーブ褐色粘性砂質土層、37層はオリーブ褐色粘性砂質土層、38層はオリーブ褐色粘性砂質土層、39層はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸103cm、短軸101cm、深度23cmを測る。

遺物出土状況

遺物は竈内を中心に出土した。EP 1 西側において、須恵器 1 が中層中より出土。内区中央やや北よりの地点において石器13が、上層より出土。竈右袖前面において、須恵器 3 が上層より出土。竈燃烧部内の支脚周辺より、土師器 9 が床面直上から中層にかけて出土。羽口14と鉄滓15が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器 1～3 は杯蓋、4～8 は杯身である。土師器 9～11は甕である。石器12は砥石である。石器13は台石である。杯蓋 3 は抓み上面に赤色顔料が塗布されている。杯身 4 は成形時の粘土接合痕が観察される。杯蓋の可能性もある。杯 5、6 は口縁端部に打ち欠きが施されている。杯身 7 は内面に赤色顔料が塗布されている。甕 9 は長胴甕である。甕11は球形体部の小型甕である。砥石12は緑色岩製で、右側縁部に鉄器による深い擦痕が観察される。敲石からの転用である。台石13は結晶片岩製で、表裏面に敲打痕と剥離痕が観察される。輪羽口14は被熱により発泡している。鉄滓15は発泡が進んでいる。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

114号竪穴式住居（SB7114）（第1069～1076図）

馬のシャクリ地区、O3、P4グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.4mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。残存床面積6.66m²、内区面積6.38m²、住居主軸方位はN-10°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。SB7107に削平されており、正確な規模等は不明である。

土層

遺構内覆土はオリーブ褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP 1-2間は2.2m、EP 2-3間は1.95m、EP 3-4間は2m、EP 4-1間は2.15mを測る。EP 1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 2内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。EP 3内覆土は、1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層である。EP 4内覆土は褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-8°-Eを測る。支脚は不明である。袖部、燃焼部および煙道部が検出された。焚口部幅83cm、燃焼部最大幅55cm、煙道長23cm、煙道幅58cmを測る。燃焼部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として方形を呈する土坑が掘削されている。長軸115cm、短軸107cm、深度33cmを測る。

1層はオリーブ褐色粘性砂質土層、2層はオリーブ褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄色粘質土層、4層はオリーブ褐色粘性砂質土層、5層は暗赤褐色粘質土層、6層はオリーブ褐色粘性砂質土層、7層はオリーブ褐色粘性砂質土層、8層は黒褐色粘性砂質土層、9層は攪乱、10層はにぶい黄色粘質土層、11層は黒褐色粘性砂質土層、12層は黒褐色粘性砂質土層、13層はオリーブ褐色粘性砂質土層、14層はにぶい黄色粘質土層、15層はにぶい黄色粘質土層、16層はにぶい黄色粘質土層、17層は暗赤褐色粘質土層、18層は黄褐色粘性砂質土層、19層は黄褐色粘性砂質土層、20層は褐色粘性砂質土層、21層はオリーブ褐色粘性砂質土層、22層はオリーブ褐色粘性砂質土層、23層はオリーブ褐色粘性砂質土層、24層はオリーブ褐色粘性砂質土層、25層はオリーブ褐色砂質土層、26層はオリーブ褐色砂質土層、27層はオリーブ褐色砂質土層、28層はオリーブ褐色粘性砂質土層、29層はオリーブ褐色粘性砂質土層、30層は褐色粘性砂質土層、31層は黒褐色粘性砂質土層、32層はオリーブ褐色粘性砂質土層、33層は黒褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

遺物は竈内を中心に出土した。居住区からは須恵器小片が若干出土したのみである。住居廃絶に伴うカタツケ行為が行われたと推定される。竈燃焼部からは、須恵器4や土師器甕の胴部片が中層より出土。土師器甕は図化できない。竈内からは獣骨片も出土した。鉄滓7が出土しているが、鍛冶関連遺構は伴わない。

出土遺物

須恵器1、2は杯蓋、3、4は杯身、4は甕である。土師器6は甑である。杯蓋1は成形時の粘土接合痕が観察される。甑6はつつぬけ底部である。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

115号竪穴式住居 (SB7115) (第1077、1078図)

馬のシャクリ地区、T19、T20グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高78.6mを測る。東群集落に属する。SB7104に削平されている。

形態・規模

SB7104に削平されており、規模等は不明である。煙道のみを検出となった。

竈

竈は煙道と下部構造のみを検出となった。竈は北辺中央部に構築されていると推定される。煙道長92.5cm、煙道幅50cmを測る。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸160cm、短軸145cm、深度17cmを測る。

1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層は黄褐色砂質土層、3層は赤褐色粘質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、7層は褐色粘質土層、

8層は暗褐色粘性砂質土層、9層は褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層はオリーブ褐色砂質土層、12層はオリーブ粘性砂質土層、13層は暗灰黄色砂質土層、14層はオリーブ褐色粘性砂質土層、15層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、16層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、17層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、18層は暗褐色粘性砂質土層、19層は褐色粘性砂質土層である。

出土遺物

須恵器1は椀である。鉄器2207-1は刀子である。切先は円形を呈しており、通常の刀子切先とは形態が違う。また刃部全長も短いことから、再利用品と考えられる。

時期

古墳時代後期・大柿様相VI段階である。

116号竪穴式住居（SB7116）（第1079～1082図）

馬のシャクリ地区、Q18、R19グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は28cm、床面積15.77㎡、内区面積3.35㎡を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は4層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は1基検出された。本来は4本柱構造である。EP1内覆土は、1層はにぶい黄褐色砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層は黄褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、5層はにぶい黄褐色砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は黄褐色粘性砂質土層、8層は黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

住居南壁沿いより若干の遺物が出土した。いずれも中・上層からの出土であり、埋没過程に伴う遺物と考えられる。須恵器1～4と土師器6が、自然礫と共にまとまって出土している。

出土遺物

須恵器1～4は杯蓋である。須恵器5は杯身である。土師器6は甕である。杯蓋2は成形時の粘土接合痕が観察される。

時期

古墳時代後期・大柿様相V段階である。

117号竪穴式住居（SB7117）（第1083、1084図）

馬のシャクリ地区、Q16、R17グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は30cm、残存床面積12.2㎡を測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は13層に分層できる。1層は褐色粘性砂質土層、2層は褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層は褐色砂質土層、5層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、6層は褐色粘性砂質土層、7層は暗褐色粘性砂質土層、8層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、10層は褐色粘性砂質土層、11層は褐色粘性砂質土層、12層は褐色粘性砂質土層、13層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は2基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は1.9mを測る。

周壁溝は幅15cm、深度8cmを測る。遺構内覆土は、褐色粘性砂質土層である。

時期

古墳時代後期と推定される。

119号竪穴式住居（SB7119）（第1085～1089図）

馬のシャクリ地区、M15、N16グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.2mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は20.1m、深度は30cm、床面積25.73m²、内区面積7.86m²、住居主軸方位はN-0°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は3層に分層できる。1層は褐色砂質土層、2層は褐色砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP1-2間は2.85m、EP2-3間は2.1mを測る。EP1内覆土は褐色砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-28°-Eを測る。支脚は結晶片岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅50cm、燃烧部最大幅33cm、支脚-焚口間28cm、支脚-奥壁間26cm、支脚高6cmを測る。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸65cm、短軸46cm、深度10cmを測る。

1層は焼土層、2層は暗褐色粘性砂質土層、3層は褐色粘性砂質土層、4層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

遺物出土状況

竈内からのみ遺物が出土した。支脚と推定される結晶片岩割石は横転した状態で検出された。竈右袖構築材中より、須恵器1が出土。竈構築以前に埋納されたものと推定される。竈構築に伴う祭祀行為である。

出土遺物

須恵器1は杯身で、口縁端部に打ち欠きが施されている。打ち欠きは全周に渡って施されている。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

120号竪穴式住居 (SB7120) (第1090～1096図)

馬のシャクリ地区、L13、M14グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.3mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。主軸長は5.05m、深度は20cm、床面積25.94m²、内区面積12.54m²、住居主軸方位はN-7°-Eを測る。中型の竪穴式住居である。

土層

遺構内覆土は層3に分層できる。1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層である。

柱穴・周壁溝

柱穴は4基検出された。4本柱構造である。EP1-2間は3.05m、EP2-3間は3.7m、EP3-4間は2.7m、EP4-1間は3.7mを測る。

土坑EK1は、住居北東側、EP1に重なるように構築されている。平面形態は不整形を呈し、長軸180cm、短軸110cm、深度11.3cmを測る。遺構内覆土は、1層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、2層はにぶい黄褐色粘性砂質土層、3層はにぶい黄褐色粘性砂質土層である。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-12°-Eを測る。支脚は砂岩製である。袖部、燃烧部および煙道部が検出された。焚口部幅100cm、燃烧部最大幅100cm、煙道長35cm、煙道幅75cmを測る。燃烧部では焚き口の外側にも焼土層が広がる。

下部構造として楕円形を呈する土坑が掘削されている。長軸78cm、短軸70cm、深度15cmを測る。

1層はオリーブ褐色砂質土層、2層はオリーブ褐色砂質土層、3層はオリーブ褐色砂質土層、4層は褐色粘性砂質土層、5層は黄灰色砂質土層である。

遺物出土状況

土坑EK1内より土師器1が自然礫と共に出土。竈及び居住区からは遺物は出土していない。

出土遺物

土師器1は甕で、倒卵形の体部と推定される。

時期

古墳時代後期・大柿様相Ⅲ段階である。

121号竪穴式住居 (SB7121) (第1097～1102図)

馬のシャクリ地区、O11、P12グリッドにて検出。東側微高地の南西側斜面部に立地する竪穴式住居である。遺構構築面は標高79.5mを測る。東群集落に属する。

形態・規模

平面形態は方形を呈する。深度は50cm、内区面積7.29m²を測る。

柱穴・周壁溝

柱穴は3基検出された。本来は4本柱構造である。EP2-3間は2.2m、EP3-1間は2.95mを測る。

竈

竈は北辺中央部において検出された。主軸方位はN-6°-Eを測る。支脚は土師器甕製である。袖